

青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡 発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して平成26年に発掘調査を行った宮古市田老字青野滝北に所在する青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の発掘調査結果をまとめたものであります。

発掘調査では、縄文時代中期に特徴的に見られる複式炉を持つ竪穴住居跡がいくつも重複して見つかったほか、陥し穴状土坑なども確認され、当地域における縄文時代中期後葉を主体とした集落跡の存在が明らかになりました。

この報告書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、宮古市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成28年3月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 菅野洋樹

例 言

- 1 本書は岩手県宮古市田老字青野滝北における青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は三陸沿岸道路建設に関連して、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受け、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 岩手県遺跡台帳登録の遺跡番号と調査時の遺跡略号は以下のとおりである。
 - 青野滝北Ⅰ遺跡：遺跡番号 KG84-0118、遺跡略号 ATKⅠ-14
 - 青野滝北Ⅱ遺跡：遺跡番号 KG84-0108、遺跡略号 ATKⅡ-14
 - 青野滝北Ⅲ遺跡：遺跡番号 KG74-2290、遺跡略号 ATKⅢ-14
- 4 本調査の期間と面積は以下のとおりである。
 - 青野滝北Ⅰ遺跡：平成26年4月10日～9月19日 面積4,200㎡
 - 青野滝北Ⅱ遺跡：平成26年4月10日～6月20日 面積2,100㎡
 - 青野滝北Ⅲ遺跡：平成26年4月10日～9月30日 面積2,300㎡
- 5 現地調査は鈴木博之、古舘貞身、鈴木貞行が担当し、整理作業は金子昭彦、鈴木(博)、古舘、鈴木(貞)が担当した。本書の執筆は担当者間で分担し、文責は各項の文末に執筆者名を記した。また、編集は鈴木(博)が行った。
- 6 野外調査における基準点測量は(株)鈴木測量設計に、航空写真撮影は東邦航空(株)にそれぞれ業務委託した。また、科学分析及び鑑定は以下の機関に依頼した。
 - 放射性炭素年代測定(AMS測定)・・・(株)加速器分析研究所
 - 石質鑑定・・・・・・・・・・・・・・・・・・花崗岩研究所
- 7 本書では国土地理院発行「田老 1:50,000」地図を使用した。また、土層及び土器の色調は『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修)に準拠した。
- 8 現地調査及び整理作業にあたり、以下の機関からの指導と協力を得た。(敬称略)
 - 宮古市教育委員会
- 9 調査に関わる諸記録及び出土遺物は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
- 10 今回の調査に関わる成果については、現地説明会資料やホームページ等にて一部公開しているが、本書が優先する。

目 次

I	調査に至る経過	1
II	立地と環境	
1	遺跡の位置と地理的環境	2
2	周辺の遺跡	2
III	調査・整理の方法	
1	野外調査	7
(1)	調査経過	7
(2)	調査方法	7
2	室内整理	11
3	基本層序	12
IV	青野滝北Ⅰ遺跡	
1	概要	13
2	検出遺構	13
(1)	竪穴住居跡	13
(2)	土坑	39
(3)	炭窯	46
3	出土遺物	48
(1)	縄文～弥生土器	48
(2)	石器	50
(3)	石製品	51
V	青野滝北Ⅱ遺跡	
1	概要	86
2	検出遺構	86
(1)	竪穴住居跡	86
(2)	土坑	87
3	出土遺物	93
(1)	縄文～弥生土器	93
(2)	土製品	94
(3)	石器	94
(4)	石製品	95

VI	青野滝北Ⅲ遺跡	
1	概 要	108
2	検 出 遺 構	108
	(1) 竪穴住居跡	108
	(2) 炉 跡	111
	(3) 土 坑	111
3	出 土 遺 物	113
	(1) 縄 文 土 器	113
	(2) 石 器	113
VII	自然科学分析	119
1	青野滝北Ⅰ遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)	119
2	青野滝北Ⅱ遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)	124
VIII	総 括	127
	報告書抄録	221

図版目次

<p>第 1 図 岩手県図・遺跡の位置図 …………… 3</p> <p>第 2 図 遺跡の位置 …………… 3</p> <p>第 3 図 地形分類図 …………… 4</p> <p>第 4 図 周辺の遺跡 …………… 5</p> <p>第 5 図 グリッド・トレンチ配置図(青野滝北 I) … 8</p> <p>第 6 図 グリッド・トレンチ配置図(青野滝北 II) … 9</p> <p>第 7 図 グリッド・トレンチ配置図(青野滝北 III) … 10</p> <p>第 8 図 基本層序柱状図 …………… 12</p> <p>第 9 図 遺構位置図(青野滝北 I) …………… 14</p> <p>第 10 図 SI01(青野滝北 I) …………… 15</p> <p>第 11 図 SI01 炉(青野滝北 I) …………… 16</p> <p>第 12 図 SI02(青野滝北 I) …………… 17</p> <p>第 13 図 SI02 炉(青野滝北 I) …………… 18</p> <p>第 14 図 SI03(青野滝北 I) …………… 19</p> <p>第 15 図 SI03 柱穴、炉(青野滝北 I) …………… 20</p> <p>第 16 図 SI04(青野滝北 I) …………… 22</p> <p>第 17 図 SI05、12(青野滝北 I) …………… 23</p> <p>第 18 図 SI05 柱穴、炉、SI12 炉 (青野滝北 I) …………… 24</p> <p>第 19 図 SI06(青野滝北 I) …………… 27</p> <p>第 20 図 SI07(青野滝北 I) …………… 28</p> <p>第 21 図 SI08、13(青野滝北 I) …………… 31</p> <p>第 22 図 SI13 炉(青野滝北 I) …………… 32</p> <p>第 23 図 SI09(青野滝北 I) …………… 33</p> <p>第 24 図 SI10(青野滝北 I) …………… 34</p> <p>第 25 図 SI10 炉(青野滝北 I) …………… 35</p> <p>第 26 図 SI11(青野滝北 I) …………… 37</p> <p>第 27 図 SI14(青野滝北 I) …………… 38</p> <p>第 28 図 SI15(青野滝北 I) …………… 40</p> <p>第 29 図 SK01、02、03、05(青野滝北 I) …… 42</p> <p>第 30 図 SK07、09、11、12(青野滝北 I) …… 45</p> <p>第 31 図 SK13、14、15、16、SW01、03 (青野滝北 I) …………… 47</p> <p>第 32 図 遺構内出土土器(1) (青野滝北 I) …………… 53</p> <p>第 33 図 遺構内出土土器(2) (青野滝北 I) …………… 54</p> <p>第 34 図 遺構内出土土器(3)</p>	<p>(青野滝北 I) …………… 55</p> <p>第 35 図 遺構内出土土器(4) (青野滝北 I) …………… 56</p> <p>第 36 図 遺構内出土土器(5) (青野滝北 I) …………… 57</p> <p>第 37 図 遺構内出土土器(6) (青野滝北 I) …………… 58</p> <p>第 38 図 遺構内出土土器(7) (青野滝北 I) …………… 59</p> <p>第 39 図 遺構内出土土器(8) (青野滝北 I) …………… 60</p> <p>第 40 図 遺構内出土土器(9) (青野滝北 I) …………… 61</p> <p>第 41 図 遺構内出土土器(10) (青野滝北 I) …………… 62</p> <p>第 42 図 遺構内出土土器(11) (青野滝北 I) …………… 63</p> <p>第 43 図 遺構内出土土器(12) (青野滝北 I) …………… 64</p> <p>第 44 図 遺構内出土土器(13) (青野滝北 I) …………… 65</p> <p>第 45 図 遺構内出土土器(14) (青野滝北 I) …………… 66</p> <p>第 46 図 遺構内出土土器(15) (青野滝北 I) …………… 67</p> <p>第 47 図 遺構内出土土器(16) (青野滝北 I) …………… 68</p> <p>第 48 図 遺構内出土土器(17) (青野滝北 I) …………… 69</p> <p>第 49 図 遺構内出土土器(18) (青野滝北 I) …………… 70</p> <p>第 50 図 遺構内出土土器(19) (青野滝北 I) …………… 71</p> <p>第 51 図 遺構内出土土器(20)・遺構外出土土器(1) (青野滝北 I) …………… 72</p> <p>第 52 図 遺構外出土土器(2) (青野滝北 I) …………… 73</p> <p>第 53 図 石器(1)(青野滝北 I) …………… 74</p>
--	---

第54図	石器(2)(青野滝北I)	75
第55図	石器(3)(青野滝北I)	76
第56図	石器(4)(青野滝北I)	77
第57図	石器(5)(青野滝北I)	78
第58図	石器(6)(青野滝北I)	79
第59図	石器(7)(青野滝北I)	80
第60図	石器(8)(青野滝北I)	81
第61図	石製品(青野滝北I)	82
第62図	遺構位置図(青野滝北II)	87
第63図	SI01(青野滝北II)	88
第64図	SI01柱穴、石囲炉、土器埋設炉 (青野滝北II)	89
第65図	SK01、02、03、04(青野滝北II)	90
第66図	SK06、07、08(青野滝北II)	92
第67図	遺構内出土土器(1)(青野滝北II)	96
第68図	遺構内出土土器(2)(青野滝北II)	97
第69図	遺構内出土土器(3)・遺構外出土土器(1) (青野滝北II)	98

第70図	遺構外出土土器(2)(青野滝北II)	99
第71図	遺構外出土土器(3)・土製品 (青野滝北II)	100
第72図	石器(1)(青野滝北II)	101
第73図	石器(2)(青野滝北II)	102
第74図	石器(3)(青野滝北II)	103
第75図	石器(4)(青野滝北II)	104
第76図	石器(5)(青野滝北II)	105
第77図	石製品(青野滝北II)	106
第78図	遺構位置図(青野滝北III)	109
第79図	SI01(青野滝北III)	110
第80図	SI03、SX01、SK01(青野滝北III)	112
第81図	遺構内出土土器(1)(青野滝北III)	114
第82図	遺構内出土土器(2)・遺構外出土土器(1) (青野滝北III)	115
第83図	遺構外出土土器(2)(青野滝北III)	116
第84図	石器(青野滝北III)	117

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	6
第2表	石器観察表(青野滝北I)	83
第3表	石製品観察表(青野滝北I)	85

第4表	石器観察表(青野滝北II)	107
第5表	石製品観察表(青野滝北II)	107
第6表	石器観察表(青野滝北III)	118

写真図版目次

〈青野滝北I〉		
写真図版1	航空写真	131
写真図版2	竪穴住居跡(1)	132
写真図版3	竪穴住居跡(2)	133
写真図版4	竪穴住居跡(3)	134
写真図版5	竪穴住居跡(4)	135
写真図版6	竪穴住居跡(5)	136
写真図版7	竪穴住居跡(6)	137
写真図版8	竪穴住居跡(7)	138
写真図版9	竪穴住居跡(8)	139

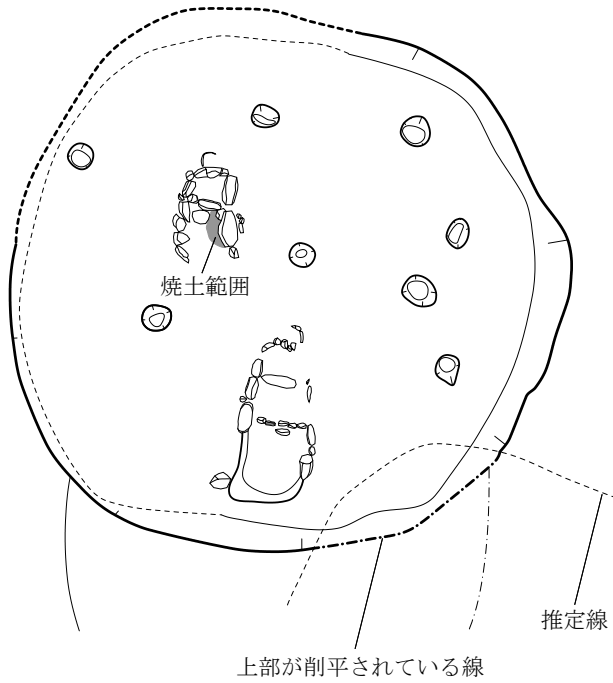
写真図版10	竪穴住居跡(9)	140
写真図版11	竪穴住居跡(10)	141
写真図版12	竪穴住居跡(11)	142
写真図版13	竪穴住居跡(12)	143
写真図版14	竪穴住居跡(13)	144
写真図版15	竪穴住居跡(14)	145
写真図版16	竪穴住居跡(15)	146
写真図版17	土坑(1)	147
写真図版18	土坑(2)	148
写真図版19	土坑(3)	149

写真図版 20	炭窯、基本土層、現地説明会	150
写真図版 21	遺構内出土土器 (1)	151
写真図版 22	遺構内出土土器 (2)	152
写真図版 23	遺構内出土土器 (3)	153
写真図版 24	遺構内出土土器 (4)	154
写真図版 25	遺構内出土土器 (5)	155
写真図版 26	遺構内出土土器 (6)	156
写真図版 27	遺構内出土土器 (7)	157
写真図版 28	遺構内出土土器 (8)	158
写真図版 29	遺構内出土土器 (9)	159
写真図版 30	遺構内出土土器 (10)	160
写真図版 31	遺構内出土土器 (11)	161
写真図版 32	遺構内出土土器 (12)	162
写真図版 33	遺構内出土土器 (13)	163
写真図版 34	遺構内出土土器 (14)	164
写真図版 35	遺構内出土土器 (15)	165
写真図版 36	遺構内出土土器 (16)	166
写真図版 37	遺構内出土土器 (17)	167
写真図版 38	遺構内出土土器 (18)、 遺構外出土土器 (1)	168
写真図版 39	遺構外出土土器 (2)	169
写真図版 40	石器 (1)	170
写真図版 41	石器 (2)	171
写真図版 42	石器 (3)	172
写真図版 43	石器 (4)	173
写真図版 44	石器 (5)	174
写真図版 45	石器 (6)	175
写真図版 46	石器 (7)	176
写真図版 47	石器 (8)	177
写真図版 48	石器 (9)	178
写真図版 49	石器 (10)	179
写真図版 50	石器 (11)	180
写真図版 51	石器 (12)	181
写真図版 52	石器 (13)	182
写真図版 53	石器 (14)	183
写真図版 54	石器 (15)	184
写真図版 55	石器 (16)	185
写真図版 56	石器 (17)	186
写真図版 57	石器 (18)	187
写真図版 58	石器 (19)	188
写真図版 59	石製品	189

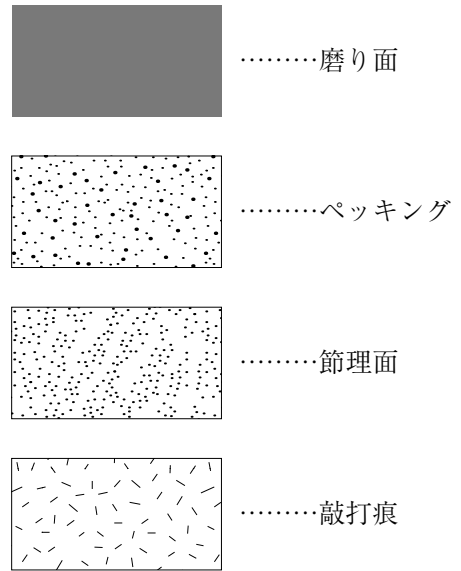
〈青野滝北II〉		
写真図版 60	航空写真	193
写真図版 61	調査前風景、基本土層	194
写真図版 62	竪穴住居跡 (1)	195
写真図版 63	竪穴住居跡 (2)	196
写真図版 64	土坑 (1)	197
写真図版 65	土坑 (2)	198
写真図版 66	遺構内出土土器 (1)	199
写真図版 67	遺構内出土土器 (2)	200
写真図版 68	遺構内出土土器 (3)	201
写真図版 69	遺構内出土土器 (4)、 遺構外出土土器 (1)	202
写真図版 70	遺構外出土土器 (2)	203
写真図版 71	遺構外出土土器 (3)、土製品	204
写真図版 72	石器 (1)	205
写真図版 73	石器 (2)	206
写真図版 74	石器 (3)	207
写真図版 75	石器 (4)	208
写真図版 76	石器 (5)、石製品	209
〈青野滝北III〉		
写真図版 77	航空写真	213
写真図版 78	遺跡近景、基本土層	214
写真図版 79	竪穴住居跡 (1)	215
写真図版 80	竪穴住居跡 (2)	216
写真図版 81	炉跡、土坑	217
写真図版 82	遺構内出土土器 (1)	218
写真図版 83	遺構内出土土器 (2)、 遺構外出土土器	209
写真図版 84	石器	220

凡 例

本書の遺構図、遺物図で使用したスクリーンパターン及び破線等の用例は次のとおりである。



遺構図



遺物図

I 調査に至る経過

青野滝北Ⅰ遺跡、青野滝北Ⅱ遺跡、青野滝北Ⅲ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（宮古中央～田老）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年6月12日付け国東整陸一調第24号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年6月18日～7月2日にわたり試掘調査を行い、平成25年7月17日付け教生第612号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成26年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

Ⅱ 立地と環境

1 遺跡の位置と地理的環境

青野滝北Ⅰ遺跡、青野滝北Ⅱ遺跡、青野滝北Ⅲ遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、宮古市役所田老総合事務所の北約6kmに位置する。各遺跡の調査区中央における緯度・経度は、青野滝北Ⅰ遺跡が北緯39度46分46秒、東経141度58分20秒、青野滝北Ⅱ遺跡が北緯39度46分50秒、東経141度58分20秒、青野滝北Ⅲ遺跡が北緯39度46分52秒、東経141度58分27秒である。国土地理院発行の5万分の1地形図「田老」及び、2万5千分の1地形図「田老鉦山」の図幅に含まれる。

宮古市は岩手県の最東端に位置し、東には太平洋、西には北上山地を擁する。現在の宮古市は、平成17年6月6日に田老町、新里村との新設合併により新制宮古市となり、平成22年1月1日に西に隣接していた川井村を編入合併した。これにより、人口は56,854人、面積は1,259.89km²（平成26年12月1日現在）となり、隣接する自治体は北に下閉伊郡岩泉町、西に盛岡市、南西に遠野市、花巻市、南に上閉伊郡大槌町、下閉伊郡山田町となった。

本遺跡の所在する田老地区は宮古市北部に位置する。宮古以北では、海岸線に沿って海岸段丘が丘陵状に形成されており、東端では比高100mにも及ぶ海食崖が太平洋に臨む。この丘陵は海岸段丘が開析されて生じたものであるが、田老地域における段丘面は保存状態が悪く、小堀内の一部を除いては失われており、古生界、中生界の堆積岩や、花崗岩類からなる基盤岩の露出地帯となっている。本遺跡は、田老中心域北側の海岸段丘を開析する青野滝川北岸の丘陵上に立地している。

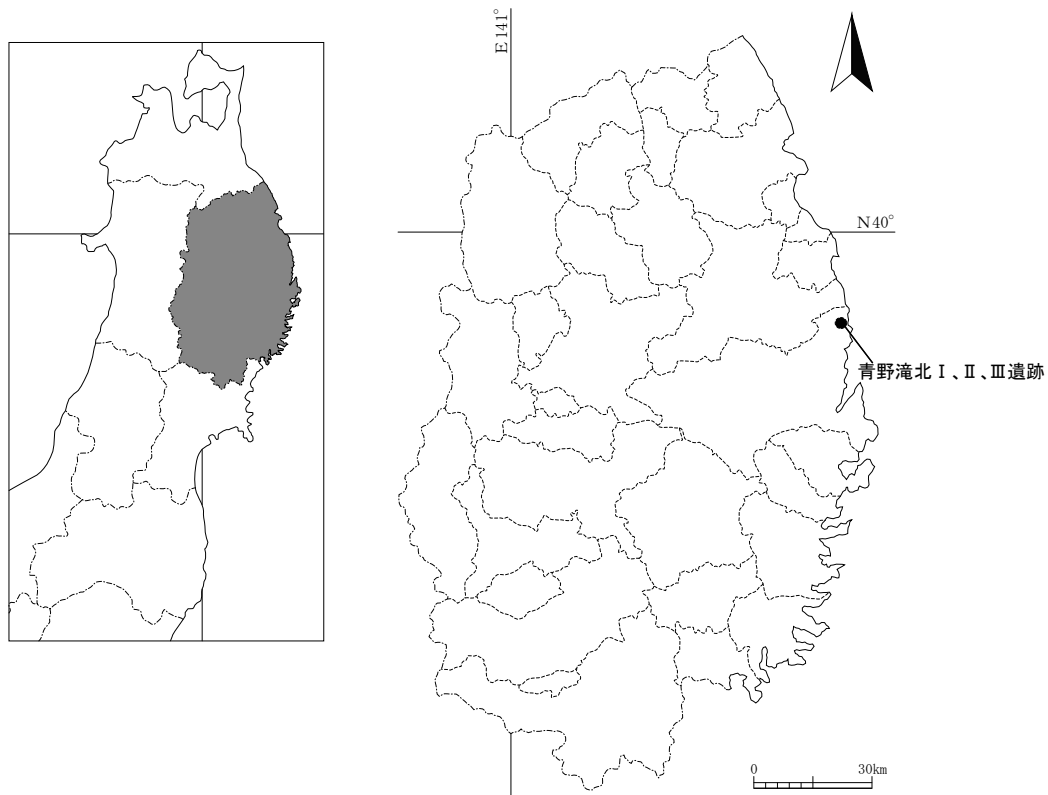
2 周辺の遺跡

昭和36年から昭和49年にかけて行われた分布調査の成果に基づいて、田老地区では平成18年度時点で63箇所の遺跡が所在していた。その後、平成18年から行われた宮古市教育委員会による分布調査や、三陸沿岸道路建設に伴う試掘調査によって遺跡の新規発見や統合・範囲変更が行われ、平成26年度岩手県遺跡情報検索システムによると田老地区の遺跡は74箇所となった。本節では、真崎以北に分布する遺跡を取り上げ、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

田老地区北部において開発等に伴う大規模な発掘調査が行われた事例は少なく、内容が明らかになっている遺跡が少ない。その中で、比較的大規模な調査事例として、昭和56年度に行われた田老大規模年金保養基地（現在のグリーンピア三陸みやこ）建設に伴う発掘調査がある。この調査では縄文時代早期～前期の土器、石器が出土しているものの、これに伴う遺構は確認されていない。なお、この発掘調査の成果は『小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』として刊行されているが、現在はそのような名前で岩手県遺跡台帳に記載されている遺跡はない。報告書に記載された遺跡の位置と現在の遺跡分布図を照合すると、向新田X遺跡（8）付近と思われる。近年では、三陸沿岸道路建設に伴う乙部遺跡（25）の発掘調査が平成25年度に行われている。この調査では縄文時代前期～中期の土器、石器が出土している。また、これまでに行われた分布調査でも田老地区北部においては縄文時代各時期と弥生時代の遺物が採取されているが、それ以降の遺物は確認されていない。このように、田老地区北部では縄文～弥生時代の遺跡が数多くあると考えられるが、これまでに集落跡が確認された事例は小

堀内 I 遺跡の調査に先立って行われた昭和 54 年の試掘調査のみで、当地域における縄文時代から弥生時代における様相を詳細に把握するに至っていない。

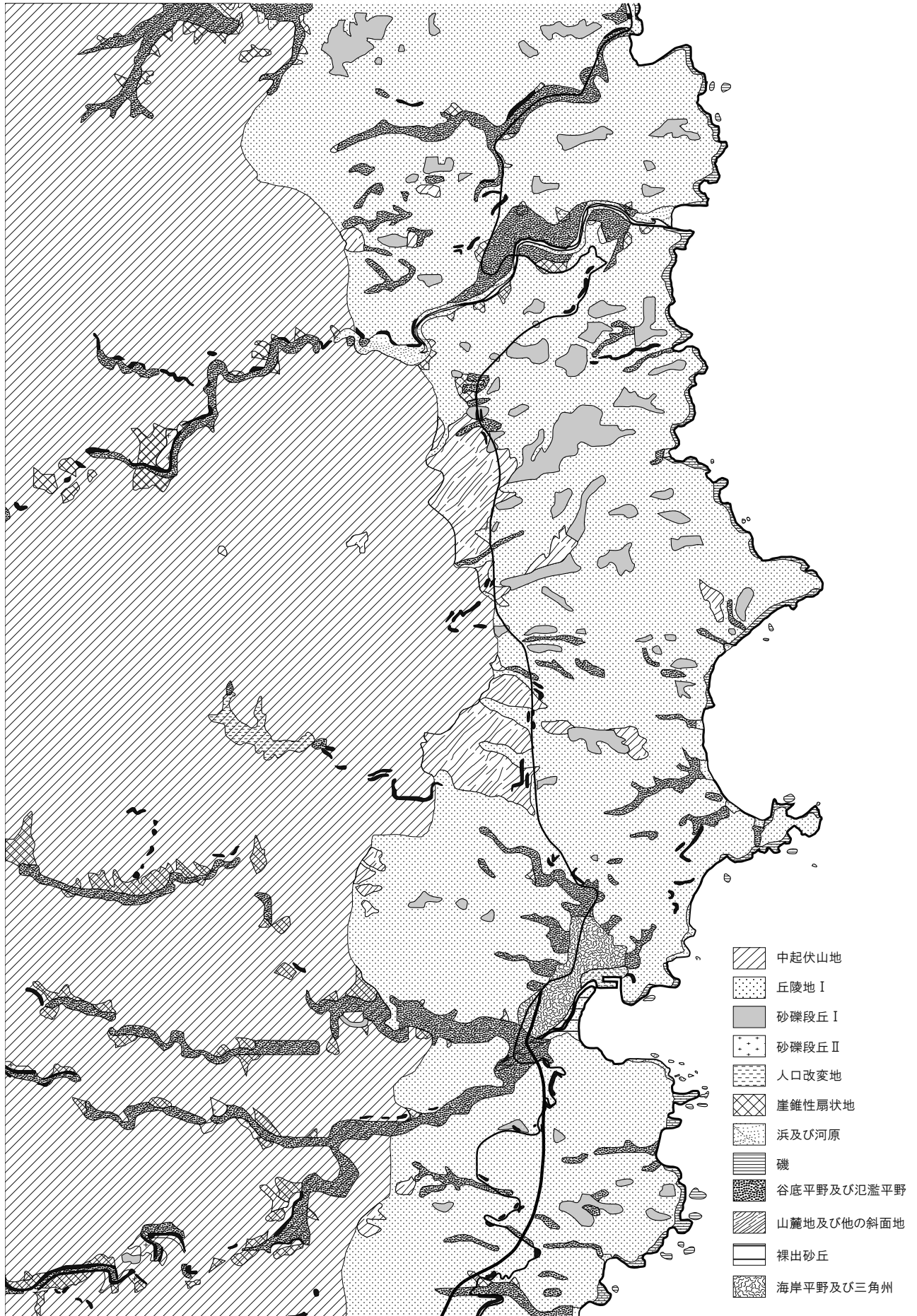
一方、真崎以南では土師器や鉄滓といった古代以降のものと思われる遺物が採取できる遺跡もあり、青野滝北 I、II、III 遺跡が位置する北部の丘陵上とは若干ではあるが、異なった様相を示す可能性がある。



第 1 図 岩手県図・遺跡の位置図



第 2 図 遺跡の位置



第3図 地形分類図



第4図 周辺の遺跡

2 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	時代	種別
1	摂待	縄文	散布地
2	館の畑	縄文	城館跡(伝)・散布地
3	水沢 I	縄文・弥生	散布地
4	向新田 X VI	縄文	散布地
5	向新田 X V	縄文	散布地
6	向新田 X VIII		散布地
7	向新田 X II	縄文・弥生	集落跡
8	向新田 X	縄文	散布地
9	向新田 X I	縄文	集落跡
10	向新田 X III	縄文	散布地
11	向新田 X IX	縄文	散布地
12	向新田 IX	縄文	散布地
13	向新田 IV	縄文	散布地
14	向新田 III	縄文・弥生	散布地
15	向新田 II	縄文	散布地
16	向新田 I	縄文	散布地
17	小堀内南 I	縄文	散布地
18	小堀内	縄文	散布地
19	青野滝北 III	縄文	集落跡
20	青野滝北 II	縄文	集落跡
21	青野滝北 I	縄文	集落跡
22	物見峠 I	縄文	集落跡
23	物見峠 II	縄文	散布地
24	物見峠 III	縄文	散布地
25	乙部	縄文	散布地
26	青野滝 III	縄文	集落跡
27	青野滝 II	縄文	集落跡
28	青野滝 I	縄文	キャンプ地
29	重津部 I	縄文	散布地
30	新田 I	縄文	散布地
31	滝の沢 I	縄文	散布地
32	乙部野 I	縄文	散布地
33	真崎	縄文	散布地

Ⅲ 調査・整理の方法

1 野外調査

(1) 調査経過

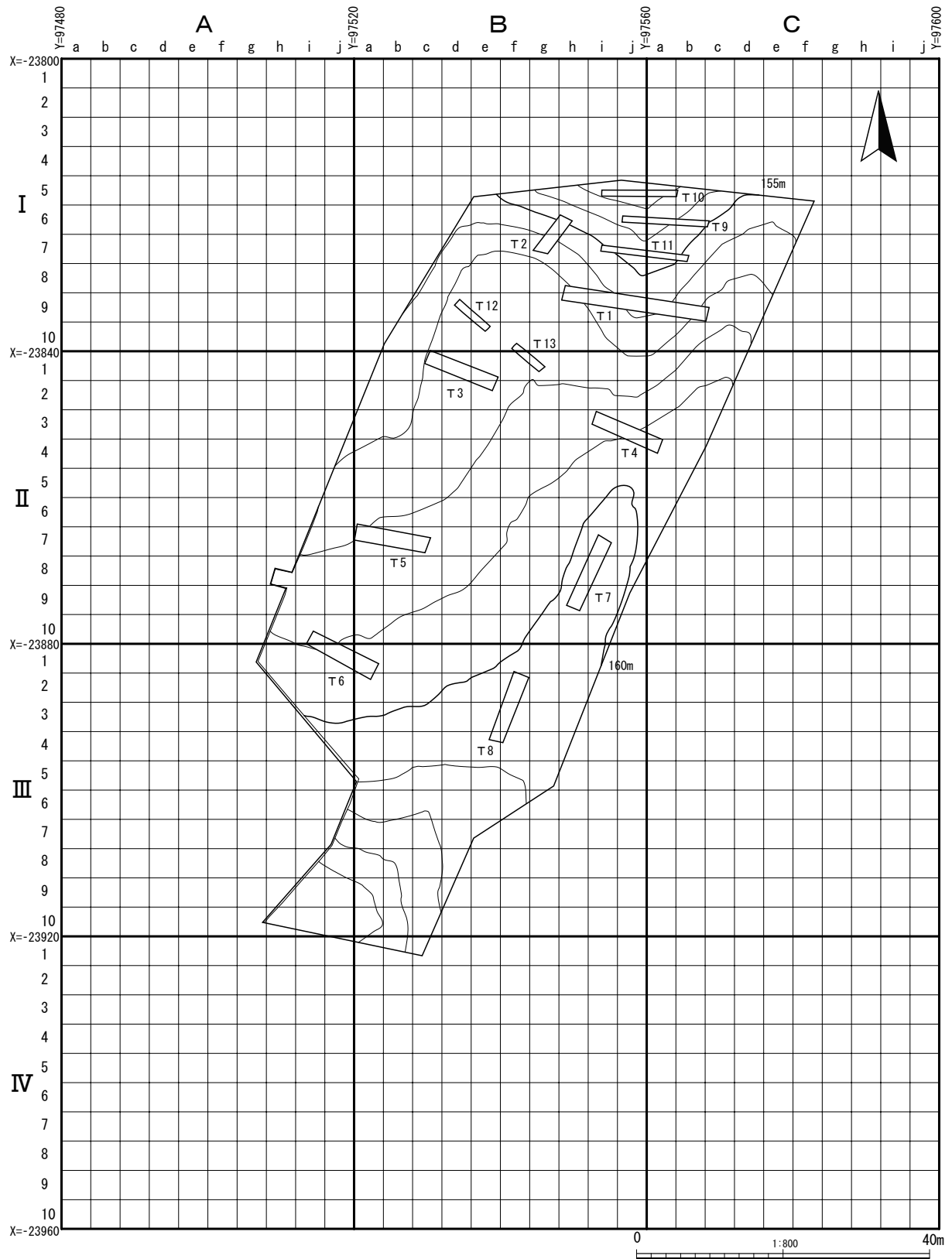
- 4月10日 調査開始。資材搬入、現場設営を行う。
- 4月11日 青野滝北Ⅱ遺跡の人力での試掘トレンチ掘削を開始する。
- 4月16日 青野滝北Ⅰ遺跡の人力での試掘トレンチ掘削を開始する。併せて青野滝北Ⅱ遺跡の重機での表土除去を開始する。
- 4月17日 青野滝北Ⅱ遺跡の遺構検出作業を開始する。遺構埋土と遺構検出面であるⅢ層との区別が付きにくく、注意深く観察しながらの遺構検出作業となる。
- 4月21日 青野滝北Ⅰ遺跡の重機による表土除去を開始する。
- 4月28日 (株)鈴木測量設計により、青野滝北Ⅱ遺跡の基準杭打設。
- 5月1日 青野滝北Ⅱ遺跡の遺構精査を開始する。
- 5月12日 青野滝北Ⅲ遺跡の重機による表土除去を開始する。
- 5月14日 青野滝北Ⅱ遺跡で土坑と仮定して精査を進めていた遺構の底面から石囲炉を検出し、竪穴住居跡であったことが判明する。以後、断面観察用のベルトを設定しなおし、精査を進める。併せて青野滝北Ⅰ遺跡の遺構検出作業を開始する。
- 5月19日 (株)鈴木測量設計により、青野滝北Ⅰ遺跡の基準杭打設。以後、青野滝北Ⅰ遺跡でも遺構精査を開始する。明瞭な検出プランを捉えられなかったが、遺物が集中している範囲に断面観察用のベルトを設定し掘り下げを行ったところ、複式炉や石囲炉を複数の場所で検出した。
- 6月3日 (株)鈴木測量設計により、青野滝北Ⅲ遺跡の基準杭打設。
- 6月20日 青野滝北Ⅱ遺跡調査終了。
- 7月3日 青野滝北Ⅱ遺跡の終了確認を行う。
- 7月17日 青野滝北Ⅱ遺跡の空撮を行う。
- 8月4日 青野滝北Ⅲ遺跡の遺構検出作業を開始する。
- 8月23日 青野滝北Ⅰ遺跡の現地説明会を開催する。参加者85名。
- 9月1日 青野滝北Ⅲ遺跡の遺構精査を開始する。
- 9月8日 青野滝北Ⅰ遺跡の終了確認、青野滝北Ⅲ遺跡の部分終了確認を行う。
- 9月18日 青野滝北Ⅰ、Ⅲ遺跡の空撮を行う。
- 9月19日 青野滝北Ⅰ遺跡調査終了。
- 9月30日 青野滝北Ⅲ遺跡調査終了。
- 10月2日 青野滝北Ⅲ遺跡終了確認を行う。

(2) 調査方法

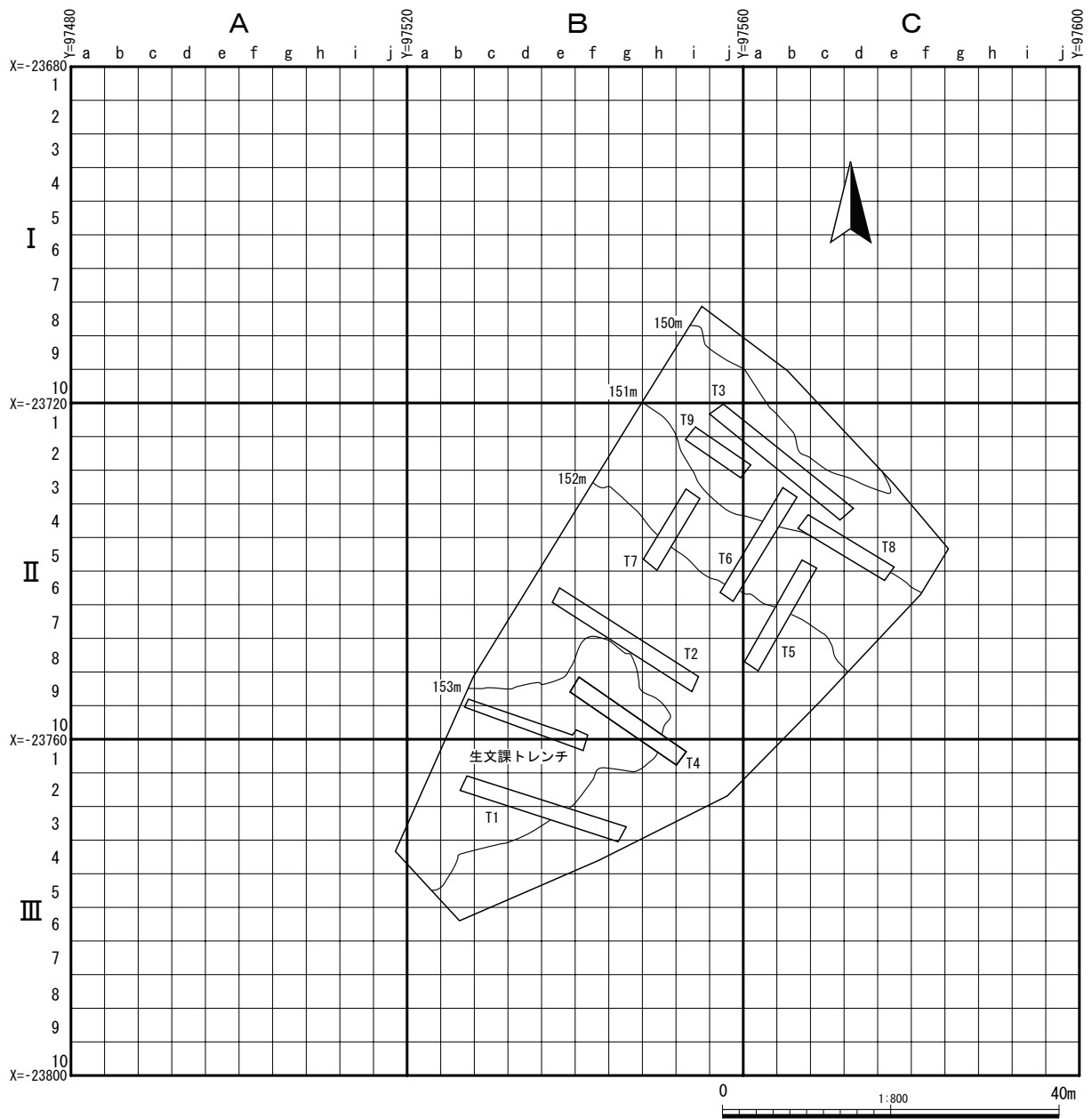
①グリッドの設定

遺物の取り上げや遺構の平面的位置の把握のため、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡のそれぞれでグリッドを設定した。大グリッドは40m間隔で南北のラインをⅠ～Ⅲのローマ数字、東西のラインをA～Cの大文字アルファベットで表した。また、小グリッドは4m間隔で南北のラインを1～10のアラビ

1 野外調査

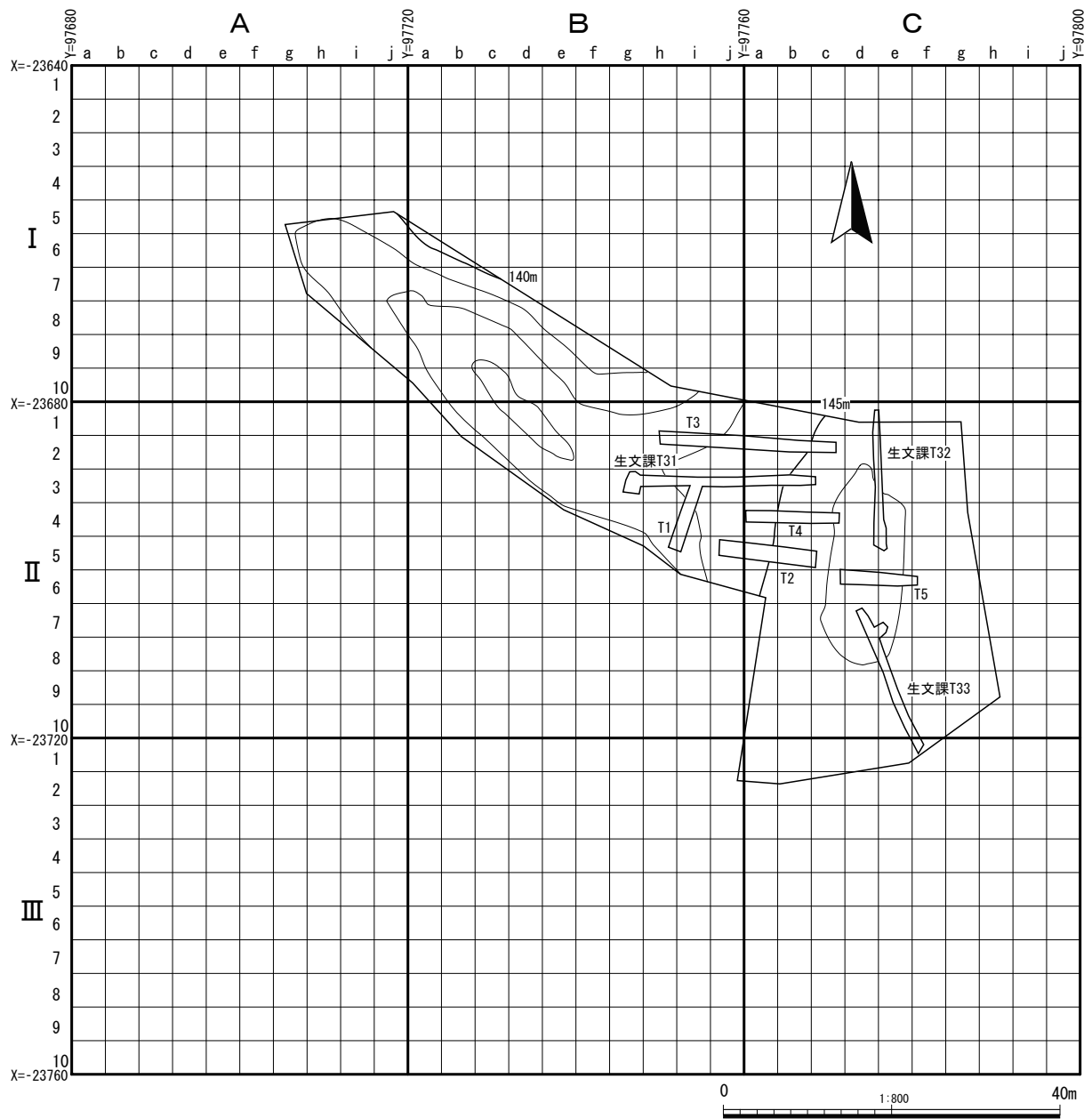


第5図 グリッド・トレンチ配置図（青野滝北I）



第6図 グリッド・トレンチ配置図（青野滝北Ⅱ）

1 野外調査



第7図 グリッド・トレンチ配置図 (青野滝北Ⅲ)

ア数字、東西のラインを a～j の小文字アルファベットで表した。グリッドは全て北西隅を原点とし、各グリッドの名称はこの原点の大グリッドと小グリッドの名称を組み合わせて使用した（例えば I A 1 a など）。なお、基準点を任意のグリッドの原点に打設し（委託）、それを基準として発掘調査の測量を行った。今回の発掘調査における座標値、標高値は全て世界測地系を用いている。

②雑物撤去・表土掘削・遺構検出

調査前の現況は 3 遺跡とも山林で、調査開始前には調査範囲の伐採は終了していた。各遺跡の調査は、この伐採によって生じた雑物（伐採木の枝葉等）を人力で撤去することから開始した。雑物撤去終了後は、表土の厚さ、遺構検出面までの深さ、遺構の有無、遺物の出土状況などを確認するために試掘トレンチを設定し、人力で掘削を行った。この結果を受け、遺物が多く出土するⅢ層上面までを重機を使用して除去した。遺構の検出作業は、鋤簾などの道具を使用して人力で行った。なお、青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡とも、Ⅲ層の堆積土と遺構埋土の土が酷似しており、遺構の平面的な輪郭を把握するのが困難であった。そのため、土の質感や遺物の出土状況などから遺構の存在が窺われる場所ではトレンチを入れ、床面や壁面を検出することによって遺構の存在を把握するものもあった。

③遺構精査・記録

検出した遺構は、半裁や土層観察用のベルトを設定して掘削を行った。土層の記録を実測図と写真で取り、完掘後に遺構の全景写真撮影と平面実測を行った。平面実測は電子平板（「遺構くん」（株）CUBIC製）を用いて行った。写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（キャノン製）と 35mm フィルムカメラ（NIKON製）を中心に、6×9判カメラ（FUJI製）も併用して行った。また、調査区の全景写真はセスナ機による空撮を委託した。

④遺構の名称

遺構の名称は種別ごとに下記の略号を使用し、遺跡ごとに番号を付与した。なお、室内整理の段階で一部の遺構は名称の変更を行っている。

SI：竪穴住居跡、SK：土坑、SW：炭窯、SX：焼土遺構・性格不明遺構、PP：遺構内ピット

2 室内整理

室内整理作業は、平成 26 年 8 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで当センター内にて行った。8 月時点では青野滝北Ⅰ、Ⅲ遺跡の野外調査を行っていたため、調査が終了していた青野滝北Ⅱ遺跡の整理作業から着手した。

遺構

野外調査中に作成した手書きの断面図はデジタルトレースを行い、電子平板で作成した平面図と共にコンピュータ上で合成・修正・図版組を行った。作成したデジタル図版はEPS形式で保存している。

遺物

水洗後に注記・接合を行い、必要なものは石膏を使用して復元した。残存状況の良いものや土器形式などが判別できる特徴をもつものを中心に掲載遺物を選択し、実測、写真撮影を行った。実測は原寸大を基本とし、ロッドリングペンによるトレース後に図版組を行った。また、縄文土器や土製品の文様は湿拓により採拓した。全ての遺物は掲載遺物と不掲載遺物に分けて当センターの所定の場所で保管している。

3 基本層序

写真

野外調査において撮影したフィルムは現像してアルバムに保管した。デジタル写真はRAW画像を当センターの保管用HDDに保存している。遺物写真は、当センター内において写真技師がデジタル一眼レフカメラで撮影を行った。撮影した画像は保管用HDDに保存している。

3 基本層序

青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡の基本層序は3遺跡とも概ね共通しており、まとめて示すこととする。

表土（Ⅰ層）の下はⅢ層であることが多く、Ⅱ層はごく部分的に薄く堆積しているのが確認できる程度である。Ⅲ層はブロック状の十和田中振火山灰を含む黄褐色土で、ここを遺構検出面として調査を行った。Ⅲ層で遺構が確認できなかった箇所にはトレンチを入れ、Ⅳ層での検出作業を行った。

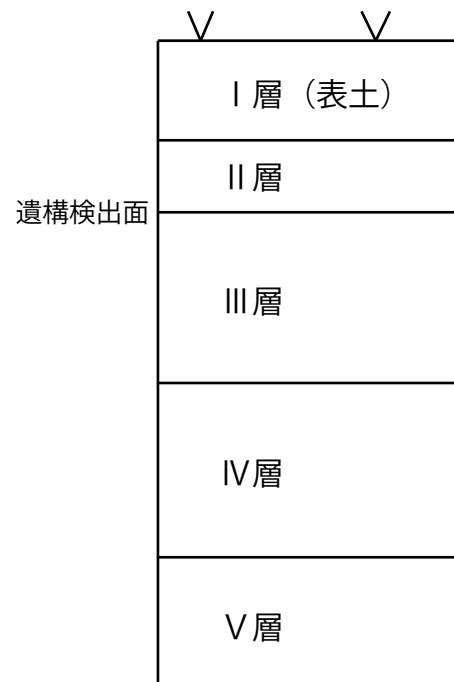
Ⅰ層 10YR2/3 黒褐色シルト（表土） 粘性弱 しまり疎 腐葉土 層厚 20～30cm

Ⅱ層 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり中 層厚 5～10cm

Ⅲ層 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 ブロック状の十和田中振火山灰を含む 層厚 30～40cm

Ⅳ層 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 しまり密 層厚 30～50cm

Ⅴ層 10YR6/8 明黄褐色土 粘性強 しまり密 橙色 (5YR6/8) 礫を多く含む 層厚不明



第8図 基本層序柱状図

IV 青野滝北 I 遺跡

1 概 要

青野滝北 I 遺跡では、竪穴住居跡 15 棟、土坑 12 基を検出した。調査区の南端は西から延びる尾根の先端となっており、竪穴住居跡の多くはこの尾根の北麓平坦部で検出した。遺構検出面としたⅢ層は部分的に十和田中振火山灰をブロック状に含む黄褐色土である。これに対して、遺構埋土も黄褐色～褐色土のものが多く、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。そのため、多くの遺構はトレンチにて床面や炉、壁を確認して精査を開始した。遺構が集中している箇所における検出面の標高は、概ね 160 m である。

2 検 出 遺 構

(1) 竪 穴 住 居 跡

SI01 竪穴住居跡（第 10・11 図、写真図版 2）

〈位置〉調査区南寄りのⅢ B 5 a グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉生涯学習文化課による試掘トレンチで遺構の存在が確認されていた。この試掘トレンチを掘削した結果、壁の立ち上がりと床面が確認できたため、十字にベルトを設定し、精査を行った。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉西側の一部は調査区外へと広がるが、規模は南北方向が 6.3 m、東西方向が概ね 6.4 m の円形を呈する。

〈埋土〉堆積土は 10 層に分層した。褐色土が主体となり、中～下位では焼土ブロックや炭化物を多く含む箇所が見られる。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉北壁は残存状況が悪く、立ち上がりは不明瞭であるが、南壁と同様にほぼ直立すると考えられる。床面は北半が若干下がっている。南半の一部では硬化面を確認した。貼床は施されていない。

〈柱穴〉4 個の柱穴を検出した。PP01～PP03 は本遺構に付随すると考えられるが、PP04 に関しては不明である。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね 160 m 前後である。PP01 の断面では柱痕跡が確認できた。堆積土は褐色～黄褐色が主体で、PP02 では暗褐色土の堆積が見られる。

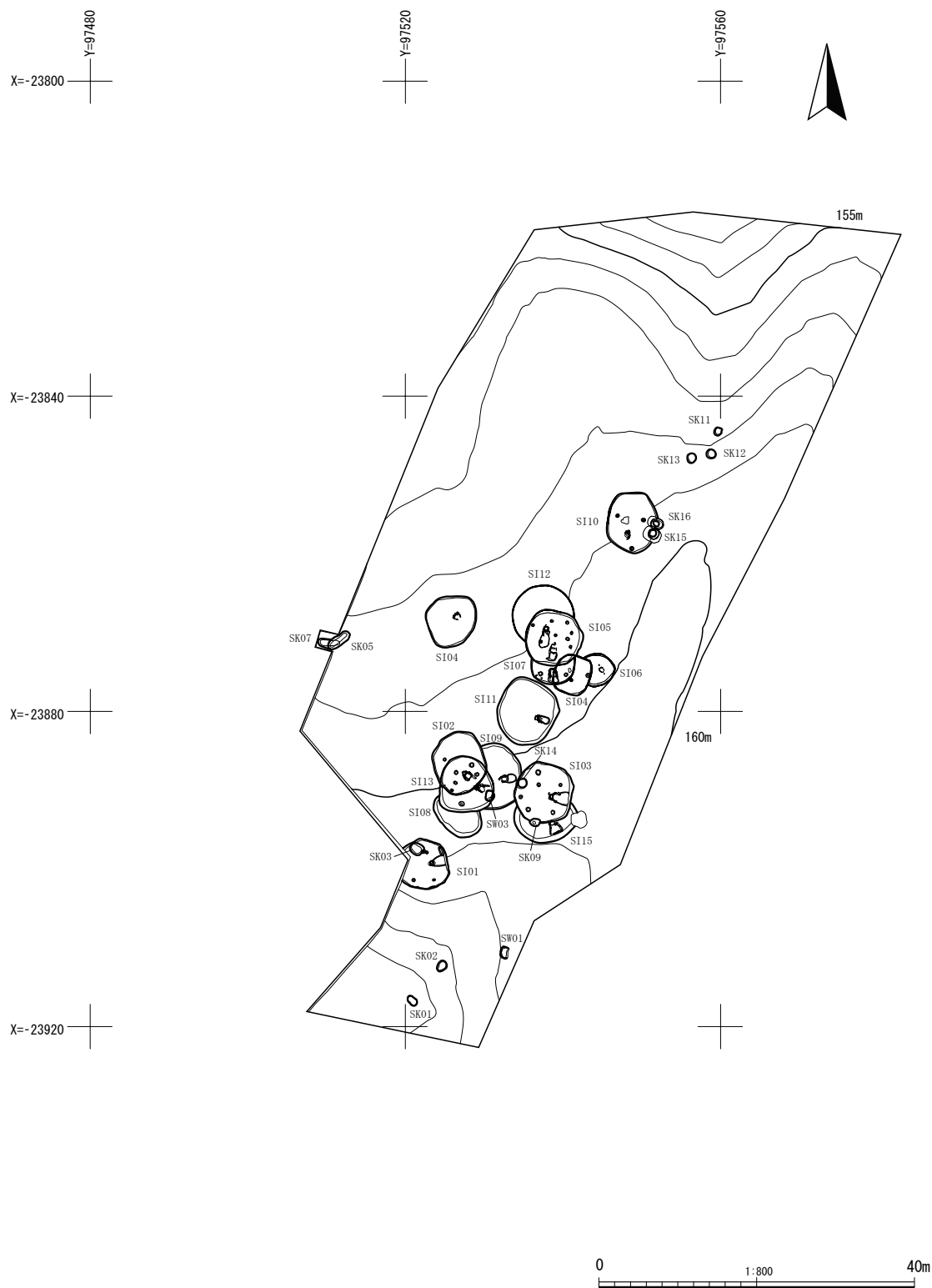
〈炉〉東壁際に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約 2 m、南北が約 1.3 m である。石囲部は角礫で構成され、矩形を呈する。石囲部を中心とし、その西側の住居床面と前庭部の石囲部寄りで被熱面を確認した。石囲内部における焼土の厚さは 5 cm 程度である。

〈重複〉SK03 と重複しており、本遺構が古い。

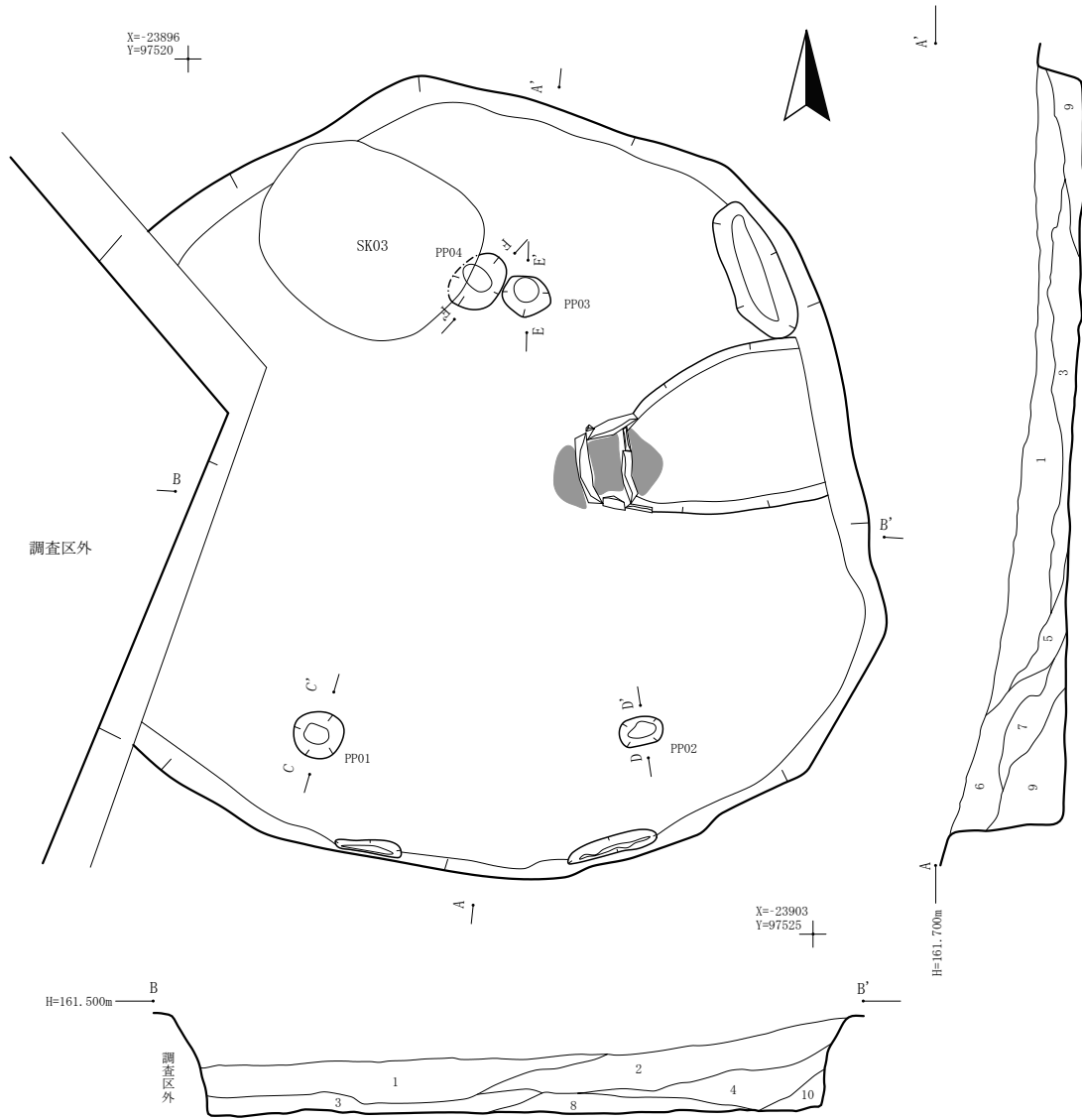
〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。縄文土器は 27 点を掲載した（第 32・33 図、写真図版 21）。粗製土器が多いが、26 は大木 10 式に相当すると考えられる。石器は 10 点を掲載し、そのうち 6 点を図示、4 点を写真のみの掲載とした（第 53・54・56・58 図、写真図版 40・41・50・52・56）。石製品は有効垂飾品が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

2 検出遺構

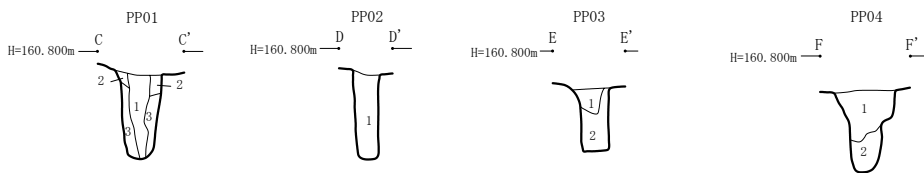


第9図 遺構位置図（青野滝北 I）



SI01 (A-A', B-B')

- 1 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒ブロック 1%、炭化物粒 (φ 1mm) 1% 含む
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 しまり中 一部粘土状のブロックが混じる
- 3 10YR5/4 に近い黄褐色シルト 粘性やや弱 しまり中
- 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎 炭化物粒 (φ 2mm) 1% 含む、土器片多い
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 (φ 2mm) 3%、炭化物粒 (φ 1mm) 1% 含む
- 6 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
- 7 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密 炭化物粒 (φ 5mm) 1% 含む
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中 焼土ブロック (φ 50mm) 10%、炭化物粒 (φ 2mm) 3% 含む
- 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密 炭化物ブロック (φ 10mm) 1% 含む
- 10 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密 炭化物粒 (φ 2mm) 1% 含む



SI01PP01 (C-C')

- 1 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや疎 明黄褐色シルトブロック (φ 10~20mm) 10%、炭化物粒 (φ 1mm) 10% 含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりやや密 明黄褐色シルトブロック (φ 10mm) 30%、炭化物粒 (φ 1mm) 3% 含む
- 3 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまり疎

SI01PP02 (D-D')

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり中 炭化物粒 (φ 2~3mm) 10% 含む

SI01PP03 (E-E')

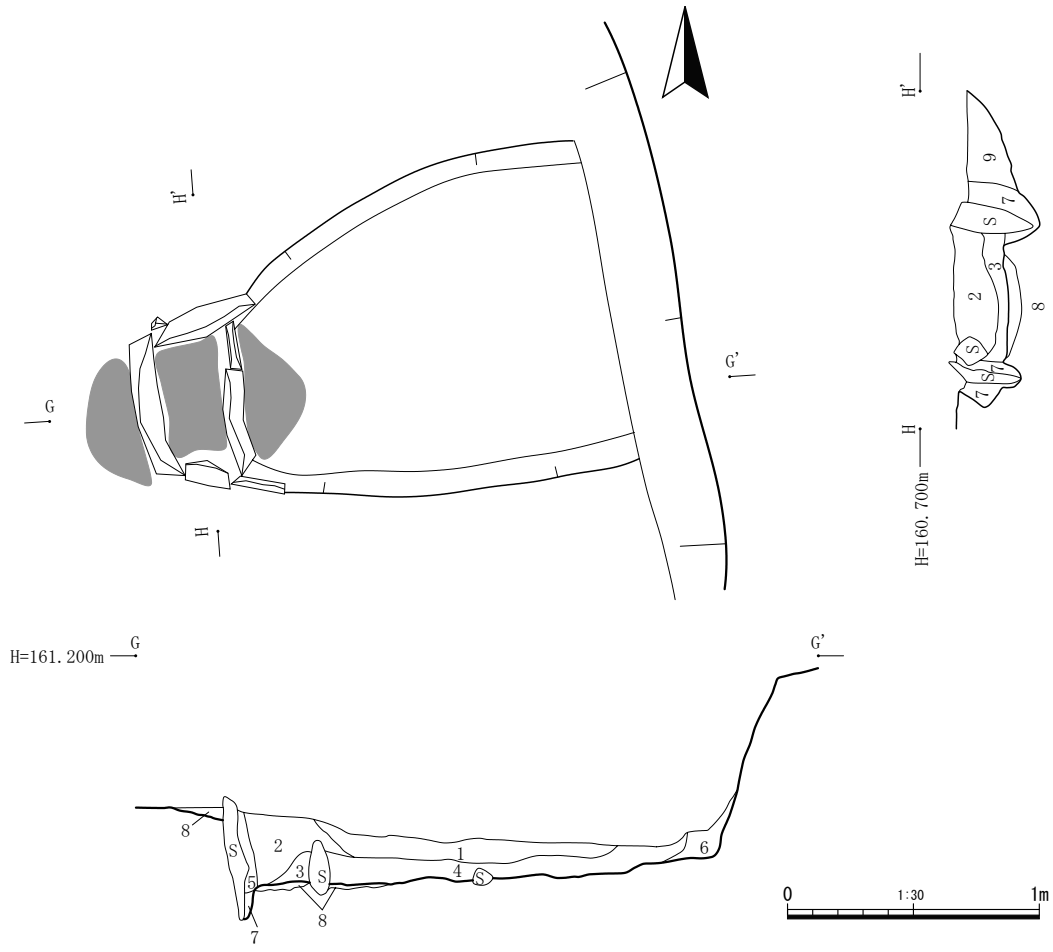
- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりやや密 明黄褐色シルトブロック (φ 10mm) 30%、炭化物粒 (φ 1mm) 3% 含む
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり中

SI01PP04 (F-F')

- 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまりやや密 明黄褐色シルトブロック (φ 10mm) 30%、炭化物粒 (φ 1mm) 3% 含む
- 2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまり中

第 10 図 SI01 (青野滝北 I)

2 検出遺構



- SI01 炉 (G-G', H-H')
- 1 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまりやや密 焼土ブロック (φ20~30mm) 1%、炭化物ブロック (φ10~20mm) 3%含む
 - 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 (φ1~2mm) 5%、炭化物ブロック (φ10~20mm) 5%含む
 - 3 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや密 炭化物粒 (φ1~2mm) 1%含む
 - 4 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強 しまり中 炭化物粒 (φ2~5mm) 10%含む
 - 5 10YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 (1mm未満) 1%含む
 - 6 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性強 しまりやや疎 炭化物ブロック (φ10mm) 1%含む
 - 7 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密 地山粒 (φ1mm) 1%含む。炉石据方
 - 8 2.5YR4/8 赤褐色シルト (焼土) 粘性中 しまり中 燃焼部
 - 9 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまりやや密

第 11 図 SI01 炉 (青野滝北 I)

SI02 竪穴住居跡 (第 12・13 図、写真図版 3)

〈位置〉 調査区南寄りのⅢ B 2 b グリッド付近に位置する。

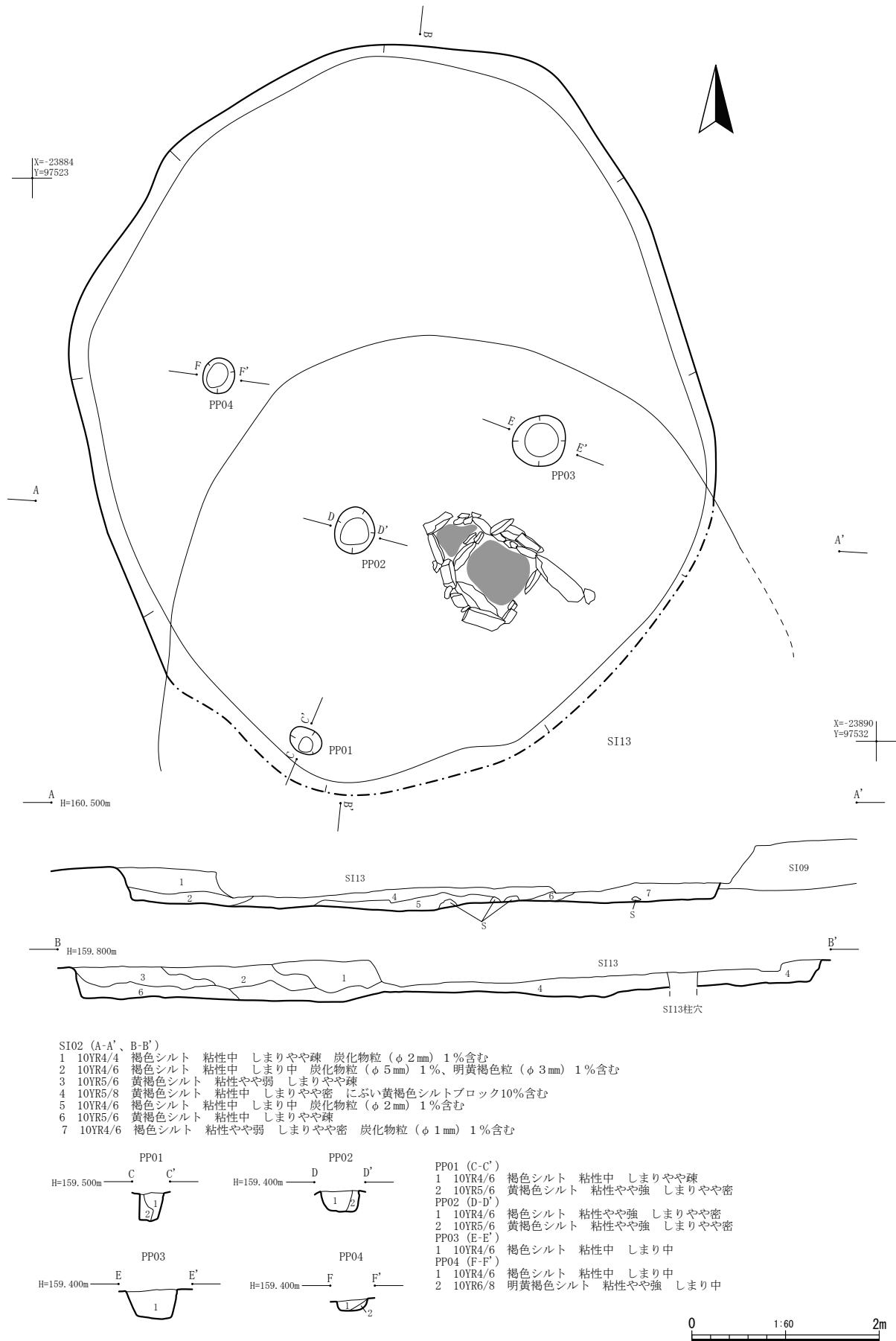
〈検出状況〉 Ⅲ層上面が検出面と考えられるが、多くの遺構が重複している場所であり、検出時に平面形は確認できなかった。しかし、不整形な褐色土の広がりから、遺構の存在の可能性を推測し、ベルトを設定し、ベルトに沿ってトレンチ状に掘り下げたところ、本遺構の炉を検出した。なお、このトレンチ断面では本遺構の上位に SI13 の存在を確認している。

〈規模・形状〉 規模は概ね南北方向が 7.7 m、東西方向が 6.7 m の円形を呈する。

〈埋土〉 7 層に分層した。上位は SI13 により削平されている。堆積土は褐色～黄褐色土が主体であり、自然堆積と考えられる。

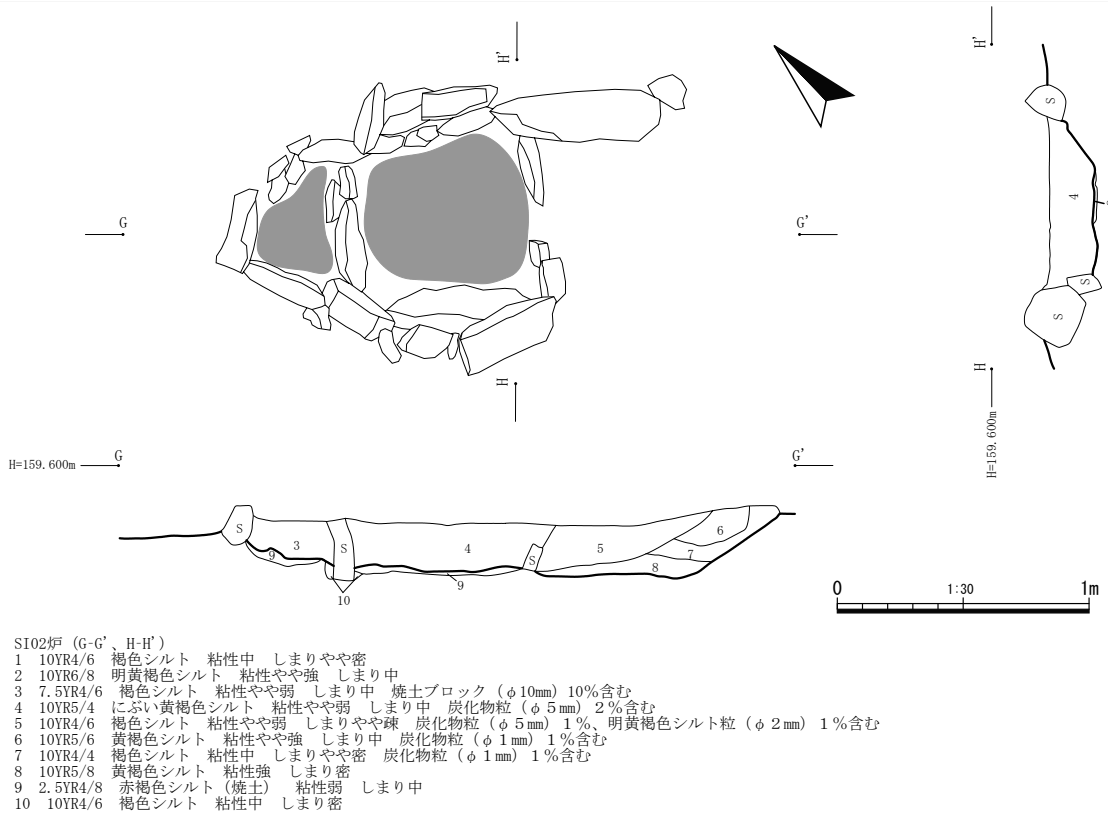
〈壁・床〉 全体的に壁の残存状況は不良で立ち上がりは不明瞭であるが、断面を観察した結果、ほぼ直立すると考えられる。床は硬化面が確認できず、炉跡の検出面を手掛かりとして精査した。床面はほぼ平坦であり、貼床は施されていない。

〈柱穴〉 4 個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね 159.1 m 前後であるが位置関係から推測して PP01、PP03、PP04 は本遺構に付随すると考えられる。PP02 に関しては、位置関係か



第 12 図 SI02 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第13図 SI02 炉 (青野滝北 I)

ら SI13 に付随する可能性があるが、底面標高は本遺構の柱穴に近い。堆積土は褐色～黄褐色が主体である。

〈炉〉南東部に二つの石囲部と、前庭部からなる複式炉を検出した。規模は長径が約 2.3 m、短径が約 1 m である。石囲部は角礫で構成され、一つは台形、もう一つは方形を呈する。いずれの石囲部底面は被熱しており、焼土の広がりを確認した。焼土の厚さは最大で 4 cm 程度である。なお、石囲部の先端に褐色土の広がりを確認しており、土器埋設部の可能性があったが、出土遺物はない。

〈重複〉SI09、SI13 と重複し、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 5 点を掲載した (第 33 図、写真図版 22)。

晩期と思われる土器 (28) が出土しているが、29～31 は大木 9～10 式に相当すると考えられる。石器は 8 点を掲載し、そのうち 4 点を図示、4 点を写真のみの掲載とした (第 54・56 図、写真図版 41・50・52・56)。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

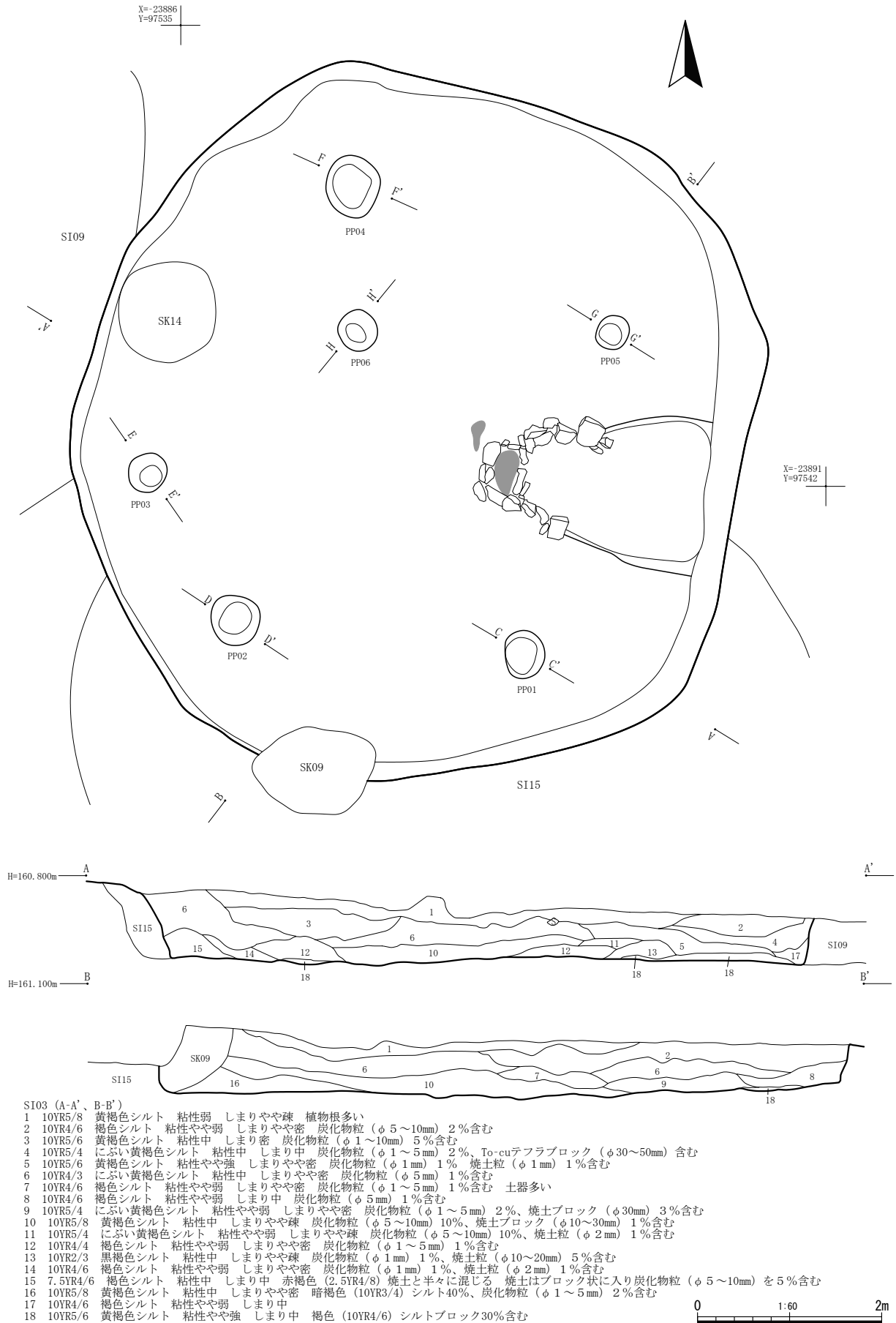
SI03 竪穴住居跡 (第 14・15 図、写真図版 4)

〈位置〉調査区南寄りの III B 3 e グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時には明瞭な平面形を把握できなかったが、遺物が多く出土する染み状の不整形な褐色土の広がりを確認し、ベルトを設定して精査を開始した。検出面は III 層上面である。

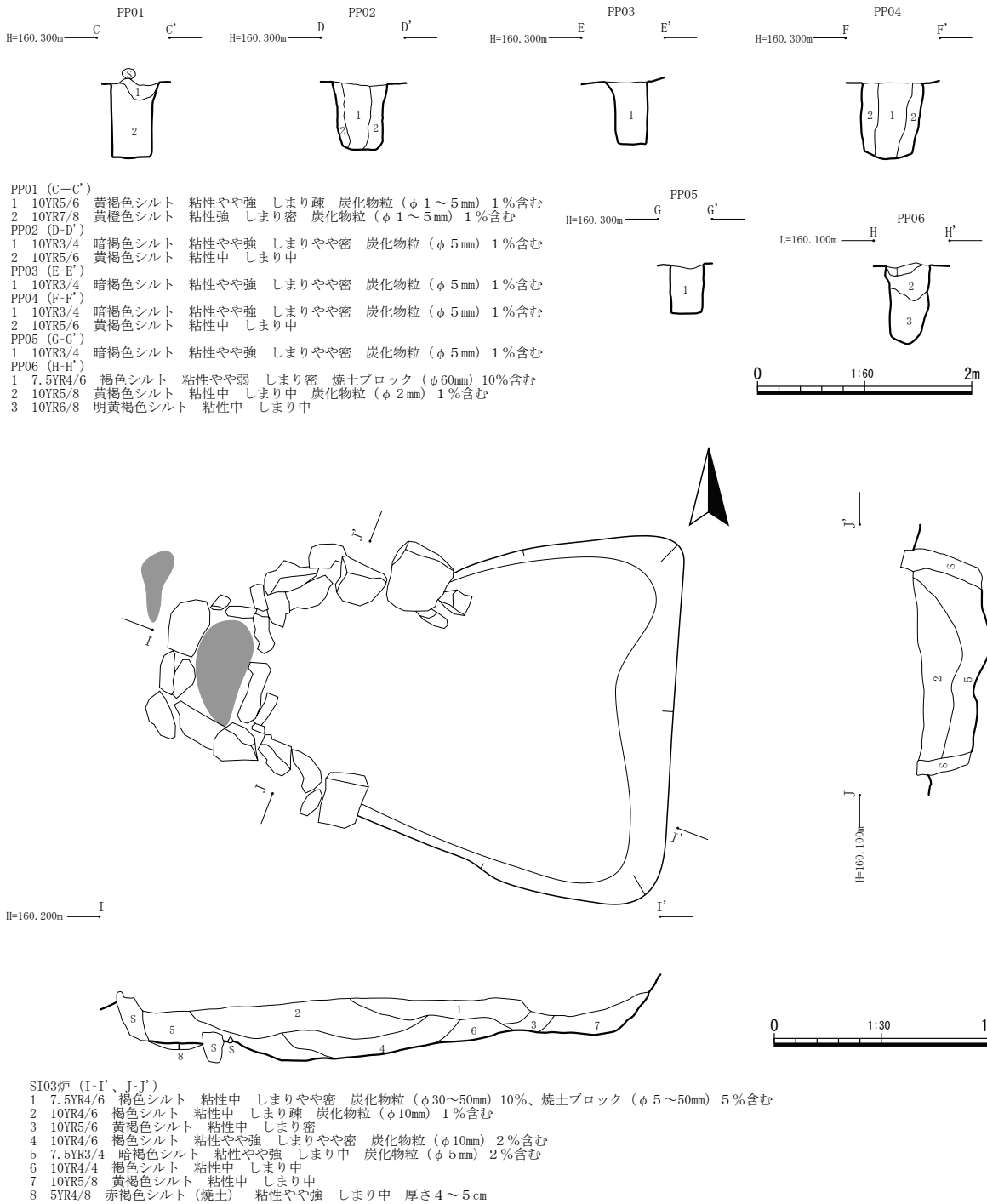
〈規模・形状〉規模は南北方向が 7.6 m、東西方向が 7.4 m の円形を呈する。

〈埋土〉18 層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体であり、ほぼ全体に炭化物粒を含んでいる。



第 14 図 SI03 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第15図 SI03 柱穴、炉 (青野滝北 I)

また、埋土中位~下位にかけては焼土粒・ブロックを含んでいる。三角堆積が見られることから、基本的には自然堆積と考えられるが、北西部埋土では中位~下位にかけて多量の礫や土器が出土している。これらは本遺構の埋没過程において、他の場所から廃棄された人為的なものと考えられる。〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は局所的に硬化面が確認できたものの、貼床は施されていない。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉6個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね 159.2 m ~ 159.3 m 前後である。位置関係から推測して全て本遺構に付随するものと考えられる。PP02 と PP04 では断面で柱痕跡を確認した。PP03 と PP05 の堆積土は、この柱痕跡と類似している。

〈炉〉東壁際に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約 2.4 m、南北が約 1.6 m である。石囲部は角礫で構成され、矩形を呈する。石組みは石囲部の東側まで続いており、部分的な焼土の広がりもあることから、二つの石囲部を持つ炉であった可能性がある。石囲内部における焼土の厚さは最大で 5 cm 程度である。

〈重複〉SI09、SI15、SK09、SK14 と重複している。本遺構は SI09、SI15 より新しく、SK09 よりも古い。SK14 は本遺構の床面で検出しているが、本遺構の埋土を掘り込んでいた可能性もある。したがって、新旧関係は不明である。

〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。土器は 46 点を掲載した（第 33～37 図、写真図版 22～25）。一部に弥生時代前期の土器が紛れ込んでいるが、縄文時代中期後葉の大木 10 式が大勢を占めるとされる。石器は 23 点を掲載し、そのうち 13 点を図示、10 点を写真のみの掲載とした（第 53～55・57・59・60 図、写真図版 40・41・50～52・54・56・58）。石製品は有孔垂飾品（448）と石棒（449）が出土している（第 61 図、写真図版 59）。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（鈴木博之）

SI04 竪穴住居跡（第 16 図、写真図版 5）

〈位置〉調査区中央部から西寄り、II B 2 g グリッドに位置する。本調査区では遺構の密集する箇所から北西方向に離れて存在する。地形は平坦面である。

〈検出状況〉初期のトレンチでは検出できず、重機で全面表土除去後、不定形な暗褐色土の広がりが確認できた。地形を考慮してこの広がりに南北ベルトを設定し掘り進めた結果、石囲炉を検出して住居跡であると認定した。

〈規模・形状〉平面形は最大径約 7 m の円形基調の不定形を呈する。

〈埋土〉褐色土と黄褐色土を主体とする。一部暗褐色土、褐色土と黄褐色土が混合する箇所がある。上位には炭化物を含む層が多い。中位に土器や礫を多く含む層があり、この部分の人為堆積が疑われる。

〈壁・床〉壁はやや外反しながら立ち上がっている。床面としては総じて軟らかい。後述するが柱穴を検出するために何段階かに分けて床面を下げてもどの面でも同じ状況であった。炉のレベルから、かろうじて床面と思われる面で実測した。

〈柱穴〉検出できなかった。平面実測後もだめ押しで床面を下げていったが、検出できなかった。

〈炉〉端部を欠いており正確な形は不明であるが、一辺約 70 cm 前後の、方形もしくは三角形の石囲炉である。焼土は炉内において部分的に見られる。炉石の中には被熱のため変色したものもある。

〈重複〉なし。

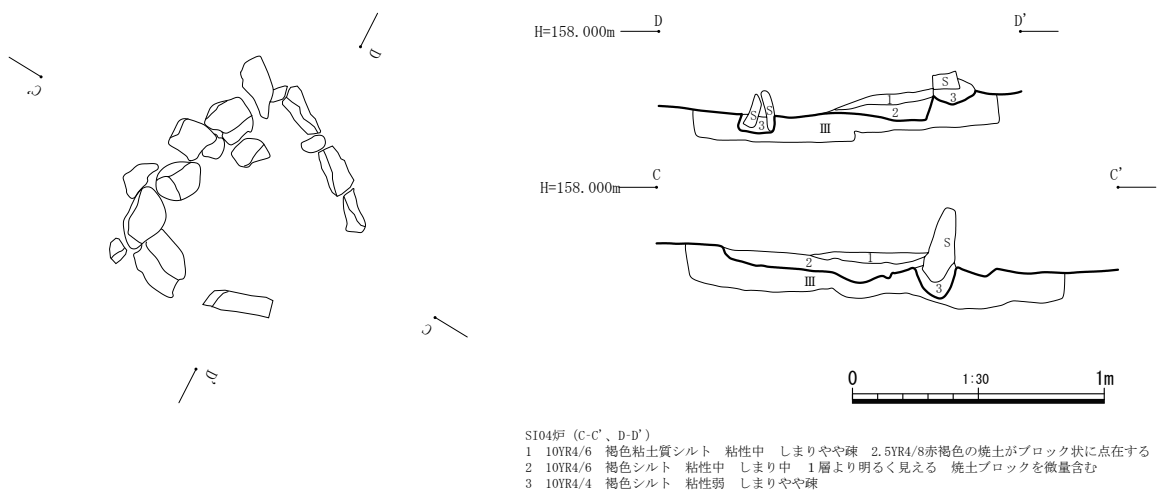
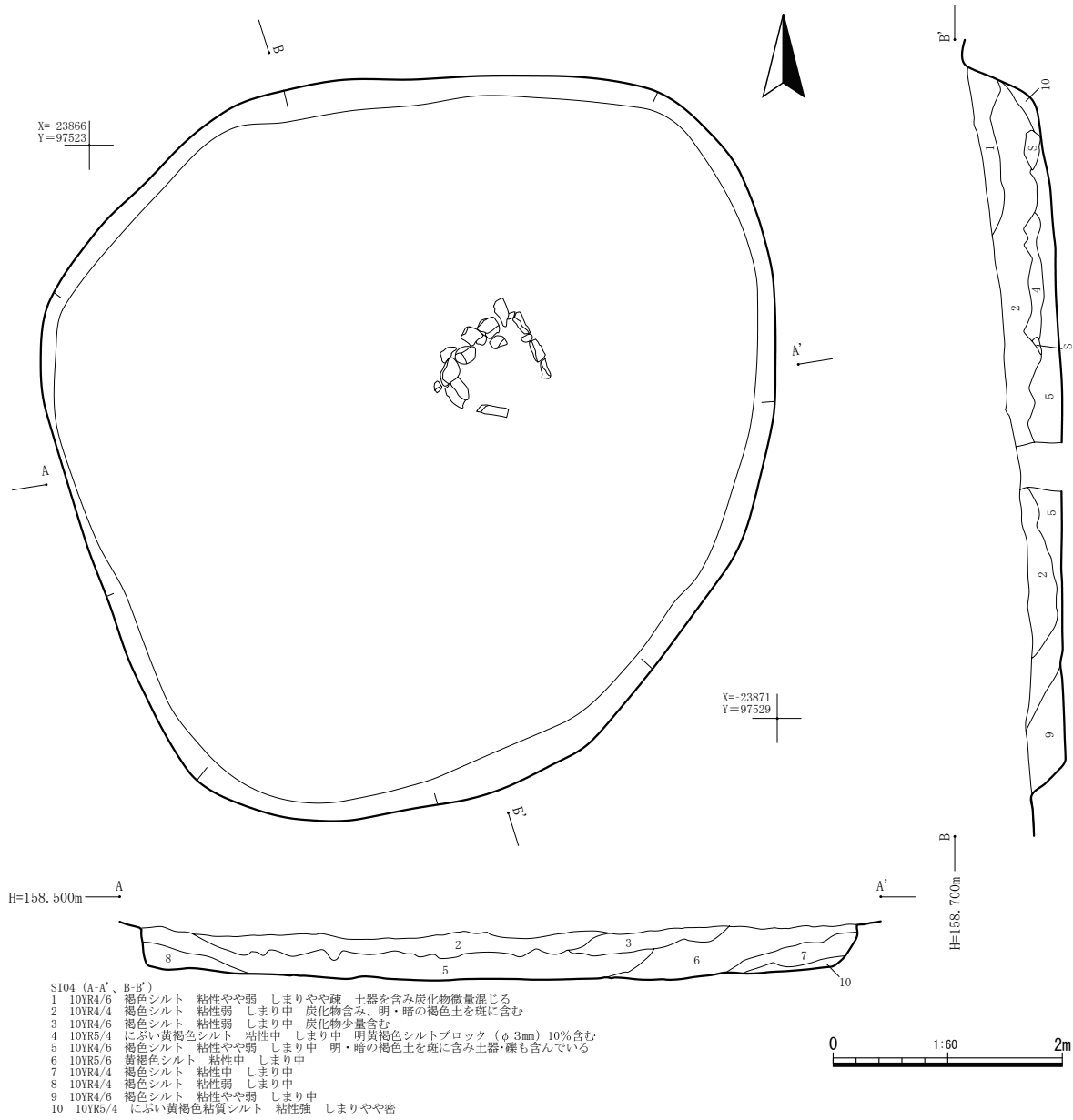
〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 12 点を掲載した（第 37・38 図、写真図版 25・26）。大木 9～10 式が大勢を占めるとされる。石器は 6 点を掲載し、そのうち 3 点を図示、3 点を写真のみの掲載とした（第 53・54 図、写真図版 40・42）。

〈時期〉縄文時代中期後葉と思われる。

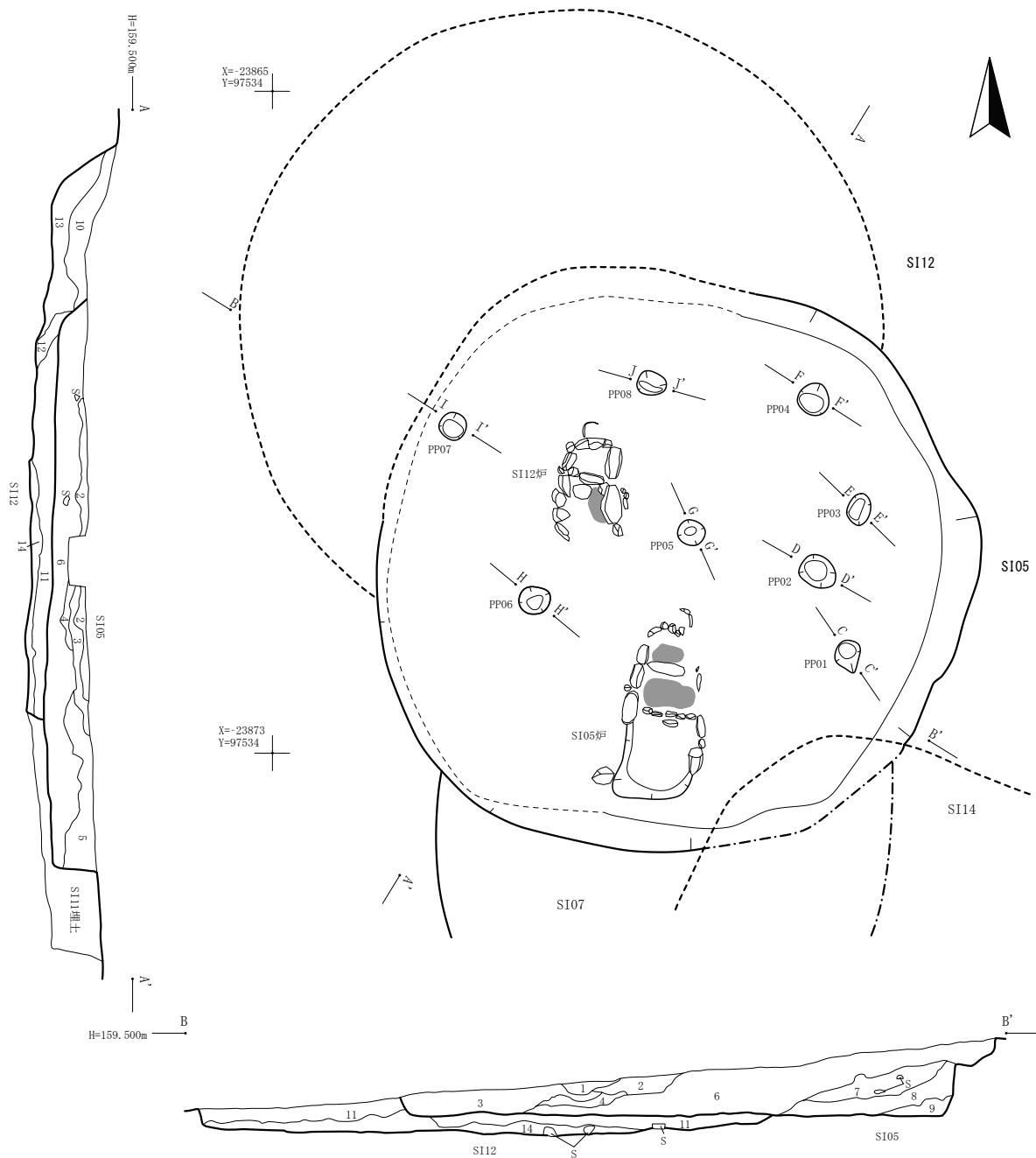
SI05 竪穴住居跡（第 17・18 図、写真図版 6・7）

〈位置〉調査区中央部やや南寄りの遺構が集中する範囲の北端で II B 8 e グリッド周辺に位置する。西北に下る緩斜面上である。

2 検出遺構



第 16 図 SI04 (青野滝北 I)

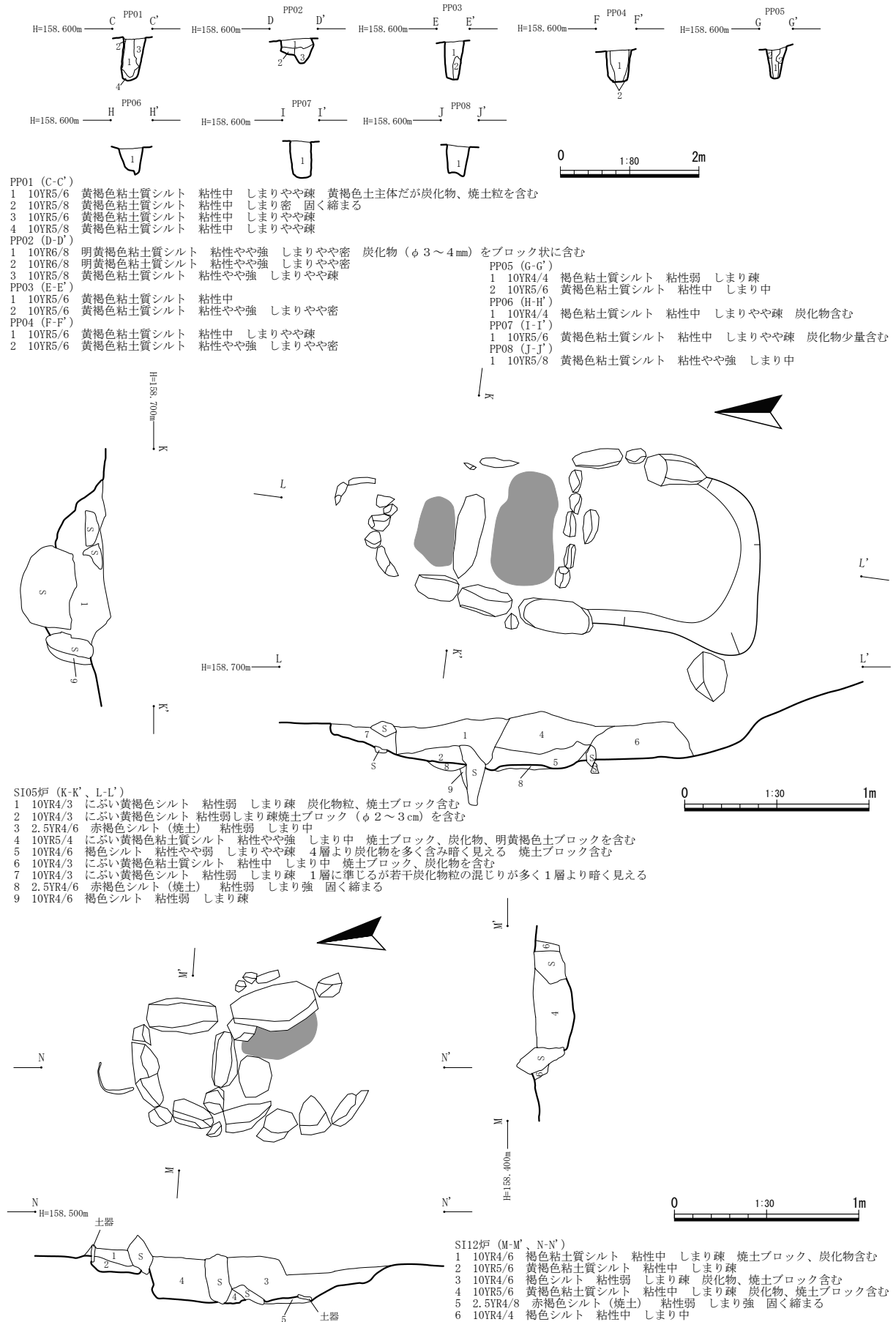


- SI05、SI12 (A-A'、B-B')
- | | | | | | |
|----|---------|----------|-------|--------|-------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色シルト | 粘性弱 | しまり疎 | 草木根多い |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | 草木根多い |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | 炭化物少量含む |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | 粘性弱 | しまりやや疎 | 礫、焼土ブロック、炭化物を多く含む |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 全体的に汚れて見える 焼土粒含む |
| 9 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物を多く含む |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘性やや弱 | しまり中 | |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物を含む |
| 12 | 10YR4/6 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 13 | 10YR4/6 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | |
| 14 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | 地山ブロックが多く混入 |

※ 1～9層・・・SI05埋土
 10～14層・・・SI12埋土

第 17 図 SI05、12 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第 18 図 SI05 柱穴、炉、SI12 炉 (青野滝北 I)

- 〈検出状況〉SI12床面精査中にもう一つの石組部を検出し、さらに検出面を広げると複式炉の形状となったため、SI12とは別の住居跡と認定した。
- 〈規模・形状〉本遺構より古いと思われるSI12の精査が進んでいたため、本遺構の壁の大半は気づかれないままに壊された可能性が高い。残存箇所から類推して円形基調の径約7m規模の住居跡となるようである。
- 〈埋土〉前項のSI12埋土断面観察ベルトと共通するが、埋土下位の一部は前項のSI12の埋土と思われ、本遺構の埋土は上位の部分であると思われる。よって前述の通り、大量の焼土、炭化物が斜に流れ込んでいる箇所が観察された。
- 〈壁・床〉一部SI12と共通する部分もあるかもしれない。壁は検出した部分では垂直に立ち上がる。床面には固く締まる面も見られるが均一ではない。
- 〈柱穴〉8個の柱穴を検出したが、切り合いの中で、どの柱穴がどの住居に伴うものかは、図面上でしか推測できない状況である。図面上PP01～PP06までを本遺構に伴うものとした。
- 〈炉〉石囲い部を2室持ち前庭部につながる複式炉である。前庭部にも両側に石が設置されていたようであるが、片方側の石がなくなっている。焼土は二つの石囲部両方に形成されており、前庭部の石囲部境の箇所にも薄く形成されている。石囲部先端の外側に3個の石が並んで検出されたが、作り直した跡かもしれない。炉の規模は前庭部を含めた長軸は2m強、2室ある石囲部で先端部にある奥室は蒲鉾形を呈し、内径で約40cm×40cm、前庭部寄りの前室は方形で内径約70cm×40cmとなる。奥室、前室、前庭部の境には礫がしっかり残されている。焼土は2室とも形成されている。前庭部は非常に固くしまる。
- 〈重複〉SI12の上に作られており、南側のSI07を切っている。
- 〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土しているが、前述のとおり、重複しているSI12と同時に精査を行ったため、遺物も一つの遺構として取り上げているものがほとんどである。そのため、ここで示す遺物にはSI12から出土したものも含まれていることをあらかじめお断りしておく。SI05とSI12を合わせ、縄文土器は23点を掲載した(第39～41図、写真図版26～29)。大木9～10式前半のものが大勢を占めるとと思われる。石器は21点を掲載し、そのうち7点を図示、14点を写真のみの掲載とした(第53～55図、写真図版40・42・50～54・57)。
- 〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI12 竪穴住居跡(第17・18図、写真図版6・7)

- 〈位置〉調査区中央部やや南寄りの遺構が集中する範囲の北端でII B 8 e グリッドに位置する。西北に下る緩斜面上である。(斜度約4.7度)
- 〈検出状況〉遺構が集中する範囲の北端で最初に検出したのが本遺構である。本遺構だけではないが、表土除去後にはっきりしたプランをとらえることは難しかった。トレンチを縦横に入れ状況を探った。本遺構もトレンチをいれたことにより石囲炉を検出し、住居跡であることが確認された。本遺構の床精査中にもう1基の複式炉を検出し、この場所が2棟の切り合いであることを確認した。さらにその後立ち上がりの壁を精査中に一段高い箇所でもう1基の複式炉を検出し、都合3棟の重複であることが判明した。さらに南西方向に2棟の住居が存在することが後々わかった。
- 〈規模・形状〉3棟の切り合いであり全体像はつかめなかったが、炉の規模から類推して径7m強の規模の円形基調となる模様である。
- 〈埋土〉基本的には下位から褐色土、暗褐色土・黒褐色土となるが、東側の斜面上位には大量の焼土、

2 検出遺構

炭化物、径 20cm ～ 30cm の礫が多数流れ込むように斜に入り込んでいる。この焼土類が入り始める境目が上端に近いものと思われる。遺物も多く含まれている。本遺構の埋土はこれらの埋土の下位の一部である。上位は前述の SI05 の埋土である可能性が高い。

〈壁・床〉壁は、確認できた箇所ではほぼ垂直に立ち上がり、最深で 75cm を測る。床は、炉の周辺で部分的に固く締まる面がある。

〈柱穴〉重複する SI05 とレベル差が少ないため、都合 8 個の柱穴を検出したが、どの柱穴がどの住居に伴うものかは、図面上でしか推測できない状況である。PP07 と PP08 の 2 個は該当すると思われる。

〈炉〉複式炉である。石囲部の先端外側に土器埋設している。また前庭部に該当する箇所の両側にも石が埋め込んである。土器埋設部分に最大厚 10cm の焼土が斜に発達している。石囲部には焼土と炭化物が混在した埋土が堆積している。前庭部床面にも焼土が発達していることから、ここは前庭部ではなく、もう一つの石囲部かもしれない。規模は土器埋設部で径約 20cm、石囲部が最大内径約 30cm × 40cm で方形、前庭部もしくはもう一つの石囲部で最大内幅約 60cm となる。

〈重複〉3 棟が重複している箇所であるが、本遺構に関しては、SI05 との切り合いである。本遺構の炉と SI05 の炉とのレベル差及び埋土の状況から、本遺構が埋まった後に SI05 の住居が作られたと判断した。

〈出土遺物〉重複している SI05 と同時に精査を行ったため、遺物も不分別で取り上げている。本遺構及び、SI05 の出土遺物は SI05 の項目でまとめて記した。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から、縄文時代中期後葉と思われる。

SI06 竪穴住居跡（第 19 図、写真図版 8）

〈位置〉調査区中央部からやや南東寄り、II B 9 g グリッドに位置する。遺構が密集する範囲の北東端である。

〈検出状況〉表土除去後の検出作業では確認できず、SI14 の精査中に石組みを検出し、ベルトを設定して精査した結果、石囲炉を持つもう一つの住居と認定した。

〈規模・形状〉平面形は残存部から類推して、径 4 m 前後の円形を呈すると思われる。

〈埋土〉褐色土を主体とするが、中央部の中位には炭化物や拳大の礫を含む層がある。自然堆積に人為堆積が加わっている模様である。

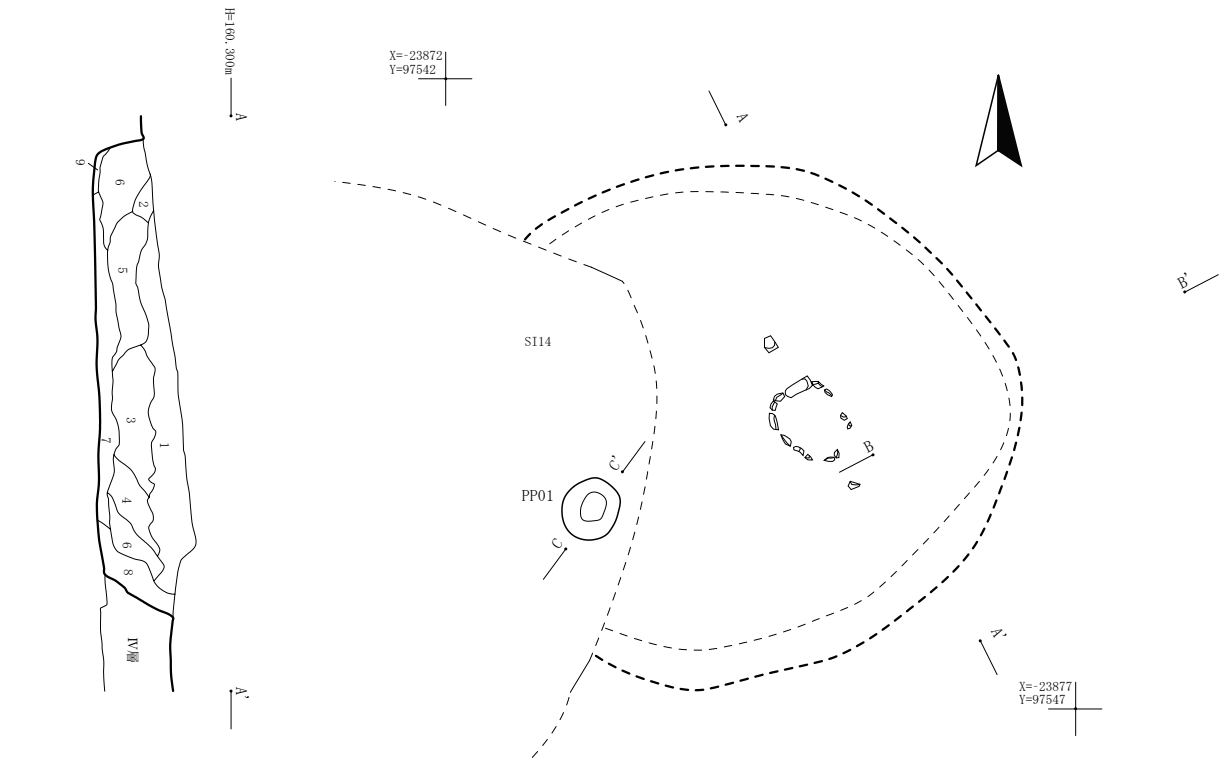
〈壁・床〉床は一部強く締まる箇所があり、壁際に向かって緩やかに上昇している。検出できた壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

〈柱穴〉石囲炉から西側約 1.5 m の箇所に 1 個検出した。開口部径 48cm、底部径 25cm、深さ 30cm で、埋土には炭化物が混じる。

〈炉〉方形の石囲炉であり、炉石は大きいものでも 20cm 前後の長さのもの 2 個で他は拳大の礫を多用している。石皿片 1、砥石片 1 あり。礫と礫の間には空間があるが、一部を除いては抜き取り跡とは考えにくい。炉石の代用として土器片が 1 点埋め込まれている箇所もある。上面に炭化物は散乱するが、焼土は炉の底面下 20cm の部分までブロック状に散在するが、総じて発達はよくなく炉内の底面も強く締まっていはいない。

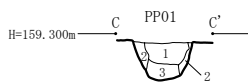
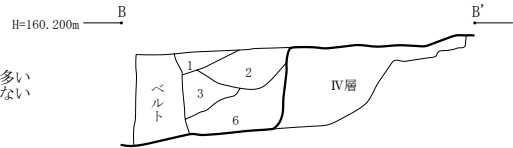
〈重複〉SI14 と床面レベルをほぼ同じくして切り合っているが、前述の通り、本遺構が古いと思われる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 4 点を掲載した（第 41 図、写真図版 29）。大木 10 式が大勢を占める。石器は石皿（435）を 1 点、写真のみ掲載した（写真図版 56）。



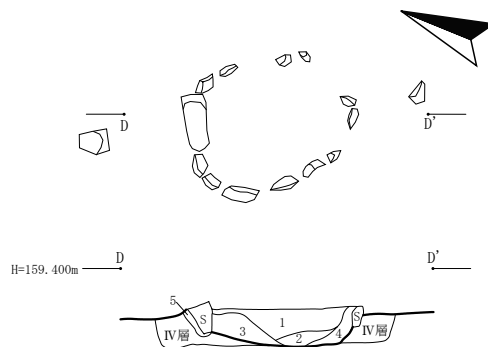
SI06 (A-A', B-B')

- | | | | | | |
|---|---------|-----------|-------|--------|-------------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 暗褐色土が混じる |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | この部分だけ混じりがない |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | 炭化物、黄褐色土小ブロックを含む |
| 4 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや疎 | 4層に連じるが礫を含まず |
| 5 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや疎 | 礫の礫含み1層より暗褐色土の混じりが多い |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 1層に連じるが1層より暗褐色土の混じりが少ない |
| 7 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 黄褐色土が礫大のブロックで混入 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 礫と密が入り交じる |
| 9 | 10YR5/6 | 黄褐色粘土質シルト | 粘性やや強 | しまり密 | |



PP01 (C-C')

- | | | | | | |
|---|---------|----------|-----|--------|----------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色粘質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 黄褐色粘質シルトブロック含む |
| 2 | 10YR5/6 | 黄褐色粘質シルト | 粘性中 | しまり中 | |
| 3 | 10YR5/8 | 黄褐色粘質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 炭化物少量含む |

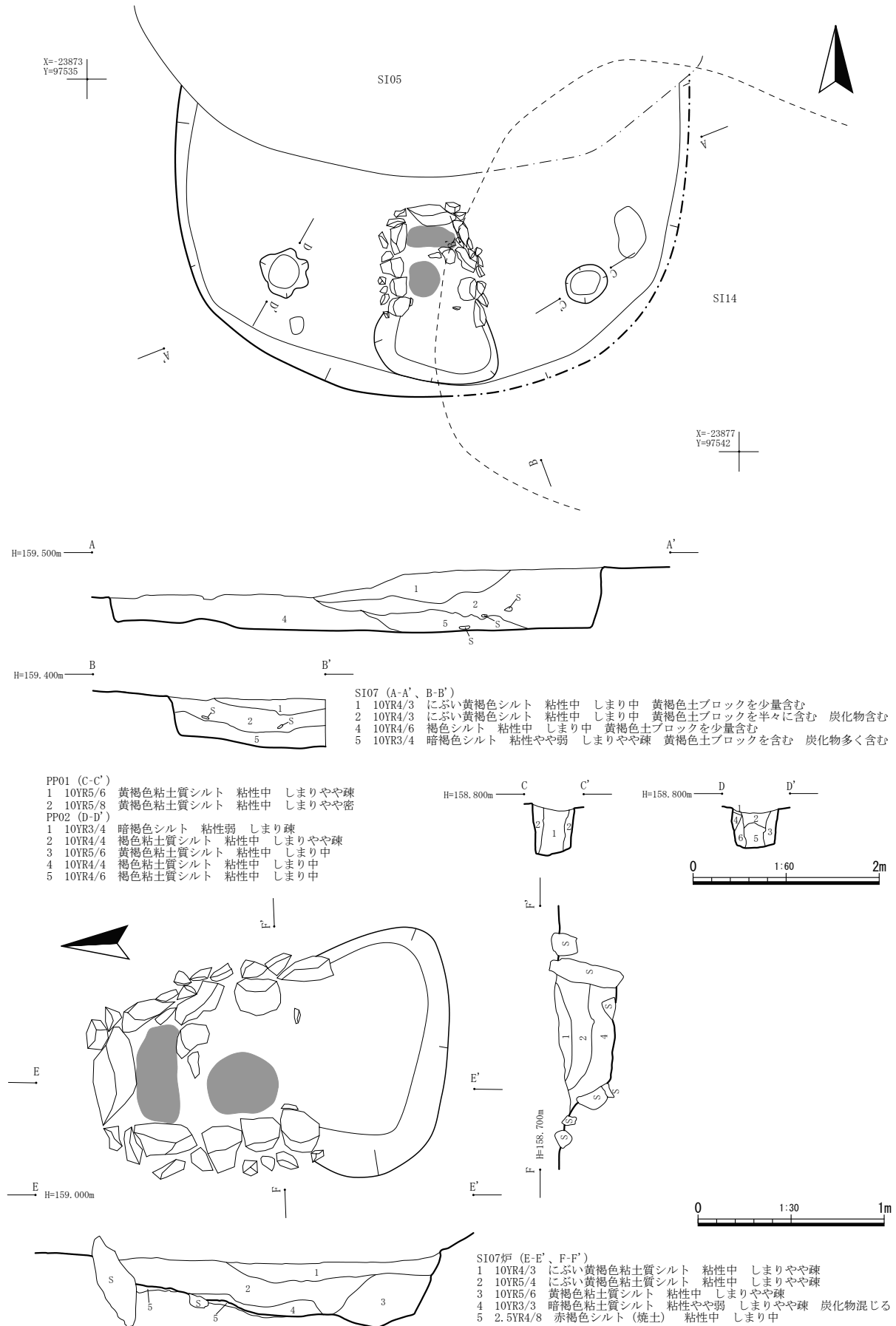


SI06 (D-D')

- | | | | | | |
|---|----------|--------------|-----|--------|----------------|
| 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 褐色土が混じる |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色シルト | 粘性中 | しまり中 | 炭化物が混じる |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | 焼土ブロック、炭化物が混じる |
| 4 | 10YR5/8 | 黄褐色シルト | 粘性中 | しまりやや密 | |
| 5 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | |

第 19 図 SI06 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第 20 図 SI07 (青野滝北 I)

〈時期〉出土遺物から、縄文時代中期後葉と考えられる。

SI07 竪穴住居跡（第 20 図、写真図版 9）

〈位置〉調査区中央部やや南寄りのⅡ B 9 e グリッドに位置する。西北方向に下る緩斜面上である。遺構が密集する箇所である。

〈検出状況〉SI05 精査中に石組部を検出し、ベルトを設定して精査した結果、複式炉をもつ住居と認定した。

〈規模・形状〉四半分弱のみの検出である。検出した部分からの推定では、やや隅丸の円形を呈すると思われる。規模は 5 m 強の径となる模様。

〈埋土〉埋土は黄褐色土が主体であるが、中央部に暗褐色、褐色土が炭化物や礫混じりで堆積する。

〈壁・床〉残存部ではやや垂直気味に立ち上がる。

〈柱穴〉複式炉の前庭部よりの両側に 2 個検出した。深さはそれぞれ 100cm、75cm である。前庭部の右方の柱穴は検出した段階で円形のプランとはならず、掘り上げた結果いびつな角の取れた星形となった。

〈炉〉石囲部と前庭部をもつ複式炉である。規模は前庭部を含めた長軸は 2 m 弱、石囲部の内径で最大幅 75cm である。石囲部は 2 室あり先端部の奥室は方形に石が組まれている。前庭部寄りの前室はハの字状に石が組まれ前庭部の広がり連続する。奥室、前室、前庭部の境には礫の残りが少ない。意図的に抜き取られたものかもしれない。焼土は 2 室とも形成されている。前庭部は非常に固く締まる。

〈重複〉SI14、SI05 と重複している。SI14 との関係は前述のとおり本遺構の埋土の上に SI14 の床が作られているので本遺構の方が古い。SI05 との関係は、本遺構の複式炉の先端部より先の床部分が SI05 によって切られていて検出できなかった。よって SI05 より本遺構の方が古いと判断した。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 9 点を掲載した（第 41・42 図、写真図版 29・30）。明確に型式を判別できるものは少ないが、大木 9～10 式が大勢を占められると思われる。石器は 15 点を掲載し、そのうち 5 点を図示、10 点を写真のみの掲載とした（第 55・58・59 図、写真図版 42・51～54・57）。

〈時期〉出土遺物から縄文時代中期後葉と考えられる。

（古舘貞身）

SI08 竪穴住居跡（第 21 図、写真図版 10）

〈位置〉調査区南寄りのⅢ B 4 b グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時に平面形は確認できず、SI02 の炉を検出したトレンチと直行するように設定したトレンチの断面にて確認した。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉北半部の大半は SI13 に削平されているが、概ね長軸が 6.7 m、短軸が 7.4 m の楕円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉6 層に分層した。堆積土は褐色土が主体である。三角堆積が見られ、自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は SI13 との接点付近で局所的に硬化面が確認できたものの、貼床は施されていない。床面は南から北に向かって緩やかに下っている。

〈柱穴〉なし。

〈炉〉なし。

〈重複〉SI13と重複しており、本遺構が古い。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した（第42図、写真図版30）。

大木9式が大勢を占めると思われる。石器は4点を掲載し、そのうち3点を図示、1点を写真のみの掲載とした（第54・59図、写真図版43・58）。

〈時期〉全容は不明な点が多いが、出土遺物から縄文時代中期後葉以前の遺構と考えられる。

SI13 竪穴住居跡（第21、22図、写真図版14）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3bグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時は小規模な褐色の染み状の平面形を確認し、土坑と判断して精査を始めた。

精査の過程で当初想定した規模よりも平面形が広がることがわかったため、ベルトを再設定し、竪穴住居跡として精査を継続した。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉南北方向が7.1m、東西方向が6.8mの円形を呈する。

〈埋土〉9層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体で、全体に炭化物粒を含み、締まりの強い堆積土である。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は局所的に硬化しているが、貼床は施されていない。床面は南から北に向かって緩やかに下っている。

〈柱穴〉3個の柱穴を検出した。いずれの柱穴も、底面の標高は概ね158.9m前後である。全て本遺構に付随するものと考えられる。明瞭な柱痕跡は確認できない。堆積土は、黄褐色から明黄褐色が主体である。

〈炉〉東壁際のSI09と接する付近に二つの石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は長軸が約2.4m、短軸が約1.2mである。石囲部は角礫で構成されている。炉石の一部は失われており、全体像が不明ではあるが、燃焼部が広がる前庭部側にもう一つの石囲部があった可能性がある。石囲内部における焼土の厚さは最大で10cm程度である。

〈重複〉SI02、SI08、SI09と重複しており、断面を観察した結果、本遺構が一番新しいと考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は15点を掲載した（第47・48図、写真図版35・36）。大木10式が大勢を占める。石器は18点を掲載し、そのうち6点を図示、12点を写真のみの掲載とした（第55・56・58図、写真図版45・46・51・53・55～57）。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

SI09 竪穴住居跡（第23図、写真図版11）

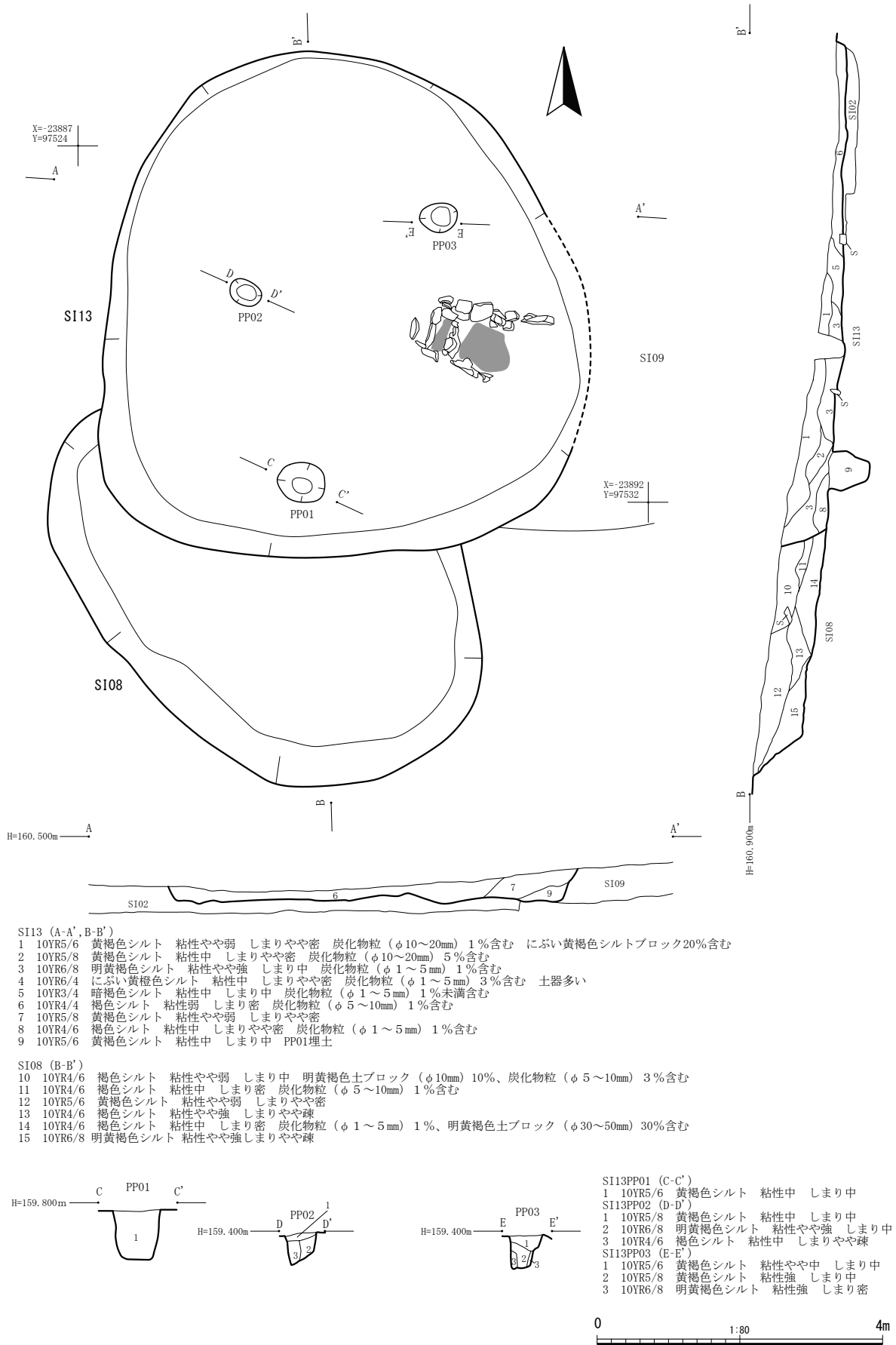
〈位置〉調査区南寄りのⅢB2cグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉検出作業時に平面形は確認できず、SI02の炉を検出したトレンチを延長で本遺構の炉を確認した。また、SI13の精査過程で東壁の立ち上がりが確認できなかったことで重複遺構があると判断した。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉西半はSI02とSI13、東半の一部はSI03に削平されているが、残存している南北軸の規模は8.3mで、平面形は円形を呈するものと推測される。

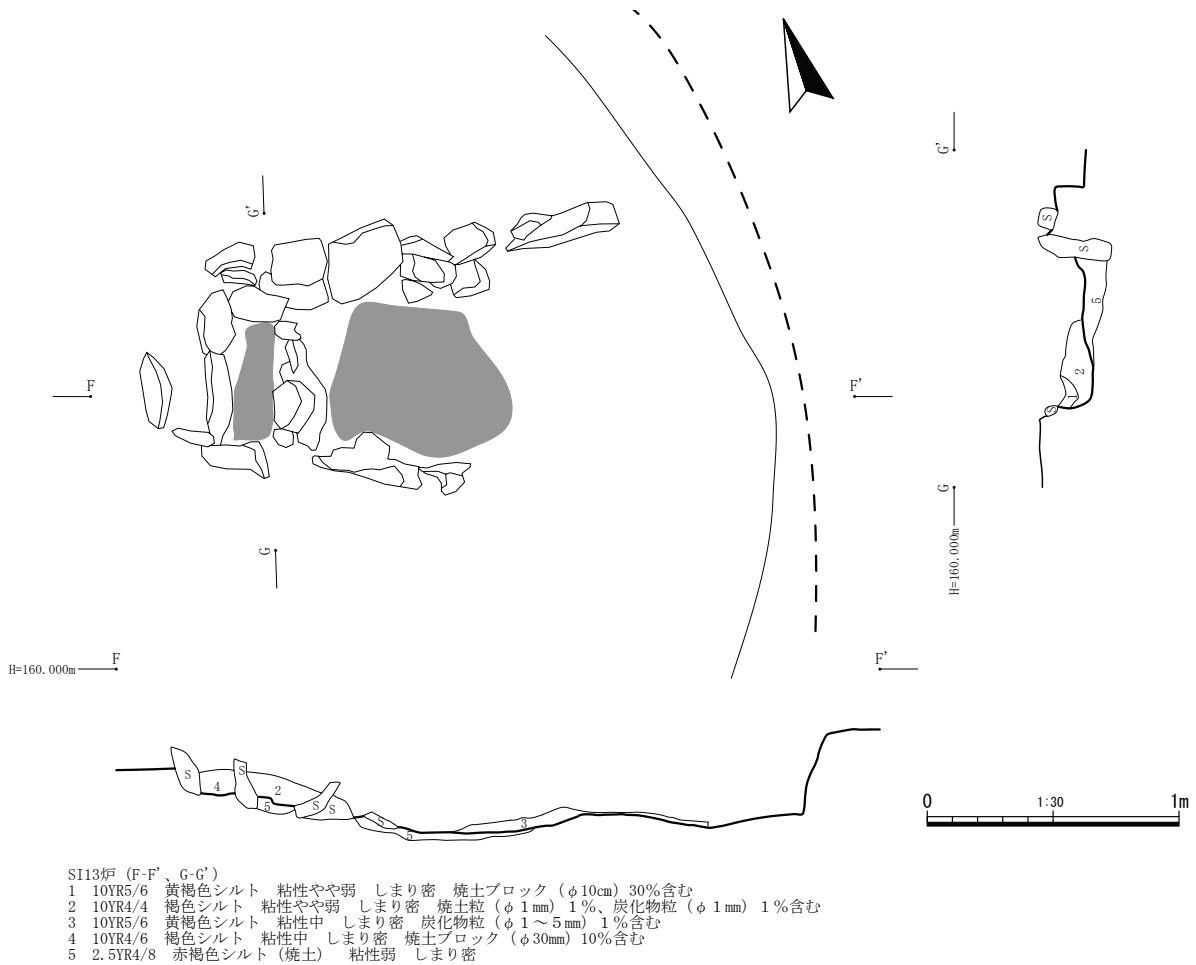
〈埋土〉残存している箇所にはベルトを設定して堆積土の観察を行い、6層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体である。自然堆積と考えられる。

〈壁・床〉壁はやや外傾しながら立ち上がる。床は炉付近が局所的に硬化しているが、貼床は施されていない。ほぼ平坦な床面である。



第21図 SI08、13 (青野滝北 I)

2 検出遺構



第22図 SI13炉 (青野滝北I)

〈柱穴〉なし。

〈炉〉東壁際のSI03と接する付近に石囲部と前庭部からなる複式炉を検出した。規模は東西が約2.2m、南北が約1mである。石囲部は角礫と扁平な円礫で構成され、前庭部側に円礫が用いられている。炉石の一部は失われているが、本来の石囲部は、三角形もしくは台形を呈するものと円形を呈するものの二つがあったものと考えられる。石囲内部における焼土の厚さは最大で12cm程度である。

〈重複〉SI03、SI02、SI13と重複しており、断面を観察した結果、本遺構が一番古いと考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した(第42・43図、写真図版30・31)。大木9式が大勢を占めると思われる。石器は11点を掲載し、そのうち5点を図示、6点を写真のみの掲載とした(第53・54・57図、写真図版40・43・52・53・55・57)。

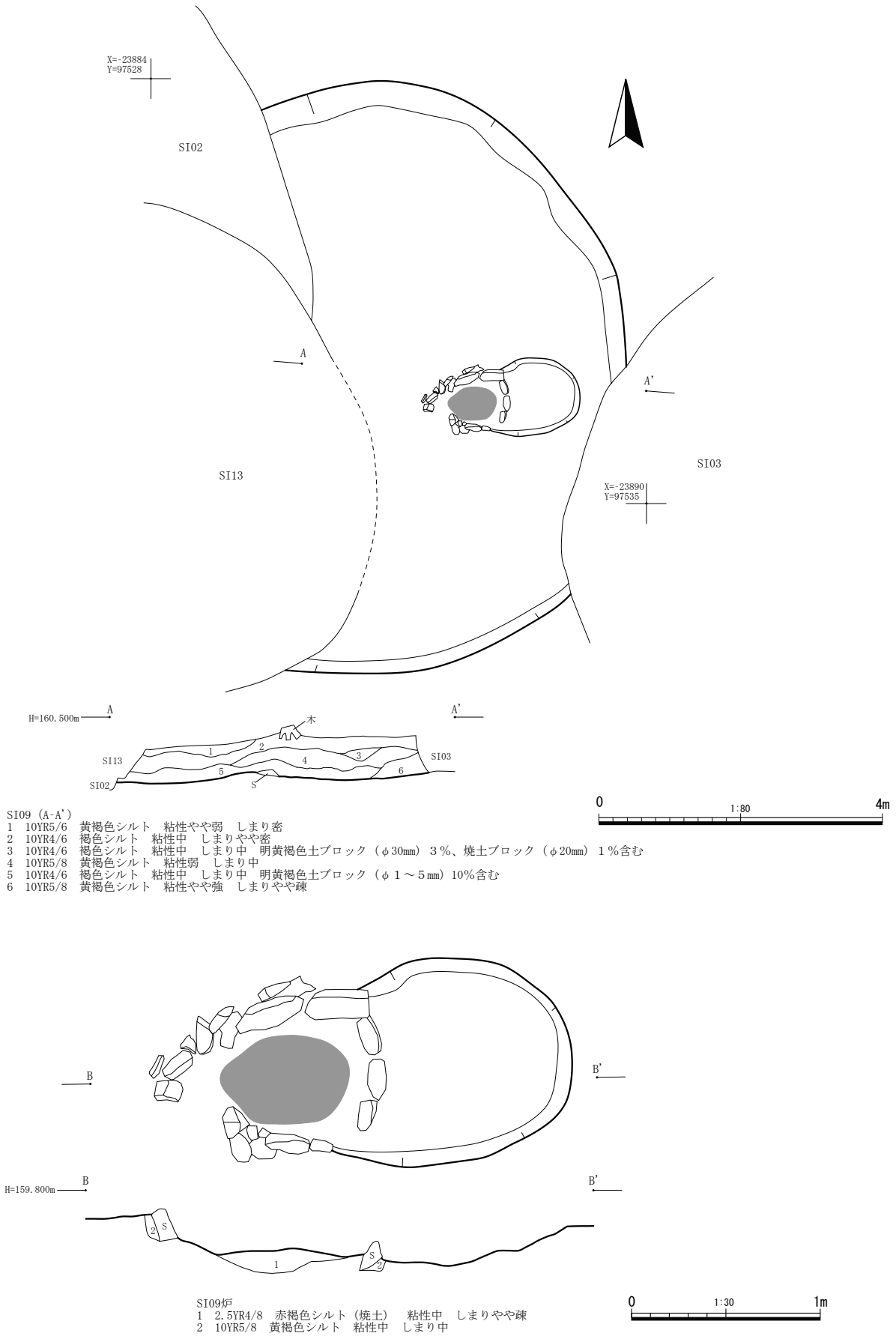
〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

(鈴木博之)

SI10 竪穴住居跡 (第24・25図、写真図版12)

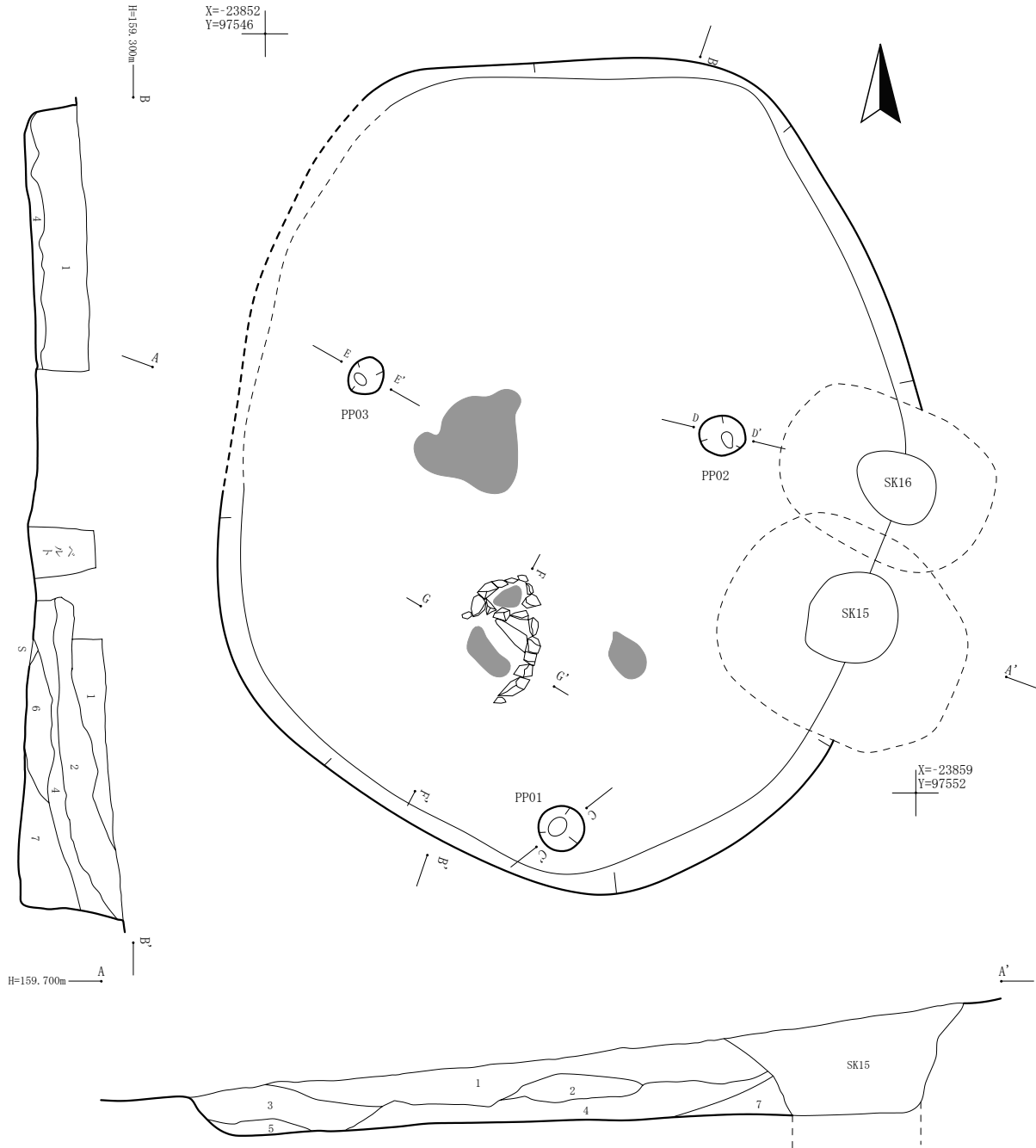
〈位置〉調査区中央からやや北寄り、竪穴住居跡が密集する範囲から若干離れた箇所にある。西北に向かって緩やかに傾斜する地形になっている。II B 5 h グリッド周辺に位置する。なおこの遺構より北側には住居跡は検出されていない。

〈検出状況〉表土除去後、Ⅲ層上面で検出作業をしたが、プランは見つけられなかった。そこで深さ30cmのトレンチを入れたが、検出できず念のためさらに30cm深く入れたところ、石囲炉を検出し、住居跡であることを確認した。

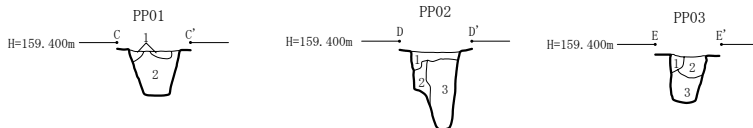


第 23 図 SI09 (青野滝北 I)

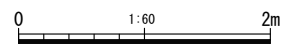
2 検出遺構



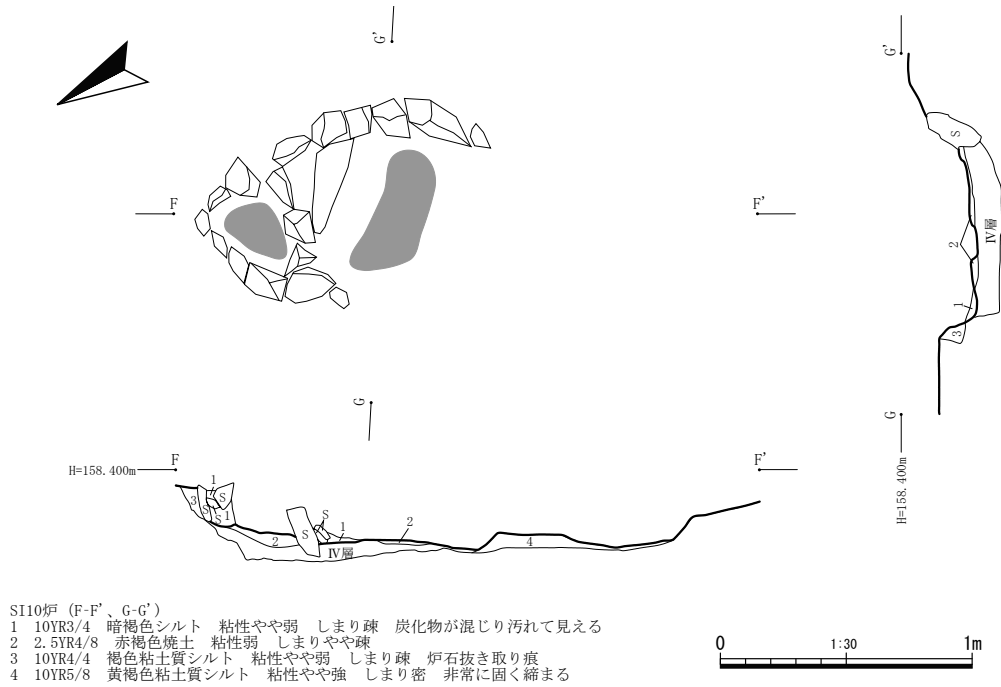
- SI10 (A-A', B-B')
- 1 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色土ブロックが50%混在
 - 2 7.5YR5/8 明褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 V層の礫を若干含む
 - 3 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 草木根多い
 - 4 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中 炭化物・黄褐色土粒が混じる
 - 5 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中
 - 6 10YR5/8 黄褐色粘土質シルト 粘性中 しまりやや密
 - 7 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中



- PP01 (C-C')
- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎
 - 2 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎 黄褐色土が小ブロック状に混じる
- PP02 (D-D')
- 1 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまりやや密 床面と同じ炭化物含む
 - 2 10YR4/6 褐色粘土質シルト 粘性中 しまり中
 - 3 10YR4/4 褐色粘土質シルト 粘性やや弱 しまり疎
- PP03 (E-E')
- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
 - 2 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
 - 3 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 2層よりやや明るく見える



第 24 図 SI10 (青野滝北 I)



第 25 図 SI10 炉 (青野滝北 I)

〈規模・形状〉西北方向の斜面下位部分での立ち上がりは確認できなかったが、残存する部分で径最大値 8 m の楕円形を呈する。

〈埋土〉下位には地山崩落と思われる層がある。褐色土より黄褐色土の方が多く、一部斜面上位から斜に明赤褐色の堆積が見られる。焼土とは確認できなかったがブロック状に入り込んでおり、自然堆積の跡に人為堆積があったことが推測される。

〈壁・床〉壁は垂直に立ち上がる。深い箇所約 90 cm を測る。床はほぼ平坦である。炉から約 1 m 離れた所に径 30 cm 前後の焼土の広がりが見られた。

〈柱穴〉3 個検出した。2 個は深さが 40 cm 程度と同規模であるが、1 個だけ深さが 60 cm に掘られている。この他に 2 個検出したがこれらは後述するフラスコ状土坑となった。

〈炉〉石囲部を二つ持ち前庭部につながる複式炉である。前庭部につながる石囲部は炉石が数個しか残っておらず大半は抜き取られたらしい。二つの石囲い部は双方とも焼土の形成は良好である。前庭部と石囲部の境は、マウンド状になり非常に固く締まる。前庭部中央に杭穴らしきものが検出された。炉の規模は炉石の残りが悪く正確な形はとらえにくいだが、残存部から測るに長軸が約 1.9 m、先端の奥室で約 30 × 30 cm の緩い正三角形、連なる全室は約 60 × 60 cm の台形状を呈すると思われる。前庭部中央付近に杭穴を 1 個検出した。

〈重複〉本遺構の床面で検出した SK15、SK16 の 2 基のフラスコ状土坑に切られる。これらの土坑は本遺構が廃棄された後に掘られたものと思われる。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 12 点を掲載した (第 44・45 図、写真図版 31～33)。明確に型式を同定できるものは少ない。石器は 6 点を掲載し、そのうち 1 点を図示、5 点を写真のみの掲載とした (第 55 図、写真図版 43・44・51・55・57)。また、石刀状の石製品 (452) が 1 点出土している (第 61 図、写真図版 59)。

〈時期〉炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI11 竪穴住居跡（第26図、写真図版13）

〈位置〉調査区中央部よりやや南寄りの遺構が集中する範囲のほぼ中央で、ⅢB1eグリッドに位置する。

〈検出状況〉調査後半のだめ押しトレンチで検出した。もともとⅢ層上面で暗褐色土の疎らな広がりが見られたので中央にトレンチを入れて確認した所検出面から40cm下げたところで礫を検出し、さらに周囲を掘り下げ、石囲炉と判定し住居跡であることを想定し十字にベルトを設定し精査に入った。

〈規模・形状〉径約7.4m×8.5mの楕円形を呈すると思われる。

〈埋土〉主体は褐色土であるが、上位に暗褐色土が薄く堆積している。南側から流れ込んでいるように見える黄褐色土と褐色土には特に遺物が多く含まれている。

〈壁・床〉壁は深い箇所ではやや外傾して立ち上がり検出面からの深さは約60cmを測る。床はほぼ平坦であるが、固く締まっているわけではない。

〈柱穴〉検出されなかった。

〈炉〉石囲部と両側に石を埋め込んだ前庭部をもつ複式炉である。石囲部は2室あった模様である。図面では先端部の石囲部からハの字状に前庭部にかけて石列が組まれているが、前室と思われる箇所と前庭部の境で段差があるため本来はこの境に石組みがあったと思われる。焼土は奥室によく発達しており、前室と思われる箇所には、底面に汚れた焼土が薄く観察された。炉の規模は前庭部まで含めた約1.9m、前室は30cm×50cmの方形、前室は約50cm×50cmの方形と思われる。前庭部両側にも石列がある。

〈重複〉なし。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は23点を掲載した（第45～47図、写真図版33～35）。大木10式が大勢を占めるとと思われる。石器は14点を掲載し、そのうち7点を図示、7点を写真のみの掲載とした（第53・55・58図、写真図版40・44～46）。

〈時期〉炉の形態から縄文時代中期後葉と思われる。

SI14 竪穴住居跡（第27図、写真図版15）

〈位置〉調査区中央部からやや南東寄り、ⅡB9fグリッドに位置する。本調査区では遺構の密集する箇所である。北西にかけての緩斜面であるがほぼ平坦と言ってもよいほどである。

〈検出状況〉Ⅲ層で検出できず、トレンチをいれた結果、石囲部を検出したがあまりにも規模が小さいため石囲炉とは気づかなかった。

〈規模・形状〉平面形は径4m弱の円形を呈すると思われるが、重複が激しく全体像はつかめていない。

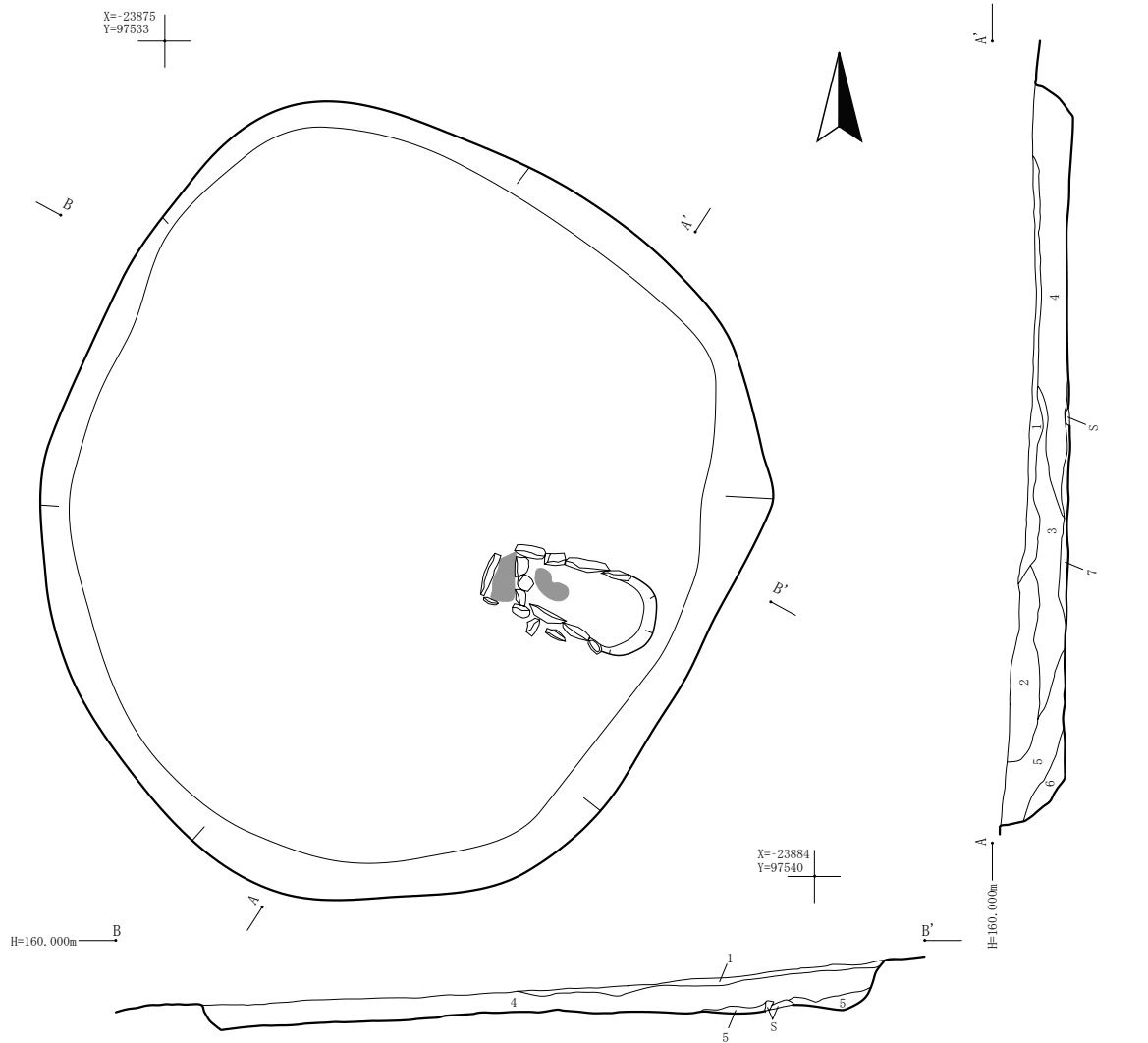
〈埋土〉暗褐色土と褐色土を主体とする。斑状に混合する箇所があり、一部は人為堆積の可能性もある。炭化物を含む層がある。

〈壁・床〉重複が激しく、壁は部分的にのみ観察できた。残存部では、ほぼ直立する。大半はSI07の埋土を床面にしており、床面のしまりはあまりない。

〈柱穴〉検出できなかった。

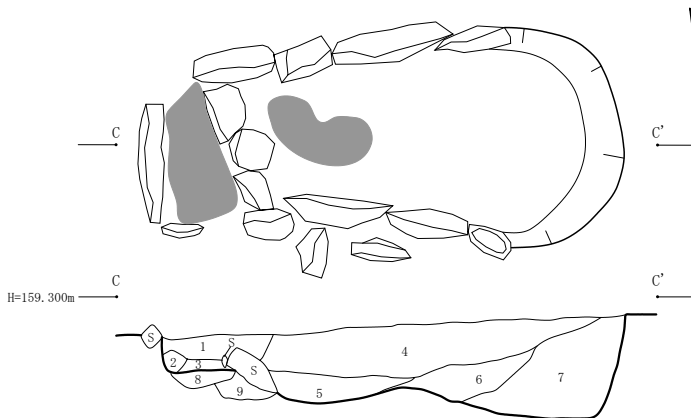
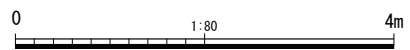
〈炉〉方形の石囲炉である。一辺約30cmの小規模なものであり、焼土の発達は若干見られる程度である。炉の北西側縁辺部に炉石に被さる様に土器片が覆っておりこれを取り上げると、焼土ブロックと炭化物が混入した堆積が見られた。

〈重複〉方形の石囲炉をもつSI06と床面レベルをほぼ同じにして切り合っているが、SI14で設定した



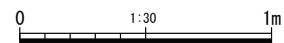
SI11 (A-A', B-B')

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり密
- 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性弱 しまりやや密 炭化物粒 (φ 2~5mm) 1%含む
- 3 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密 炭化物粒 (φ 2~5mm) 1%含む
- 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性中 しまり中
- 5 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物粒 (φ 2~5mm) 2%含む
- 6 10YR6/6 明黄褐色シルト 粘性中 しまりやや密
- 7 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強 しまり中



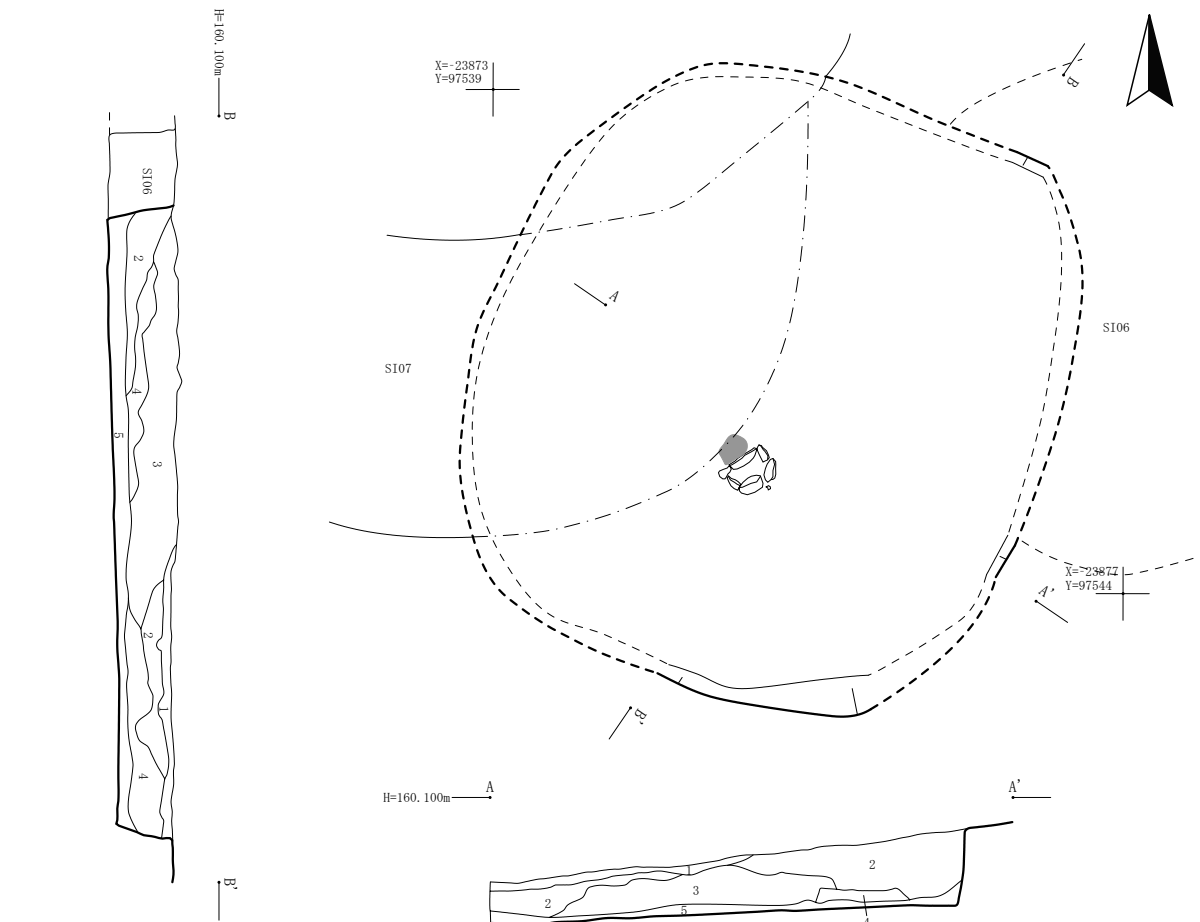
SI11 坑 (C-C')

- 1 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 上位に明褐色土ブロックが混じる
- 2 5YR4/8 赤褐色シルト 粘性中 しまりやや疎
- 3 7.5YR3/4 暗褐色シルト 粘性中 しまりやや密 炭化物ブロック (φ 20mm) 3%含む
- 4 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや疎 炭化物粒 (φ 1~3mm) 1%含む
- 5 7.5YR4/4 褐色シルト 粘性中 しまり中 4層の土がブロック状に3%混じる
- 6 10YR6/8 明黄褐色シルト 粘性やや強 しまり密
- 7 10YR5/8 黄褐色シルト 粘性やや強 しまりやや疎
- 8 5YR5/8 明赤褐色シルト (焼土) 粘性中 しまり中
- 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや強 しまりやや密

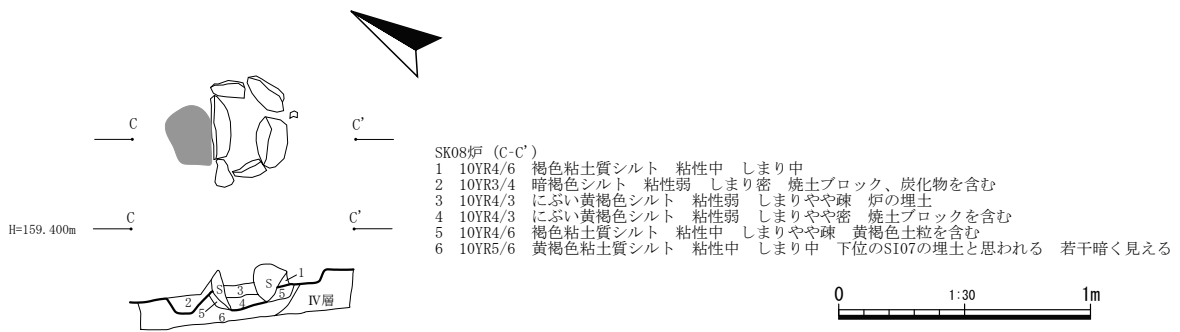
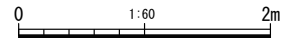


第 26 図 SI11 (青野滝北 I)

2 検出遺構



- SI14 (A-A', B-B')
- | | | | | | |
|---|---------|-----------|-------|--------|------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色シルト | 粘性やや弱 | しまりやや疎 | 炭化物含む |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 木根多い |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 褐色土が斑に混在 |
| 4 | 10YR4/3 | 褐色粘土質シルト | 粘性中 | しまり中 | 部分的に炭化物を含む |
| 5 | 10YR4/6 | 褐色粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密 | |



第 27 図 SI14 (青野滝北 I)

ベルトの中で、SK06 の埋土中に SK08 の立ち上がりを確認した。よって本遺構が SI06 より新しいと判断した。また SI07 の埋土を床面にしており。SI07 が埋まった後にこの住居が作られている様である。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は 18 点を掲載した (第 48・49 図、写真図版

36・37)。大木 10 式が大勢を占めると思われる。石器は 5 点を掲載し、そのうち 2 点を図示、3 点を写真のみの掲載とした（第 56・58 図、写真図版 53・55）。また、石棒（450）が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（古館貞身）

SI15 竪穴住居跡（第 28 図、写真図版 16）

〈位置〉調査区南寄りのⅢ B 4 e グリッド付近に位置する。

〈検出状況〉本遺構と重複する SI03、SK09 の精査時に断面にて存在を確認した。当初は小規模な土坑を想定したが、SI03 の南壁で炉を検出したことから、竪穴住居跡と判断して精査を進めた。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉は SI03 に削平されており、全体の規模は明らかではないが、径が 8 m ほどの円形を呈するものと考えられる。

〈埋土〉5 層に分層した。堆積土は褐色～黄褐色土が主体で、埋土下位に暗褐色土の堆積が見られる。全体に炭化物粒を含んでいる。自然堆積の様相を呈する。

〈壁・床〉壁は下位では直立し、上位は外傾する。埋土の 5 層に含まれる黄褐色土ブロックは壁の縁が崩落して混入した可能性がある。床の硬化面は確認できず、締まりは弱い。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉なし。

〈炉〉南壁際で石囲部と前庭部からなる複式炉を検出したが、石囲部の北半は SI03 によって壊されている。残存している規模は長軸が約 1.9 m、短軸が約 1.6 m である。石囲部は角礫と円礫で構成されている。石囲部の内部には焼土が広がり、厚さは最大で 2 cm 程度である。炉南端の壁際には溝が掘られている。

〈重複〉SI03、SK09 と重複しており、本遺構が一番古いと考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器は 10 点を掲載した（第 50 図、写真図版 37）。大木 10 式が大勢を占めると思われる。石器は 11 点を掲載し、そのうち 6 点を図示、5 点を写真のみの掲載とした（第 53・55～57・60 図、写真図版 40・46・47・51・53～55・57）。また、石刀の破片（451）が 1 点出土している（第 61 図、写真図版 59）。

〈時期〉出土遺物及び炉の形態から縄文時代中期後葉の遺構と推定できる。

（鈴木博之）

（2）土 坑

SK01 土坑（第 29 図、写真図版 17）

〈位置〉調査区南端のⅢ B 10 a グリッドに位置する。西側から延びる尾根上にあたる。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

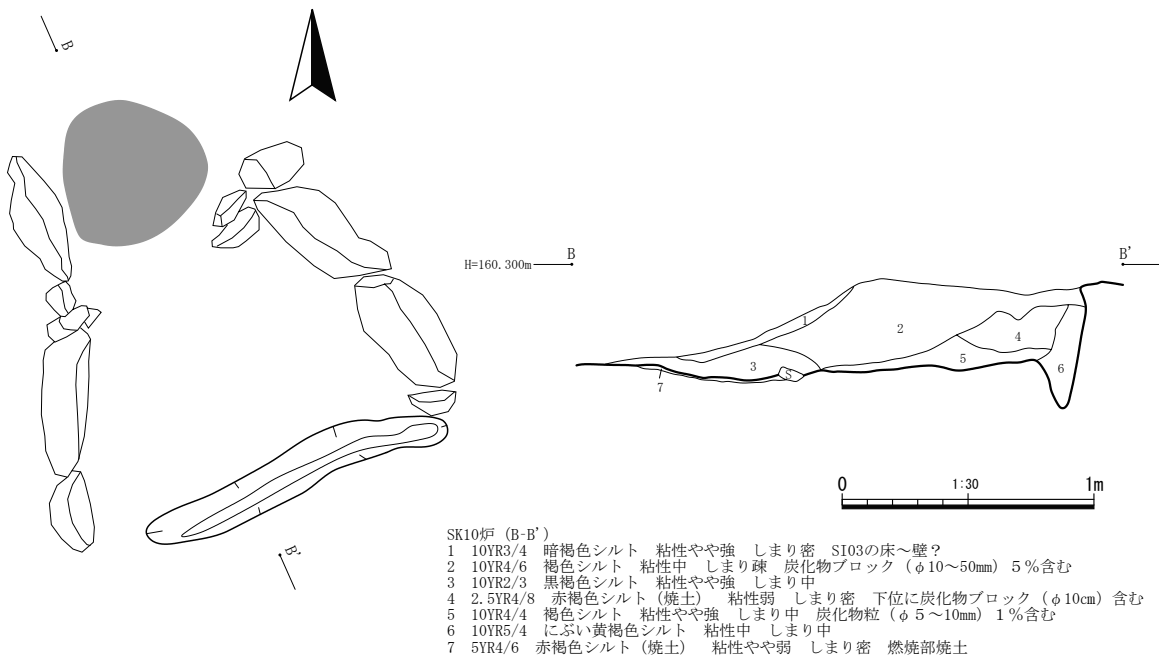
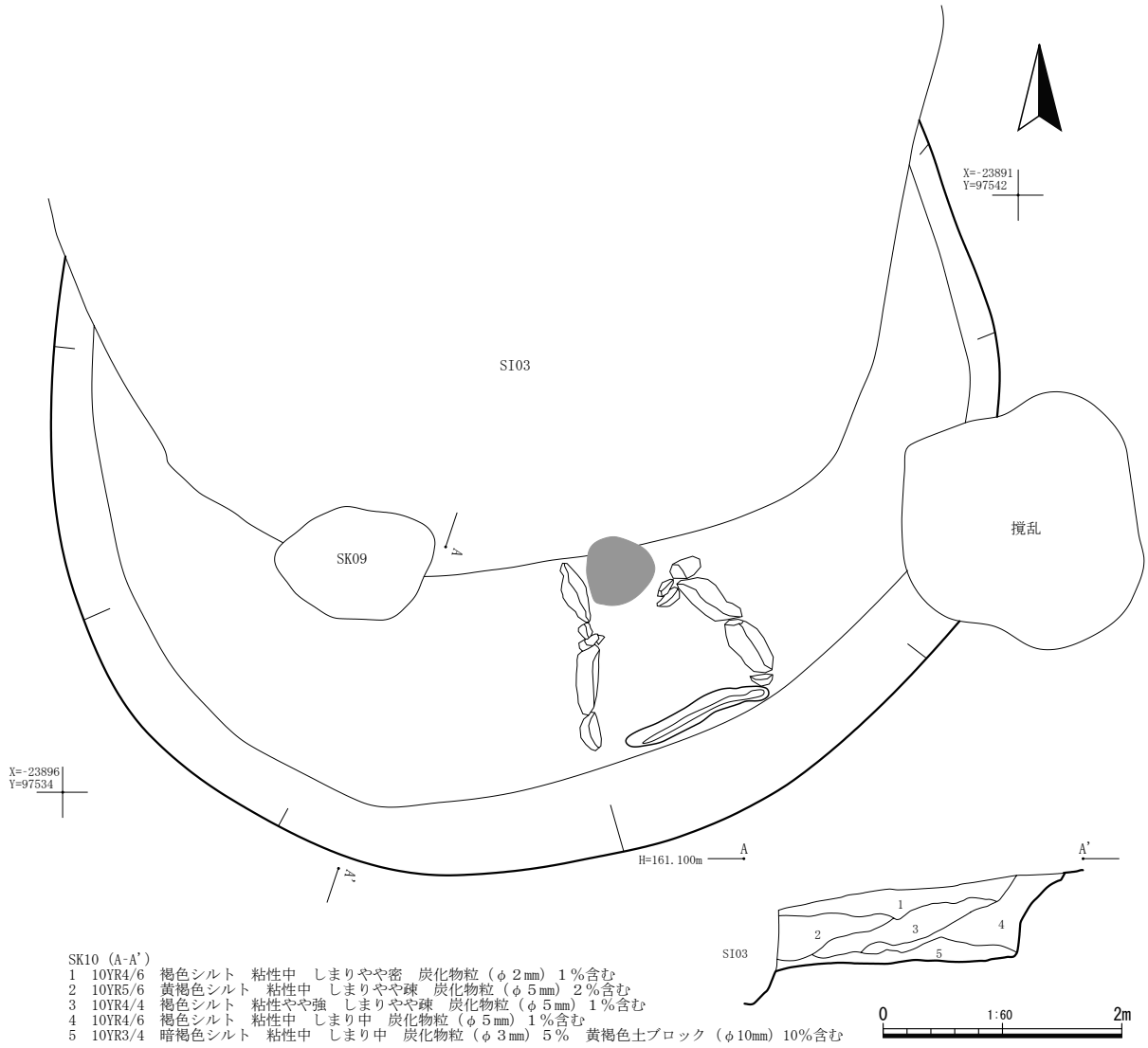
〈規模・形状〉平面形は、開口部径が 1.4 m × 0.9 m の楕円形を呈する。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは 15cm である。底面は北西から南東に向かって下っている。

〈埋土〉Ⅲ層に由来すると考えられる黄褐色シルトブロックが混入する黒褐色土の単層である。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉不明である。

2 検出遺構



第 28 図 SI15 (青野滝北 I)

SK02 土坑（第 29 図、写真図版 17）

- 〈位置〉調査区南端のⅢ B 9 b グリッドに位置する。西側から延びる尾根の北側斜面にあたる。
- 〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に焼土粒や炭化物粒を含む暗褐色～黒褐色土の広がりとして確認した。
- 〈重複関係〉なし。
- 〈規模・形状〉平面形は、開口部径が 1.4 m × 1.2 m の楕円形を呈する。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは 20cm である。底面は南から北に向かって下っている。
- 〈埋土〉4 層に分層した。堆積土は、暗褐色から黄褐色土が主体であり、上位には焼土粒と炭化物を多く含む。
- 〈出土遺物〉なし。
- 〈時期〉不明である。

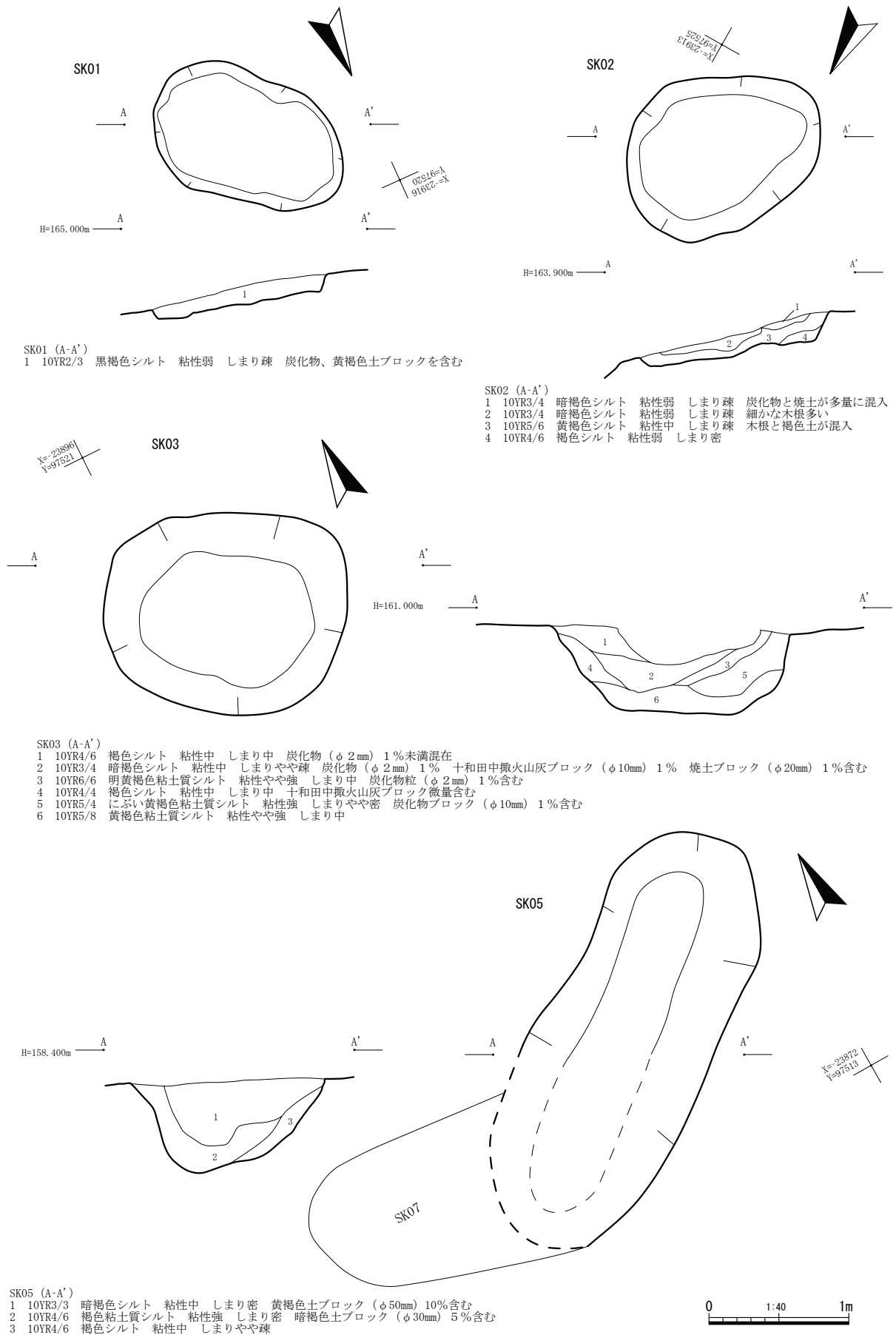
SK03 土坑（第 29 図、写真図版 17）

- 〈位置〉調査区南端のⅢ B 5 a グリッドに位置する。西側から延びる尾根の北側麓にあたる。
- 〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時には、草木根と黄褐色土ブロックを疎らに含むしまりの弱い暗褐色土として確認し、これを試掘トレンチ跡と認識して掘削を行ったが、焼土ブロックや炭化物粒が多く出土しはじめたことから、遺構として精査を進めた。
- 〈重複関係〉SI01 と重複し、SI01 より新しい。
- 〈規模・形状〉平面形は、開口部径が 1.7 m × 1.4 m の楕円形を呈する。断面形はやや外反する U 字形を呈し、検出面から底面までの深さは 62cm である。底面はほぼ平坦である。
- 〈埋土〉6 層に分層した。上位が暗褐色から褐色土、下位は黄褐色土が主体となる。堆積土中に十和田中振火山灰と思われるブロックが若干混入している。また、部分的に焼土ブロックを含んでいる。
- 〈出土遺物〉縄文土器片が出土している。
- 〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK05 土坑（第 29 図、写真図版 17）

- 〈位置〉調査区西端のⅡ A 8 h グリッドに位置する。調査区の西に見られる浅い谷状の地形の縁と考えられる場所である。
- 〈検出状況〉SK07 の精査過程で、SI07 の壁に本遺構の断面を確認した。検出面はⅡ層上面である。
- 〈重複関係〉SK07 と重複している。断面や平面等による明確な重複関係は不明であるが、精査時の埋土の観察では、SK05 の埋土と似た土が SK07 側まで入り込んできており、SK05 が新しいと判断した。
- 〈規模・形状〉南西側の SI07 との重複部分は掘削してしまい全体の平面形と規模は不明であるが、開口部径は概ね 3.2 m × 1.2 m の溝形を呈するものと考えられる。断面形はやや外反する U 字形を呈し、検出面から底面までの深さは 64cm である。底面はほぼ平坦である。
- 〈埋土〉3 層に分層した。上位が暗褐色土、下位は褐色土が主体となる。全体的に暗褐色から黄褐色土ブロックを含んでいる。自然堆積と考えられる。
- 〈出土遺物〉縄文土器片が出土している。
- 〈時期〉遺物は流れ込んだもので、本遺構の時期は不明である。

2 検出遺構



第 29 図 SK01、02、03、05 (青野滝北 I)

SK07 土坑（第 30 図、写真図版 18）

〈位置〉調査区西端のⅡA 8 h グリッドに位置する。調査区の西に見られる浅い谷状の地形の縁と考えられる場所である。

〈検出状況〉検出面はⅡ層上面である。調査区際に黒褐色土の染みとして確認した。

〈重複関係〉SK05 と重複している。断面や平面等による明確な重複関係は不明であるが、精査時の埋土の観察では、SK05 の埋土と似た土が SK07 側まで入り込んできており、SK05 に切られていると判断した。

〈規模・形状〉東半は SI05 に切られているため、全体の平面形と規模は不明であるが、残存箇所での開口部径は概ね 1.6 m × 1.2 m で、溝形もしくは楕円形を呈するものと考えられる。断面形は U 字形を呈し、検出面から底面までの深さは 72cm である。底面はほぼ平坦で、西端部では V 層から湧水が見られた。

〈埋土〉4 層に分層した。上位が黒褐色～褐色土、下位は黄褐色土が主体となる。

〈出土遺物〉縄文土器片（234、第 50 図、写真図版 38）と小型の磨製石斧（315、写真図版 46）が出土している。

〈時期〉出土遺物から、縄文時代の遺構の可能性がある。

SK09 土坑（第 30 図、写真図版 18）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB 4 e グリッドに位置する。

〈検出状況〉SI03 の精査過程で、SI03 の床面に褐色土の広がりを確認した。SI03 の柱穴の可能性もあったが、断面観察から、単独の土坑として精査を進めた。検出面はⅢ層上面である。

〈重複関係〉SI03、SI15 と重複しており、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉北半の埋土上位は SI03 の精査時に掘削したが、開口部径が概ね 1.2 m × 0.9 m のやや歪な円形を呈するものと考えられる。断面形は概ね V 字形を呈し、検出面から底面までの深さは 104cm である。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉6 層に分層した。にぶい黄褐色～黄褐色土が主体で、全体的に締まりの弱い埋土である。

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は埋土中位からまとまって出土しており、5 点を掲載した（第 50・51 図、写真図版 38）。石器は磨製石斧（316）が出土している（写真図版 46）。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

（鈴木博之）

SK11 土坑（第 30 図、写真図版 18）

〈位置〉調査区北側で、ⅡB 2 j グリッドに位置する。竪穴住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〈検出状況〉重機での表土除去後の検出作業の中で、Ⅲ層の中に黒褐色土の広がりを確認し、半裁した結果土坑となった。

〈重複関係〉重複はない。この周辺は遺構が粗な場所であるが、同じグリッドの中に本遺構の他に SK12、SK13 の 3 基がまとまって検出された。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が約 110cm × 100cm で歪な楕円形を呈する。断面形はピーカー形で、最深部は検出面から 100cm を測る。壁はやや外傾するが場所によってはほぼ垂直となる箇所もある。

2 検出遺構

底面は凹凸が無く水平である。特に固く締まるわけではない。

〈埋土〉2層を境に上は黒・暗褐色で下位は褐色・黄褐色とはっきりした色調が違うが、いずれも軟らかく掘れる土であった。中位、下位の層に炭化物が混じる箇所がある。

〈出土遺物〉埋土上位から若干の土器片が出土している。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK12 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区北側で、ⅡB2jグリッドに位置する。竪穴住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〈検出状況〉重機での表土除去後の検出作業の中で、黄褐色土〈Ⅲ層〉の中に褐色土の広がりを確認し、半裁した結果土坑となった。

〈重複関係〉なし。SK11、SK13と近接している。

〈規模・形状〉平面形は、開口部直径が約120cmの円形を呈する。断面形はビーカー形で、最深部は検出面から約80cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸が無く水平である。特に固く締まるわけではない。

〈埋土〉埋土中～下位に炭化物を含む層がある。全体的に斜面上位から流れ込んだ自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉磨製石斧（321）が出土している（第56図、写真図版47）。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

SK13 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区北側で、ⅡB2jグリッドに位置する。住居跡密集区から北東方向に離れており、ここから北にかけて下り斜面が始まる箇所である。

〈検出状況〉重機での表土除去後の検出作業の中で、黄褐色土〈Ⅲ層〉の中に褐色土の広がりを確認し、半裁した結果土坑となった。

〈重複関係〉なし。SK11、SK12と近接している。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が約120cm×110cmの円形を呈する。断面形はビーカー形で、最深部は検出面から70cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は水平ではなく、斜面に平行して作られている。

〈埋土〉褐色土を主体とするが、SK11、SK12と違って埋土に炭化物は混入していない。全体的にどの層位の土も締まりが弱かった。

〈出土遺物〉磨石（353）が1点出土している（写真図版51）。

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

（古館貞身）

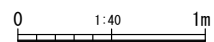
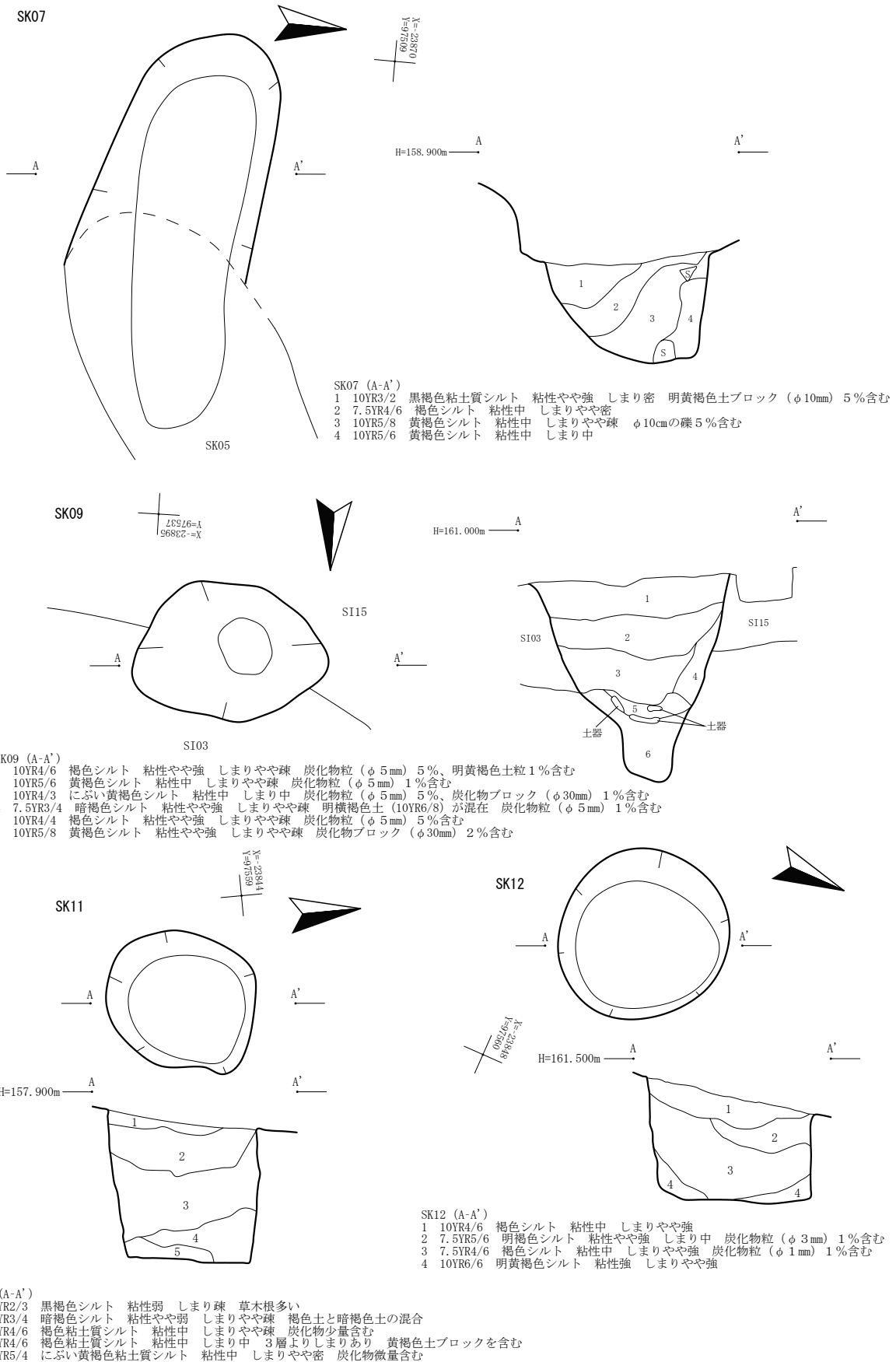
SK14 土坑（第31図、写真図版19）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3dグリッドに位置する。

〈検出状況〉SI03の床面で褐色土の広がりとして検出した。

〈重複関係〉SI03と重複している。新旧関係は不明である。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が100cm×100cmの円形を呈する。断面形はフラスコ形を呈し、



第30図 SK07、09、11、12 (青野滝北 I)

2 検出遺構

検出面から底面までの深さは98cmである。底面は開口部から外側に最大で約30cmオーバーハン
グしており、ほぼ平坦である。

〈埋土〉6層に分層した。褐色～黄褐色土が主体となる。全体的に炭化物粒を含んでいる。自然堆積
の様相を呈する。

〈出土遺物〉埋土中から縄文土器片(240)が出土している(第51図、写真図版38)。

〈時期〉縄文時代の遺構である。

(鈴木博之)

SK15 土坑(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区中央からやや北寄りでⅡB5hグリッド周辺に位置する。SI10の東壁際である。

〈検出状況〉前述のとおりSI10の床面で検出した。当初は柱穴と判断して精査に入ったが、途中でフ
ラスコ状土坑と判断して精査を継続した。

〈重複関係〉SI10を切っている。また同規模のSK16と、内部から底面にかけて切り合う。

〈平面形・規模〉平面形は、開口部径が約80cm×80cmの円形を呈する。断面形はフラスコ形で、オー
バーハング部分が大きく広がる。最深部は検出面から90cmである。壁はⅢ層を掘り込んでおり固
く締まる。底面は円形で径は130cmあり、底面施設は検出されなかった。

〈埋土〉黄褐色土と褐色土がサンドウィッチ状に重なるが最下層の黄褐色土はボソボソとした感じで
ある。埋土中位に50cm×40cm、厚さ10cmの方形の自然礫があり、上位には小礫が多く見られた。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉周辺の出土遺物、遺構の様子から、縄文時代中期後葉に属すると思われる。

SK16 土坑(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区中央からやや北寄りでⅡB5hグリッド周辺に位置する。SI10の東壁際である。

〈検出状況〉SK15と同様にSI10の床面で検出した。当初は柱穴と判断して精査に入ったが、途中で
フラスコ状土坑と判断して精査を継続した。

〈重複関係〉SI10を切っている。また同規模のSK15と、内部から底面にかけて切り合う

〈平面形・規模〉平面形は、開口部径が約85cm×60cmのいびつな卵形を呈する。断面形はフラスコ形で、
オーバーハング部分が東側だけ大きく広がる。最深部は検出面から約100cmである。壁はⅢ層を
掘り込んでおり固く締まる。底面は170cm×130cmの楕円形で、底面施設は検出されなかった。

〈埋土〉褐色土が主体で、上位は締まりが見られたが下位は軟らかい。

〈出土遺物〉埋土中から縄文土器片(241)が出土している(第51図、写真図版38)。

〈時期〉周辺の出土遺物、遺構の様子から、縄文時代中期後葉に属すると思われる。

(古舘貞身)

(3) 炭 窯

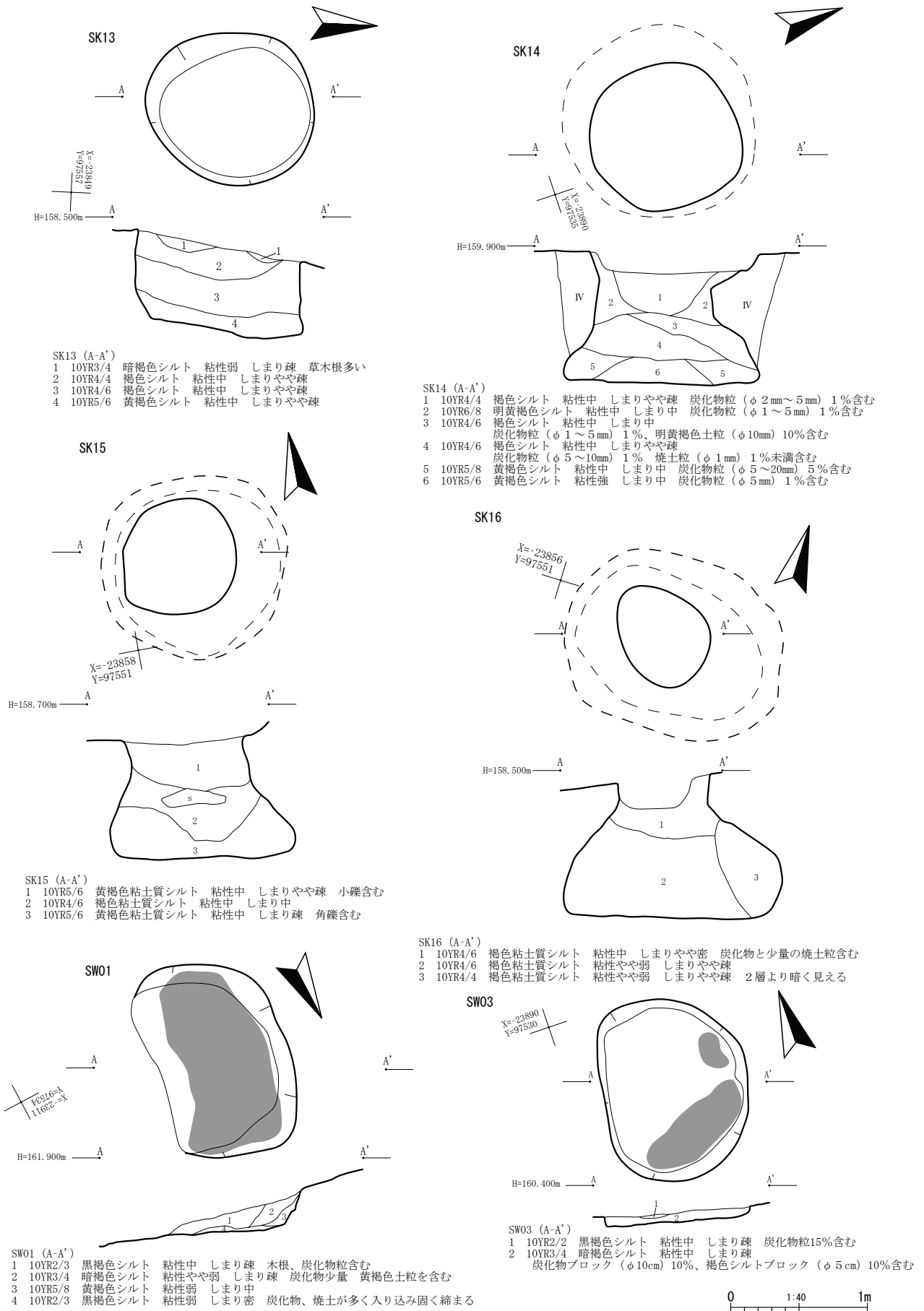
SW01 炭窯(第31図、写真図版19)

〈位置〉調査区南端付近のⅢB8dグリッドの緩い東向き斜面に位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。炭化物を含む黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

〈規模・形状〉平面形は、1.4m×1mの楕円形を呈する。斜面地に構築されており、東側の掘り込み



第 31 図 SK13、14、15、16、SW01、03 (青野滝北 I)

3 出土遺物

は確認できない。検出面から底面までの深さは最大で25cmである。底面はほぼ平坦である。被熱しており、炭化物が多く散在する。

〈埋土〉4層に分層した。黒褐色～暗褐色土が主体である。全体に炭化物を含む。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉埋土下位より採取した炭化物について放射性炭素年代測定（AMS測定）を行い、近世から近代にかけての年代値を得た。

SW03 炭窯（第31図、写真図版20）

〈位置〉調査区南寄りのⅢB3cグリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉SI13と重複しており、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉平面形は、1.3m×1.1mの楕円形を呈する。検出面から底面までの深さは最大で8cmである。底面は東側が若干高い。底面と壁が弱く被熱しており、炭化物が散在する。

〈埋土〉2層に分層した。暗褐色土が主体である。全体に炭化物ブロックを含む。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉SW01と同様に、近世～近代にかけての遺構と考えられる。

（鈴木博之）

3 出土遺物

（1）縄文～弥生土器（第32図～第52図、写真図版21～39、観察表は図版）

概要 大コンテナ（32×42×30cm）約27箱（接合前）出土した。縄文時代中期後葉～末（大木10式古期主）がほとんどを占め、それ以外に、後期前葉、晩期中～後葉、弥生時代前期の破片が僅かに出土している。

整理状況・掲載基準 作業員4～5名で約1ヶ月接合作業を行った。復興調査の整理作業で混雑しており、作業台が2×8mと狭く、あまり良い環境とは言えない。縄文だけの破片がほとんどで文様を持つ破片が少なく、接合作業は難航した。出土量の割に図化遺物が少ないのは、この点が大きい。ただし、途中ベテランの作業員数名の援助も受けており、著しく実態より掛け離れているとは考えにくい。このような状態であったので、積極的に掲載遺物を選別し、文様を持つもの、口縁部破片は通常より多く選別したつもりである。それでも、掲載遺物は256点にとどまった。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付”は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺物の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

出土土器の特徴 縄文時代中期後半の土器は、使用痕が顕著で、内面には焼けはじけ、外面にはスス、二次焼成痕が顕著に認められた。底面はナデ調整されているものが多く、木葉痕は認められるが、網代痕は非常に少ない。口縁部を無文帯とする土器がほとんどで、粗製土器には折り返し口縁も認められるが、そうでないものとの間に時期差が認められるのかどうか定かでない。粗製土器は、胴部に斜縄文を持つが、LRのタテ回転が多い。文様を持つ土器は概ね丁寧に作られている。接合作業の印

象では、文様を持つ土器の割合が内陸の通常遺跡より非常に少ないと感じた。

特徴的な土器・異形土器・小型土器 異形土器は 21、167。小型土器は、55、56、127、168、195、214、222 が相当する。154 の底部は非常に部厚く重い。167 は完形で出土している。255 には赤色付着物が認められ、256 も同様か（茶色がかっている）。底部木葉痕は、54、97、163、196、197、208、底部網代痕は、1 に見られた。

時期・型式 詳細な時期・土器型式にふれていくが、冒頭で述べたように、出土土器は縄文時代中期後半がほとんどを占めるので、まず、それ以外の時期をみていく。中期以前の土器はない。

後期は、前葉のみで、157 は南境式（倒卵形意匠文）？、255、256 は、十腰内 I 式古段階である。

晩期も、後期よりは多いが僅かである。28 は大洞 C 1 式か。60、109 は、大洞 C 2 式？ 61 は大洞 C 2 式以降で、より北部に親縁な土器である。223、224 は、大洞 A 式以降。

弥生時代も非常に僅かで、58、62、67 が相当し、いずれも前期の土器と思われる。

縄文時代中期後半。大木 8 a、8 b 式、10 式後半と明確に特定できたものはなく、大木 8 b 式最新期（大木 9 式最古？）～大木 10 式前半期がほとんどを占める。明確に型式同定できたものでは、113、129、132、138、139、143、145、146、170、177、180、203、249 が、大木 9 式、133 は最花式か。26、45、49、72、74、78、90、92、102、106、114、115、117、127、143、146、171、174、179、182、186～189、191、193、204、210～212、216、219、221、225 = 226、238、244、246 が、大木 10 式前半に相当すると思われる。大木 10 式前半が主体であることは間違いない。

185 は、文様を持ち時期が特定できそうなのだが、判断が付かなかった。

執筆者所見 非常に使い込まれた土器と文様を持つ土器の少なさが印象に強く残った。文様を持つ土器がそうでないものに比べ価値が高かったら（“半工人”による？）、本遺跡の場合は、土器に余裕がなく、土器を大事に使い込んでいた様子が窺われる。同様のことは、田野畑村浜岩泉 I 遺跡を調査したときにも感じた（(財)岩手県文化振興事業団 1998）。青野滝北 I 遺跡より若干古く大木 9 式期を中心にした集落であったが、住居数の割に出土遺物が少なく、土器は再調整されたものが多くて、礫石器ばかりで剥片石器・素材剥片が少なかったのである。当時の沿岸北部の貧しさを表していると考えるのは、穿ち過ぎであろうか。

(a) 竪穴住居出土の土器（第 32 図 1～第 50 図 224、第 48 図 230～233）

いずれも、大木 9～10 式前半、特に 10 式前半がほとんどを占める。SI08 には大木 9 式土器がまつまっており、この時期の住居と判断して良いのかも知れない。

(b) 土坑出土の土器（第 50 図 225～第 51 図 243）

竪穴住居跡出土土器と同様で、大木 10 式前半がほとんどを占める。

(c) 遺構外出土の土器（第 51 図 255～第 52 図 256）

遺構内と顕著な違いは認められないが、十腰内 I 式古段階土器が出土している（第 52 図 255、256）。

（金子昭彦）

参考文献

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1998『浜岩泉 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 276 集

(2) 石器 (第53図～第59図、写真図版40～58、第2表)

中コンテナ10箱の出土である。調査段階では、礫石器に比して剥片石器の出土数が少なく感じた。また円形の敲击石(ハンマー)が多く表土除去の段階から散見されていた。

石鏃 3点出土で全点掲載した(No.257～259)。石質はすべて頁岩で、完形である。No.257は凸基無茎、No.259は円基である。No.258は基部が凹基に作られているが脚部が左右対称ではない。もしかすると石錐かもしれない。

石錐 3点の出土である。全点掲載した(No.260～262)。石質は頁岩で、いずれも摘まみ部をもつ。No.260は錐部の一部に自然面を残している。No.261、262の錐部は全面に加工が施されている。262の先端部に使用によるものか、微細な欠けが見られる。

石匙 12点出土で全点掲載した(No.263～274)。石質は頁岩である。摘まみ部に抉りのないものがある(No.266、263、267、270、272、273、)これらは柄に装着して使用したものであろうか。さらに摘まみ部の頭頂部が石鏃の凹基状に抉りがはいつているものがある(No.263、264、267、273)この仕掛けは、柄に装着した場合の横ぶれを防ぐものであろうか。No.263は先端部を尖らせる加工をしており、銛の要素の強いものかもしれない。No.274は縦型であるが抉り部にのみ加工が施され、他は加工痕がない。形状の良い剥片を利用している模様で、刃部の側面に僅かに使用痕が見られる。No.268は下半部を欠くが縦型と思われる。石質は頁岩であるが、灰白色であり目立つ。No.269、271は先端部を平らに加工しており他のものと比べ異色である。

石斧類 打製石斧、磨製石斧の両者を一括して石斧類とした。64点掲載した(No.275～338)がNo.277、285、292、294、297～300、304～308、311、314～317、321、323～338の35点は写真掲載である。

大別すると全面を磨いて磨製石斧と呼べるもの、粗い調整だけで石斧の形を作っているもので打製石斧といわれるもの、粗い調整に加えて、細かい敲击痕によりさらに調整を施したもの、刃部のみ磨きの跡が残るものの4つのグループに大別される。

No.280は磨製石斧の刃部だけ残すが、ミニチュアサイズである。No.281は小型の磨製石斧で刃部の使用痕がはっきり残されている。No.287は磨製石斧の刃部であるが片面中央に擦り切り痕石を残す。No.297、317は下半部及び刃部を欠く磨製石斧であるが、欠損部を面取し、底面を平らにしている。No.278、288、289、291、295、316、318、328、331、332は刃部周辺にのみ磨きがはいつている。No.300は308と接合して打製石斧ということがはっきりした。No.301は刃部欠損後に敲击石に転用している。No.315はミニチュアサイズであるが石斧の形をしているだけで、石斧としての機能はなく、使用目的は別にあると思われる。No.307は最大である。土掘り具としてその機能を十分に発揮したものと考えられる。No.338は形状から石斧の未製品と考えたが、長円形の側面に両面から加工を行い、さらに稜線部がつぶされているため敲击石の一種かもしれない。

磨石 15点掲載した(No.339～353)がNo.340以外は写真掲載とした。No.339、340は長径12～13cmの楕円基調で、それ以外は径5～7cmの円形基調のものである。No.340は側面に磨り痕があり特殊磨石としていいかもしれない。先端部に敲击痕がある。円形基調のものは、いずれも据わりの良い面に磨いたような磨り面をもつ、No.343、351は両側面に磨いたような磨り面のほかに、両側面に粗い磨り面をもつ。No.345、347、348は器面に欠けがはいつており、強い力で叩いていることが窺い知れる。

特殊磨石 37点掲載した(No.354～391)が、図化したのは9点で他は写真掲載である。いずれも側面に磨り痕をもつ。サイズは長軸で17.8cmを最大に、最小は11cmまでの間におさまる。重量は最

大で 1,400 g から最小で 292 g の間にある。掲載遺物 37 点中磨り面の他に敲き痕をもつものが 16 点あり、敲き石として複合的に使われたらしい。石質は花崗岩 3 点、デイサイト 13 点、砂岩 8 点、頁岩 13 点となっている。No. 363、364 は SI07 の炉石に使われており、364 は被熱のためか変色している。No. 365 は特殊磨り石としては珍しく棒状であり、磨り面も他のものの 1.5 倍は広く形成されている。側面に煤痕が見られる。No. 367 は磨り面の発達より両端部に激しい敲打痕があり、敲き石としてもよいかもしれない。No. 370 は腹面に敲打痕が見られる。No. 375 は端部に両面から剥離がはいり磨り面の一部を壊している。No. 377 は磨り石を敲き石に転用していると表現できるぐらい敲打痕が多い。No. 380、382、390 は磨り石としては小型である。No. 387 は磨り面を 2 片にもつ、唯一のものである。

敲石 33 点掲載した (No. 392 ~ 424) が、図化したのは 3 点のみで他は写真掲載である。形状はいずれも円形から楕円形を基調とし、片手で十分持てるサイズで、最大のもは No. 421 で 10.8 × 8.8 × 7.5cm で重量は 1.37kg である。重量で 100 g 台のものが 4 点、200 g 台 12 点、300 g 台 12 点、500 g 台 2 点、600 g 台 1 点、700 g 台 1 点となり、200 ~ 300 g 台に集中している。なお 1kg を超える器種は石皿・砥石除きで、磨石に 1 点、敲石に 1 点であるが、特殊磨石には 5 点ある。円形基調のものは周囲をまんべんなく細かい打痕が回っているが、楕円形基調のものは端部を使用しており敲打痕が大きく剥離しているものが多い。

凹み石 3 点掲載した (No. 425 ~ 427)。No. 425 は欠損であるが残存部の両面に凹み部をもつ。No. 426 は扁平であり、側縁部に両面から剥離が入り、刃部が形成されているように見える。これも両面に凹み部を持つ。No. 427 は長楕円形で角のない円礫である。表面はきれいに磨かれた様になっているが、全面自然面であり、側縁、端部とも使用痕は認められない。唯一腹面の中央にのみ凹み部をもつものである。

石皿 17 点掲載した (No. 428 ~ 444) が図化したのは 3 点のみで他は写真掲載である。全点欠損で完形品はない。石質は砂岩 10 点、凝灰岩 7 点である。No. 431、437、438 は欠損であるが、コーナー部分で 438 には脚が付く。いずれも内面は粗く細かい凹凸が顕著である。No. 434、435 は炉石に転用されていたもので砥石に分類されるかもしれない。No. 436 は脚部のみである。No. 444 は方形で両端部を欠くが、ほぼ全体像が推測できるものである。裏面の脚は 2 つ残るが、その他に三角形の浮き彫りが向かい合わせて作られている。

砥石 2 点掲載した (No. 445、446)。445 は長方形の自然礫を利用しているが、側面を整形している様である。表裏両面を縦長に使用しており、一部には磨きのような磨り面も見られる。No. 446 も長方形である。側面を敲打して整形している跡が見られる。使用面は 1 面のみで、色調変化を起こしているようで黒色の光沢が散見される。台石としての利用かもしれない。

(3) 石製品 (第 60 図、写真図版 59、第 3 表)

垂飾品 2 点出土し 2 点掲載した。この他に原石剥片が 3 点出土している。石質は滑石である。早池峰山周辺であるがもしかすると岩泉町の有芸近辺の可能性もある。もしそうであれば、産地は遠くない場所となる。No. 447 は完形で小判型をさらに長軸方向に伸ばした形になっている。中央部からやや上気味の箇所には孔があり、両側からの穿孔の跡が観察される。全面が磨かれている。No. 448 も同じ形をしていたと思われるが、長軸方向両端の丸みを帯びている箇所を平らに加工した痕が見られる。孔は両面から穿孔されている。縦断面を観察すると緩い波形となる。

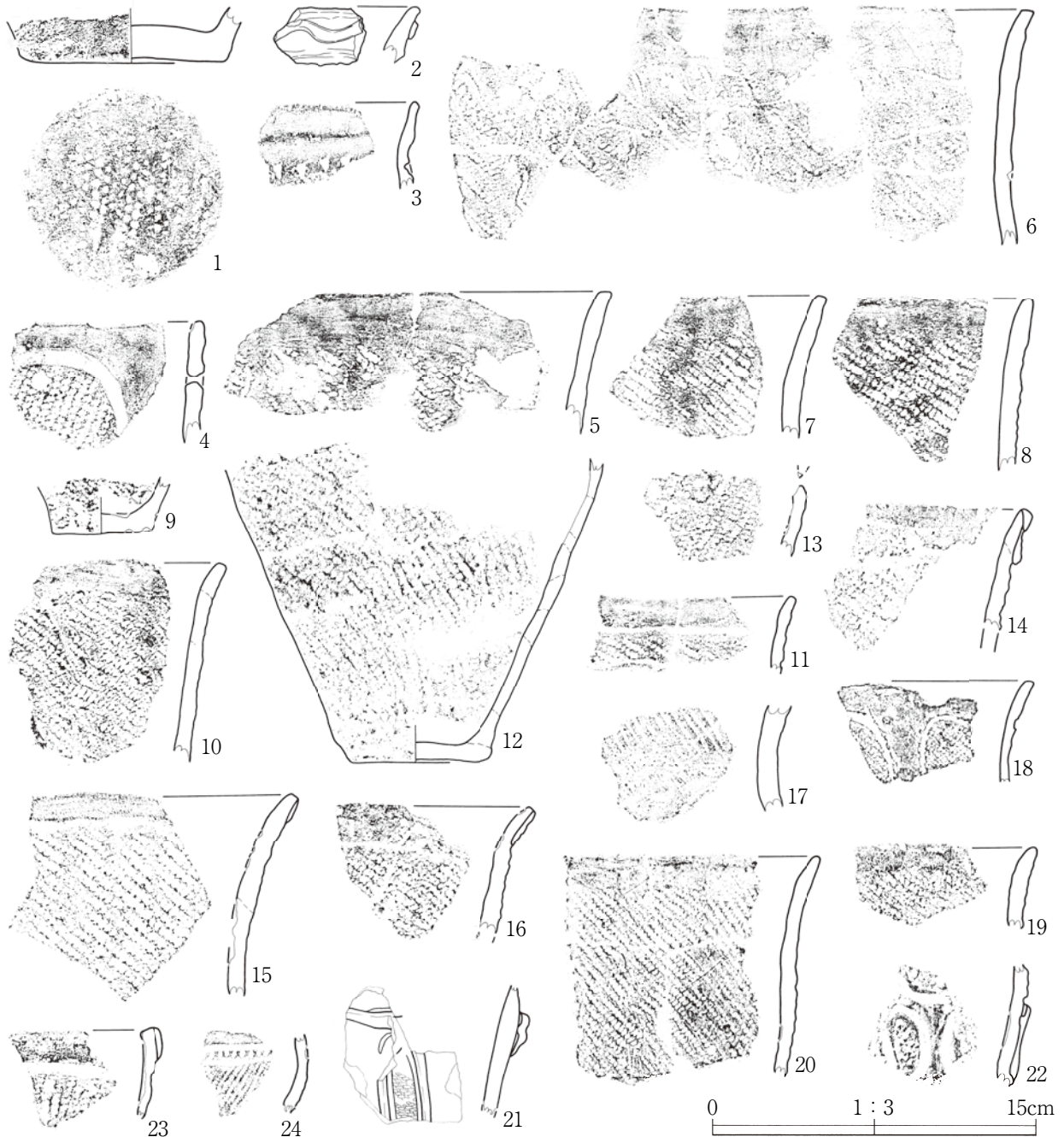
石棒 2 点出土し 2 点掲載した。石質はいずれも、石皿に多く見られる砂岩である。No. 449 は SI03 の埋土下位からの出土である。出土した時点では、実測図のとおり形であったが、風化が激しく、取り上げの時点で分割したものを接合した。先端部直下に抉りをもつ。先端部上面には皿状に凹みが穿たれている。両端部から中央部にかけて緩やかな膨らみをもち、中央やや下半に凹み石に似た凹みがある。残存部では全面に敲打により整形がなされ、凹み部の下部に磨り痕が観察される。No. 450 も石質は砂岩である。これは石棒の一部と思われ、2 つに割れて出土したがすでにこの時点で風化が激

3 出土遺物

しく、切断面も摩耗していた。断面は方形基調であるが、面取されている。残存部表面は敲きと磨りで整形されている。

石刀 2点出土し2点掲載した。石質はいずれも砂岩で、欠損である。No.457は扁平で、端部が敲き痕により一部壊されている。残存部は全面に磨かれて整形されており、側縁部に磨きによる稜線が見られる。No.452は尖端部である。形状は扁平なものと思われるが、残存部では、全面磨きにより整形されており、側縁部は片方が平らに、もう片方が両面から磨き稜線をもつ作りになっている。

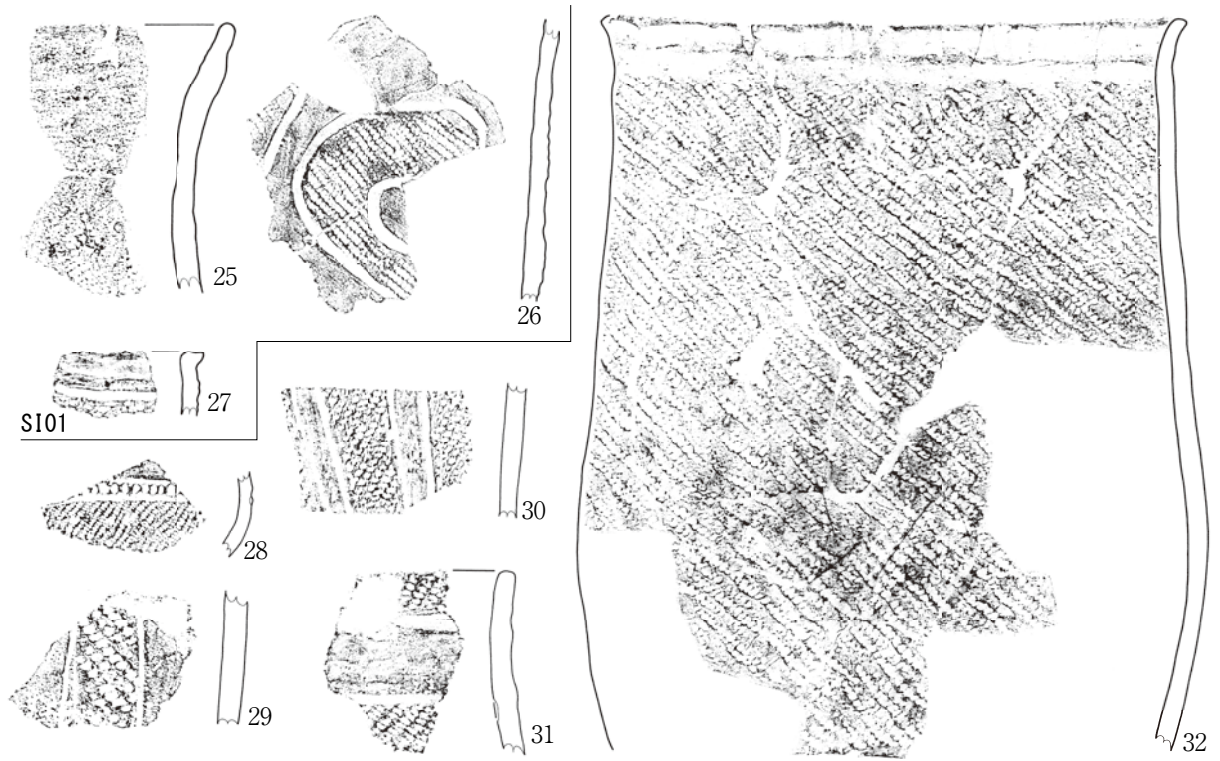
(古館貞身)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
1	SI01・埋土	深鉢・底部一周	LRタテ/底面網代痕	ナデ	
2	SI01南西ブロック・埋土	口縁部	蛇行隆帯貼付→押圧	ナデ	
3	SI01南東ブロック・埋土	口縁部	LRタテ?→下からの竹管状刺突	ナデ	
4	SI01北側ベルト	深鉢・口縁部	口唇ナデ/LRLヨコ?→太く浅い沈線→ナデ	ナデ	補修孔
5	SI01	深鉢・口縁部	口唇ナデ/口縁突起/LRタテ	ナデ	
6	SI01	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	外面黒斑
7	SI01北西ブロック・埋土下位	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
8	SI01北東ブロック・埋土	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ丁寧	外面スス付着
9	SI01北東ブロック・埋土	底部一周	(ただれ)	ナデ?	内面コゲ付着
10	SI01北東ブロック・埋土	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
11	SI01東ベルト・埋土	口縁部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	
12	SI01北東ブロック・床面土器1	深鉢・底のみ一周	LRタテ/(底面ただれ)	ナデ	外赤く二次焼成摩耗。中コゲ
13	SI01北側斜面・Ⅲ層	深鉢・胴部	LRタテ?	ただれ	補修孔?
14	SI01北側斜面・Ⅲ層	深鉢・口縁部	折り返し口縁/LRタテ	ナデ	外面摩耗
15	SI01北側斜面・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状/LRタテ	ナデ	外面スス付着。内面ただれ
16	SI01北側南北尾根下・Ⅲ層	深鉢・口縁部	折り返し口縁/LRタテ	ナデ	内面ただれ
17	SI01北側南北尾根下・Ⅲ層	深鉢・口縁部	単軸絡1種(R?)タテ	ナデ	内面摩耗
18	SI01北側南北尾根下・Ⅲ層	鉢・口縁部	突起・LRタテ→細い沈線→磨消(一部縄文残る)	ナデ	突起内面黒斑
19	SI01北西ブロック・埋土	深鉢・口縁部	RLYヨ	ナデ	外面スス付着
20	SI01	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
21	SI01北東ブロック・埋土	異形?・胴部	LRタテ?・隆帯で縁取り・橋状把手	ナデ	
22	SI01北東ブロック・埋土	胴部	RLRタテ?・太く浅め沈線・隆帯	ただれ	外面スス付着
23	SI01東ベルト・埋土	深鉢・口縁部	口縁隆帯/RRLRタテ?	ナデ	摩耗
24	SI01東ベルト・埋土	胴部	LRヨコ(細かい)・沈線間刻目列	ミガキ?	

第 32 図 遺構内出土土器 (1) (青野滝北 I)

3 出土遺物



SI02

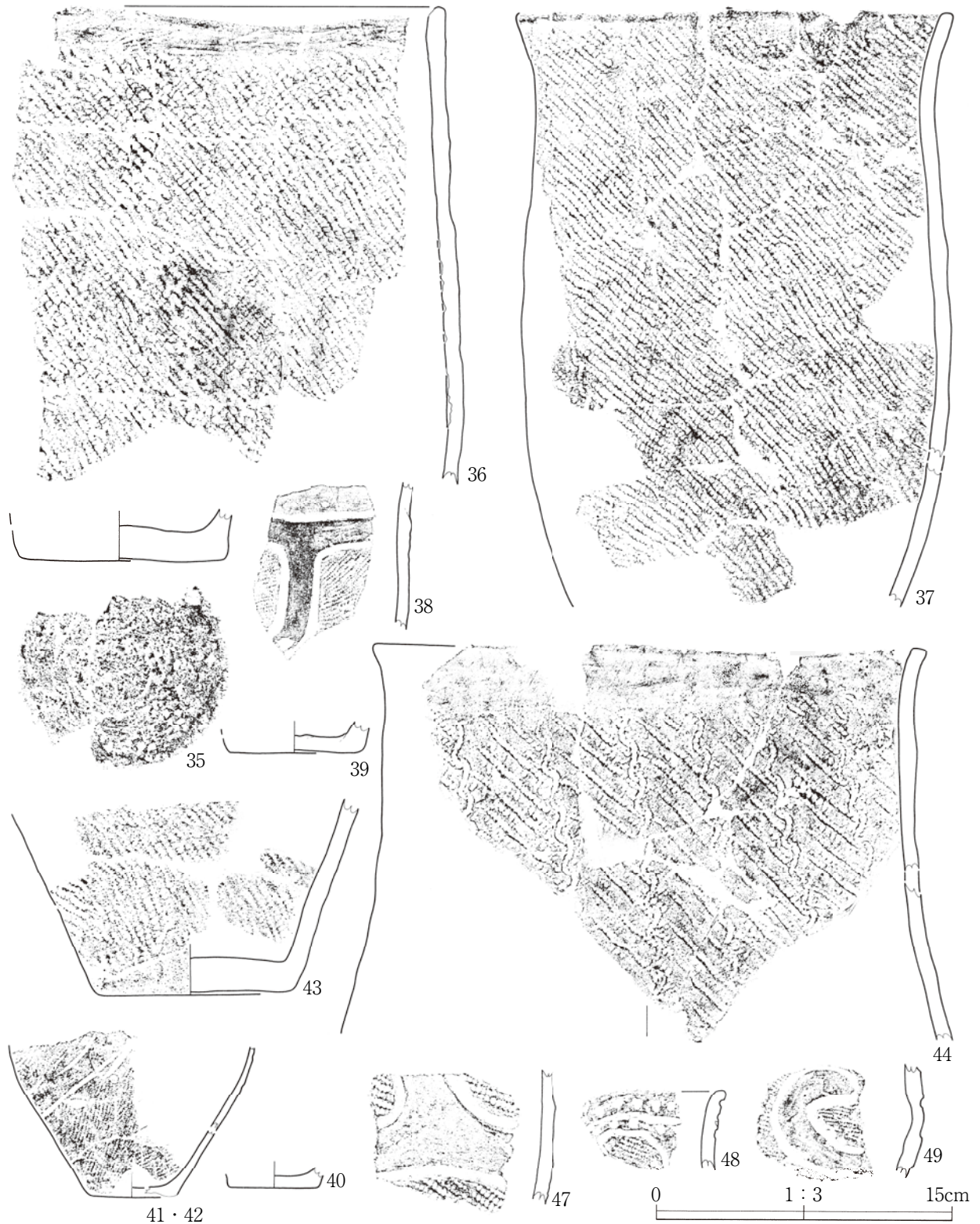


SI03

0 1:3 15cm

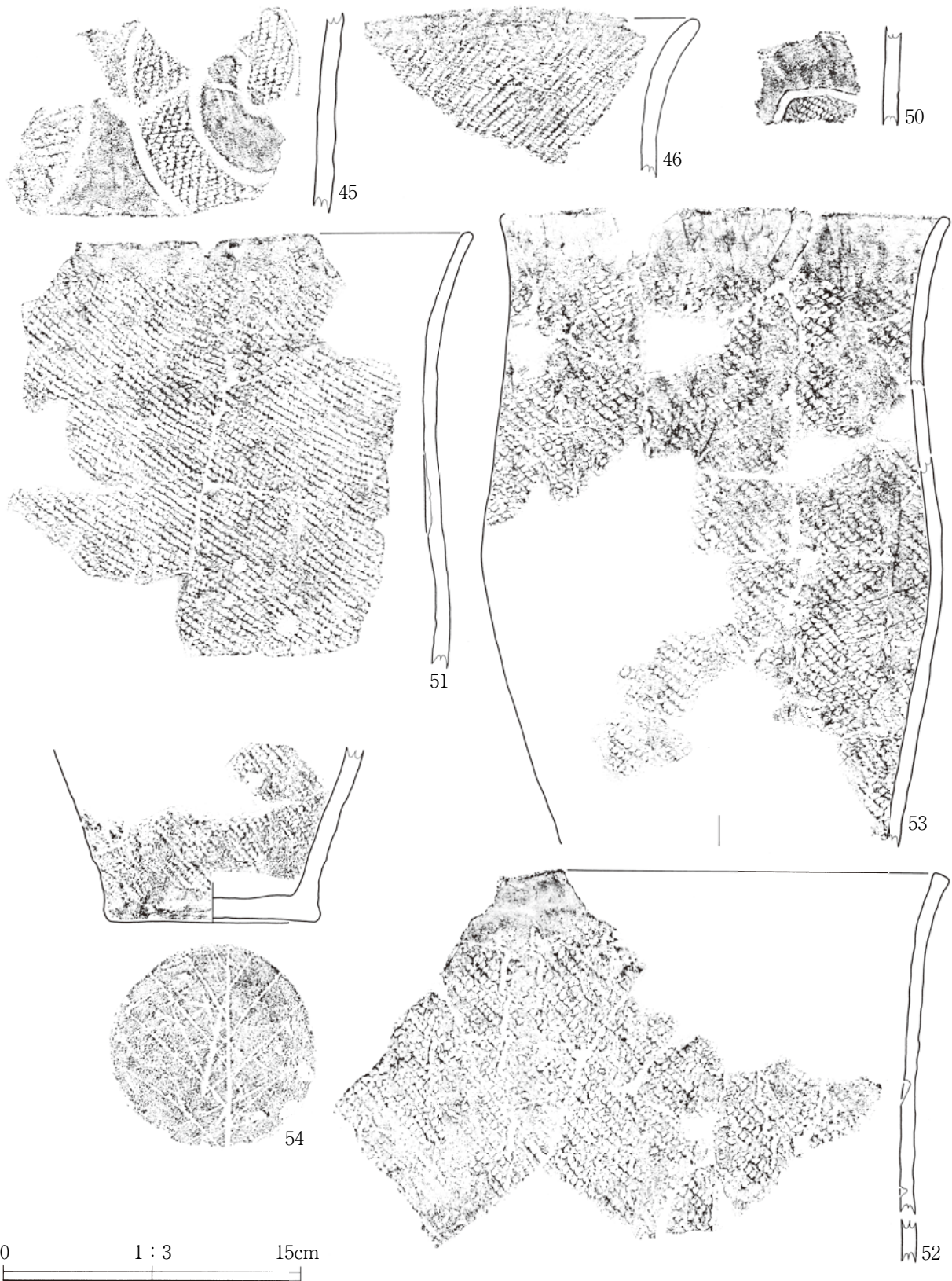
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
25	SI01東ベルト・埋土	深鉢?	LRタテ?・雑なナデ	ナデ	砂粒多いせい重い
26	SI01東ベルト・埋土	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線→磨消	ナデ	光沢
27	SI01北側南北尾根下・Ⅲ層	口縁部	口唇強いナデ/RLヨコ?→太く浅い沈線・光沢	ナデ丁寧	外面スス付着
28	SI02	胴部	浅い沈線間刻目列・LRヨコ	ミガキ	光沢
29	SI02	深鉢・胴部	LRタテ・細く浅い沈線	ナデ	
30	SI02	深鉢・胴部	RLRタテ→浅い沈線→ナデ(磨消)	ナデ	内面コゲ、焼けはじけ
31	SI02	深鉢・口縁部	LRヨコ・太く浅い沈線・ナデ	ナデ	外面スス付着。内面剥落
32	SI02	深鉢(1/3周未満)	折り返し口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外黒斑? 外面スス。内面コゲ付着?
33	SI03	深鉢・胴(略一周)	RLタテ	ナデ	外二次焼成。内焼けはじけひどい
34	SI03	深鉢	RLタテ→口縁ナデ	ナデ	外二次焼成。内面焼けはじけ

第33図 遺構内出土土器(2)(青野滝北I)



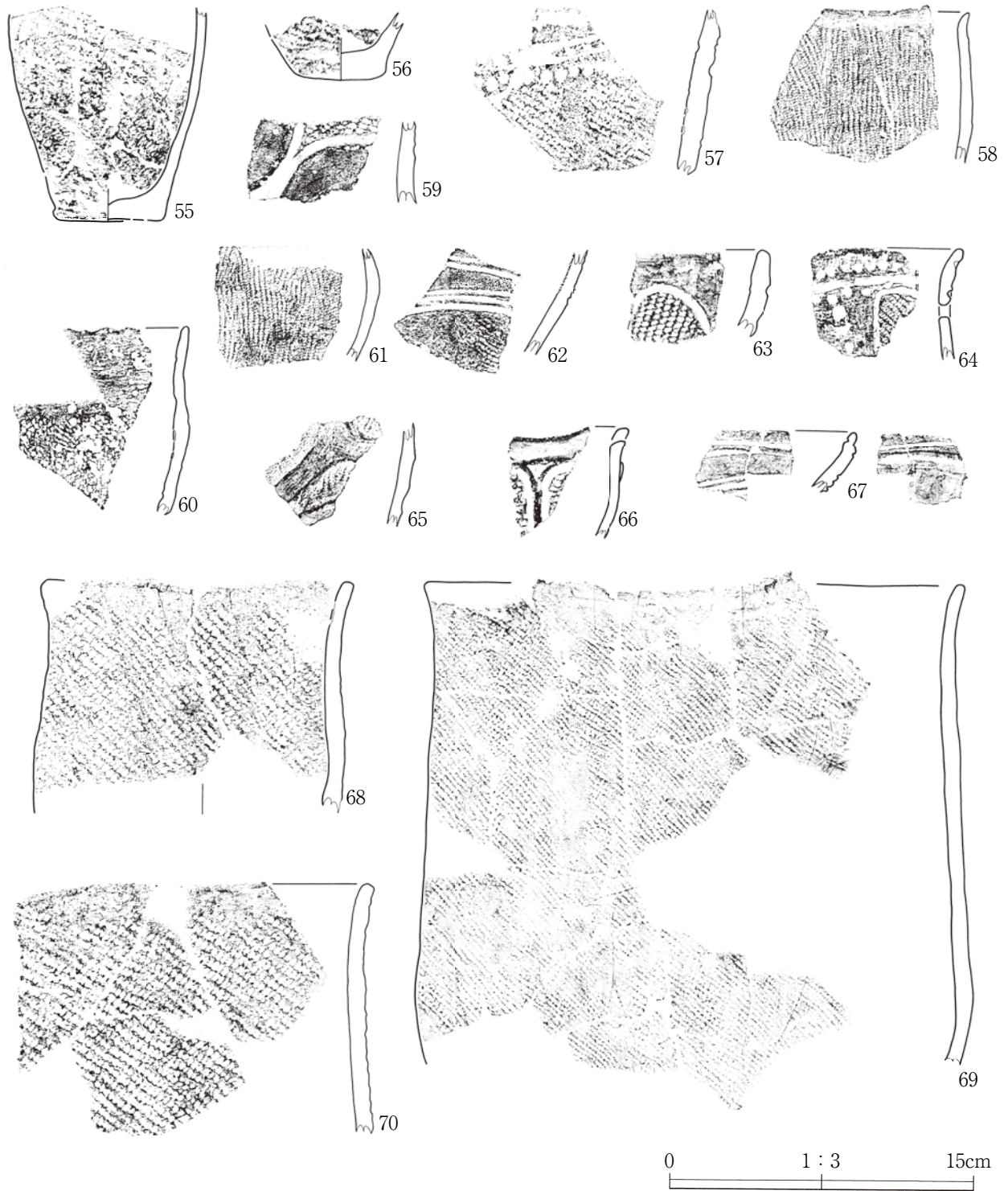
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
35	SI03	深鉢・底(1/3周)	底部～底面ナデ	ナデ	粘土接合面から剥離
36	SI03	深鉢	LRタテ→口縁部ナデ	ナデ	外二次焼成、スス。内焼けはじけ
37	SI03	深鉢(1/3周未満)	LR+結節タテ	ナデ	外黒斑。外上スス。内下コゲ付着
38	SI03	鉢?・頸部	LRヨコナメ→太く浅い沈線・ミガキ	ミガキ	
39	SI03	底1/2周	底部～底面ナデ(上の割口、粘土接合面剥離)	ナデ	内面底コゲ付着
40	SI03	底一周	底部～底面ナデ(上の割口、粘土接合面剥離)	ナデ	底面滑らか
41	SI03	鉢・胴部	雑で浅い沈線・LRタテ/底部～底面ナデ	ナデ	*●に接合
42	SI03	鉢・底1/2周未満			*●に接合
43	SI03北西	深鉢・底のみ一周	LRタテ/底部～底面ナデ	ナデ	内面底部コゲ、底面ただれ
44	SI03	深鉢1/2周未満	口縁ミガキ/LR+結節(斜縄文疎ら)	ミガキ	外面黒斑、スス付着
47	SI03	深鉢・胴部	RL→ナデで微隆帯状	ナデ	外面スス付着
48	SI03	鉢・口縁部	大波状口縁・下から刺突・RLヨコ→雑で浅い沈線	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
49	SI03	鉢・胴部	LRヨコ→太い沈線	ナデ	内面に凹み

第34図 遺構内出土土器(3)(青野滝北I)



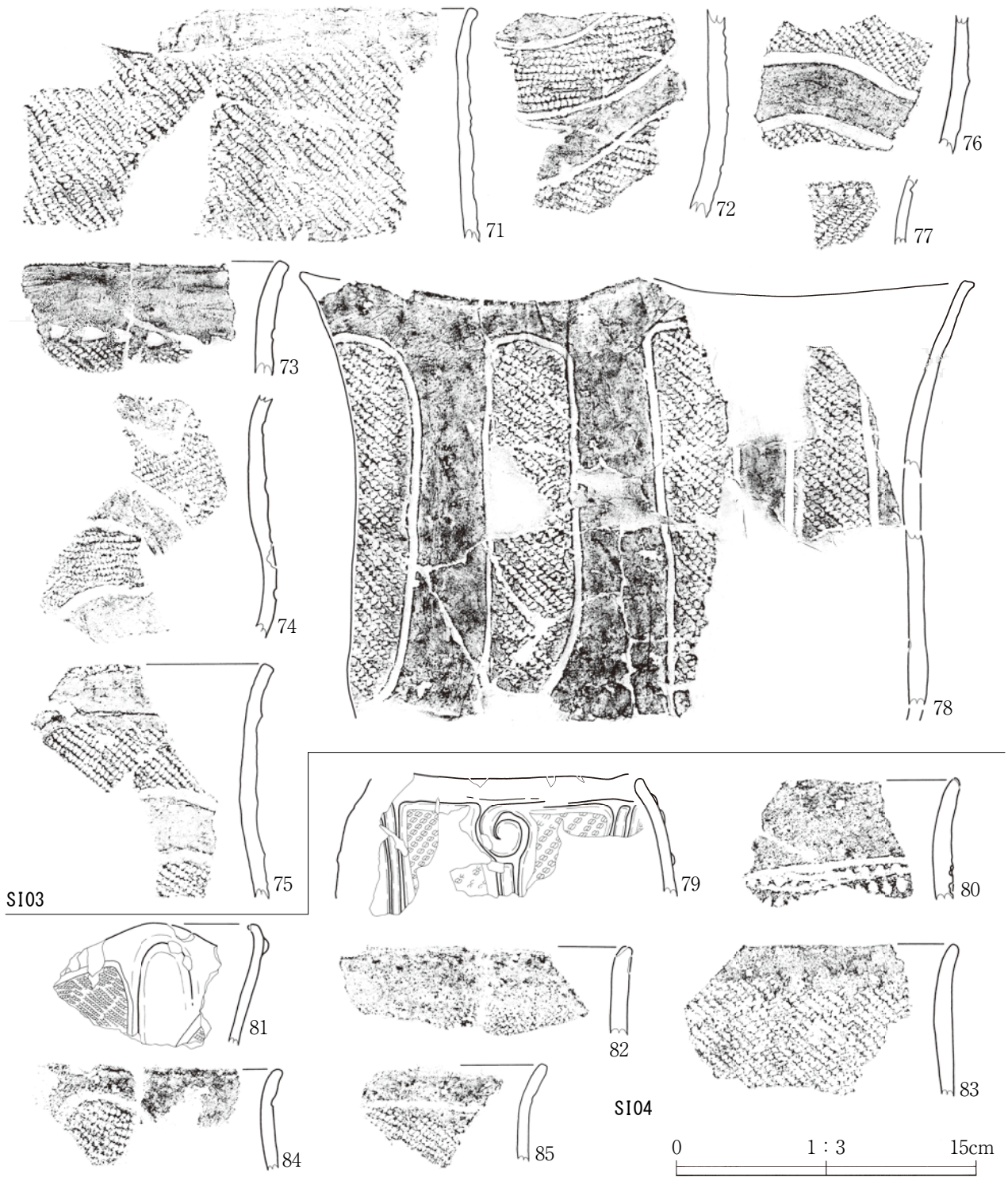
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
45	SI03	深鉢・胴部	太く浅い沈線・RLイロイロ	ナデ	外面スス、二次焼成
46	SI03	深鉢・口縁部	口縁ナデ/RLRタテ	ナデ	外面スス付着
50	SI03	鉢・胴部	RLヨコ・太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着
51	SI03	深鉢(1/4周未満)	大波状口縁/口縁無文/LRタテ	ナデ	外面スス。内面焼けただけ
52	SI03	深鉢(1/4周未満)	口縁ナデ/LR+結節タテ	ミガキ?	外黒斑? 外スス付着
53	SI03	深鉢(2/3周未満)	口縁ナデ/LRタテ	ナデ丁寧	外面スス付着、二次焼成
54	SI03	深鉢・底部一周	LRタテ/底面:木葉痕	ナデ	外面二次焼成。内面コゲ付着

第35図 遺構内出土土器(4)(青野滝北I)



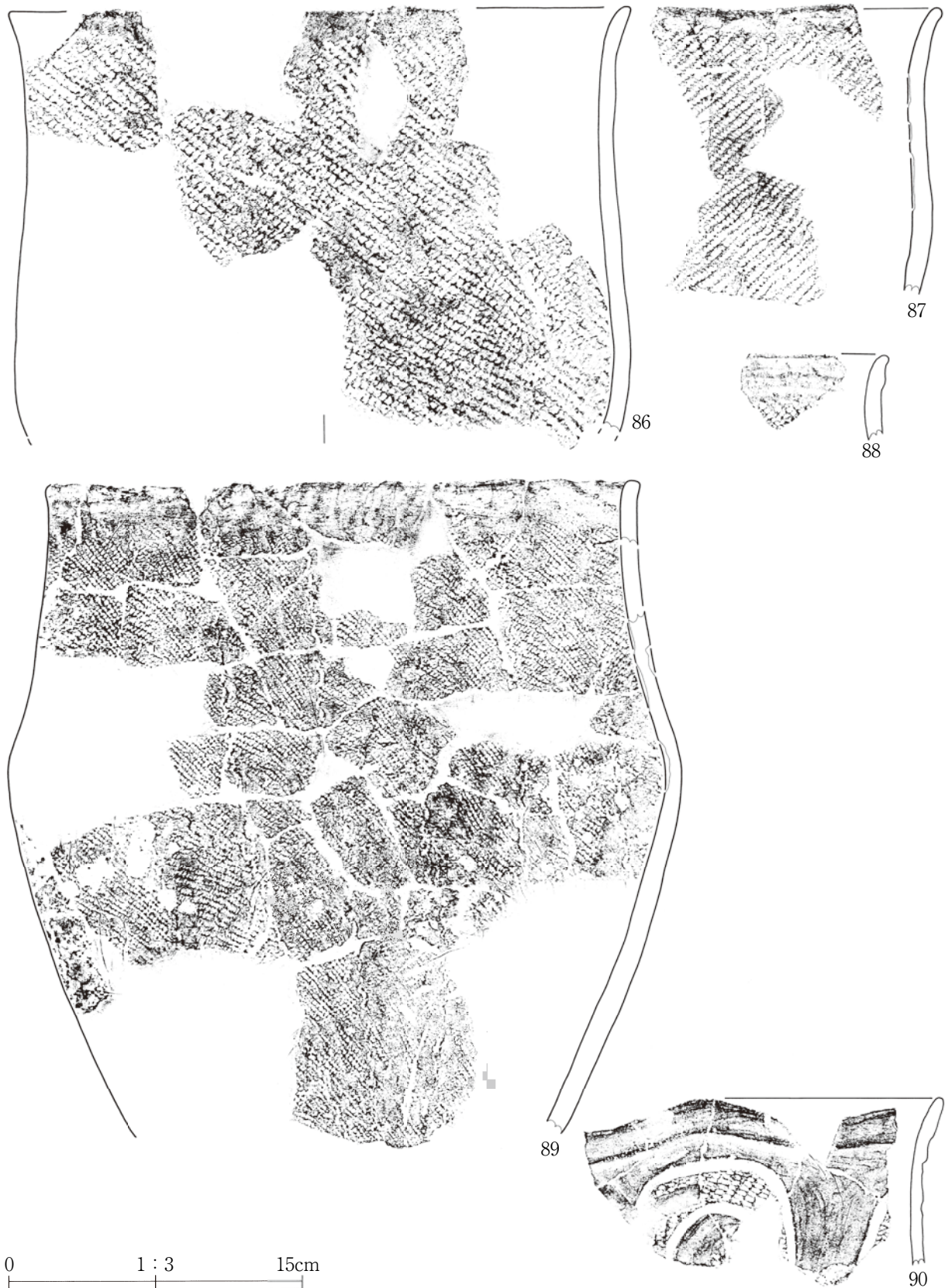
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
55	SI03	鉢(底のみ略一周)	縄文(LRタテ)?/底部~底面ナデ	ナデ	外面スス、二次焼成。内面コゲ付着
56	SI03	小型(底一周)	LRタテ/底部~底面ナデ	ナデ	底突出
57	SI03	深鉢・胴部	下から刺突・浅い沈線・LRタテ	ナデ丁寧	外面二次焼成、スス・内面焼けはじけ
58	SI03	深鉢?・口縁部	口縁部無文/LRナメ	ナデ丁寧	
59	SI03	深鉢・胴部	ナデによる微隆起隆帯	ナデ	
60	SI03	鉢?・口縁部	小波状口縁/LRヨコ	ナデ?	内外焼けはじけ?
61	SI03	鉢・胴部	RLナメ(条が縦)	ナデ丁寧	外面スス付着
62	SI03	浅鉢?・胴部	菱形工字文??・縄文原体不明	ナデ	摩耗
63	SI03	深鉢・口縁部	RLタテ→太い沈線	ナデ	光沢
64	SI03	鉢・口縁部	下から刺突・LRO段多条?タテ	ナデ	補修孔
65	SI03	深鉢・胴部	LRヨコ・ナデによる微隆起隆帯	ナデ丁寧	
66	SI03	深鉢・口縁部	縄文原体不明一隆帯含めナデ	ナデ丁寧	外面スス付着
67	SI03	浅鉢?・口縁部	内面沈線/細く深い沈線	ミガキ?	光沢
68	SI03	鉢(略一周)	LRタテ	ナデ	外二次焼成、スス。内焼けはじけ、ただれ
69	SI03	深鉢(1/4周未満)	大波状口縁/口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外面スス付着
70	SI03	深鉢・口縁部	口縁無文/LRタテ	ナデ丁寧	外面スス付着、二次焼成

第36図 遺構内出土土器(5)(青野滝北I)



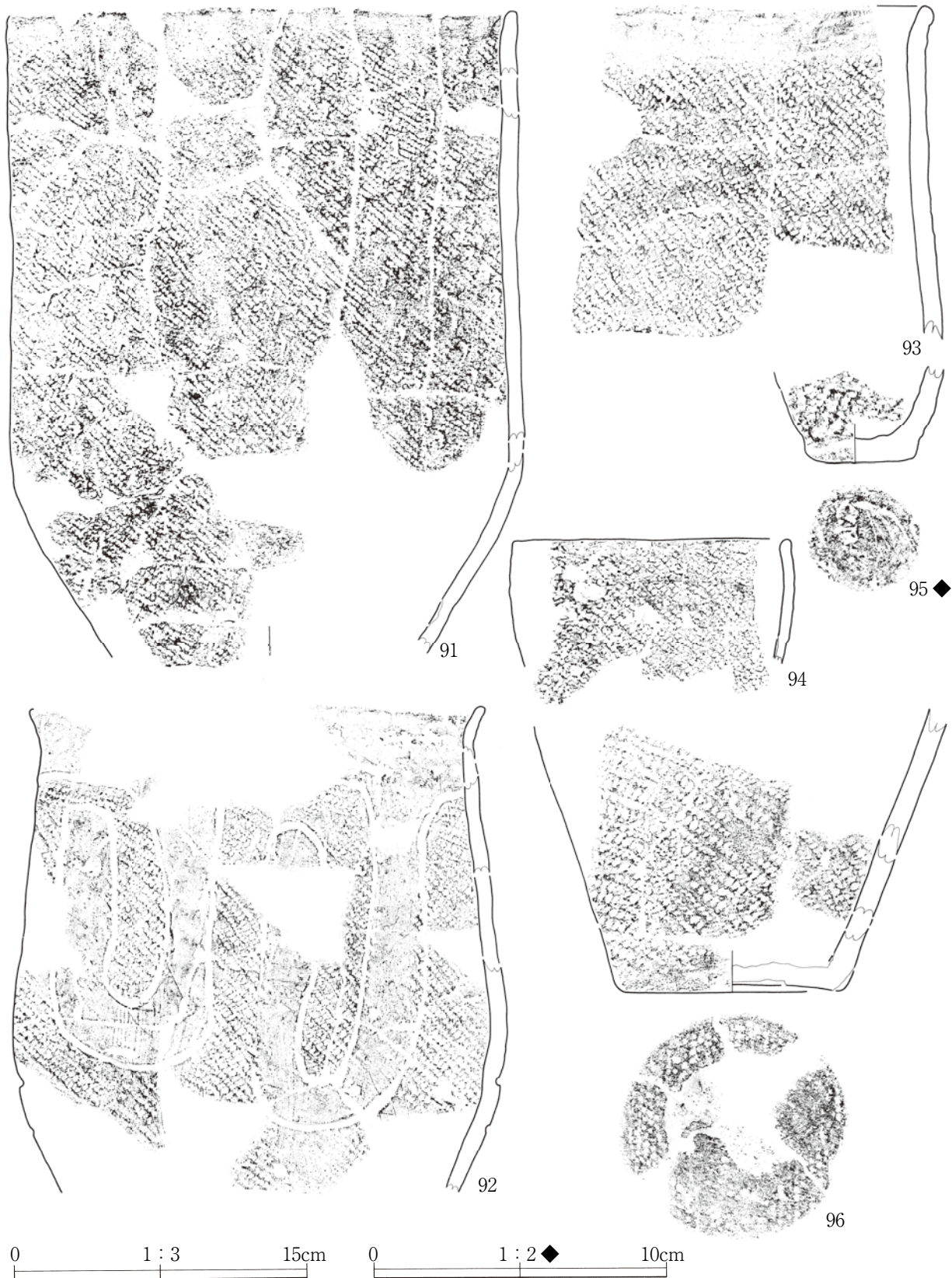
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
71	SI03	深鉢(1/4周未満)	折り返し口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外面黒斑? 外面スス付着
72	SI03	深鉢・胴部	LRナナー太く深め沈線→ナデ(粘土まくれ痕)	摩耗ひどい	
73	SI03	深鉢・口縁部	口縁無文/頸部ヨコから刺突/LRタテ	ミガキ?	光沢
74	SI03	深鉢・胴部	LRイロイロー太い沈線・丁寧な磨消	ナデ	
75	SI03	深鉢・口縁部	口唇ナデ/LRタテ→ナデによる微隆起隆帯・光沢	ナデ	
76	SI03	深鉢・胴部	RLヨコ? →ナデによる微隆起隆帯・光沢	ナデ丁寧	
77	SI03	深鉢・口縁部	竹管状工具による深め刺突・LRヨコ	ナデ	
78	SI03	深鉢(1/4周)	4波状口縁? /LRタテ太く浅い沈線	ナデ	外スス。内面コゲ。下接合面剥離
79	SI04ベルト	深鉢1/4周	RLRタテ隆帯に沿うナデ	ナデ丁寧	外面スス付着。内面コゲ付着
80	SI04ベルト	深鉢・口縁部	沈線・下から刺突	ナデ	
81	SI04ベルト	鉢・口縁部	低い隆帯なでつけ・LR(0段多条)タテ→細く深い沈線	ナデ	内外コゲ付着
82	SI04ベルト(埋土)	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	強い二次焼成で剥落
83	SI04ベルト南西ブロック(埋土)	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	外面スス付着。内面焼けはじけ
84	SI04ベルト南西ブロック(埋土)	鉢・口縁部	LRタテ→太く浅い沈線	ミガキ?	内面コゲ付着
85	SI04ベルト南西ブロック(埋土)	鉢・口縁部	折り返し口縁/LRタテ	ナデ	

第37図 遺構内出土土器(6)(青野滝北I)



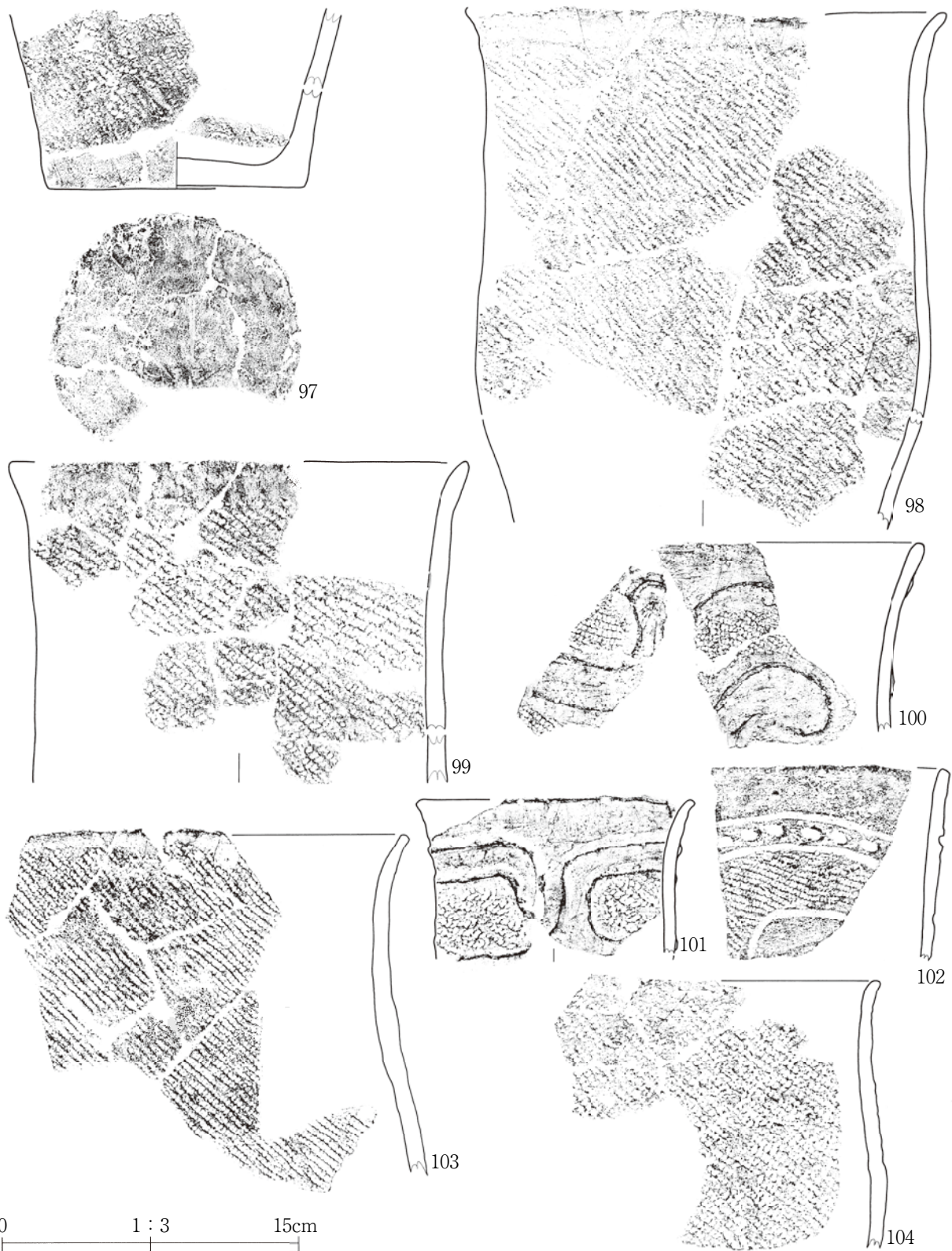
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
86	SI04ベルト南東ブロック(埋土)	深鉢(1/4周以下)	口縁無文/LRタテ	ナデ	
87	SI04ベルト南東ブロック(埋土)	深鉢	RLタテ	ナデ	外面スス付着・内面焼けはじけ
88	SI04ベルト南東ブロック(埋土)	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
89	SI04	深鉢(1/3周)	口縁無文/LR+結節タテ (外上スス)	ナデ	外下二次焼成。内下コゲ、上ただれ
90	SI04	深鉢(1/4周未満)	4波状口縁?/RLタテ一太く浅め沈線・微隆帯状	ミガキ?	外面スス付着

第38図 遺構内出土土器(7)(青野滝北I)



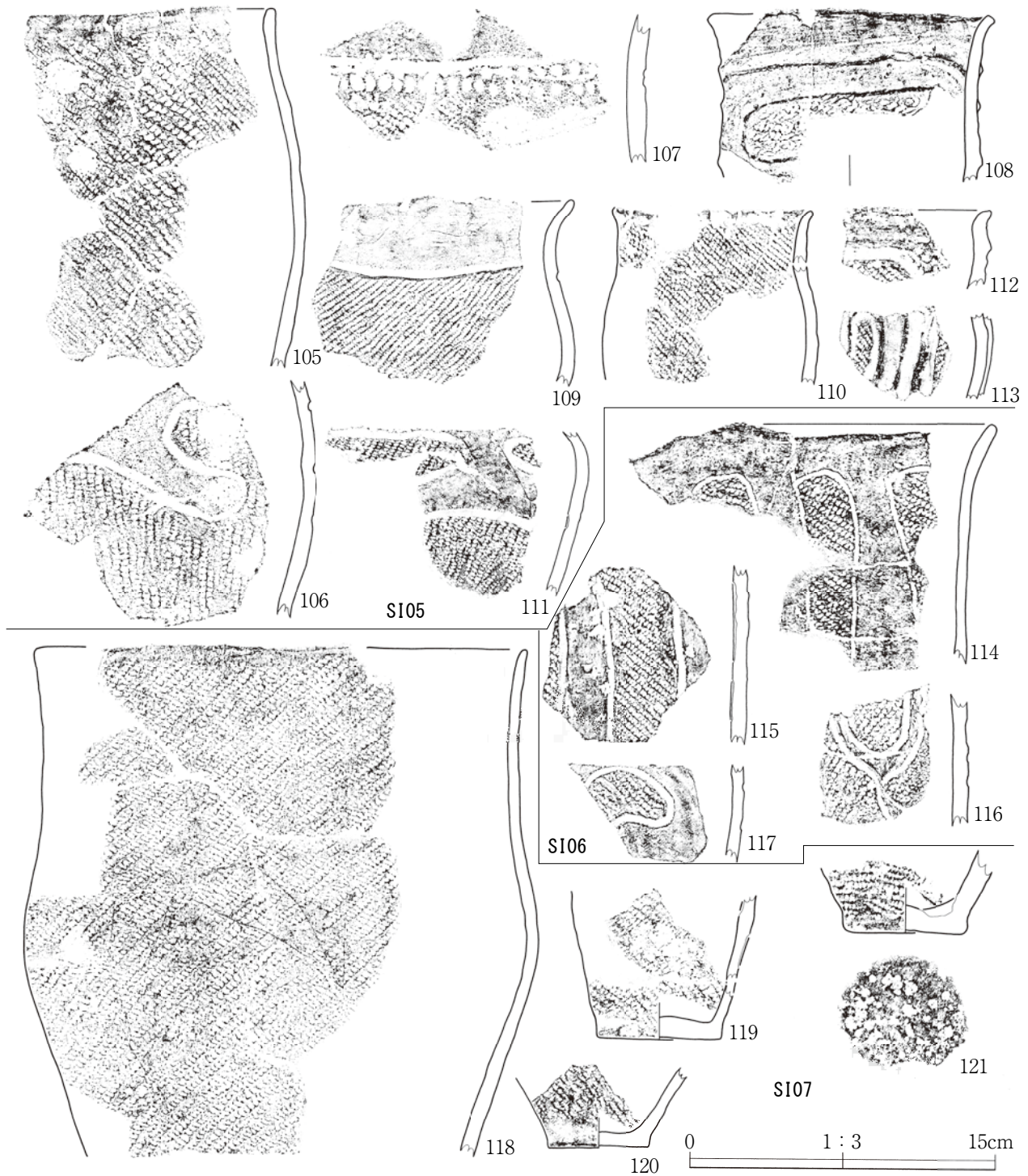
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
91	SI05	深鉢(1/3周末満)	口縁無文/LR+結節タテ	ナデ	外二次焼成、スス。内面コゲ、摩耗
92	SI05	深鉢(1/3周末満)	口縁ヨコから刺突/細い沈線→LRタテ→太い沈線・雜	ナデ	外面スス、二次焼成。内面摩耗
93	SI05	深鉢・口縁～胴部	LRタテ→口縁部ナデ	ナデ	下の割れ口、粘土接合面剥離
94	SI05	鉢(1/5周)	LRタテ	ナデ	内面焼けはじけひどい・表面赤付??
95	SI05	小型(底一周)	RLタテ→底部～底面ナデ	ナデ	
96	SI05	深鉢(底略一周)	LRタテ・網代痕?→底部～底面ナデ	ただれ	外面二次焼成。内面ただれひどい

第39図 遺構内出土土器(8)(青野滝北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
97	SI05	深鉢(底3/4周)	LRタテ・木葉痕→底部～底面ナデ	ナデ	外二次焼成。内底面以外コゲ付着
98	SI05①と②	深鉢(1/4周未満)	口縁無文/LRタテ	ナデ	外スス。内下コゲ。両面二次焼成
99	SI05①	深鉢(1/5周未満)	口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外面スス、二次焼成、摩耗
100	SI05	深鉢(1/5周未満)	4波状口縁?/隆帯→LRタテナメ?→ナデ雑	ナデ	外面スス付着
101	SI05	深鉢(1/4周)	隆帯→LRタテ→ナデ雑	ナデ	外面スス付着
102	SI05	深鉢・口縁部	ヨコから刺突・RLヨコ→太く浅い沈線	ナデ	二次焼成
103	SI05	深鉢・口縁～胴部	口縁無文/LRタテ	ナデ	外スス二次焼成。内面全面コゲ付着
104	SI05	深鉢・口縁～胴部	口縁無文/LRタテ	ナデ	外面スス、二次焼成

第40図 遺構内出土土器(9)(青野滝北I)



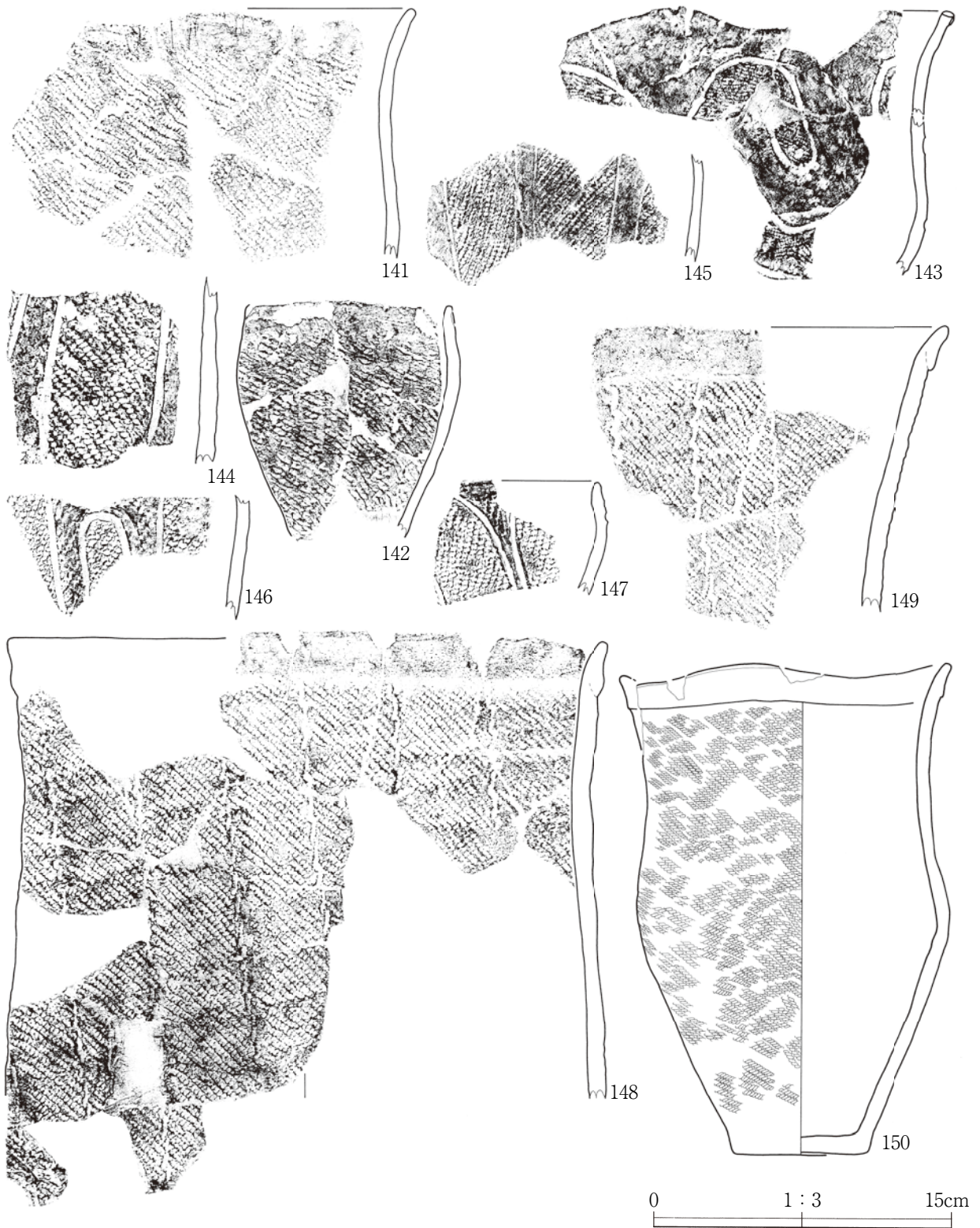
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
105	SI05	鉢・口縁～胴部	口縁無文/LRタテ	ナデ	内面下部コゲ付着
106	SI05	深鉢・胴部	LRイロイロ→太く浅い沈線	ナデ	外上スス、下二次焼成。内下コゲ付着
107	SI05	深鉢・胴部	刺突列・LRタテ	ナデ	内外焼けはじけ?
108	SI05	鉢(1/4周以下)	隆帯→LRイロイロ?→雑なナデ	ナデ	外面スス付着
109	SI05とSI07	鉢・口縁～胴部	小波状口縁?/LRヨコ→口頭部ナデ	ナデ	外面スス付着。内面コゲ付着?
110	SI05	鉢(1/3周未満)	LRタテ	ミガキ?	外面スス付着。内面コゲ、焼けはじけ?
111	SI05	鉢?(1/5周未満)	RLタテ→太く浅い沈線・微隆起帯(*上の割口接合面剥離)	ナデ	外スス、二次焼成。内下コゲ、焼けはじけ
112	SI05	深鉢・口縁部	LRタテ→隆帯に沿うナデ	ナデ	
113	SI05	深鉢・胴部	高い隆帯・LRイロイロ?	ナデ	外面スス付着
114	SI06	深鉢(1/4周未満)	4波状口縁?/LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	外面二次焼成? 内面下部コゲ付着
115	SI06	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線	ただれ	外面スス付着
116	SI06	深鉢・胴部	LRヨコ?→太く浅い沈線雑	ナデ?	外面スス。内面全面コゲ付着
117	SI06	深鉢・胴部	LRタテ?→太く浅い沈線	ただれ	
118	SI07	深鉢(1/5周未満)	RLタテ (*下の割口、粘土接合面剥離)	ナデ	突出部内面コゲ付着、その下ただれ
119	SI07	鉢(底3/4周未満)	LRタテ/底面ナデ	ナデ	
120	SI07	鉢(底一周)	LRタテ/底面ナデ	ナデ	外面スス付着。内面コゲ付着
121	SI07	鉢(2/3周以下)	LRタテ?/底面ナデ	ナデ?	

第41図 遺構内出土土器(10)(青野滝北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
122	SI07	深鉢・口縁部	折り返し口縁/LRタテ	ナデ丁寧	外面黒斑?
123	SI07	深鉢・口縁部	口唇ナデ/折り返し口縁・RLタテ?→口縁ナデ	ナデ	外面スス付着
124	SI07	鉢?・口縁部	RL0段多条?タテ→頸部沈線ナデ	ナデ	外面全面スス、内面コゲ付着
125	SI07	深鉢・胴部	RLタテ?→ナデ・微隆起帯	ナデ	
126	SI07	深鉢・口縁部	RLタテ→太い沈線	ナデ滑らか	
127	SI08	小型1/2周以下	橋状把手3単位・太く浅い沈線/底面ナデ	ナデ	
128	SI08	深鉢・胴部	RLRタテ?→太く浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着
129	SI08	深鉢・胴部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	
130	SI08	深鉢・口縁部	口縁ナデ/LRタテ	ナデ	
131	SI08	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	
132	SI08	深鉢・胴部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	下の割口粘土接合面剥離
133	SI08	鉢・口縁~胴部	頸部下からの刺突列/RLタテ→太く浅い沈線	ナデ	
134	SI08	深鉢・胴部	RLRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ?	内面焼けはじけ?ひどい
135	SI08	深鉢・口縁部	LRタテ→浅い沈線	ナデ	
136	SI08	深鉢・胴部	LRイローナデ	ただれ	
137	SI08	深鉢・口縁部	口縁突起/高い隆帯	ミガキ?	
138	SI08	深鉢・口縁部	口縁突起/RLRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ丁寧	磨消雑
139	SI09	鉢?(2/3周以下)	RLタテ→浅い沈線ナデ/底面ナデ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
140	SI09	深鉢?(底一周)	LRタテ/底部~底面ナデ	摩耗	外面スス、二次焼成。内面コゲ?ただれ

第 42 図 遺構内出土土器 (11) (青野滝北 I)



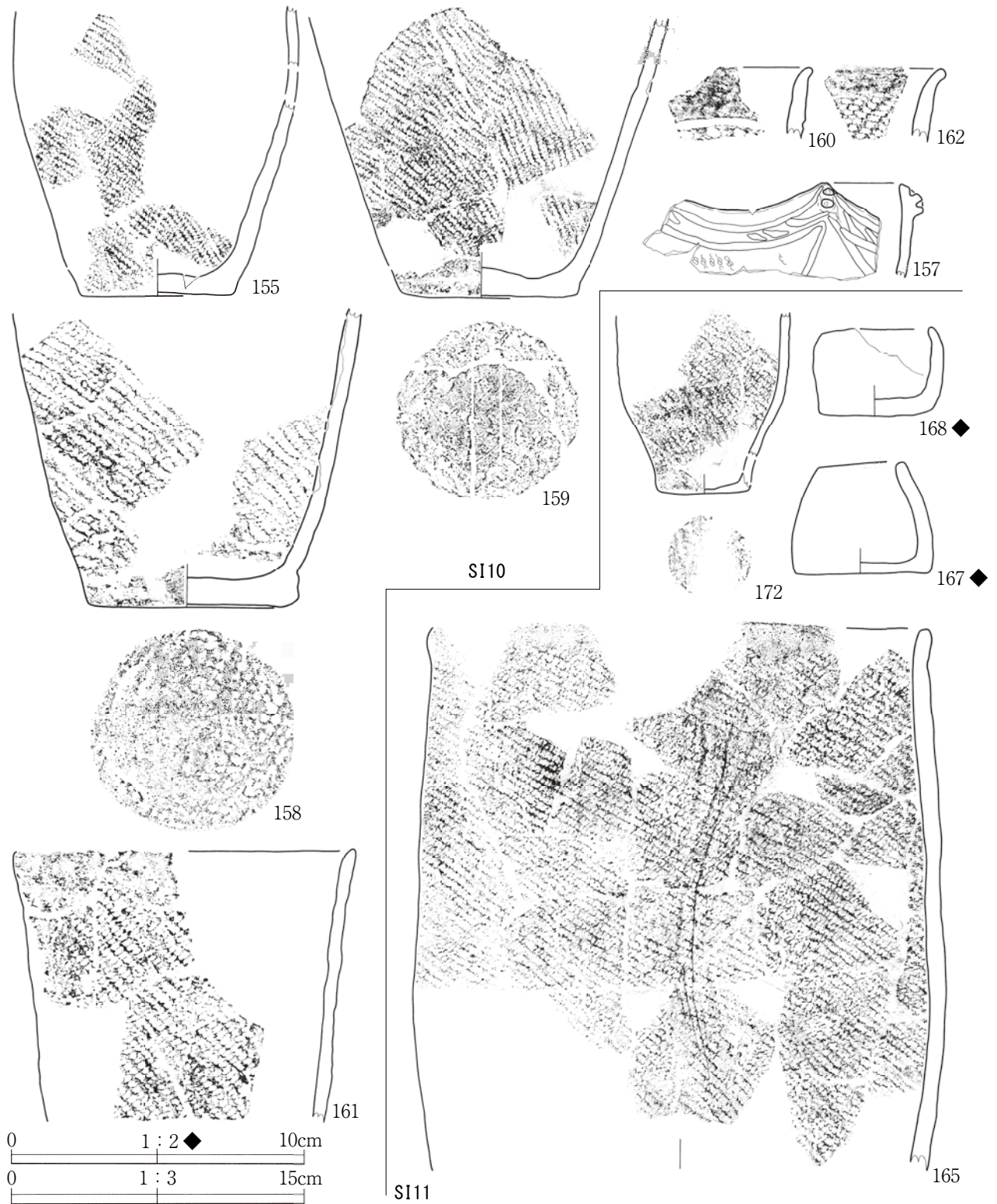
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
141	SI09	深鉢(1/4周未満)	口縁突起/口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外面スス、二次焼成。内面コゲ?
142	SI09	鉢(1/4周未満)	口縁ナデ/LRタテ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着?、下ただれ
143	SI09	深鉢(1/4周未満)	4波状口縁?/突起刻目/RLイロイロ→太く浅い沈線	ナデ	文様4単位? 内面コゲ付着?
144	SI09	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着
145	SI09	深鉢・胴部	RLタテ→細く浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
146	SI09	深鉢・胴部	RLRタテ→太く浅い沈線→ナデ・縄文消し忘れ	ミガキ? 光沢	
147	SI09	深鉢・口縁部	口縁内面接/RLRタテ→沈線→ナデ・縄文消し忘れ	ミガキ?	
148	SI09	深鉢(1/4周未満)	折り返し口縁・LR+結節タテ→口縁ナデ (*183と同一)	ナデ	外黒斑? 外二次焼成、スス。内ただれ
149	SI09	深鉢・口縁部			*182と同一個体
150	SI09	鉢(底のみ一周)	4波状口縁/折り返し口縁/LRタテ/底部~底面ナデ	ナデ	外スス、二次焼成、内面コゲ付着

第43図 遺構内出土土器(12)(青野滝北I)



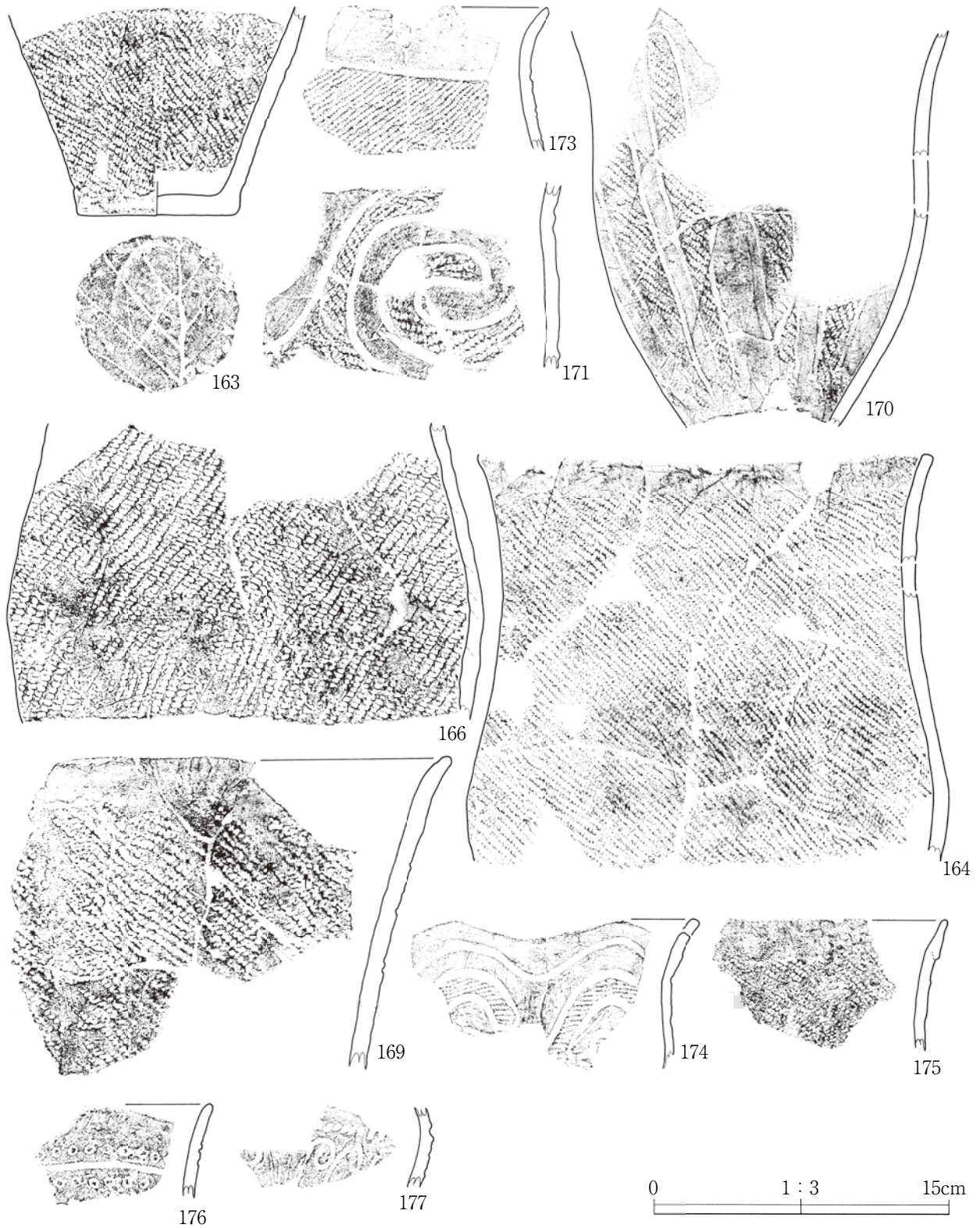
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
151	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	深鉢(底のみ一周)	LRタテ/底部~底面ナデ	ナデ	外黒斑? 外中央帯スス。内面コゲ
152	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	深鉢(口3/4周)	LRタテ	ナデ	外黒斑。外面スス。内面摩耗
153	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	深鉢(1/3周以下)	LRタテ/底部~底面ナデ (*同一個体底部片1/3周未満)	ただれコゲ	外スス二次焼成。内コゲただれ
154	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	深鉢(底2/3周未満)	LRタテ/底部~底面ナデ (*底部厚い)	ナデ	外上スス、下二次焼成。内コゲ
156	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	深鉢(1/4周未満)	LRタテ	ナデ	外黒斑? 外スス。内面摩耗

第44図 遺構内出土土器(13)(青野滝北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)		内面 (調整など)	備考
			外面	内面		
155	SI10 II B中央付近・Ⅲ層	鉢(4/5周以下)	LRタテ/底部~底面ナデ	ナデ?	外上スス、下二次焼成。内コゲ多	
157	SI10 II B中央付近・埋土	深鉢・口縁部	大波状口縁/隆帯脇深い沈線・上刻目、深い刺突/原体?	摩耗ひどい	内外摩耗	
158	SI10 II B中央付近・埋土	深鉢(底のみ一周)	胴LRタテ・底網代痕→底部~底面ナデ	摩耗ひどい	外上スス、下二次焼成。内コゲただれ	
159	SI10 II B中央付近・埋土	深鉢(底のみ一周)	胴LRタテ・底木葉痕→底部~底面ナデ	ナデ	外二次焼成で赤い。内コゲ	
160	SI10 II B中央付近・埋土	深鉢・口縁部	太く浅い沈線・刺突	ナデ		
161	SI10北側・埋土	深鉢	LRタテ	ナデ		
162	SI10北側・埋土	深鉢・口縁部	RLタテ	ミガキ	外面スス付着	
165	SI11	深鉢(2/3周未満)	LRタテ	ナデ	内面黒斑。外スス二次焼成、内ただれ	
167	SI11	異形(完形で出土)	(ミガキ?)	ナデ	内面スス状付着物	
168	SI11	小型鉢(底一周)	ナデ(手づかね)	ナデ		
172	SI11	鉢(2/3周未満)	LRタテ/底面ナデ	ナデ	外面スス、内面上コゲ付着	

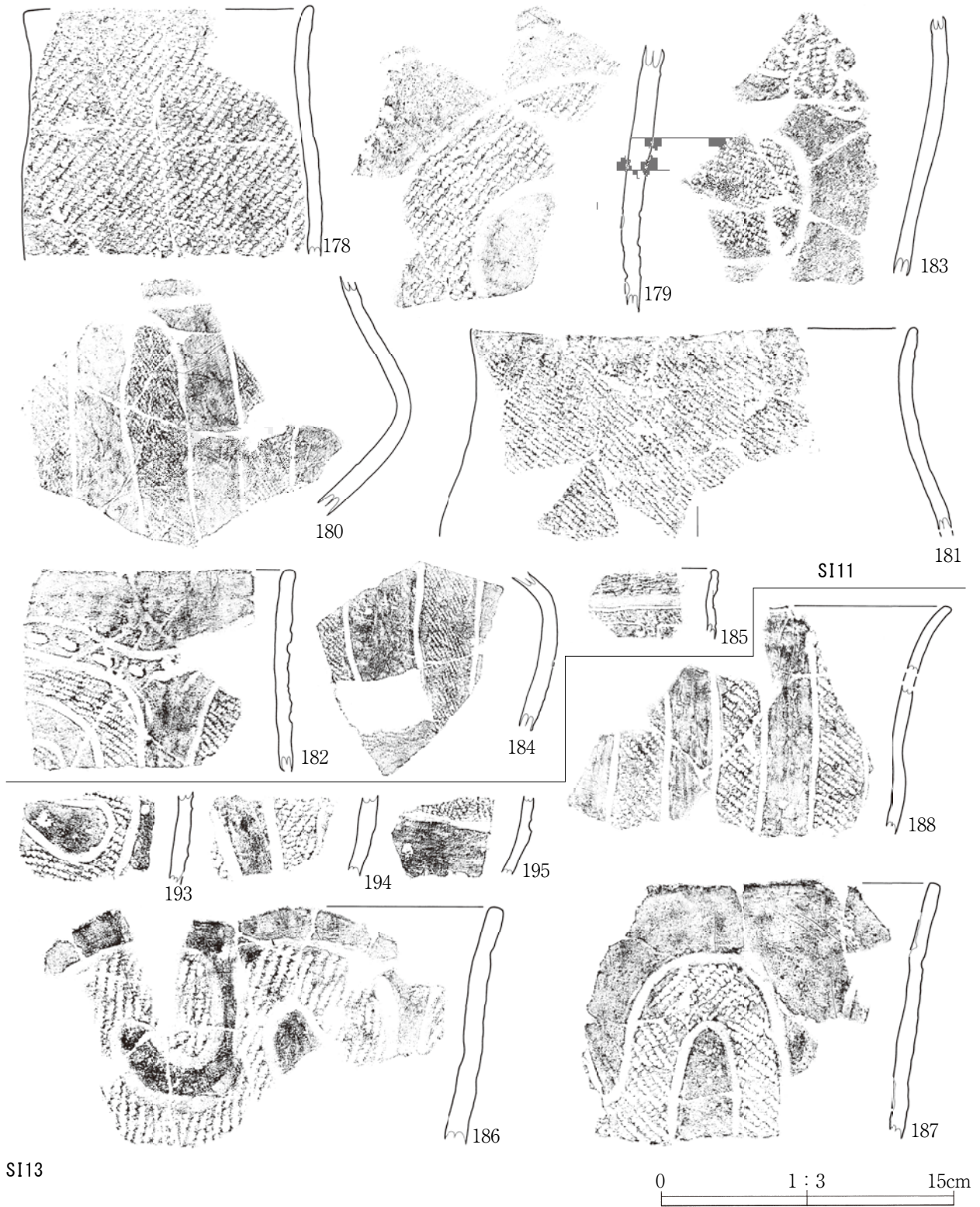
第45図 遺構内出土土器(14)(青野滝北I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外 面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内 面 (調整など)	備 考
163	SI11	深鉢(底一周)	LR+結節タテ底部ナデ/底面:木葉痕(外二次焼成)	ナデ	上割口接合面剥離。内面コゲ、摩耗
164	SI11	深鉢(頸略一周)	口縁無文/LRタテ	ナデ	外黒斑? 外二次焼成、スス。内コゲ?
166	SI11	深鉢・胴部1/3周	RLタテ (*上の割口、粘土接合面剥離)	摩耗ただれ	外面スス付着
169	SI11	深鉢・口縁部	口縁無文/LRタテ	ナデ	外面二次焼成スス摩耗。内コゲ付着
170	SI11	深鉢(4/5周以下)	LRタテ→太く浅い沈線 (*下の割口粘土接合面剥離)	ナデ	外下二次焼成。内コゲ、下焼けはじけ
171	SI11	深鉢・胴部	LRイロイロー太い沈線	ナデ	外面スス、内面下コゲ付着
173	SI11	深鉢・口縁部	RLタテ→頸部沈線・ミガキ光沢	ミガキ?	
174	SI11	鉢(1/4周未満)	4波状口縁/LRヨコナメ→太く深め沈線・ミガキ光沢	ナデ?	外面スス付着
175	SI11	深鉢・口縁部	折り返し口縁/LRタテ	ナデ	外面スス付着
176	SI11	深鉢・口縁部	波状口縁/竹管状工具垂直方向刺突列・太く浅い沈線	ナデ?	光沢
177	SI11	鉢・胴部	下から刺突列・浅く雑な沈線	ナデ	外面スス付着

第 46 図 遺構内出土土器 (15) (青野滝北 I)

3 出土遺物



SI13

0 1:3 15cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
178	SI11	深鉢(1/3周未満)	RLタテ (*下の割口粘土接合面剥離)	ただれ	外面スス二次焼成、内面コゲ付着
179	SI11	深鉢・胴部	RLタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	内面下部焼けはじけ?ひどい
180	SI11	鉢?・胴部	LRタテ→太く浅い沈線・ミガキ(*206と同一個体)	ミガキ	外面黒斑? 内面下部荒れている
181	SI11	深鉢(1/4周未満)	LRタテ	ナデ	内外砂粒露出
182	SI11	深鉢・口縁部	LRタテ→太く浅い沈線・ヨコから刺突列(*下の割口剥離)	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
183	SI11	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	内外灰色
184	SI11	鉢?・胴部			*202と同一個体
185	SI11	鉢?・口縁部	単軸絡1(R)イロイロ・細く浅い沈線	ナデ	
186	SI13	深鉢(1/3周未満)	4波状/口唇ナデ/折返口縁/RLタテ→浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着。内外摩耗
187	SI13	深鉢・口縁部	LRイロイロ→太く深め沈線	ナデ	下の割口粘土接合面剥離。内面摩耗
188	SI13	深鉢(1/4周未満)	LRタテ→太く深め沈線ナデ	ナデ	外面スス付着。内面コゲ付着
193	SI13	深鉢・胴部	RLヨコ→太く浅い沈線	ナデ	外面黒斑?
194	SI13	深鉢・胴部	RLタテ→太い沈線	ナデ	内面コゲ付着?
195	SI13	鉢?・胴部	LRイロイロ・ミガキ?	ナデ	

第47図 遺構内出土土器(16)(青野滝北I)



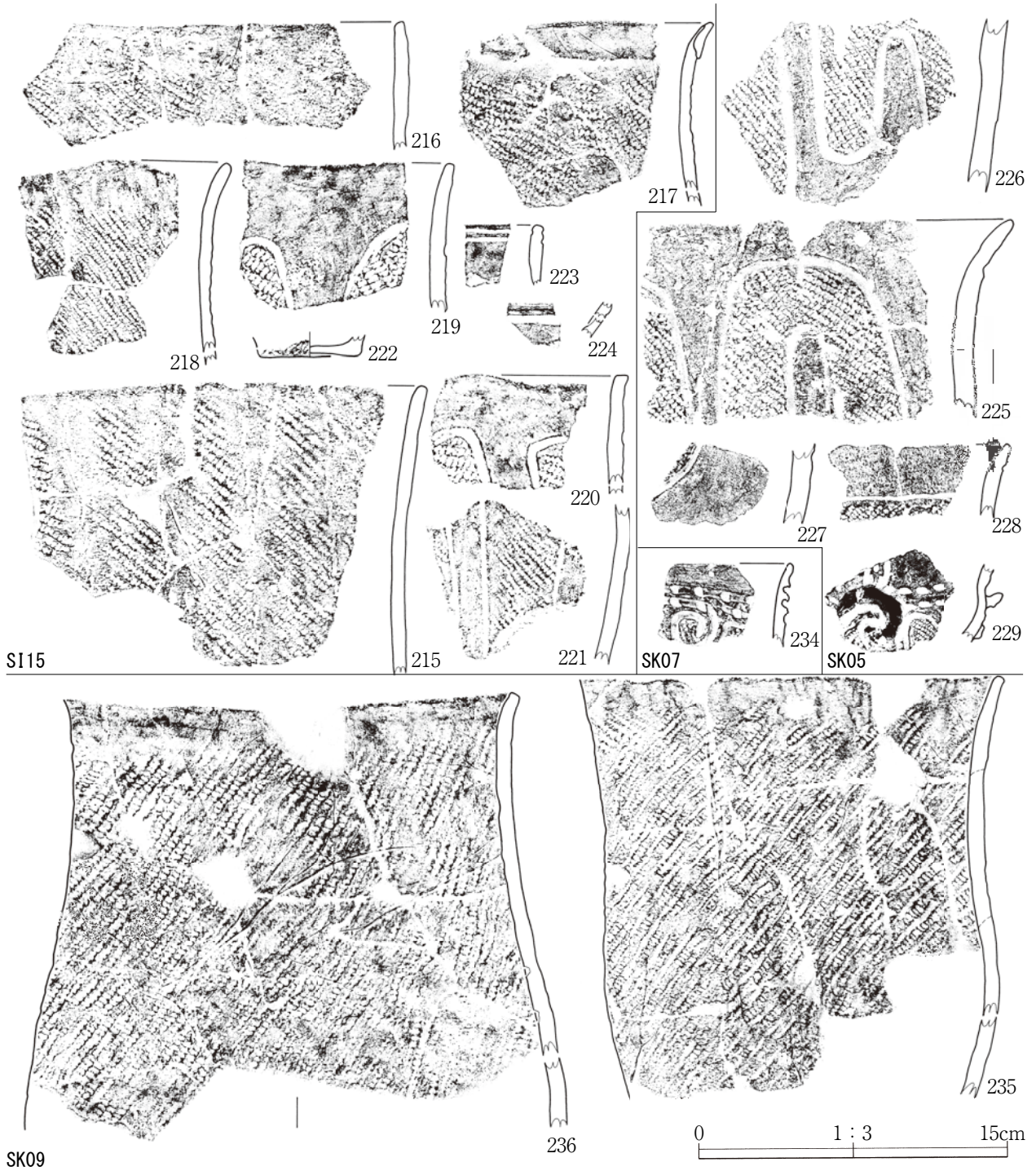
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
189	SI13	深鉢(1/5周末満)	波状口縁/RLタテ→太く浅い雑な沈線	ナデ	外スス、内コゲ付着。内外摩擦
190	SI13	深鉢(1/5周末満)	折り返し口縁ナデ/LRタテ	ナデ	内面黒斑? 外面スス付着
191	SI13	深鉢・口縁部	波状口縁/RLタテ→太く浅い雑な沈線	ミガキ?	
192	SI13	深鉢・胴部	RLタテ→太め深い沈線	剥落	
196	SI13	深鉢・口縁部	折り返し口縁に下から刺突列/RLタテ	ナデ	
197	SI14	深鉢(底のみ一周)	4波状口縁/口縁無文/RLタテ/底部ナデ/底面木葉痕	ナデ	外面スス、二次焼成ひどい。内コゲ?
198	SI14(炉、南東ブロック、ベルト)	深鉢(1/3周末満)	RLタテ	ナデ	外面スス。内面コゲ、ただれ
205	SI14	深鉢・胴部	LRヨコ→細く深い沈線	ただれ	
212	SI14	深鉢・胴部	LRイロイロ?→太く浅い沈線・磨消面滑らか	ただれ	
213	SI14	深鉢・胴部	RLタテ→太く浅い沈線	ナデ滑らか	外面スス付着
230	SI13(SK06)	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
231	SI13(SK06)	深鉢・胴部	RLRタテ→細く浅い沈線・縄文痕跡	ミガキ	
232	SI13(SK06)	深鉢・胴部	RLタテ→沈線	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
233	SI13(SK06)	深鉢・胴部	LRイロイロ	ナデ	

第 48 図 遺構内出土土器 (17) (青野滝北 I)



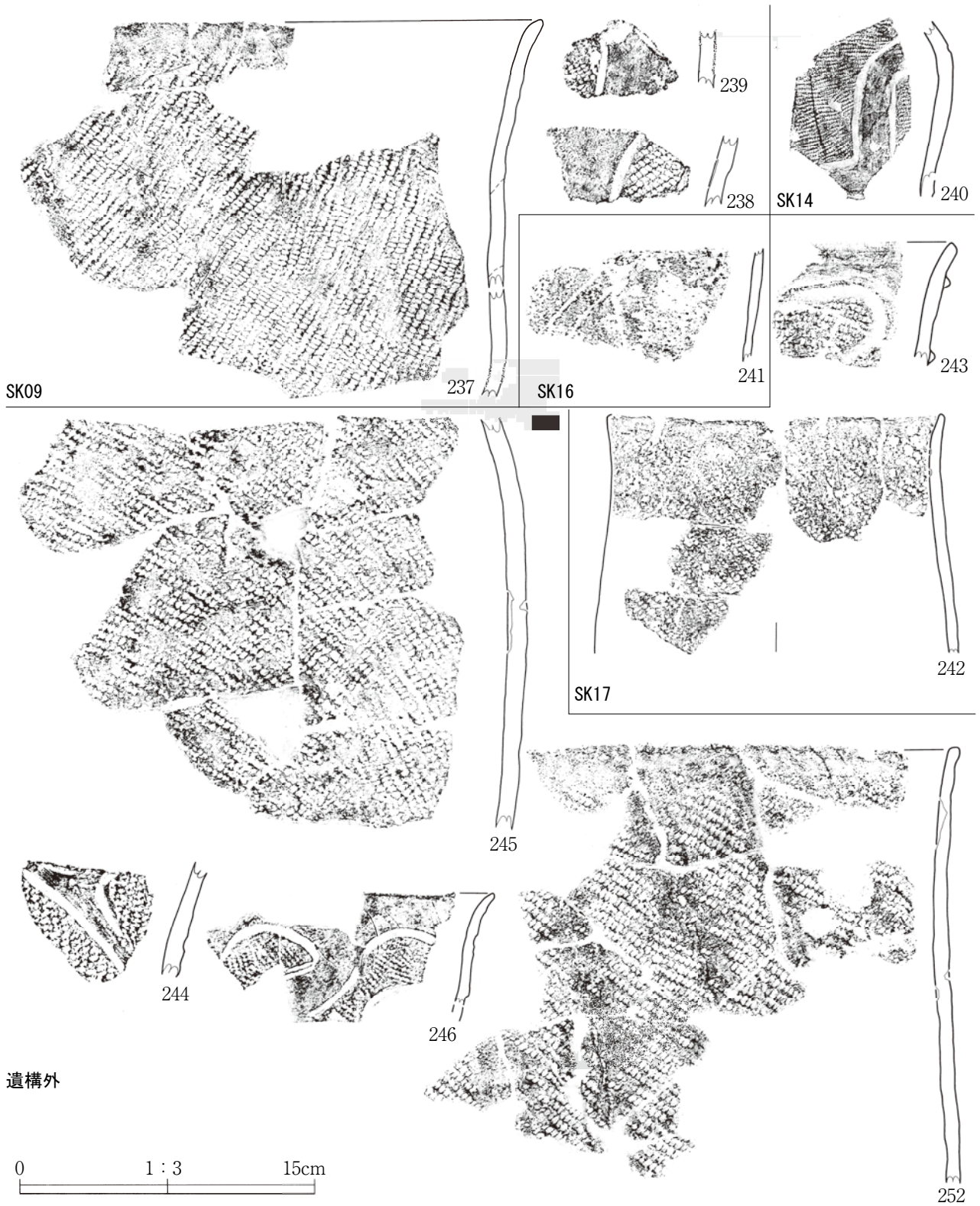
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
199	SI14	深鉢(2/3周未満)	波状口縁単位不明/口縁無文/LRタテ	ナデ	外面黒斑
200	SI14	深鉢(1/4周)	RLタテ (*下の割口粘土接合面剥離)	ナデ	外黒斑? 二次焼成。内下部ただれ
201	SI14	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
202	SI14	鉢(1/4周未満)	折り返し口縁無文/LRタテ	ナデ	外面スス。内面コゲ付着
203	SI14	深鉢・胴部	RLタテ?→浅い沈線	ナデ	外面スス付着。内面コゲ多い
204	SI14	深鉢・口縁部	波状口縁/LRイロイロー太い沈線・器面滑らか	ミガキ	
206	SI14	深鉢(1/3周未満)	口縁無文/RLタテ	ナデ	外面二次焼成。内面ただれ
207	SI14	深鉢(1/4周未満)	折り返し口縁無文/RLタテ	ナデ	外上スス、下二次焼成。内下コゲ付着
208	SI14	深鉢(2/3周未満)	LRタテ→底部ナデ/底面:木葉痕	ナデ	外スス、二次焼成。内面コゲ付着
209	SI14	深鉢・口縁部	口縁無文/RLタテ	ナデ滑らか	外面スス付着
210	SI14	深鉢?・胴部	LRイロイロー→浅い沈線	ナデ	外面二次焼成。内面コゲ多
211	SI14	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着。内面焼けはじけ?
214	SI14	小型(1/3周未満)	縄文?/底部~底面ナデ	ナデ	内面全面コゲ付着

第 49 図 遺構内出土土器 (18) (青野滝北 I)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
215	SI15	深鉢(1/5周末満)	LR+結節タテ	ナデ	外面スス、摩耗。内面焼けはじけ
216	SI15	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ?	外面スス。内外摩耗して砂粒露出
217	SI15	深鉢・口縁部	折り返し口縁無文/LRタテ	ナデ	外面二次焼成で赤い
218	SI15	深鉢・口縁部	波状口縁/口縁無文/LRタテ	ナデ	
219	SI15	深鉢・口縁部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	
220	SI15	深鉢・胴部	LRタテ→細く深め沈線	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
221	SI15	深鉢・口縁部	波状口縁/LRタテ→太い沈線	ナデ	外面スス付着
222	SI15	小型(底一周)	ナデ	ナデ	
223	SI15	?・口縁部	口縁内面沈線・ミガキ	ミガキ	
224	SI15	?・胴部		剥落	
225	SK05	深鉢・口縁部	LRタテ→太く浅い沈線 (*222と同一個体)	ナデ	外面スス。内外二次焼成で剥落?
226	SK05	深鉢・胴部			*221と同一個体
227	SK05	深鉢・胴部	縄文原体不明→沈線	ナデ滑らか	
228	SK05	深鉢・口縁部	LRヨコ→沈線	ナデ	
229	SK05	鉢・胴部	高い貼付・LRタテ→太く浅い沈線・刺突列・光沢	ナデ	外面スス、内面下コゲ付着
234	SK07	深鉢・口縁部	深め沈線・沈線底深い刺突	ミガキ	外面スス付着
235	SK09	深鉢(3/4周末満)	口縁無文/RLタテ	ナデ	内外黒斑。外スス、二次焼成
236	SK09	深鉢(1/3周末満)	RLタテ	ナデ	内外黒斑。外面二次焼成

第 50 図 遺構内出土土器 (19) (青野滝北 I)



遺構外

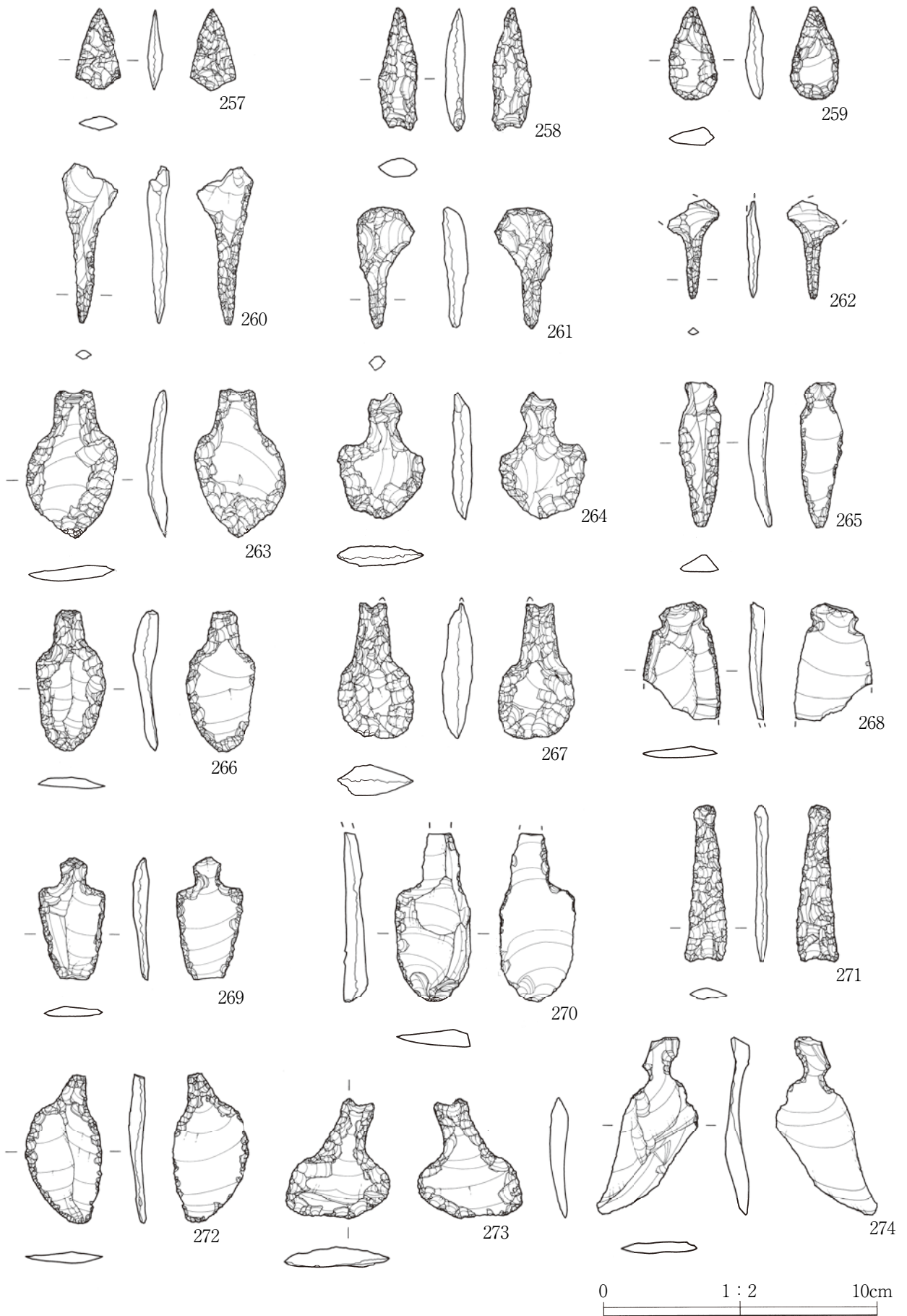
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
237	SK09	深鉢(1/4周末満)	口縁無文/RLタテ	ナデ滑らか	外面スス、二次焼成
238	SK09	深鉢・胴部	RLタテ?→太く浅い沈線	ナデ	外スス、二次焼成。内面焼けはじけ?
239	SK09	深鉢・胴部	LRタテ?→太く浅い沈線	ナデ	内面ただれ
240	SK14	壺?・胴部	LRナナメ→太く浅い沈線・磨消部一段高い	ナデ輪積痕	
241	SK16	深鉢・胴部	縄文原体不明→沈線	摩耗	内外摩耗変色ひどい
242	SK17	深鉢(1/3周末満)	LRタテ	ナデ	外面二次焼成・内面焼けはじけ?
243	SK17	深鉢・口縁部	隆帯高い・LRナナメ?	ナデ	外面スス付着。外面摩耗ひどい
244	II A6j	深鉢・胴部	RLRタテ→太く浅い沈線	ナデ滑らか	
245	II B中央付近4d	深鉢(1/5周末満)	LRタテ	ナデ滑らか	外面スス付着
246	II B7c	鉢(1/3周末満)	文様4単位?・LRタテ→太い沈線	ナデ	
252	III B2g	深鉢(1/4周末満)	口縁無文/LR+結節タテ	ナデ	内外摩耗

第 51 図 遺構内出土土器 (20)・遺構外出土土器 (1) (青野滝北 I)

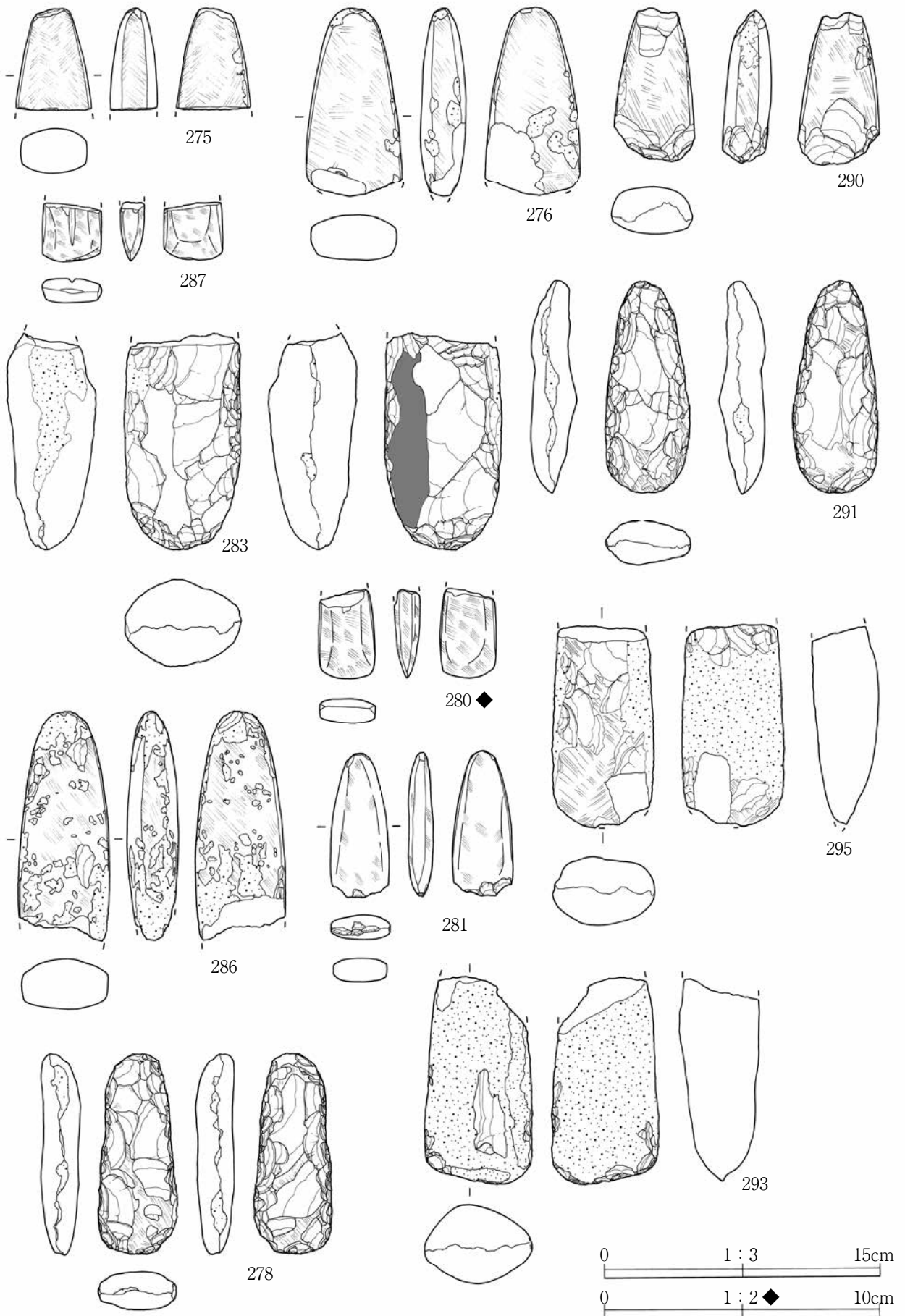


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
247	ⅡB9c付近	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	内面焼けはじけ?
248	ⅡB9c	深鉢・胴部	RLタテ→半裁竹管状工具による沈線→ナデ	ナデ滑らか	下の割口粘土接合面剥離
249	ⅡB9c	鉢・口縁部	RLタテ?→浅い雑な沈線	ナデ	内面焼けはじけ?
250	ⅢB2g	深鉢(1/3周未満)	口縁:半裁竹管状工具による刺突列4単位/LR+結節タテ	ナデ	外二次焼成ひどい。内面焼けはじけ?
251	ⅢB2g	深鉢(1/4周未満)	口縁:半裁竹管状工具刺突列/文様4単位/RLタテ	ナデ	外面スス付着、内外摩擦
253	遺構外	鉢(底2/3周)	折り返し口縁無文/LRタテ/底部~底面ナデ	ナデ	外面スス二次焼成、内面コゲ付着
254	遺構外	深鉢?・頸部?	高め隆帯→LRタテ・滑らか	滑らか	
255	遺構外	深鉢?・胴部	隆帯幅細く深い沈線・滑らか	ナデ	外面赤色付着物
256	遺構外	深鉢・胴部	隆帯幅細く深い沈線	ナデ滑らか	外面赤色付着物?

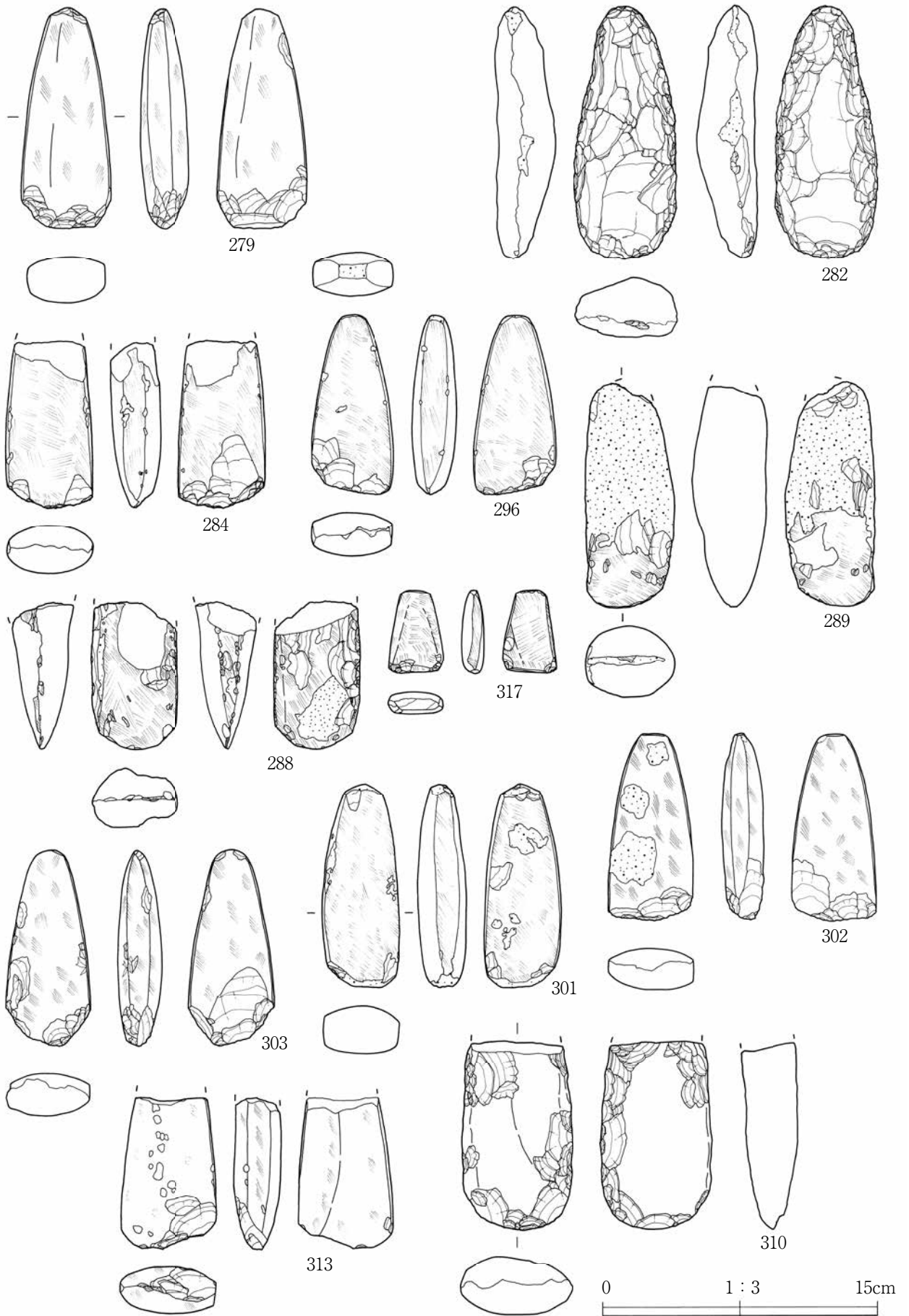
第 52 図 遺構外出土土器 (2) (青野滝北 I)



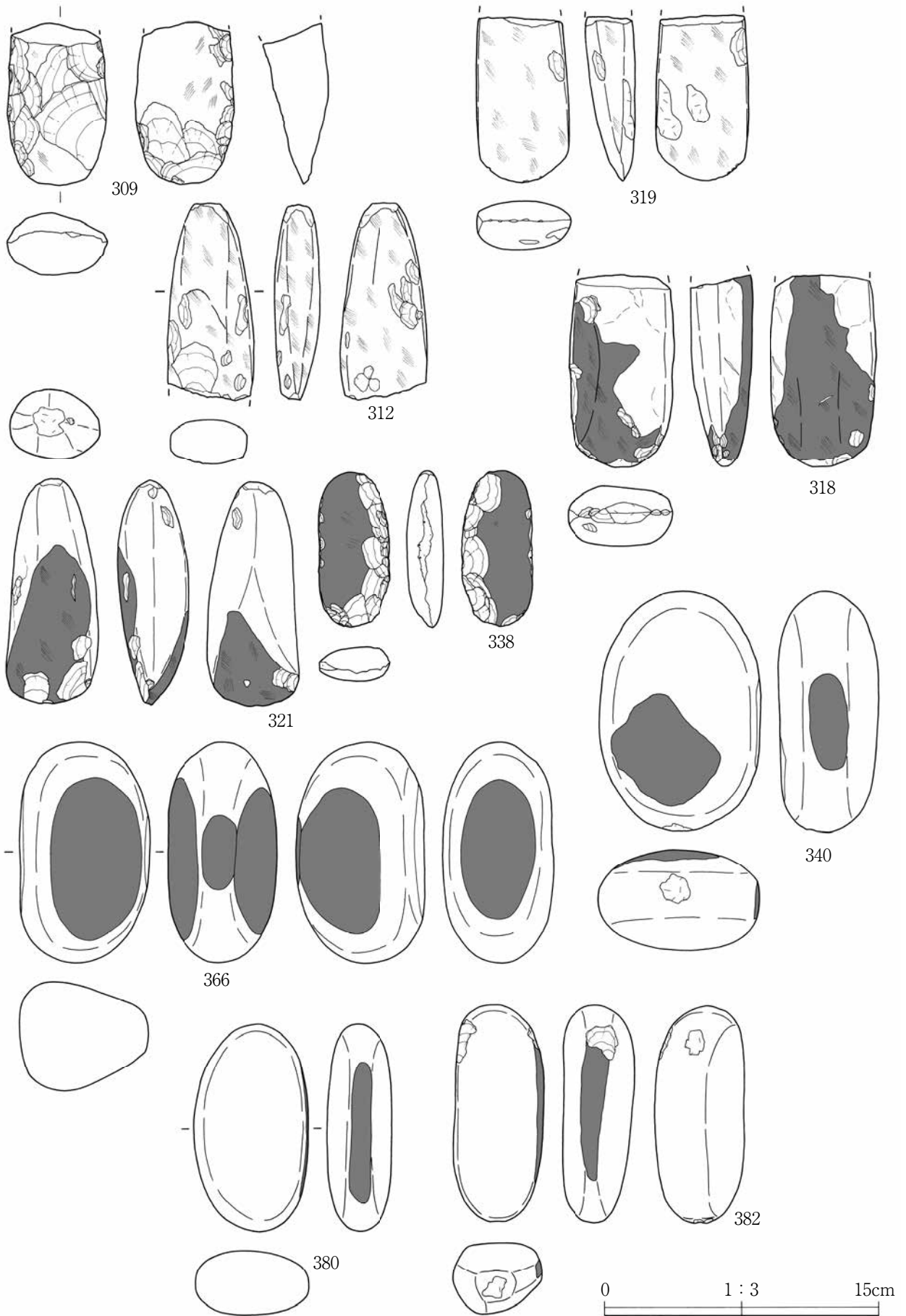
第 53 図 石器 (1) (青野滝北 I)



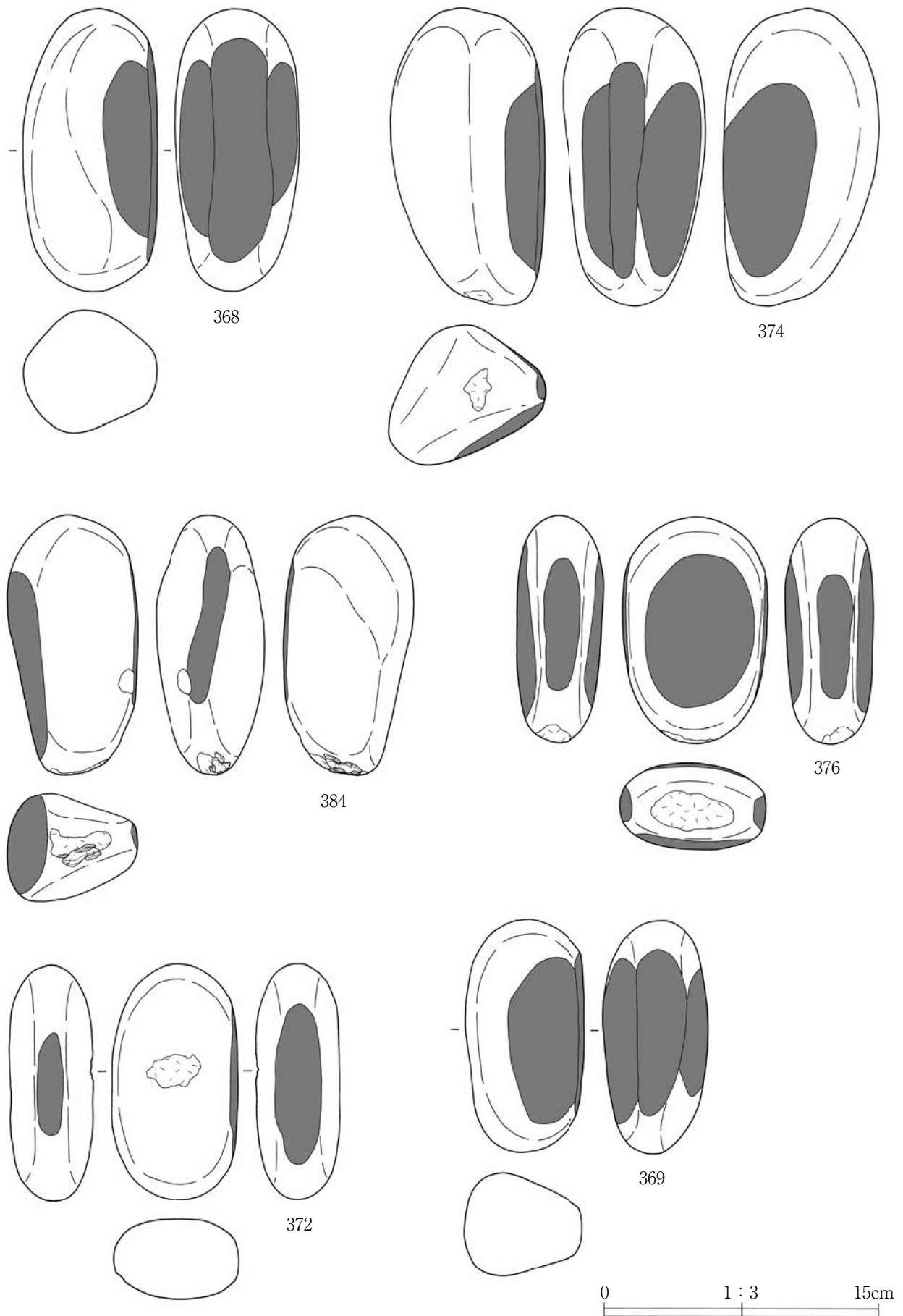
第54図 石器(2)(青野滝北I)



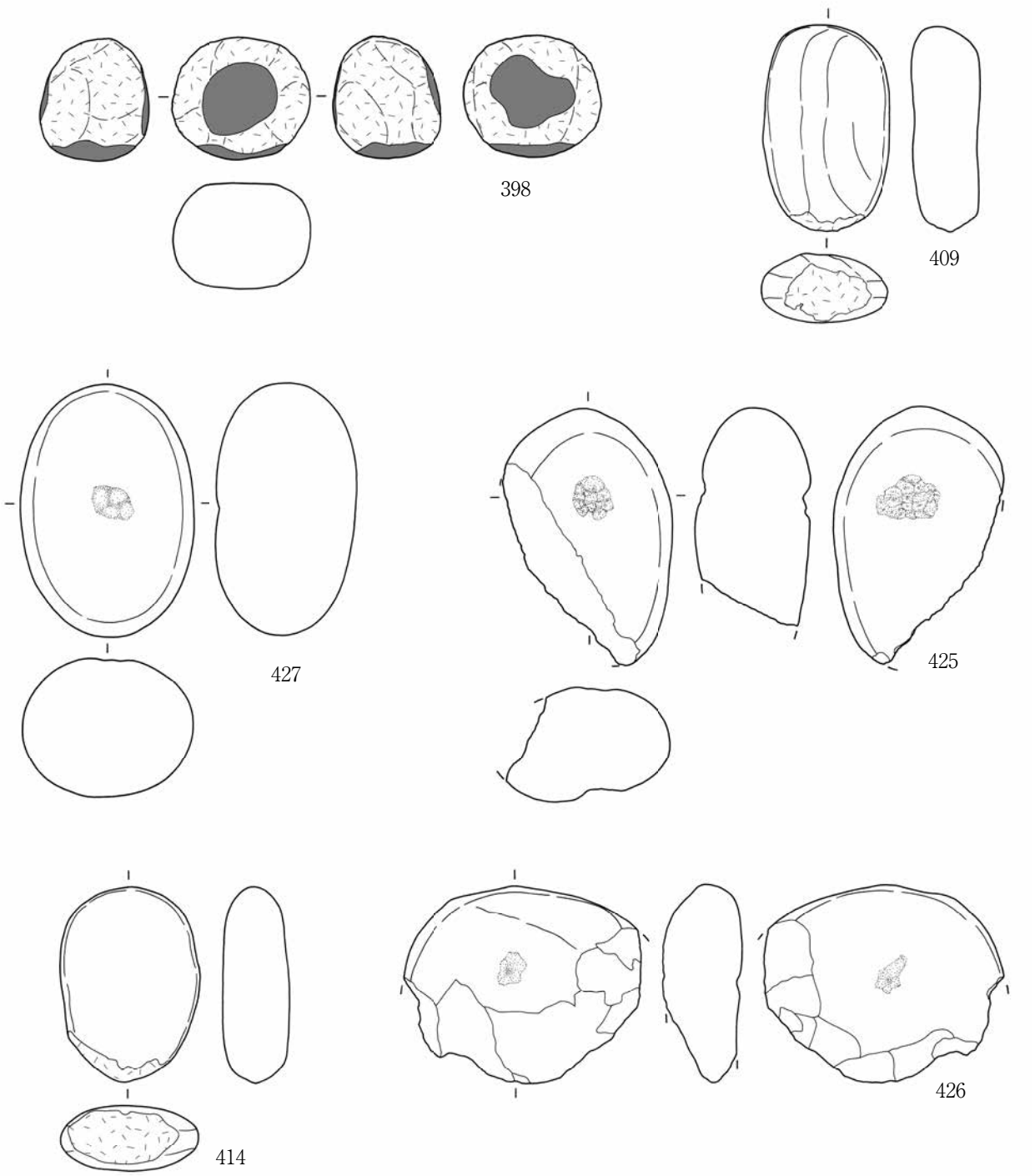
第 55 図 石器 (3) (青野滝北 I)



第 56 図 石器 (4) (青野滝北 I)

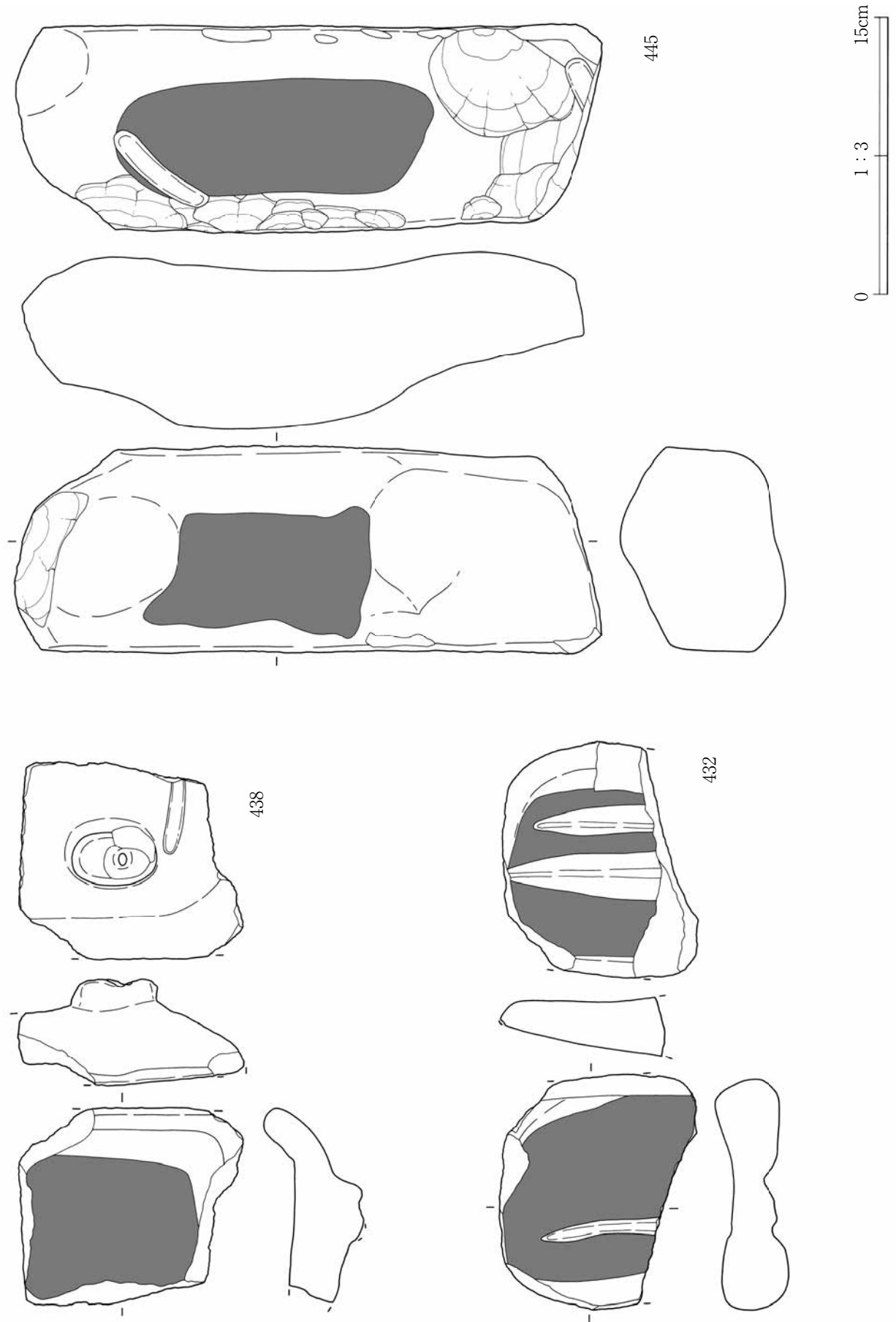


第57図 石器(5)(青野滝北I)

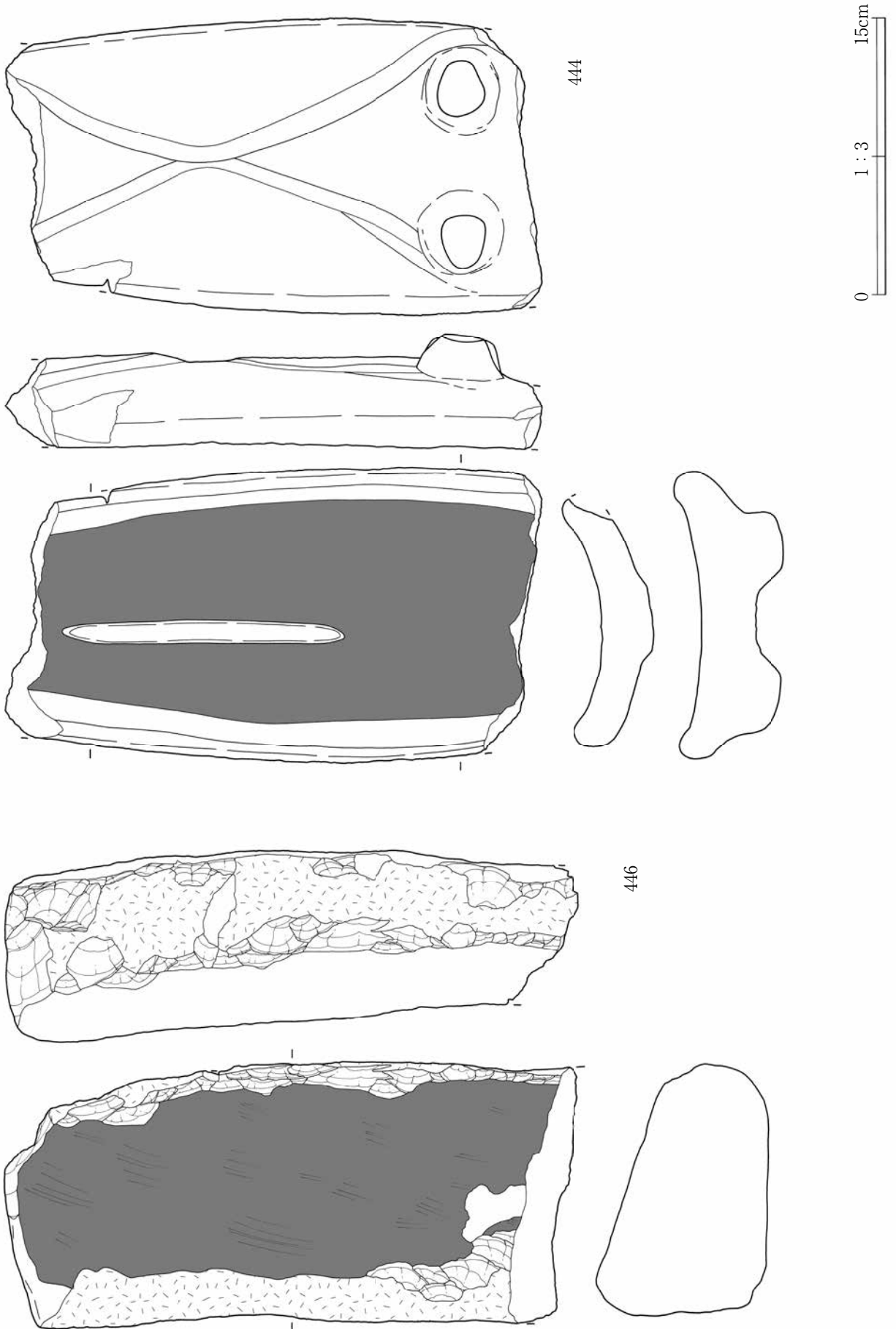


0 1:3 15cm

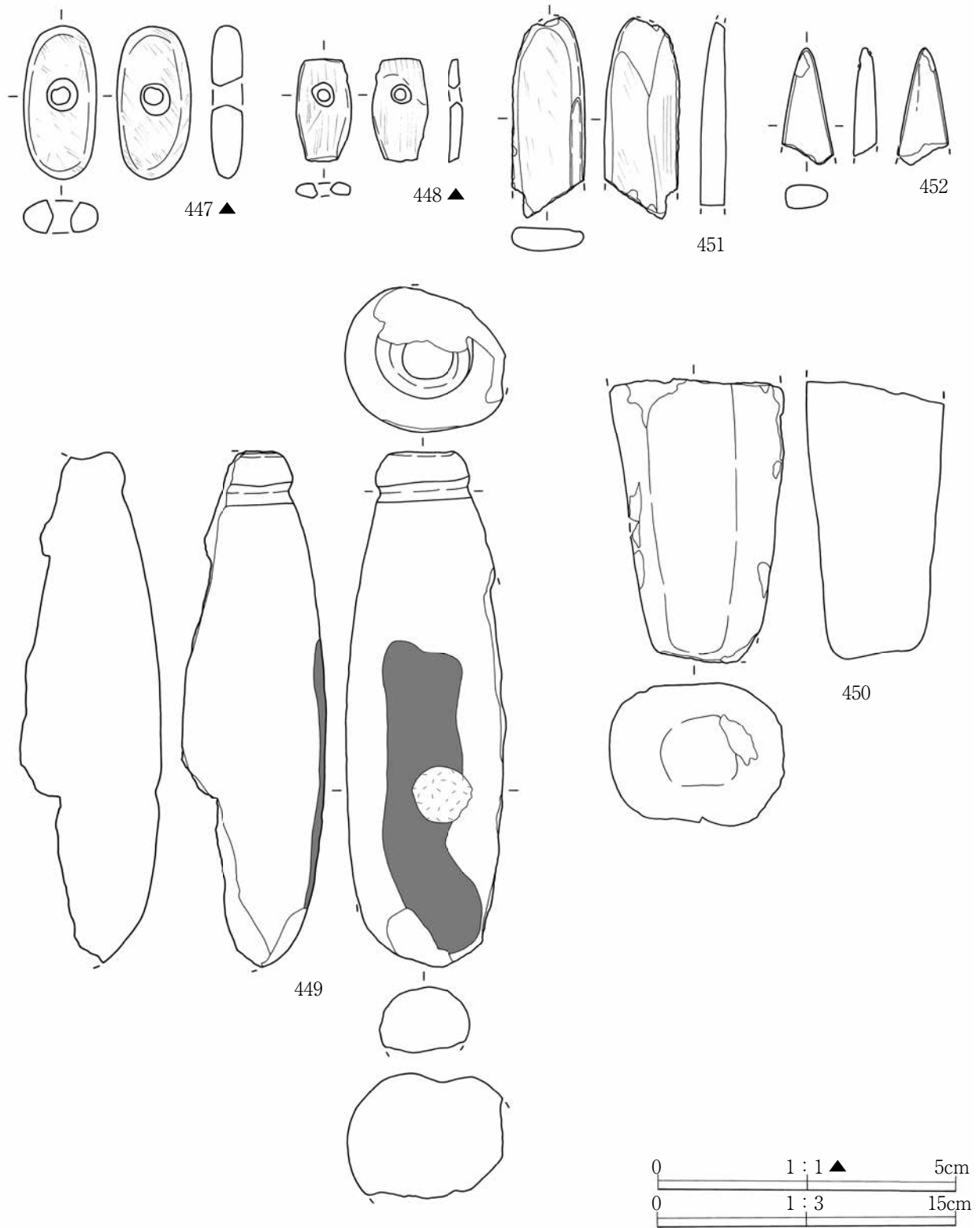
第 58 図 石器 (6) (青野滝北 I)



第 59 図 石器 (7) (青野滝北 I)



第60図 石器(8)(青野滝北I)



第 61 図 石製品 (青野滝北 I)

第2表 石器観察表（青野滝北 I）

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値（ ）は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
257	53	40	SI01東側・埋土	石鏃	2.90	1.60	0.50	1.70	頁岩	北上山地	完形
258	53	40	SI05・埋土	石鏃	4.50	1.40	0.70	4.40	頁岩	北上山地	完形
259	53	40	SI11南東ブロック・埋土	石鏃	3.40	1.75	0.65	3.30	頁岩	北上山地	完形
260	53	40	SI01北側・埋土	石鏃	5.80	2.05	0.80	4.20	頁岩	北上山地	完形
261	53	40	SI03北西ブロック・埋土	石鏃	(4.40)	2.10	0.95	5.80	頁岩	北上山地	先端部微細な欠け
262	53	40	SI09・埋土	石鏃	(3.60)	(1.85)	0.50	1.30	頁岩	北上山地	部上端部欠けあり
263	53	40	SI01南東ブロック・埋土下位	石匙	5.40	3.30	0.75	8.60	頁岩	北上山地	完形 基部挟りなし
264	53	40	SI03・埋土	石匙	4.65	3.20	0.70	8.80	頁岩	北上山地	完形
265	53	40	SI03北西ブロック・埋土	石匙	5.30	1.50	0.90	4.60	頁岩	北上山地	完形
266	53	40	SI03北西ブロック・埋土	石匙	5.15	2.50	0.90	7.60	頁岩	北上山地	完形 基部挟りなし
267	53	40	SI03北東ブロック・埋土	石匙	(4.90)	2.80	1.10	11.90	頁岩	北上山地	基部上端部僅かに欠け 基部挟りなし
268	53	40	SI04・埋土	石匙	(4.30)	(2.80)	(5.50)	5.30	頁岩	北上山地	先端部欠損 灰白色の石材
269	53	40	SI04南西ブロック・埋土	石匙	4.45	2.40	0.60	4.80	頁岩	北上山地	完形
270	53	40	SI05・埋土	石匙	(6.15)	2.75	0.85	10.60	頁岩	北上山地	基部欠損
271	53	40	SI09・埋土	石匙	5.70	1.55	0.50	3.70	頁岩	北上山地	完形
272	53	40	SI11南西ブロック・埋土	石匙	5.45	2.80	0.60	5.70	頁岩	北上山地	挟りなし
273	53	40	SI11南東ブロック・埋土	石匙	4.40	3.85	0.70	7.70	頁岩	北上山地	挟りなし
274	53	40	SI15・埋土	石匙	6.50	3.70	0.85	6.90	頁岩	北上山地	完形 刃部加工なし
275	54	41	SI01南東ブロック・埋土	石斧類	(5.60)	(4.10)	(2.60)	91.46	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
276	54	41	SI02・埋土	石斧類	(10.30)	(5.20)	(2.50)	208.26	ヒン岩	北上山地	刃部欠損
277		41	SI02南西ブロック・埋土下位	石斧類	13.10	5.00	2.80	269.60	凝灰岩	北上山地	未成品？
278	54	41	SI02南西ブロック南西・埋土	石斧類	11.00	4.30	2.10	135.73	凝灰岩	北上山地	完形
279	55	41	SI03・床	石斧類	(12.00)	4.80	2.50	246.00	凝灰岩	北上山地	刃部欠損再加工？
280	54	41	SI03南東ブロック・埋土	石斧類	(3.20)	2.00	0.90	10.30	頁岩	北上山地	基部欠損 小型
281	54	41	SI03北西ブロック・埋土	石斧類	7.90	3.20	1.30	55.60	細粒閃緑岩	北上山地	完形 小型
282	55	41	SI03北東ブロック北東・埋土	石斧類	13.80	5.50	3.20	302.60	凝灰岩	北上山地	完形
283	54	42	SI04・埋土	石斧類	(11.85)	(6.35)	(4.80)	492.65	凝灰岩	北上山地	基部欠損
284	55	42	SI05・埋土	石斧類	(9.15)	4.70	2.65	185.31	凝灰岩	北上山地	基部欠損
285		42	SI05・埋土	石斧類	(6.30)	(4.00)	(2.40)	77.87	砂岩	原地山層	刃部欠損
286	54	42	SI05南西ブロック・埋土	石斧類	(12.55)	(4.90)	2.70	257.09	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
287	54	42	SI05南東ブロック・埋土	石斧類	(3.10)	3.20	1.30	22.20	頁岩	北上山地	刃部のみ 溝あり 小型
288	55	42	SI07・埋土上位	石斧類	(8.10)	(4.70)	(3.30)	144.85	凝灰岩	北上山地	基部欠損
289	55	42	SI07・埋土上位	石斧類	(12.30)	4.85	3.90	384.97	凝灰岩	北上山地	基部欠損
290	54	43	SI08西半・埋土	石斧類	(8.30)	(4.40)	(2.50)	125.66	凝灰岩	北上山地	刃部、基部欠損
291	54	43	SI08西半・埋土	石斧類	11.60	4.60	2.40	165.18	凝灰岩	北上山地	完形
292		43	SI08西半・埋土	石斧類	(8.40)	(5.80)	(3.80)	259.46	砂岩	原地山層	基部欠損
293	54	43	SI09・埋土	石斧類	(11.40)	(5.90)	(4.30)	406.82	凝灰岩	北上山地	基部欠損 溝あり
294		43	SI09・埋土	石斧類	(12.20)	(6.50)	(3.70)	453.99	砂岩	原地山層	基部欠損
295	54	43	SI09南半・埋土	石斧類	(11.00)	5.60	3.70	345.82	凝灰岩	北上山地	基部欠損
296	55	43	SI10・埋土	石斧類	(9.80)	4.50	2.40	160.40	ヒン岩	北上山地	刃部一部欠損
297		44	SI10・埋土	石斧類	(6.10)	(3.70)	(2.70)	93.41	凝灰岩	北上山地	下半部欠損 欠損部に二次加工
298		44	SI10・埋土	石斧類	(11.80)	(6.10)	(4.30)	440.39	砂岩	原地山層	基部欠損
299		44	SI11東北ブロック・埋土	石斧類	(8.40)	(4.40)	(2.50)	155.24	凝灰岩	北上山地	基部欠損
300		44	SI11南西ブロック・埋土	石斧類	(17.70)	7.60	5.70	785.88	凝灰岩	北上山地	未成品 308と接合
301	55	44	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(11.15)	4.25	2.60	217.63	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
302	55	44	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(10.20)	4.60	2.20	164.00	ヒン岩	北上山地	刃部欠損再加工？
303	55	45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(10.70)	4.60	2.30	168.60	凝灰岩	北上山地	刃部欠損再加工？
304		45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(8.90)	4.60	2.30	138.48	凝灰岩	北上山地	基部欠損 刃部一部欠損
305		45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(14.10)	(6.40)	(3.30)	426.32	凝灰岩	北上山地	刃部か？
306		45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(11.80)	6.40	3.30	293.35	凝灰岩	北上山地	基部一部欠損
307		45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	18.40	7.80	4.50	842.43	砂岩	原地山層	完形
308		45	SI11南東ブロック・埋土	石斧類	(8.70)	(4.90)	(1.80)	76.33	凝灰岩	北上山地	300と接合
309	56	45	SI13・埋土	石斧類	(8.90)	5.40	3.50	218.40	凝灰岩	北上山地	基部欠損
310	55	46	SI13南西・埋土	石斧類	(10.30)	5.90	3.10	321.90	凝灰岩	北上山地	基部欠損
311		46	SI13南西ブロック・埋土	石斧類	(7.40)	5.70	3.60	235.99	凝灰岩	北上山地	基部欠損
312	56	46	SI13南東ブロック・埋土	石斧類	(10.80)	4.70	2.40	207.40	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
313	55	46	SI13南半・埋土	石斧類	(8.20)	5.20	2.50	196.40	凝灰岩	北上山地	基部欠損
314		46	SI13炉石	石斧類	(10.90)	(5.50)	(2.80)	239.83	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
315		46	SK07・埋土上位	石斧類	3.20	1.70	0.30	3.55	凝灰岩	北上山地	小型 完形
316		46	SK09・埋土	石斧類	(9.00)	5.20	2.30	167.83	砂岩	原地山層	基部欠損 側面、刃部磨 溝
317	55	46	SI15・埋土	石斧類	(4.60)	(3.00)	(1.20)	29.46	頁岩	北上山地	刃部欠損 欠損部分を再加工？
318	56	47	SI15・埋土	石斧類	(10.50)	5.70	3.30	360.20	凝灰岩	北上山地	基部欠損 一部に磨き
319	56	47	SI15・埋土	石斧類	(9.00)	5.00	2.60	205.60	凝灰岩	北上山地	基部欠損
320		47	SI15・埋土	石斧類	(6.90)	(4.70)	(2.50)	136.34	凝灰岩	北上山地	基部欠損
321	56	47	SK12・埋土	石斧類	12.10	4.90	3.70	334.90	凝灰岩	北上山地	完形 一部に磨き
322		47	SK17・埋土	石斧類	(5.50)	(3.60)	(2.80)	61.98	砂岩	原地山層	刃部のみ
323		47	ⅢB2g・Ⅲ層	石斧類	8.90	3.50	1.90	67.36	砂岩	北上山地	
324		47	ⅡB中央付近・Ⅲ層	石斧類	(8.70)	(5.50)	(3.30)	253.81	凝灰岩	北上山地	基部欠損
325		48	ⅡB中央付近・Ⅲ層	石斧類	(9.30)	(6.30)	(2.40)	166.91	凝灰岩	北上山地	基部欠損

3 出土遺物

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
326		48	II B中央付近・Ⅲ層	石斧類	(12.40)	(5.90)	3.30	359.29	凝灰岩	北上山地	刃部欠損
327		48	II B9c・Ⅲ層	石斧類	(11.10)	5.20	2.50	234.63	デイサイト	原地山層	刃部欠損
328		48	II B9c・Ⅲ層	石斧類	(9.20)	(5.00)	(3.40)	266.83	砂岩	原地山層	刃部に磨り
329		48	II B9c・Ⅲ層	石斧類	(7.00)	(6.20)	(2.70)	181.71	砂岩	原地山層	刃部のみ
330		48	II B8g・Ⅲ層	石斧類	(7.70)	(4.75)	(3.30)	172.34	凝灰岩	北上山地	刃部のみ(刃部に磨り)
331		49	II B6e・Ⅲ層	石斧類	(7.10)	(5.30)	(2.10)	113.40	凝灰岩	北上山地	刃部のみ(刃部に磨り)
332		49	II B10f・Ⅲ層	石斧類	13.70	5.30	2.70	251.30	凝灰岩	北上山地	完形(剥離あり) 刃部に磨り
333		49	中央部トレンチ・Ⅲ層	石斧類	14.30	7.20	3.30	473.56	砂岩	原地山層	完形
334		49	中央部トレンチ・Ⅲ層	石斧類	14.50	7.50	4.20	590.09	砂岩	原地山層	完形
335		49	中央部サブトレンチ・Ⅲ層	石斧類	(6.60)	(3.70)	(1.50)	50.45	砂岩	原地山層	小型 裏面剥離 刃部使用痕?
336		49	中央部サブトレンチ・Ⅲ層	石斧類	(7.70)	(4.50)	(2.40)	130.20	砂岩	原地山層	刃部欠損
337		50	中央部サブトレンチ・Ⅲ層	石斧類	(6.90)	(4.90)	(2.90)	159.64	砂岩	原地山層	刃部のみ
338	56	50	SI02・埋土	石斧類	8.60	3.90	1.90	97.60	ヒン岩	北上山地	刃部形成途中の磨斧未成品? 敲石?
339		50	SI01南東ブロック・埋土	磨石	12.40	8.90	6.20	1025.88	花崗岩	北上山地	わずかに擦痕
340	56	50	SI02・埋土	磨石	13.20	8.75	5.45	977.39	デイサイト	原地山層	側面磨 特殊磨石の可能性大
341		50	SI02・埋土	磨石	5.60	5.60	4.80	239.91	砂岩	原地山層	球状 両面磨+敲
342		50	SI03南東ブロック・埋土	磨石	5.50	5.20	5.10	235.54	ヒン岩	北上山地	球状 1面磨
343		50	SI03北西ブロック・埋土	磨石	7.00	6.70	4.70	362.49	凝灰岩	北上山地	球状 両面磨+敲
344		50	SI03北西ブロック・埋土	磨石	5.40	5.10	3.90	170.90	凝灰岩	北上山地	球状 片面磨 裏面敲?
345		50	SI05・埋土	磨石	6.80	6.30	3.90	277.09	デイサイト	原地山層	球状 両面磨+敲
346		50	SI05・埋土	磨石	5.60	(4.40)	3.60	146.71	凝灰岩	北上山地	球状 両面磨 欠損
347		51	SI05・埋土	磨石	5.80	5.50	4.20	204.74	デイサイト	原地山層	球状 両面磨+敲
348		51	SI07床直上	磨石	6.20	5.70	3.70	195.43	砂岩	原地山層	球状 両面磨+敲
349		51	SI10・埋土	磨石	6.90	5.70	5.50	336.82	デイサイト	原地山層	球状 両面磨+敲
350		51	SI13南東ブロック・埋土	磨石	5.80	5.20	4.60	211.80	砂岩	原地山層	球状 両面磨+敲
351		51	SI13南半・埋土	磨石	6.00	5.80	3.30	186.61	デイサイト	原地山層	球状 両面磨+敲
352		51	SI15・埋土	磨石	6.00	5.70	4.40	234.55	砂岩	原地山層	球状 両面磨+敲
353		51	SK13・埋土	磨石	5.20	5.00	4.70	178.40	砂岩	原地山層	球状 両面磨+敲
354		51	SI03・埋土	特殊磨石	14.40	8.60	4.60	870.60	花崗岩	北上山地	側磨
355		51	SI03・埋土下位	特殊磨石	11.70	6.40	5.20	533.15	砂岩	原地山層	側磨+敲 廃棄石群の一つ
356		51	SI03北東ブロック・埋土	特殊磨石	11.80	6.80	5.90	710.64	デイサイト	原地山層	側磨+敲
357		51	SI04・埋土	特殊磨石	13.60	6.40	4.50	544.61	デイサイト	原地山層	側磨
358		52	SI04・埋土	特殊磨石	12.00	6.10	5.00	539.27	砂岩	原地山層	2面磨
359		52	SI05・埋土	特殊磨石	11.90	7.50	6.80	860.30	砂岩	原地山層	側磨
360		52	SI05北東ブロック・埋土	特殊磨石	15.00	8.40	5.70	1029.75	デイサイト	原地山層	側磨
361		52	SI05北東ブロック・埋土下位	特殊磨石	14.90	8.20	5.80	985.60	砂岩	原地山層	側+端部磨
362		52	SI07・埋土	特殊磨石	13.70	6.00	4.30	481.94	砂岩	原地山層	側磨
363		52	SI07炉石	特殊磨石	13.60	7.10	5.80	855.94	デイサイト	原地山層	側磨+面磨
364		52	SI07炉石	特殊磨石	14.80	8.20	5.20	926.10	デイサイト	原地山層	側磨+面磨? スス付着? 被熱
365		52	SI09・埋土	特殊磨石	15.80	5.70	5.70	768.43	砂岩	原地山層	側磨+敲 棒状
366	56	52	SI01南側・埋土埋土	特殊磨石	12.10	7.00	6.00	752.44	デイサイト	原地山層	側面磨
367		52	SI02南東ブロック・埋土	特殊磨石	(9.50)	6.20	3.20	300.11	デイサイト	原地山層	側磨+両端敲
368	57	52	SI03・炉石	特殊磨石	15.40	7.30	6.75	1102.08	頁岩	北上山地	側面磨
369	57	52	SI03南西ブロック・埋土中～下位	特殊磨石	12.80	6.50	5.75	706.69	デイサイト	原地山層	側面磨
370		52	SI03北西ブロック・埋土	特殊磨石	14.80	7.00	4.70	751.15	頁岩	北上山地	側磨+敲
371		52	SI03北側・埋土	特殊磨石	14.70	7.20	5.00	727.61	頁岩	北上山地	側面磨
372	57	53	SI05・埋土	特殊磨石	12.95	6.95	4.50	658.80	花崗岩	北上山地	両側面磨
373		53	SI05・埋土	特殊磨石	12.40	5.70	3.50	406.91	頁岩	北上山地	側面磨
374	57	53	SI05・埋土	特殊磨石	16.30	8.40	7.70	1444.24	頁岩	北上山地	側磨+敲
375		53	SI07・埋土上位	特殊磨石	(14.70)	8.00	4.00	720.23	頁岩	北上山地	側磨+敲
376	57	53	SI09・埋土	特殊磨石	12.40	7.90	4.80	718.70	花崗岩	北上山地	両側面磨 端部敲
377		53	SI09・埋土	特殊磨石	(13.00)	6.60	4.90	598.97	頁岩	北上山地	側磨+敲
378		53	SI13南西ブロック・埋土	特殊磨石	13.80	7.20	6.30	920.84	デイサイト	原地山層	側磨+敲
379		53	SI13南東ブロック・埋土	特殊磨石	14.70	8.00	5.50	1020.27	頁岩	北上山地	側磨+敲
380	56	53	SI13南東ブロック・埋土	特殊磨石	11.35	6.15	3.55	373.56	頁岩	北上山地	側面磨
381		53	SI14・埋土	特殊磨石	15.80	7.60	5.50	846.30	頁岩	北上山地	側面磨
382	56	53	SI14・埋土	特殊磨石	11.90	4.80	3.90	340.11	頁岩	北上山地	側磨+敲
383		53	SI15・埋土	特殊磨石	12.90	7.50	5.00	740.61	デイサイト	原地山層	側磨+敲
384	57	54	SI15・埋土	特殊磨石	14.15	7.05	5.95	755.01	頁岩	北上山地	側磨+敲
385		54	II A5g・Ⅲ層	特殊磨石	17.80	7.40	4.80	1106.77	デイサイト	原地山層	側磨+面磨+両端部敲
386		54	II C1a・Ⅲ層	特殊磨石	15.90	7.60	3.80	797.17	デイサイト	原地山層	側面磨
387		54	II B8f・Ⅲ層	特殊磨石	15.80	6.50	4.90	826.57	砂岩	原地山層	2辺磨り
388		54	II B・Ⅲ層	特殊磨石	13.90	7.80	5.00	834.65	デイサイト	原地山層	側磨+面磨
389		54	II B・Ⅲ層	特殊磨石	14.10	6.70	3.80	666.37	頁岩	北上山地	側磨+両端敲
390		54	中央部サブトレンチ・Ⅲ層	特殊磨石	10.80	5.10	3.20	292.52	砂岩	原地山層	側面磨
391		54	SI03・埋土	特殊磨石	12.80	5.80	4.80	442.80	砂岩	原地山層	敲打による剥離あり
392		54	SI03南東ブロック・埋土	敲石	5.40	4.50	4.00	142.55	デイサイト	原地山層	球状 端部敲
393		54	SI05・埋土	敲石	5.70	5.60	4.80	237.14	頁岩	北上山地	両面磨+側面全面敲
394		54	SI05・埋土	敲石	6.00	5.90	3.90	263.74	凝灰岩	北上山地	両端敲
395		54	SI05・埋土	敲石	5.00	4.30	3.90	125.52	砂岩	原地山層	球状 端部敲

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
396		54	SI05・埋土	敲石	6.60	6.20	3.60	223.43	デイサイト	原地山層	両端敲
397		54	SI05南ブロック・埋土	敲石	7.50	5.80	4.80	294.62	砂岩	原地山層	両端敲
398	58	54	SI07・床直上	敲石	5.75	6.50	5.10	307.22	ヒン岩	北上山地	両面磨
399		54	SI07・床直上	敲石	6.00	6.00	5.30	325.26	ヒン岩	北上山地	片面磨
400		54	SI07・埋土	敲石	5.90	6.70	4.30	242.31	凝灰岩	北上山地	片面磨+全面敲
401		54	SI07・埋土	敲石	7.40	6.70	5.00	344.70	デイサイト	原地山層	球状 端部敲
402		54	SI07・埋土	敲石	8.90	6.10	4.90	396.73	砂岩	原地山層	両端敲
403		55	SI09・埋土	敲石	5.70	5.40	4.90	233.62	砂岩	原地山層	端部敲
404		55	SI09炉	敲石	7.50	5.30	3.30	212.64	砂岩	原地山層	両端敲
405		55	SI10・埋土	敲石	7.70	6.90	6.00	383.68	砂岩	原地山層	頂部3ヶ所敲
406		55	SI13南東ブロック・埋土	敲石	(10.00)	7.50	3.40	379.93	凝灰岩	北上山地	端部敲
407		55	SI13南東ブロック・埋土	敲石	12.30	6.40	4.60	525.93	凝灰岩	北上山地	端部+側面2ヶ所敲
408		55	SI13南東ブロック・埋土	敲石	10.00	(5.70)	3.60	319.81	デイサイト	原地山層	両端敲
409	58	55	SI14・埋土	敲石	9.70	6.00	3.20	292.87	砂岩	原地山層	端部敲
410		55	SI14・埋土	敲石	7.50	7.50	3.40	301.43	ヒン岩	北上山地	両端敲
411		55	SI14・埋土	敲石	5.60	5.30	4.10	188.48	デイサイト	原地山層	球状 両端敲
412		55	SI15・埋土	敲石	(9.60)	7.30	6.00	606.92	頁岩	北上山地	両端敲
413		55	SI15・埋土	敲石	8.20	7.60	3.20	307.37	デイサイト	原地山層	両側面敲
414	58	55	SK17・埋土	敲石	9.30	6.50	3.10	297.48	デイサイト	原地山層	端部敲
415		55	ⅢB・Ⅲ層	敲石	5.50	5.20	5.20	237.07	砂岩	原地山層	球状 端部敲
416		55	ⅢB・Ⅲ層	敲石	5.60	5.50	4.50	244.07	デイサイト	原地山層	球状 端部敲
417		55	ⅡB中央付近・Ⅲ層	敲石	10.20	9.70	5.30	764.85	頁岩	北上山地	2点敲打痕
418		55	ⅡB8g・Ⅲ層	敲石	9.60	8.40	4.60	555.31	凝灰岩	北上山地	2ヶ所敲
419		55	ⅡB8f・Ⅲ層	敲石	5.70	5.60	3.80	177.84	花崗岩	北上山地	球状 端部敲
420		56	ⅡB4f・Ⅲ層	敲石	9.80	7.30	3.20	340.67	砂岩	原地山層	端部敲
421		56	ⅡB4d・Ⅲ層	敲石	(10.80)	8.80	7.50	1037.47	デイサイト	原地山層	端部敲
422		56	ⅡB・Ⅲ層	敲石	6.80	6.60	5.80	390.26	ヒン岩	北上山地	片面磨+片面敲
423		56	ⅡB・Ⅲ層	敲石	6.80	6.80	4.90	319.41	砂岩	原地山層	球状 端部敲
424		56	ⅡB・Ⅲ層	敲石	8.20	6.70	3.90	284.30	砂岩	原地山層	端部敲 剥離あり
425	58	56	SI01・炉前底部	凹み石	(12.15)	(8.10)	(5.50)	631.30	デイサイト	原地山層	両面に凹み
426	58	56	SI11南東ブロック・埋土	凹み石	(9.30)	(11.20)	3.70	507.06	頁岩	北上山地	両面に凹み
427	58	56	SI13・埋土	凹み石	12.00	8.10	6.60	949.27	花崗岩	北上山地	片面に凹み
428		56	SI01南側・埋土	石皿	(12.00)	(8.70)	(3.60)	487.67	凝灰岩	北上山地	欠損
429		56	SI01北東ブロック・埋土	石皿	(16.20)	(12.40)	(6.80)	1772.46	砂岩	宮古層群	欠損
430		56	SI01北東ブロック・埋土	石皿	(11.10)	(7.80)	(3.10)	284.26	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損
431		56	SI02・埋土	石皿	(9.50)	(7.80)	(2.70)	225.26	凝灰岩	北上山地	欠損
432	59	56	SI03南西ブロック・埋土中～下位	石皿	(10.65)	(12.75)	(4.15)	515.94	砂岩	宮古層群	裏面に加工痕あり
433		56	SI04南東ブロック壁際・埋土	石皿	(32.80)	(24.30)	(9.20)	7000.00	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損
434		56	SI05-1炉石	石皿	(18.00)	(16.00)	(7.40)	2382.01	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損
435		56	SI06炉石	石皿	(15.10)	(10.40)	(5.20)	1122.10	砂岩	宮古層群	両面使用 欠損
436		57	SI07・焼土ブロック	石皿	(8.50)	(4.70)	(3.70)	148.08	凝灰岩	北上山地	脚部
437		57	SI07・埋土	石皿	(11.00)	(8.40)	(2.40)	242.62	凝灰岩	北上山地	欠損
438	59	57	SI07・埋土上位	石皿	(12.20)	(10.70)	(5.80)	441.86	凝灰岩	北上山地	脚付き
439		57	SI09・埋土	石皿	(18.00)	(16.00)	(4.90)	1789.56	砂岩	宮古層群	両面使用
440		57	SI10・埋土	石皿	(26.20)	(10.80)	(6.70)	1753.41	凝灰岩	北上山地	2片接合
441		57	SI13・埋土	石皿	(19.90)	(15.80)	(4.80)	1564.21	砂岩	宮古層群	両面使用 442、443と同一か
442		57	SI13・埋土	石皿	(15.80)	(10.30)	(3.40)	458.83	砂岩	宮古層群	両面使用 441、443と同一か
443		57	SI13・埋土	石皿	(14.70)	(11.40)	(3.90)	680.54	砂岩	宮古層群	両面使用 441、442と同一か
444	60	57	SI15・埋土	石皿	(28.95)	(16.00)	(6.20)	1833.69	凝灰岩	北上山地	2片接合 脚付き
445	59	58	SI08床上	砥石	31.60	11.30	9.50	5000.00	砂岩	宮古層群	2面使用
446	60	58	SI03北西ブロック・埋土	砥石?	(34.00)	(14.40)	(10.30)	6600.00	デイサイト	原地山層	3片接合

第3表 石製品観察表(青野滝北I)

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重量[g]			
447	61	59	SI01北東ブロック・埋土	垂飾品	2.60	1.25	0.55	3.10	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
448	61	59	SI03北西ブロック・埋土	垂飾品	1.25	0.95	0.35	0.70	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
449	61	59	SI03南東・埋土	石棒	(25.72)	(8.05)	(7.25)	1644.00	砂岩	宮古層群	3片接合(裏面剥落)
450	61	59	SI14・埋土	石棒	(14.20)	(8.80)	(7.20)	1021.49	砂岩	宮古層群	2片接合(半分)
451	61	59	SI15・埋土	石刀	(10.15)	(3.70)	(1.35)	68.71	砂岩	宮古層群	
452	61	59	SI10・埋土	石刀?	(5.90)	(2.60)	(1.20)	16.73	砂岩	宮古層群	

V 青野滝北Ⅱ遺跡

1 概 要

青野滝北Ⅱ遺跡では、竪穴住居跡1棟、土坑7基を検出した。調査区はほぼ平坦な台地状の地形であり、北半は緩やかに北に下っている。竪穴住居跡は調査区のほぼ中心で検出した。また、陥し穴状土坑を南、中央、北でそれぞれ確認した。青野滝北Ⅰ遺跡と同様に、遺構検出面としたⅢ層は部分的に十和田中楯火山灰をブロック状に含む黄褐色土である。これに対して、遺構埋土も黄褐色～褐色土のものが多く、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。そのため、多くの遺構はトレンチにて存在を確認して精査を開始した。遺跡の中心付近での標高は、概ね152 m～153 mである。

2 検 出 遺 構

(1) 竪 穴 住 居 跡

SI01 竪穴住居跡（第63・64図、写真図版62・63）

〈検出状況〉調査区のほぼ中央部ⅡB7hグリッドで検出した。Ⅲ層上面で小規模な柄鏡状の暗褐色土の広がりを検出した。当初は土坑と判断したが、精査中に石囲炉を検出したため、竪穴住居跡と認定した。

〈規模・形状〉平面形は径約9 m×7 mの楕円形に近いものと思われる

〈埋土〉褐色土が中心で、炉近辺の床直上の埋土は黒褐色土が厚く堆積し、炭化物も多く見られた。南北ベルトの南側から中心部にかけて斜に焼土や炭化物、土器がまとまって入り込んでいる。

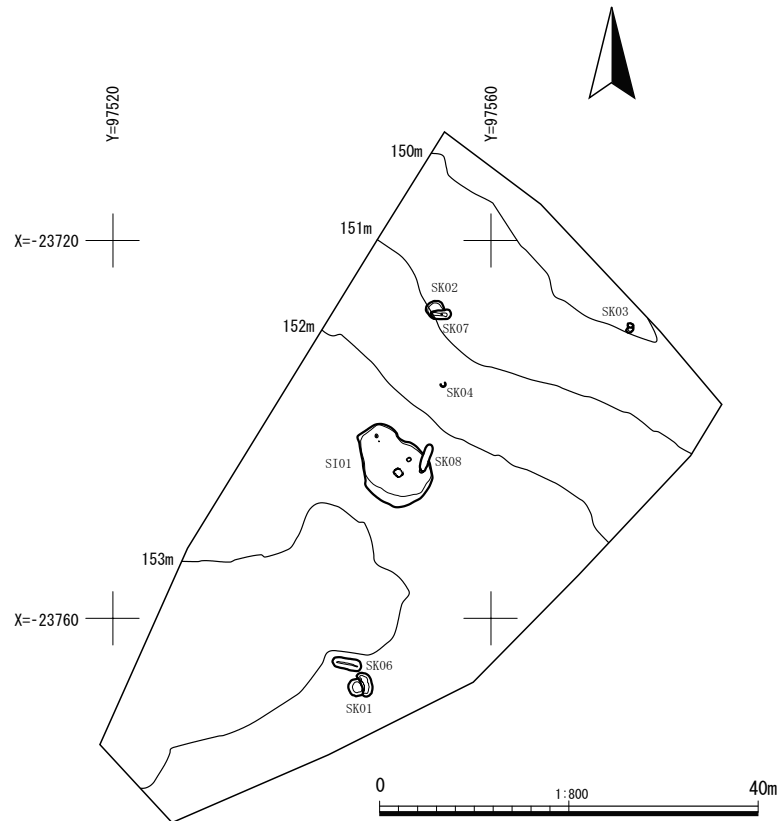
〈壁・床〉南側から西側にかけてテラス状の段が観察された。壁は、残存する箇所は一部やや外傾するが、ほとんどはほぼ直立する。南側壁面に2 mの間隔で70cm×30cm、60cm×50cmの角礫が埋め込まれた様であった。

〈柱穴〉2個検出した。PP01はこの住居を切っている陥し穴状土坑に半分壊されている。PP02は浅い掘り込みである。

〈炉〉石囲炉と土器埋設炉を検出した。石囲炉は、本遺構の南寄りに位置し、短軸85cm×長軸100cmの方形を呈する。焼土の発達はあまり見られない。炉石は被熱によるものか、横長に据えてあるものはほとんど割れており、割れ目に埋土が入り込んでいる。使用中にすでにひびが入っていたように観察された。また石組みは、横長の石は横位にしているが、一部に扁平な石を立位状に埋め込んでいる箇所がある。土器埋設炉は本遺構の北西寄りで検出した。径28cm程の円形である。埋設土器は上部と下部を欠き、半円状に残存する。焼土は縁辺部にわずかにブロック状に残る。断面観察により中央部に黒褐色土が堆積していることがわかるが、これは炭化物が多く混じっている部分である。この層厚は最大でも8 cmである。

〈重複〉土器埋設炉は、SI01の床、壁を精査中に検出したものである。当初は別の住居跡遺構として考えていたが、SI01の壁と連続すること、床面が同一レベルであること、SI01の石囲炉の長軸の延長線上にあること等の理由からこれを同一遺構内の施設と考えた。

〈出土遺物〉縄文土器、石器、石製品が出土している。縄文土器は20点を掲載した（第67・68図、写真図版66・67）。大木8b～9式が主体であるが、早期の白浜式の土器片も遺構の北西側を中心



第62図 遺構位置図(青野滝北II)

に出土している。石器は23点を掲載した(第72～76図、写真図版72～75)。石製品は石刀(148)が1点出土している(第77図、写真図版76)。

〈時期〉 縄文時代中期の遺構と考えられる。

(古館貞身)

(2) 土 坑

SK01土坑(第65図、写真図版64)

〈位置〉 調査区南端のⅢB2gグリッドに位置する。

〈検出状況〉 検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉 遺構との重複はないが、東側の一部は攪乱によって削平されている。

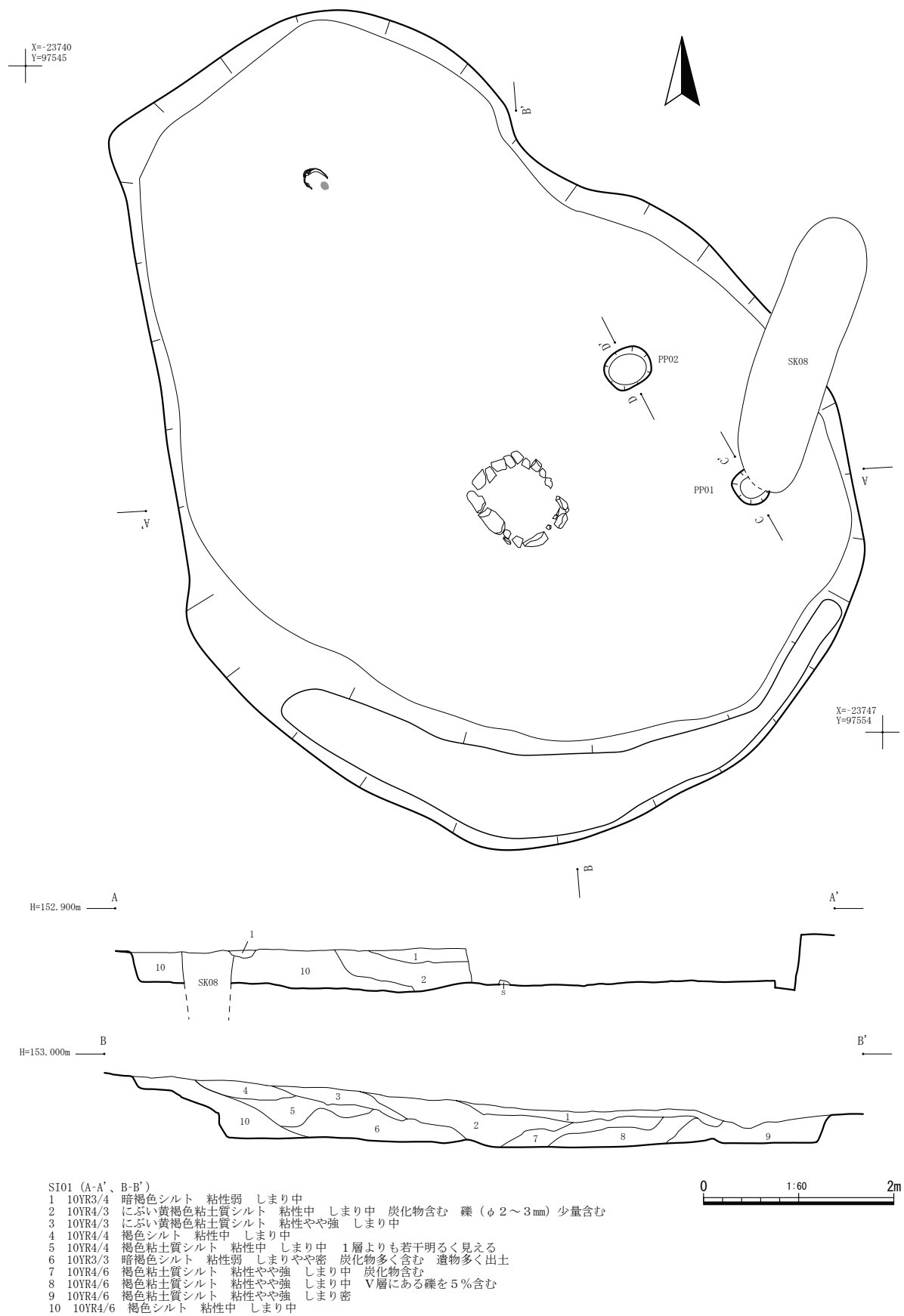
〈規模・形状〉 平面形は、開口部径が1.8mの円形を呈するものと考えられる。断面形はピーカー形を呈し、検出面から底面までの深さは65cmである。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉 褐色～黄褐色土が主体である。中位から上位にかけて、炭化物や焼土ブロックの混入が見られた。人為堆積の可能性はある。

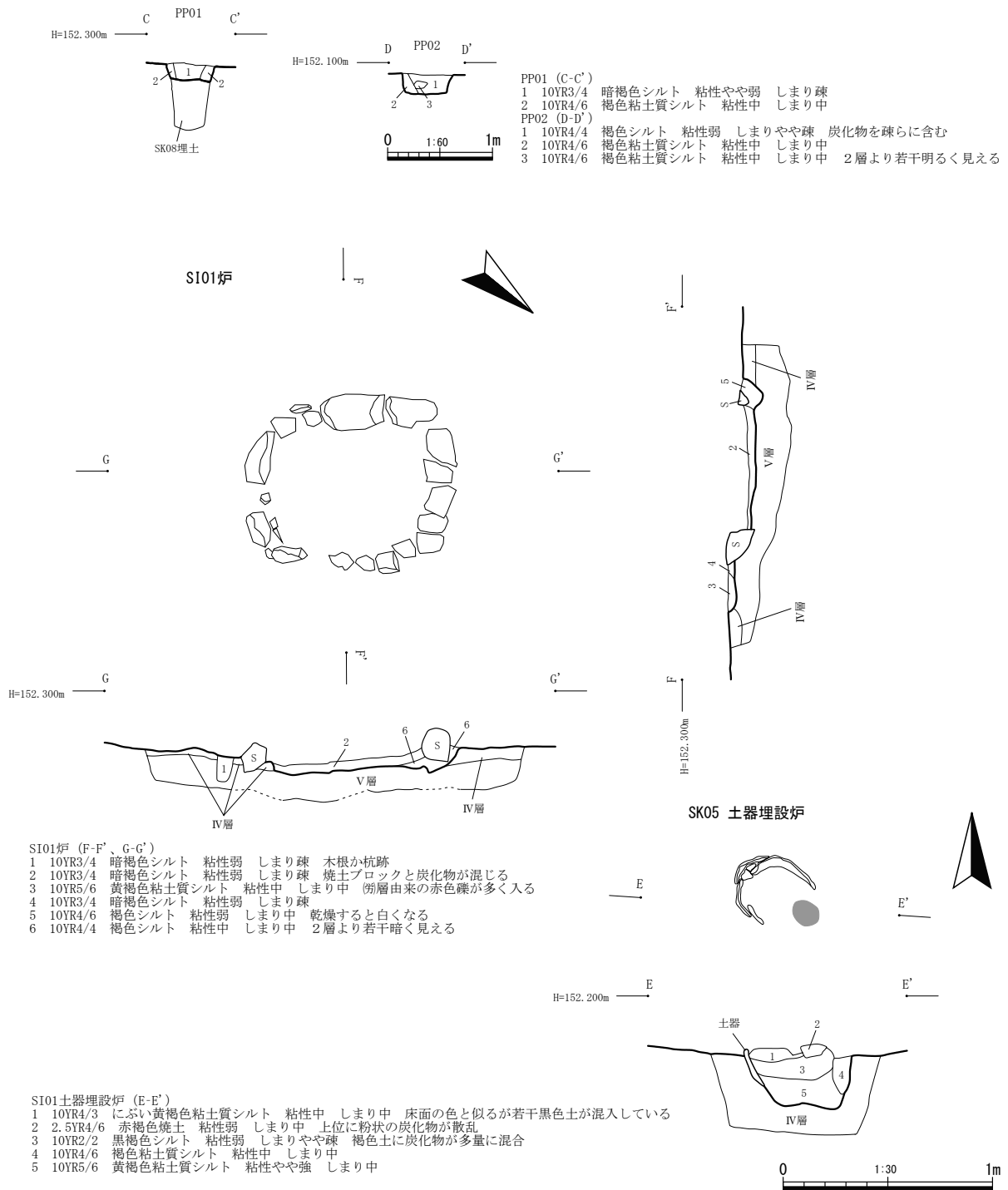
〈出土遺物〉 縄文土器が出土しており、8点を掲載した(第68・69図、写真図版67・68)。後期前葉のものが大勢を占めると思われる。

〈時期〉 出土遺物から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

2 検出遺構



第 63 図 SI01 (青野滝北II)



第 64 図 SI01 柱穴、石囲炉、土器埋設炉 (青野滝北II)

SK02 土坑 (第 65 図、写真図版 64)

〈位置〉 調査区北寄りの II B 2 i グリッドに位置する。

〈検出状況〉 検出面は III 層上面である。遺構検出作業時に褐色土の染み状の広がりとして確認した。

〈重複関係〉 SK07 と重複しており、本遺構が古い。

〈規模・形状〉 南半は SK07 により削平されているが、平面形は、開口部径が 1.9 m の円形を呈するものと考えられる。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは 27cm である。底面は北に向かっ

2 検出遺構

て緩やかに下っている。

〈埋土〉 褐色～にぶい黄褐色土が主体である。少量の炭化物粒を含む。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉 なし。

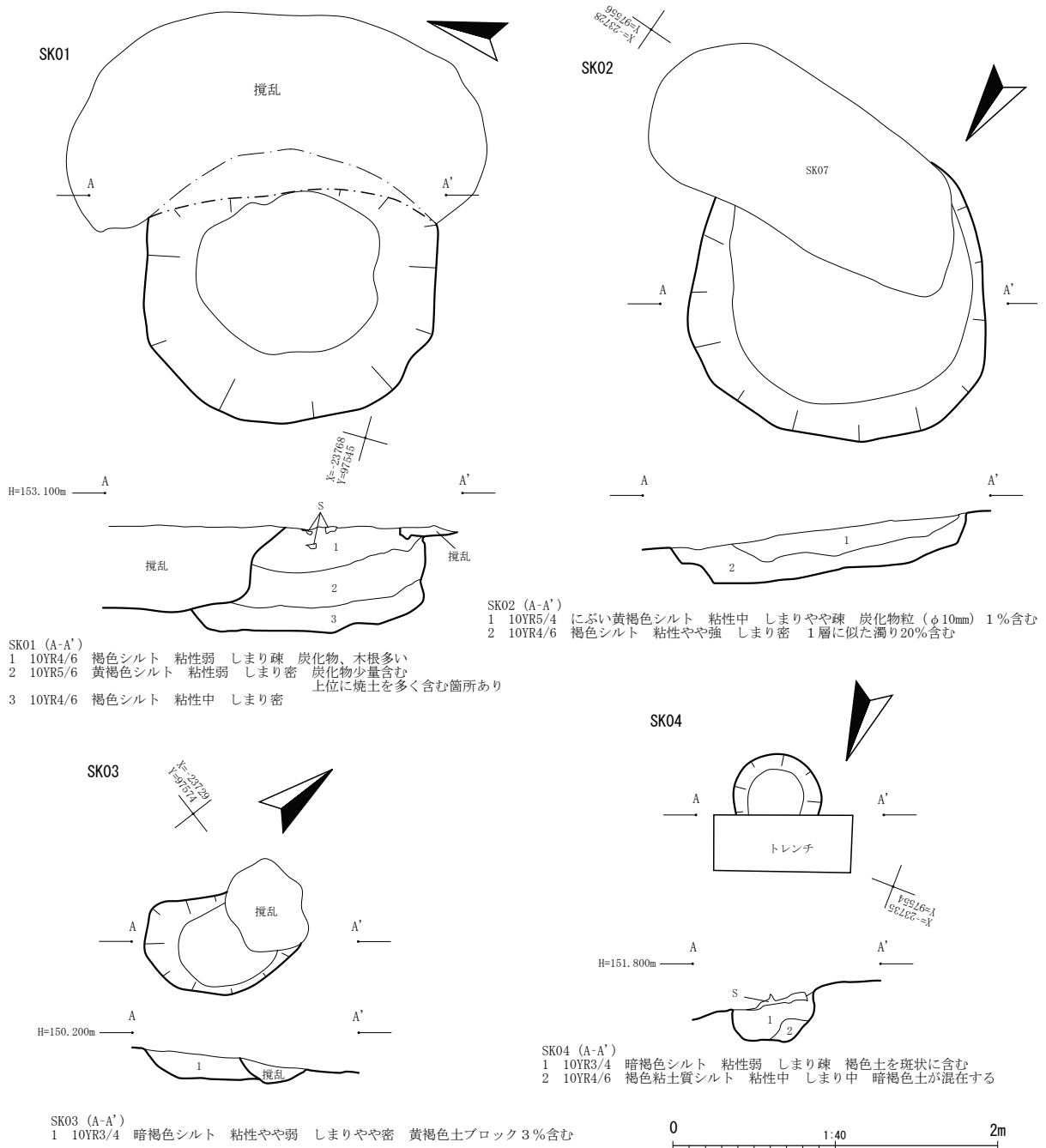
〈時期〉 不明である。

SK03 土坑（第 65 図、写真図版 64）

〈位置〉 調査区北東端のⅡC3dグリッドに位置する。

〈検出状況〉 検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に暗褐色土の染み状の広がりとして確認した。

〈重複関係〉 遺構との重複はないが、北側の一部は攪乱によって削平されている。



第 65 図 SK01、02、03、04（青野滝北Ⅱ）

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が0.9 m×0.6 mの楕円形を呈するものと考えられる。断面形は皿形を呈し、検出面から底面までの深さは15cmである。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉暗褐色土の単層である。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉不明である。

(鈴木博之)

SK04 土坑 (第 65 図、写真図版 64)

〈位置〉調査区中央部よりやや北側に下降する緩斜面上にある。ⅡB4i グリッドに位置する。

〈検出状況〉表土除去後の検出作業中、32cm×17cmの角礫が半分埋まった状態で検出された。特にプランは確認できなかったが念のため半裁した結果、埋土を確認し、土坑として精査した。

〈重複〉なし

〈規模・形状〉石の埋設状況を観察のために箱掘りしたことによりプランの半分は失われているが、平面形は径50cmほどの円形を呈すると考えられる。断面形は浅い鍋底状を呈し、検出面から最深で23cmを測る。Ⅲ層を掘り込んであり、底面は平坦である。

〈埋土〉暗褐色土を主体とするが、褐色土が斑状に混入しており人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉縄文土器が出土しており、1点を掲載した(第69図、写真図版68)。ミニチュア土器である。

〈時期〉縄文時代の遺構の可能性はある。

(古舘貞身)

SK06 土坑 (第 66 図、写真図版 65)

〈位置〉調査区南端のⅢB2g グリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時に薄い黒褐色土の広がりとして確認した。

〈重複関係〉なし。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が3.1 m×1.1 mの長楕円形を呈する。断面形はV字形を呈し、検出面から底面までの深さは98cmである。底面はほぼ平坦である。形態から、陥し穴状土坑と考えられる。

〈埋土〉3層に分層した。上位は黒褐色土、中～下位は褐色土である。最下層は地山が崩落して堆積したものと考えられる。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉形態と類似遺構の年代観から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

SK07 土坑 (第 66 図、写真図版 65)

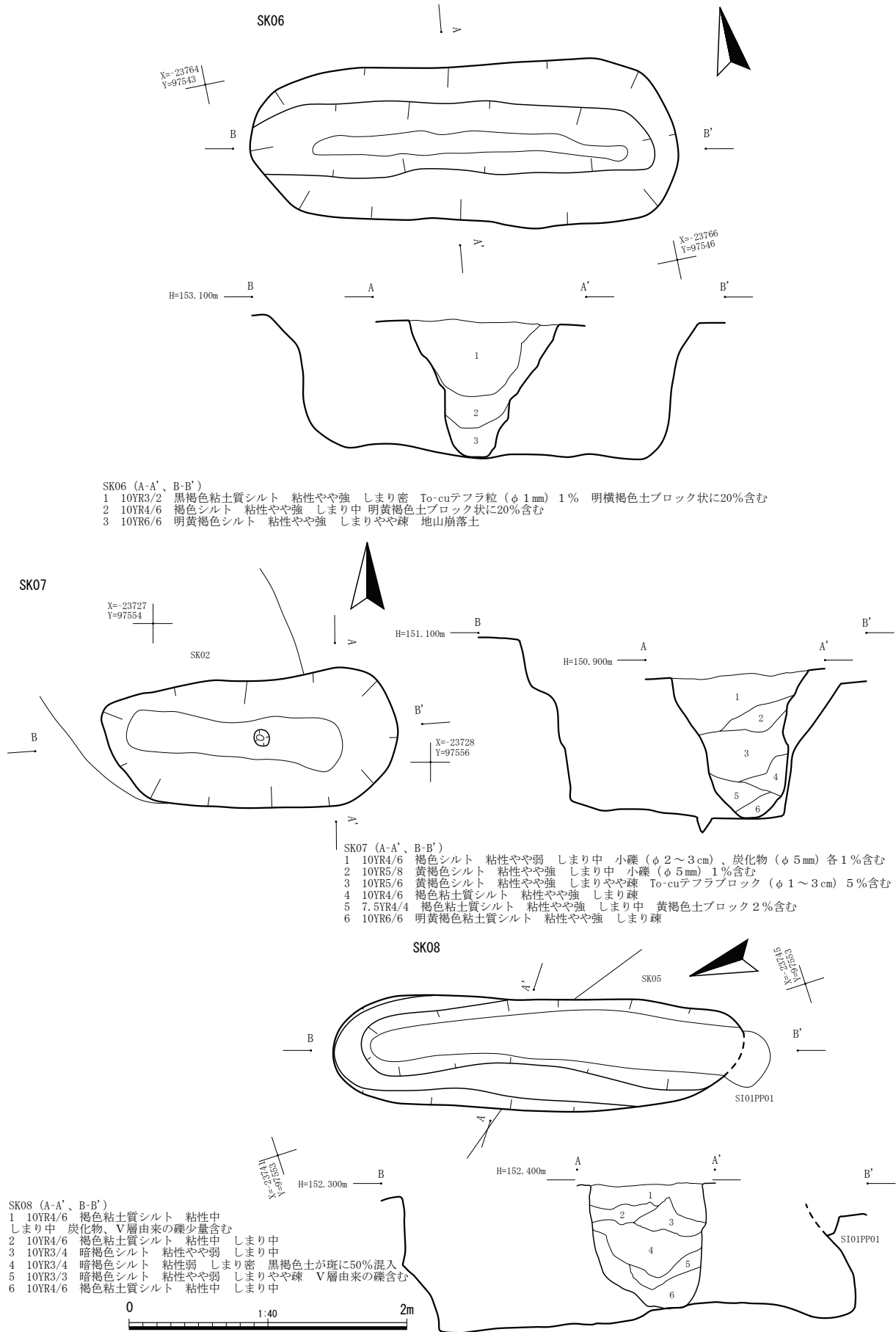
〈位置〉調査区北寄りのⅡB2i グリッドに位置する。

〈検出状況〉検出面はⅢ層上面である。遺構検出作業時には検出プランを確認できなかったが、SK02の埋土下位に異質の堆積土があることに気づき、SK02と重複していた本遺構を認識した。

〈重複関係〉SK02と重複し、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉平面形は、開口部径が2.1 m×0.9 mの歪な長楕円形を呈する。断面形はV字形を呈し、検出面から底面までの深さは100cmである。底面はほぼ平坦であるが、径が13cm×11cm、深さが10cmの副穴を持つ。形態から、陥し穴状土坑と考えられる。

2 検出遺構



第 66 図 SK06、07、08 (青野滝北Ⅱ)

〈埋土〉6層に分層した。褐色～黄褐色が主体である。最下層は地山が崩落して堆積したものと考えられる。自然堆積の様相を呈する。

〈出土遺物〉なし。

〈時期〉形態と類似遺構の年代観から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

(鈴木博之)

SK08 土坑 (第 66 図、写真図版 65)

〈位置〉調査区中央部Ⅱ B 6 i グリッドに位置する。

〈検出状況〉SI01 の床面で検出したが、SI01 に設定したベルト断面と東側立ち上がりにも本遺構の埋土が観察できたことから、本来の検出面はⅢ層上面と考えられる。

〈重複〉SI01 と重複しており、本遺構が新しい。

〈規模・形状〉開口部径 2.8 m × 0.8 m の長楕円形を呈する。南端部は SI01 の柱穴 (PP01) の下部を切っている。北端部は試掘トレンチに切られている。断面形は U 字形を呈し、深さは 90cm である。Ⅳ層・Ⅴ層を掘り込んでおり底面はⅤ層の礫混じりの堅い面となっている。

〈埋土〉黒褐色土、暗褐色土が中心となるが、上位にⅢ層に似た褐色土が堆積する。

〈出土遺物〉縄文土器が出土しており、1 点を掲載した (第 69 図、写真図版 68)。ミニチュア土器である。

〈時期〉SI01 との重複関係から、縄文時代中期以降の遺構と考えられる。

(古館貞身)

3 出土遺物

(1) 縄文～弥生土器 (第 66 図～第 70 図、写真図版 66～71、観察表は図版)

概要 大コンテナ (32 × 42 × 30cm) 約 4 箱 (接合前) 出土した。青野滝北Ⅰ遺跡と同様、縄文時代中期後葉～末 (大木 9～10 式前半) が多いが、後期前葉 (螢沢式～十腰内Ⅰ式古段階) 土器も比較的多く、また小片だが早期中葉 (貝殻文期) も比較的多く出土している。その他、縄文時代前期、弥生時代の可能性のある破片が僅かに見られる。

整理状況・掲載基準 作業員 4～5 名で約 3 日間接合作業を行った。作業台は 2 × 8 m と狭かったが、あまり問題はなかったと思われる。掲載基準としては、有文土器については 5 × 5 cm 以上が目安となるが、青野滝北Ⅰ遺跡同様、文様のある土器が少なかったため、小さめの破片も多めに掲載している。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→” は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付” は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺構の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

出土土器の特徴 縄文時代早期貝殻文土器の内面調整が丁寧なのが印象に残った。

特徴的な土器・異形土器・小型土器 15、29、30、82、83 は、小型土器である。83 は、切断蓋付土器か。

時期・型式 最も多く、また粗製土器で時期の特定できないものの中にも多く含まれていると思われる縄文時代中期後葉～末は後で述べる。

早期は、全て中葉貝殻文期で、3?、4、6、8、12?、13、14??、16～19、58、59、62、84

が相当する。小破片のため土器型式は特定しにくい、白浜式が主体を占めるようだ。約2km南にある小堀内I遺跡と同様である（(財)岩手県埋蔵文化財センター 1983）。

後期は、前葉のみで、21?、22?、39、40、43、46、47?、50?、65?、68、71、77、81、83?は、蜃沢式、26、55、64??（大木8b式?）は、蜃沢式～十腰内I式古段階と思われる。

52は、縄文時代前期前葉、78は弥生時代の可能性がある。

以上の他は、多くが縄文時代中期後葉～末と思われる。1、5、9、41、42?、48（大木8b式最新?）、54、56、66、67、73（大木8b式最新?）、10、11（大木8b式最新?）、20は、大木9式。

(a) 遺構内出土の土器（第67図1～第69図34）

SI01住居跡から出土した土器は、残りの良いものは大木9～10式前半である。SK01土坑出土土器は、後期前葉蜃沢式期にほぼ限定される。SK04、05土坑出土土器も、ほぼ同時期か。

(b) 遺構外出土の土器（第69図35～第71図84）

遺構内と顕著な違いは認められないが、中期後葉～末より後期前葉の方が多いか。31～34は、粗製土器ばかりだが、中期末か。

（金子昭彦）

参考文献

(財)岩手県埋蔵文化財センター 1983『小堀内I遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第52集

(2) 土製品（第71図、写真図版71、観察表は図版）

円盤状土製品が1点(85)出土している。土器片の断面を整形して円盤状に加工したものである。遺構外からの出土であるが、他の出土遺物から推測して、縄文時代中期の遺物と考えられる。

(3) 石器（第72～76図、写真図版72～76、第4表）

石鏃(86～91) 6点出土しており全点掲載した。4点はほぼ完形である。88は先端部に僅かな欠けがあり、基部に付着物が見られる。装着剤の可能性がある。

石錐(92～93) 2点の出土である。92はつまみ部分の両面に付着物が見られる。93は摘み部の大きさに対し錐部が極端に短く、特に欠けた跡が見られないためこのサイズでの使用だったようである。

石匙(94) 1点出土している。縦型であるが下半を欠き全形は推測である。抉り部はしっかり作られている。

削器(95) 1点出土している。写真のみの掲載である。縁辺部に加工が施されているが、使用は先端部と片側面と思われる。なおこれらはすべて頁岩である。

石斧類(96～112) 残りの良いものを選んで17点掲載した。SI01の埋土から多く出土している。96は形状で石斧類に分類したが、剥離面等を考慮すると違い器種の未製品となるかもしれない。103、111のみ打製石斧で他はすべて磨製石斧である。完形品は109、110、111のみである。磨製石斧で刃部の残りの良いものは109、110、112であり、顕著な使用痕が認められるものは101、106、108である。

磨石(113～129) 17点掲載した。ほとんどが扁平で円形基調のものであり表裏面に磨きのような磨面をもつものであるが、例外的なものをここでは列挙する。113は三角錐に近い形状の底面に磨面が形成されている。114は扁平な楕円基調で表裏面の磨りの他に凹みが形成されておりさらに両側

縁に粗い磨面が形成されている。115は円礫に近い多面体で、それぞれの面に磨痕がある。116は特殊磨石の破片かもしれない。118は磨きのような磨面と、粗い磨面を持つ。119は表面に黒色のシミが広がっている。

特殊磨石（130～135） 6点掲載した。いずれも長円形のもので600g以上990g以内におさまる。完形のもの130、133、134の3点で、他の3点は欠損している。磨面の幅で2分類できそうである。No.130と132は磨面の幅が2cm以内で、磨面と自然面の境目の稜線がはっきりしない。これに対し他の4点は2.5～3cmと厚い磨面が形成されており、自然面との境の稜線もはっきりしている。131は磨面と自然面の境界線上に剥離が見られ、意図的にこの箇所が敲かれている。さらに先端部に刃部形成の加工痕が見られ使用痕も観察される。

敲石（136～141） 6点掲載した。136は円形に近いもので、側面の一箇所を残してほぼ全面に細かい敲痕がめぐる。137は扁平な細長な形状であるが短軸側縁部の中央部に敲打痕があり一部剥離面も見られる。138は半円状で扁平である。側面全周に敲痕と擦痕が見られる。139、140、141はいずれも先端部に敲痕をもつものである。石質は斑岩と砂岩である。

石皿（142～143） いずれも欠損で全体像を窺い知れない。石質は砂岩で産地は宮古層群ということで、遺跡の近辺で手に入るものである。142は湾曲している内側が使用面で、きれいに擦られている。背面の状況から端のコーナー部分と思われる。143は両面に使用面が形成されている。厚さは厚いところで5cm、薄いところで1cmとなる。表裏で使用方向が違うようである。

（4）石製品（第77図、写真図版76、第5表）

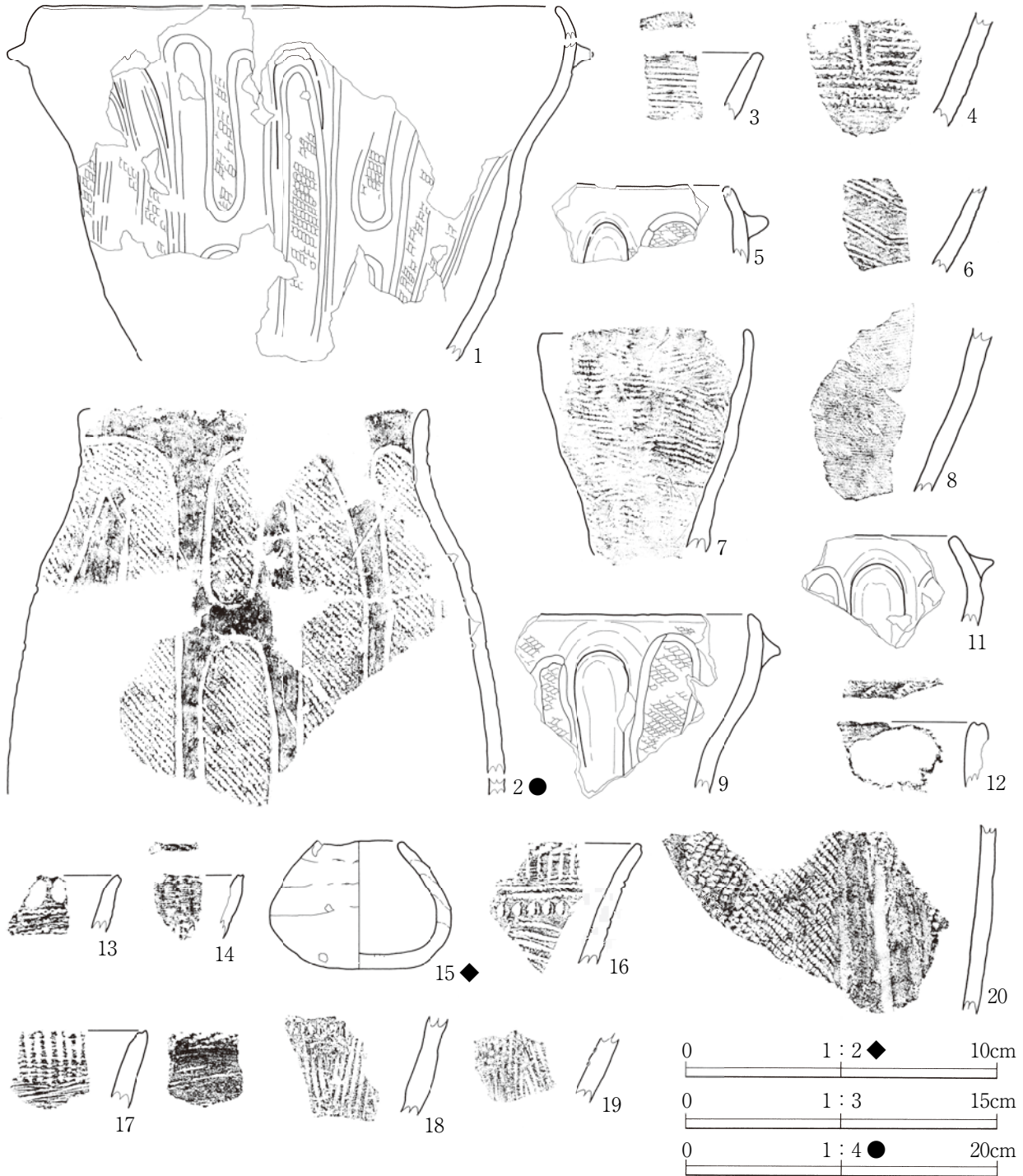
滑石製の有孔垂飾品とその未成品及び未加工の石材が合計27点、石刀が2点出土している。

滑石製の有孔垂飾品と未成品は4点掲載した。孔が貫通しているものが2点（144、147）、穿孔途中のものが2点（145、146）である。いずれも両面から穿孔している。これらは整形する前に穿孔しているものと、穿孔してから整形しようとしているものに分けられる。滑石の産地は早池峰山周辺、もしくは岩泉町有芸周辺の鑑定結果が出た。

石刀は2点（148、149）を掲載した。いずれも折損しているが、扁平な棒状の形態で、石材は北上山地のホルンフェルスが用いられている。

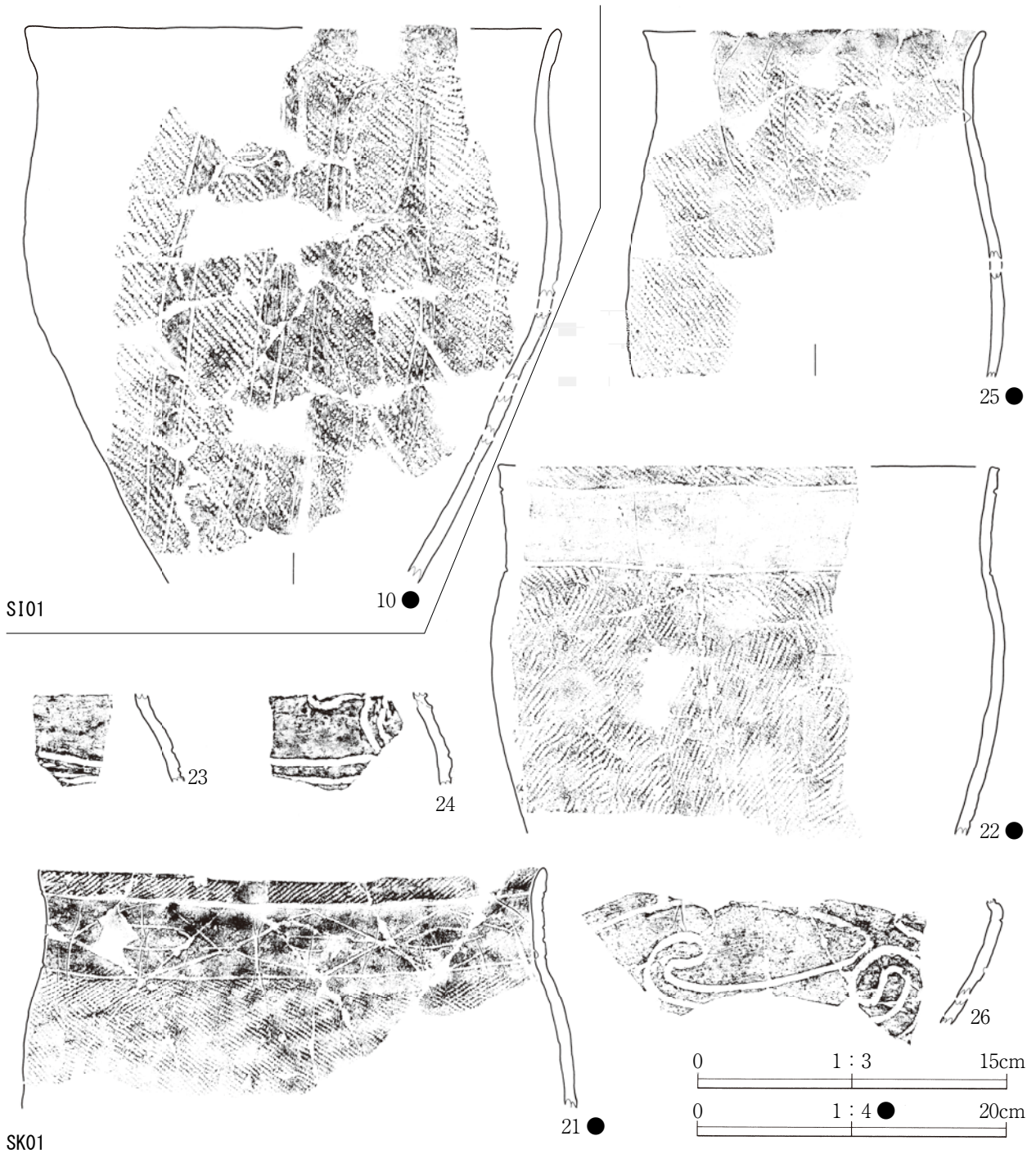
（古舘貞身）

3 出土遺物



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
1	SI01	深鉢(1/3周未滿)	高い弧状隆帯・LRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着、二次焼成
2	SI01	深鉢(2/3周未滿)	文様8単位?・LRタテ→太く浅い沈線(*外面黒斑?)	ナデ	外面スス付着、二次焼成。内面ただれ
3	SI01	?・口縁部	口唇LRヨコ?ノ押型文?	ミガキ?	
4	SI01	深鉢・胴部	貝殻腹縁文	ナデ滑らか	
5	SI01	深鉢・口縁部	非常に高い弧状隆帯・LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	外面スス、内面コゲ付着
6	SI01	深鉢・胴部	押型文	ナデ滑らか	
7	SI01	鉢(1/2周未滿)	LRナナメ	ナデ	外面スス二次焼成、内面コゲ多い
8	SI01	深鉢・胴部	貝殻条痕文	ナデ	
9	SI01	深鉢・口縁部	高い弧状隆帯・LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	外上スス付着、下二次焼成
11	SI01	深鉢・口縁部	非常に高い弧状隆帯・太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着
12	SI01	深鉢・口縁部	口唇圧痕(?)	ナデ	外面剥落
13	SI01	深鉢・口縁部	指頭状圧痕・貝殻腹縁文?	ナデ	
14	SI01	深鉢・口縁部	口唇貝殻腹縁文?ノ何かの圧痕	ナデ	内面剥落
15	SI01土器埋設炉周辺・埋土下位	小型(一部欠損)	ナデ滑らか	ナデ	
16	SI01土器埋設炉周辺・埋土下位	深鉢・口縁部	貝殻縁文・爪形文	ナデ滑らか	
17	SI01土器埋設炉周辺・埋土下位	深鉢・口縁部	口唇~貝殻腹縁文?・貝殻条痕?	ナデ	
18	SI01土器埋設炉周辺・埋土下位	深鉢・胴部	貝殻条痕	ナデ	内面コゲ付着?
19	SI01土器埋設炉周辺・埋土下位	深鉢・胴部	貝殻条痕	ナデ	内面焼けはじけ?
20	SI01土器埋設炉	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス、内面コゲ付着

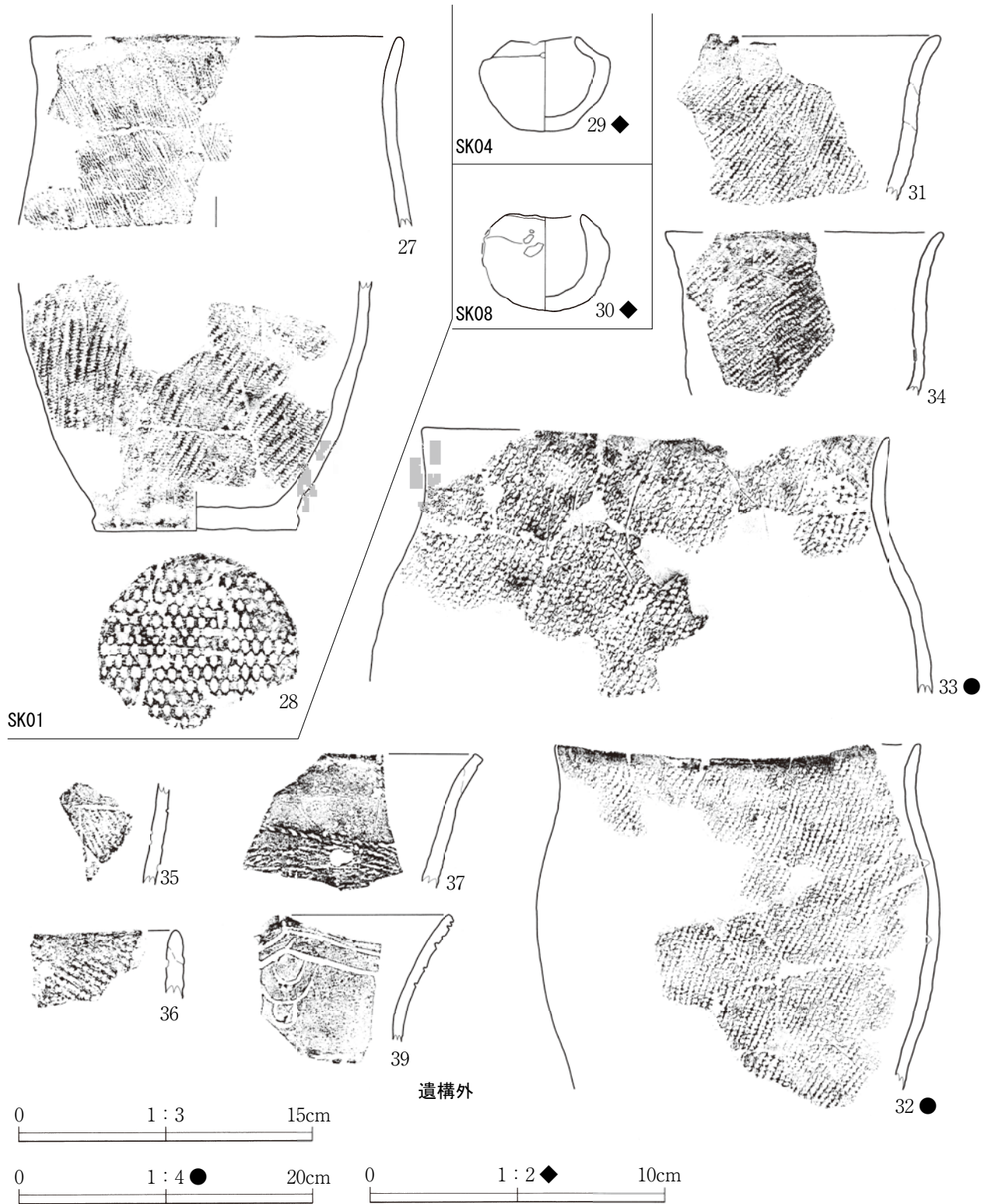
第 67 図 遺構内出土土器 (1) (青野滝北II)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
10	SI01?? (水洗中袋不明)	深鉢(1/4周末満)	LRタテ→太く浅い沈線ナデ・縄文消し忘れ	ナデ	外面スス付着
21	SK01	深鉢(口縁略一周)	文様8単位?・LR上ヨコ、下タテ・細く浅い沈線	ナデ	外スス、二次焼成ひどい。内面ただれ
22	SK01	深鉢(1/5周末満)	RL上ヨコ、下タテ→太く浅い沈線	ナデ	外スス多、二次焼成。内コゲ焼けはじけ?
23	SK01	?・胴部	太め浅め沈線	ナデ滑らか	外面スス付着
24	SK01	深鉢?・頸部?	太め沈線	ナデ	外面スス付着
25	SK01	深鉢(1/5周末満)	口縁無文/LRタテ	ナデ滑らか	外黒斑? 外面二次焼成
26	SK01	深鉢?・胴部		ナデ滑らか	

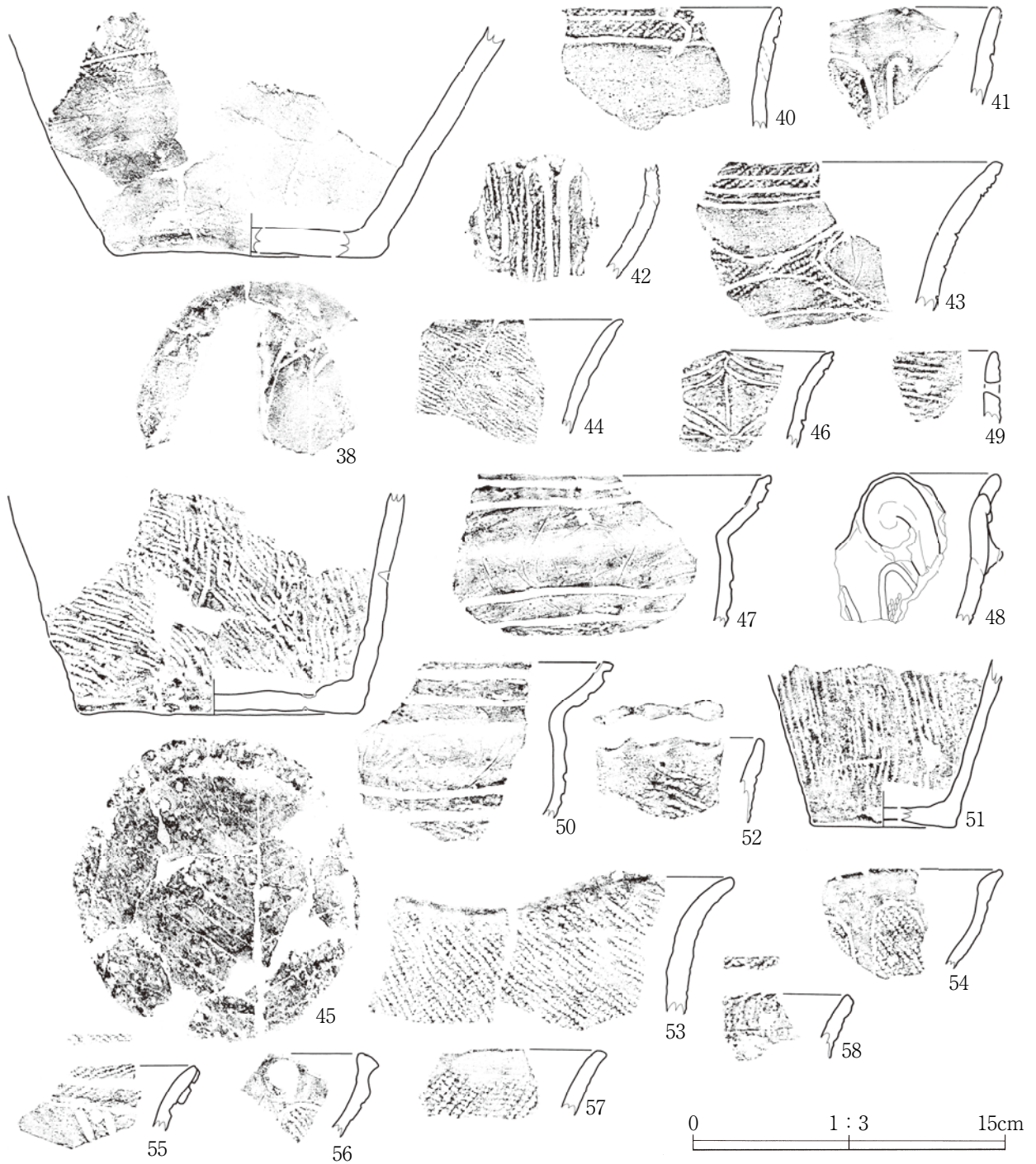
第 68 図 遺構内出土土器 (2) (青野滝北II)

3 出土遺物



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
27	SK01	深鉢・口縁部	単軸絡1(R)ナナメ?	ナデ滑らか	外面スス附着。下の割口粘土接合面剥離
28	SK01	深鉢(底2/3周)	底部ナデ→RL0段多条タテ/底面:網代痕	摩耗	外スス二次焼成。内面コゲただけ
29	SK04南半・埋土	小型(完形)	ナデ滑らか・丸底で転がる	ナデ	内外スス附着?
30	SK08・埋土上位	小型(完形)	ナデ	ナデ	
31	ⅢB3fグリッド	深鉢・口縁部	口縁無文/RLタテ	ナデ	
32	ⅢB3fグリッド	深鉢(1/4周未満)	RLタテ	ナデ	外面スス附着。内面コゲ附着
33	ⅢB3fグリッド	深鉢(1/4周未満)	RLRタテ	ナデ	外面二次焼成。内面コゲ附着
34	ⅢB3fグリッド	深鉢・口縁部	RLタテ	ナデ	
35	トレンチ1 南西側	深鉢・胴部	LRタテ→細く深い沈線	ナデ	
36	トレンチ1 南西側	深鉢・口縁部	口縁無文/LRタテ	摩耗	
37	トレンチ1 南西側	深鉢・口縁部	口縁L側面圧痕?/Lタテ?	ナデ	
39	トレンチ1・II層	深鉢・口縁部	口縁突起/細め深い沈線雑	ナデ	

第69図 遺構内出土土器(3)・遺構外出土土器(1)(青野滝北II)



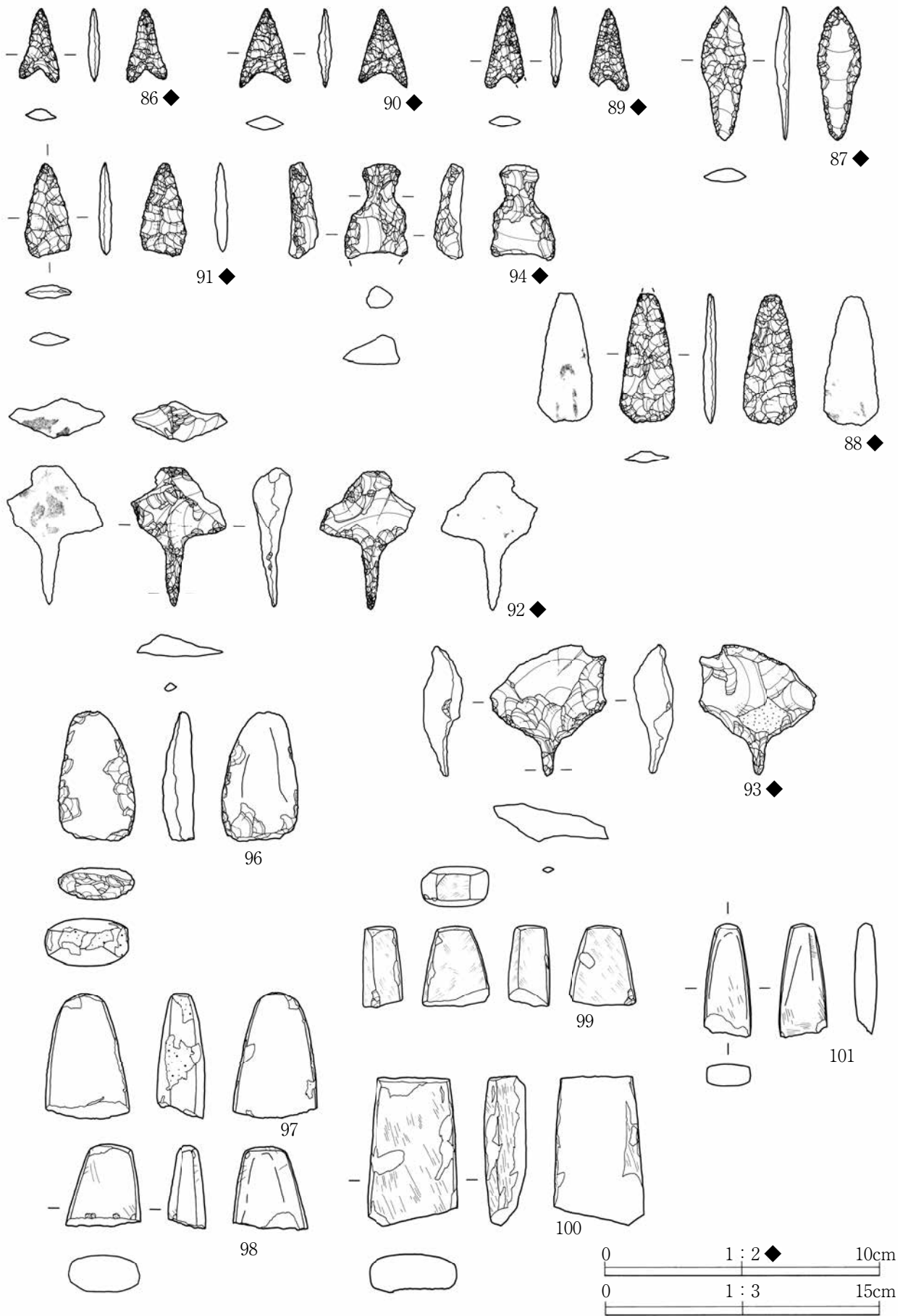
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
38	トレンチ1	深鉢(2/3周未満)	LRタテ→底部ナデ/底面:木葉痕	ナデ	内面摩耗
40	トレンチ1・II層	深鉢・口縁部	LRヨコ→太い沈線	ナデ	
41	トレンチ1・表土下	深鉢・口縁部	口縁突起/RLタテ→太い沈線ナデ・縄文消し忘れ・ミガキ?	ミガキ?	
42	トレンチ1・表土下	深鉢・頸部?	単軸絡1(L)タテ?→太く浅い沈線	ナデ滑らか	
43	トレンチ1・表土下	深鉢・口縁部	LRヨコ→細く深い沈線・縄文消し忘れ	ナデ	下の割口粘土接合面剥離。外面スス
44	トレンチ1・表土下・生文課トレ西側	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	内面摩耗
45	トレンチ1~2中間E側	深鉢(底略一周)	Lタテ/底面:木葉痕	ナデ	内面コゲ付着、摩耗
46	トレンチ1~2中間E側	深鉢・口縁部	細く深い沈線雑	ナデ	
47	トレンチ1~2中間E側	深鉢・口縁部	太く深め沈線雑	ナデ滑らか	外面スス付着
48	トレンチ1~2東端	深鉢・口縁部	口縁突起・凹凸高低差大・縄文原体不明	ナデ滑らか	外面摩耗
49	トレンチ1~2東端	深鉢・口縁部	Lタテ	ナデ	補修孔
50	トレンチ1~2中間E	深鉢・口縁部	LRタテ?→太く深い沈線	ナデ	外面スス付着
51	トレンチ1~2中間E	深鉢(1/3周以下)	単軸絡1(R)タテ→底部~底面ナデ	ナデ	外面二次焼成。内面コゲ付着
52	トレンチ1~2東側	深鉢・口縁部	口唇強い押圧列/Lタテ	ナデ	外面スス付着
53	トレンチ1~2西側・トレンチ6~7中間	深鉢・口縁部	口縁突起/LRタテ	ナデ	外面スス付着。内面焼けはじけ?
54	トレンチ1~2西側	深鉢・口縁部	LRタテ→浅い沈線	ナデ	外下二次焼成赤い。内面コゲ付着
55	トレンチ1~2間	深鉢・口縁部	口唇ほかLRヨコ→太く深い沈線・竹管状工具による刺突	ミガキ?	
56	トレンチ1~2	深鉢・口縁部	口縁突起/LRタテ→浅い沈線	ミガキ?	
57	トレンチ1~2	深鉢・口縁部	口縁無文/RLRタテ	ナデ滑らか	
58	トレンチ2・III層	深鉢・口縁部	口唇→貝殻腹縁文	ナデ	

第70図 遺構外出土土器(2)(青野滝北II)

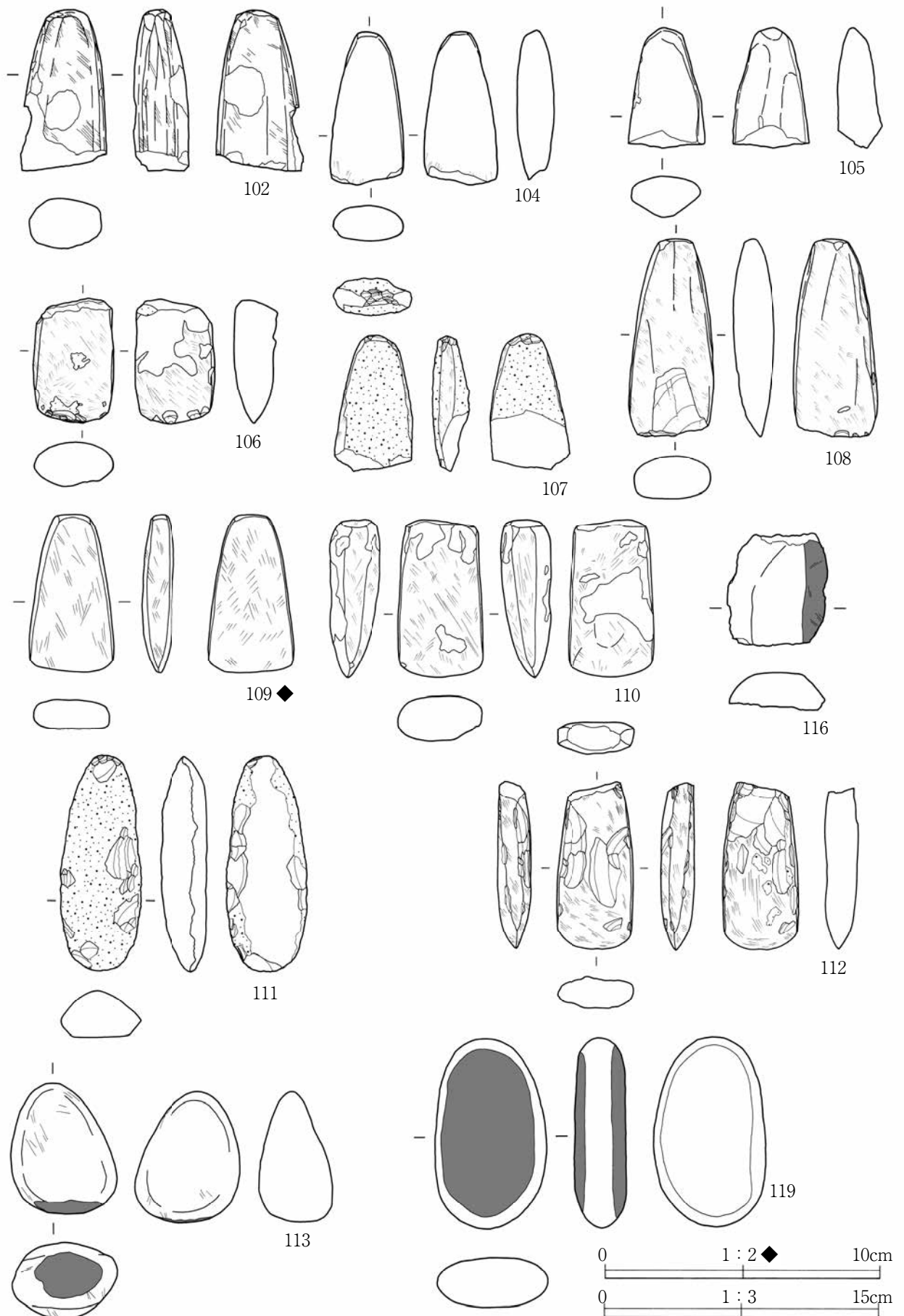


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
59	トレンチ2・Ⅲ層	深鉢・胴部	貝殻腹縁文	ナデ	内面摩耗
60	トレンチ2～3間	深鉢・口縁部	口縁反る/RLタテ	ナデ	外面スス付着
61	トレンチ2～3間	深鉢・口縁部	口唇押圧/高い隆帯・縄文原体不明	ナデ	
62	トレンチ4・Ⅲ層	深鉢・口縁部	貝殻腹縁文	ナデ	内面摩耗
63	トレンチ7	深鉢・口縁部	折り返し口縁無文/RLタテ	ナデ?	内外摩耗
64	南側・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	橋状把手	摩耗	
65	南側・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	波状口縁頂部刻目2/LRタテ→細く深い沈線雑・刺突	ナデ	外面スス付着
66	南側・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	口縁突起/RLタテ→太い沈線ナデ	ミガキ?	
67	南側・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	単軸絡1(L)タテ→太く浅い沈線ナデ	ナデ	外面スス付着。内面コゲ付着
68	南側・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	口縁突起/単軸絡1(R)ナメ→浅い雑な沈線	摩耗	外面スス付着
69	南側	深鉢(底一周)	底部ナデ光沢/底面:網代痕	ナデ	外面スス付着。内面底摩耗ひどい
70	中央部東側	深鉢・口縁部	口唇ナデ/隆帯上刻目列	ナデ	外面スス付着
71	中央部西側	深鉢・口縁部	口唇～LRヨコ→太く深い沈線	ナデ	
72	中央部西側	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
73	北側・Ⅲ層	深鉢・口縁部	高い隆帯・深い沈線・刺突列	ミガキ?	
74	Ⅲ層南東側	深鉢・口縁部	RLタテ	ミガキ?	外面黒～灰、内面赤褐色
75	Ⅲ層南東側	深鉢・口縁部	RLタテ	ナデ	
76	トレンチ1・Ⅲ層上位	鉢(口縁略一周)	口縁無文/単軸絡1(R)タテ→底部～底面ナデ	ナデ	内面コゲ付着?
77	生文課トレンチ内	深鉢・口縁部	RLタテ→太く深い沈線	ナデ	外面スス付着
78	生文課トレンチ西側	壺?(1/3周未滿)	ミガキというよりケズリに近い	ミガキ?	
79	生文課トレンチ～トレンチ2	深鉢・口縁部	雑な沈線・光沢	ミガキ光沢	
80	トレンチ1～生文課トレンチ中間	深鉢・口縁部	RLタテ	ナデ	
81	南西部	深鉢・口縁部	LRヨコ	ナデ	
82	トレンチ1～2間・Ⅲ層	小型壺?・口縁部	ナデ	ナデ	
83	トレンチ1～2間・Ⅲ層	小型壺?(1/3周未滿)	隆帯・ナデ	ナデ	切断蓋付土器?
84	(ⅢB4e)南側・Ⅲ層上面検出時	深鉢・底部	貝殻腹縁文・ミガキ?光沢	ナデ	
85	トレンチ1・Ⅲ層				土製品20.0g

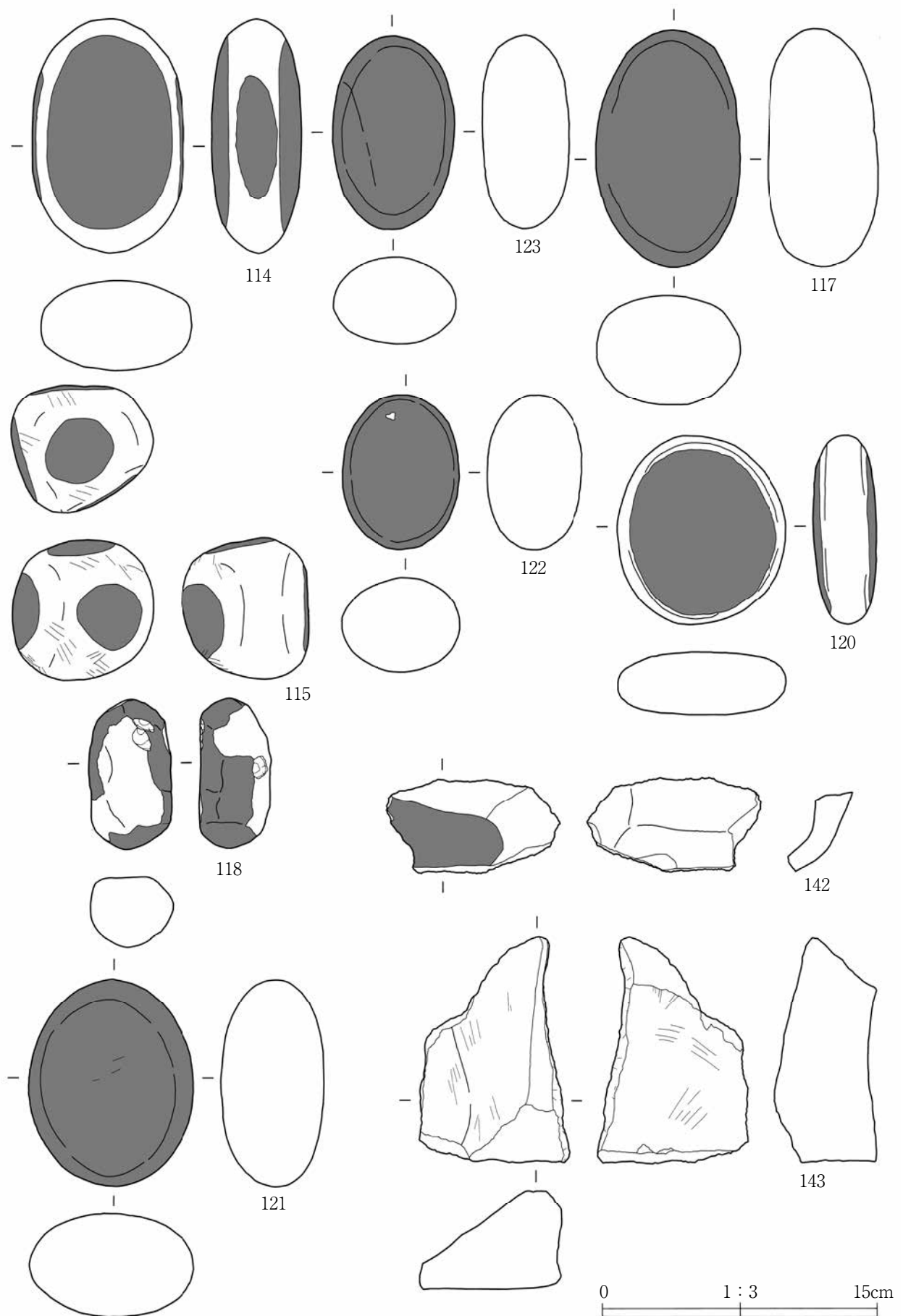
第71図 遺構外出土土器(3)・土製品(青野滝北Ⅱ)



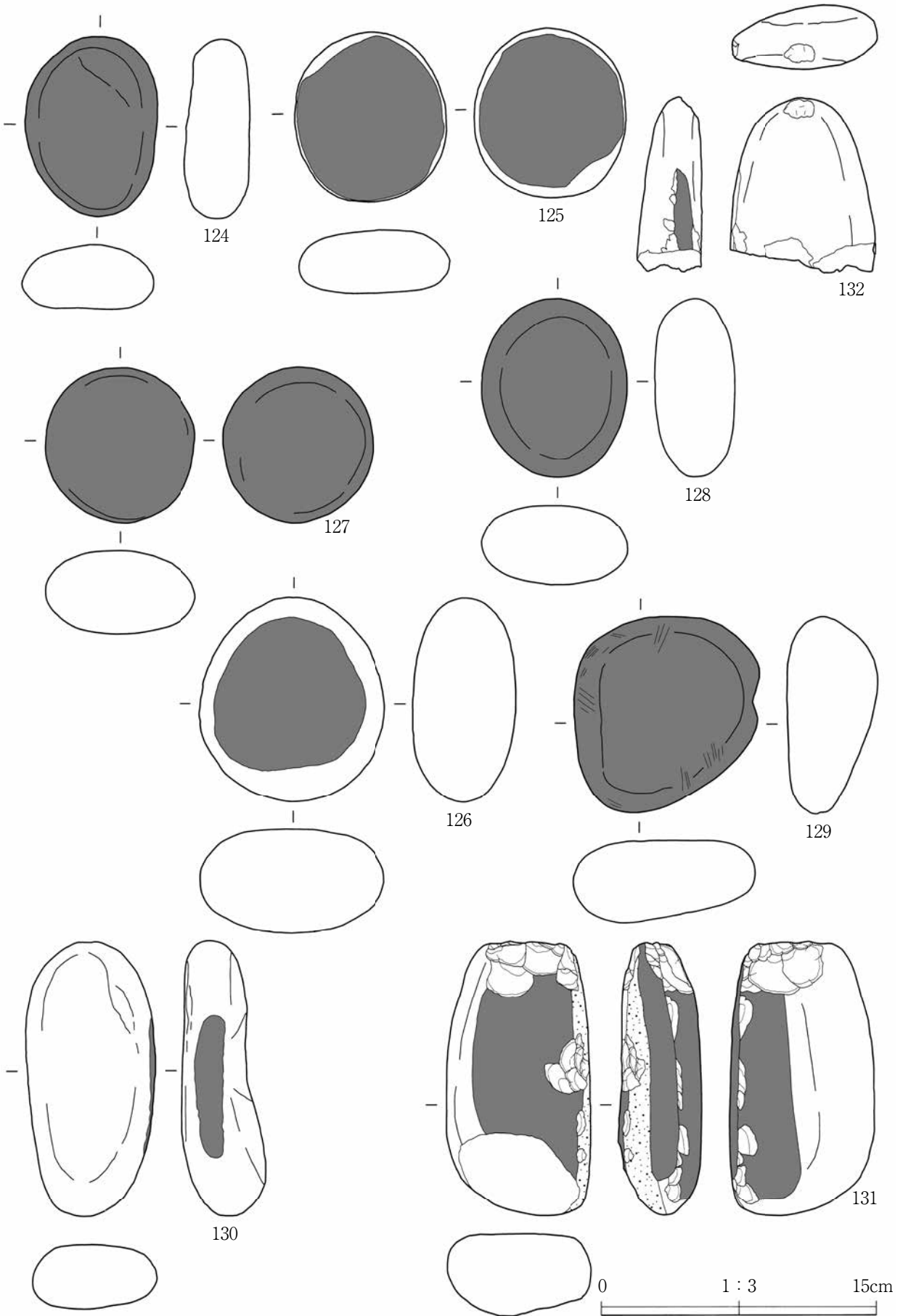
第72図 石器(1)(青野滝北Ⅱ)



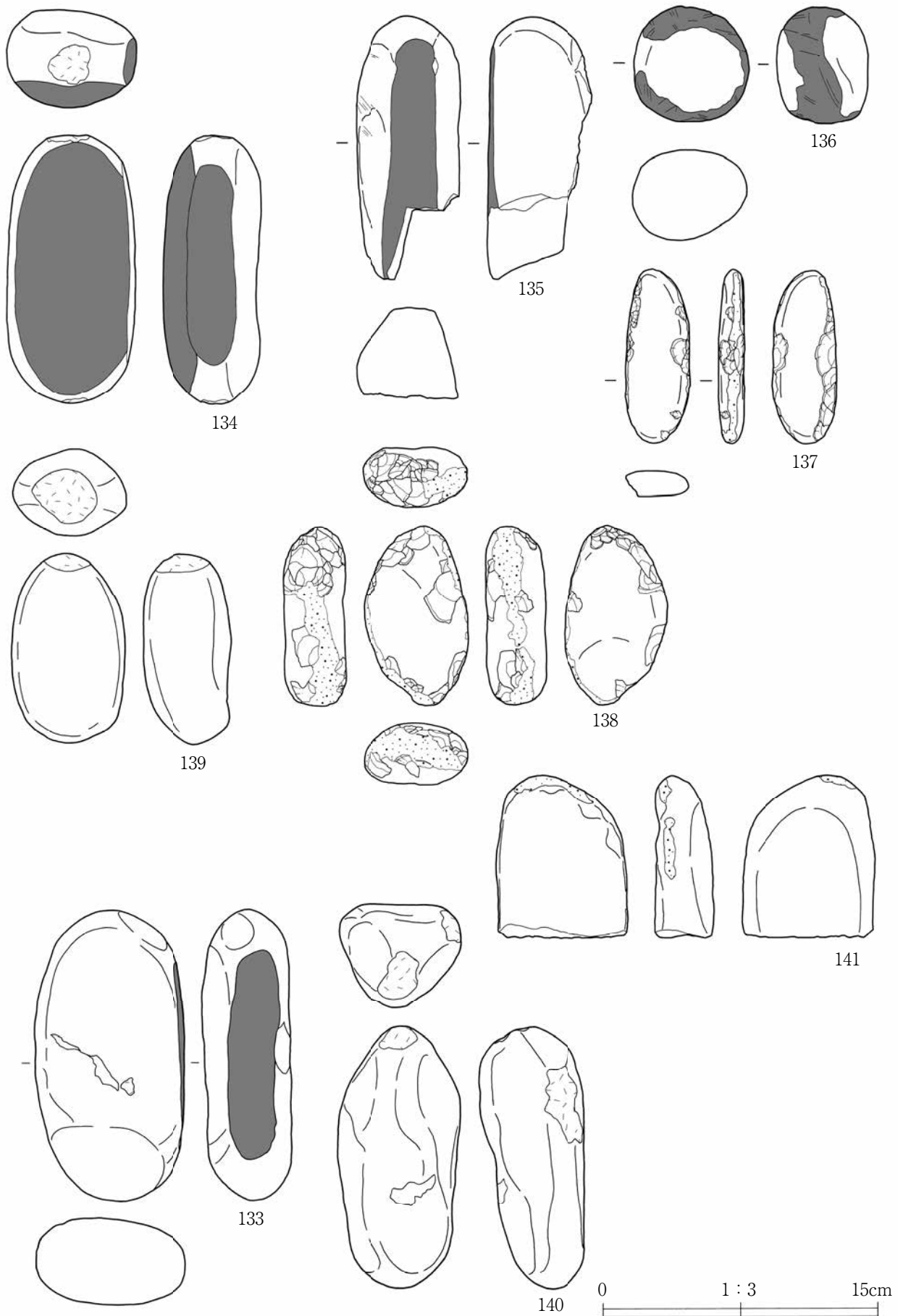
第 73 図 石器 (2) (青野滝北Ⅱ)



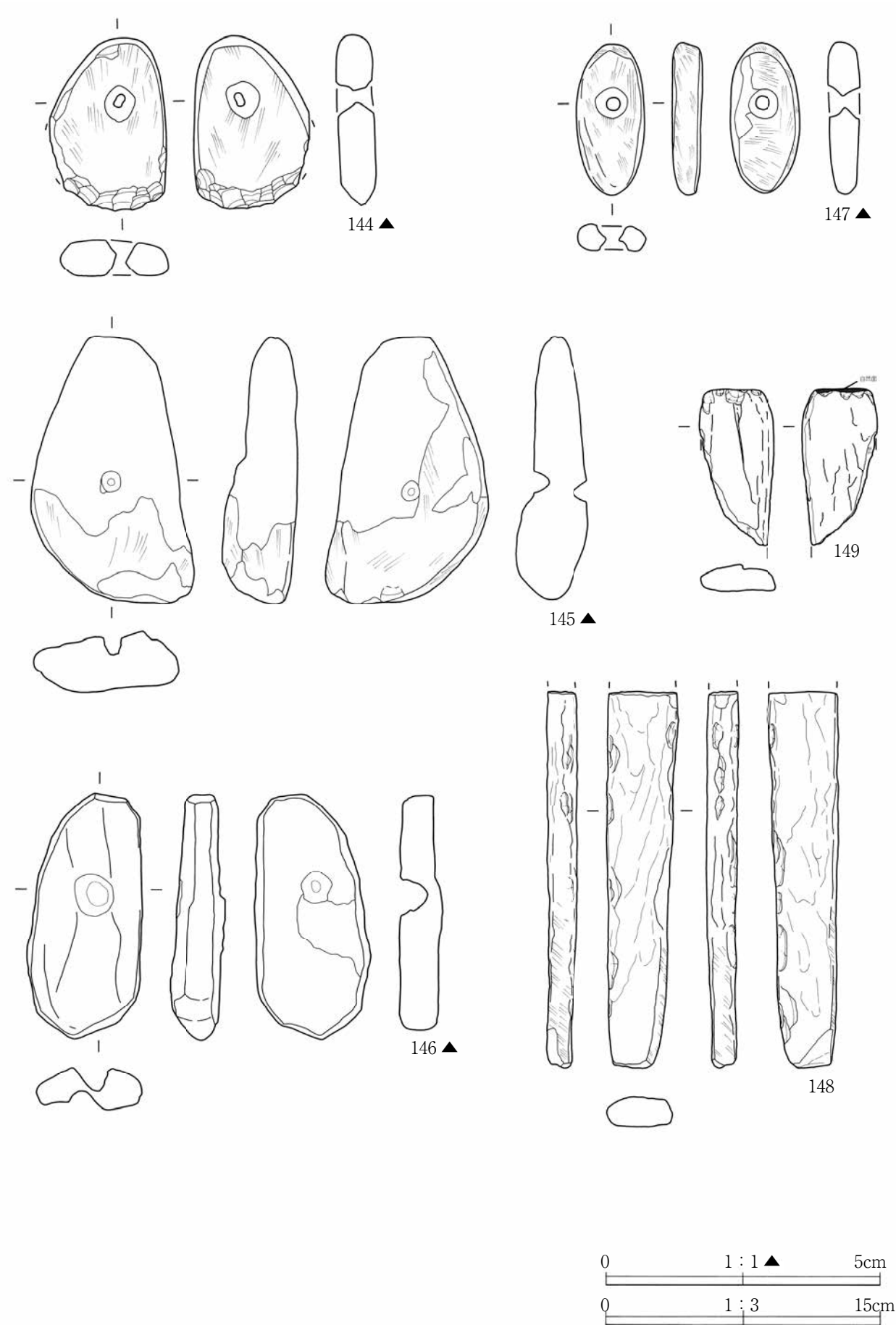
第74図 石器(3)(青野滝北Ⅱ)



第75図 石器(4)(青野滝北Ⅱ)



第76図 石器(5)(青野滝北Ⅱ)



第 77 図 石製品 (青野滝北Ⅱ)

第4表 石器観察表(青野滝北II)

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重さ[g]			
86	72	72	SI01西側・床	石鏃	2.60	1.42	0.40	0.98	頁岩	北上山地	完形 凹基
87	72	72	SI01西側・床	石鏃	4.82	1.60	0.50	3.34	頁岩	北上山地	完形 有茎
88	72	72	SI01北東ブロック・埋土	石鏃	(4.70)	2.00	4.50	4.17	頁岩	北上山地	平基 無茎 先端部欠け 付着物あり
89	72	72	ⅢB2b・Ⅲ層	石鏃	3.00	(1.40)	0.40	1.04	頁岩	北上山地	凹基無茎、脚部一部欠け
90	72	72	ⅡB10d・Ⅲ層	石鏃	2.90	1.85	0.50	1.36	頁岩	北上山地	凹基無茎、ほぼ完形
91	72	72	2トレ～3トレ・Ⅰ層	石鏃	3.40	1.60	0.45	2.11	頁岩	北上山地	完形、平基無茎
92	72	72	SI01西側・床	石鏃	5.02	3.50	1.40	9.43	頁岩	北上山地	完形 付着物あり
93	72	72	1トレ・Ⅲ層下層	石鏃	4.70	4.20	1.50	16.40	頁岩	北上山地	完形
94	72	72	1トレと2トレの中間・Ⅲ層	石匙	(3.45)	2.30	1.05	7.52	頁岩	北上山地	縦型、下半分欠損
95	72	72	ⅢB2g・Ⅲ層	削器	2.80	1.90	0.50	17.10	頁岩	北上山地	
96	72	72	SI01西側・埋土中～下位	石斧類	(7.00)	4.10	1.75	64.90	ホルンフェルス	北上山地	未製品?
97	72	72	SI01・埋土中位～下位	石斧類	(6.80)	4.60	2.60	117.70	砂岩	北上山地	下半欠損、先端・側面に敲打痕あり
98	72	72	SI01・埋土中位～下位	石斧類	(4.50)	4.10	2.10	56.80	砂岩	北上山地	下半欠損
99	72	72	SI01・埋土中～下位	石斧類	(4.45)	(3.60)	(2.20)	56.10	砂岩	北上山地	下半分欠損 全面に調整痕あり
100	72	72	SI01・埋土	石斧類	(8.10)	(4.90)	(2.30)	151.50	砂岩	北上山地	刃部・基部欠損
101	72	73	SI01・埋土	石斧類	(6.20)	(2.60)	1.20	30.50	砂岩	北上山地	刃部欠損
102	73	73	SI01・埋土	石斧類	(8.70)	(4.70)	(3.00)	182.70	砂岩	北上山地	下半欠損
103	73	73	SI01西側・埋土	石斧類	(9.50)	(5.20)	(4.20)	285.40	砂岩	原地山層	刃部欠損 磨面あり
104	73	73	ⅢB2f・Ⅱ層	石斧類	(8.30)	(4.00)	2.10	99.69	ヒン岩	北上山地	刃部欠損
105	73	73	ⅢB・Ⅲ層	石斧類	(6.50)	(4.15)	(2.55)	88.10	ヒン岩	北上山地	下部欠損
106	73	73	ⅢB・Ⅲ層	石斧類	(6.25)	4.35	2.45	114.40	砂岩	北上山地	基部欠損 欠損部敲打痕
107	73	73	2トレ・Ⅲ層	石斧類	(7.40)	(4.25)	(2.00)	72.50	砂岩	北上山地	下半分を欠く 基部先端部に敲打痕
108	73	73	2トレ～3トレの中間・Ⅱ層	石斧類	10.75	4.60	2.30	178.30	デイサイト	北上山地	刃部欠損
109	73	73	1トレと2トレの中間・Ⅲ層	石斧類	4.30	2.80	0.80	14.66	ヒン岩	北上山地	完形、刃部使用痕薄い
110	73	73	1トレ～2トレ中間 東側・Ⅲ層	石斧類	8.55	4.60	2.70	181.90	デイサイト	北上山地	基部先端に敲打痕
111	73	73	1トレ～2トレ・Ⅲ層	石斧類	11.60	4.40	2.50	193.10	砂岩	北上山地	刃部整形痕と使用痕あり
112	73	73	Ⅲ層	石斧類	(9.10)	4.10	1.75	113.07	砂岩	北上山地	基部欠損、刃部使用痕薄い
113	73	73	SI01西側・埋土下位	磨石	8.10	5.70	4.10	217.20	デイサイト	北上山地	
114	74	73	SI01・埋土中位～下位	磨石	12.70	8.20	4.90	787.20	花崗岩	北上山地	腹面・背面・側面とも磨痕あり
115	74	74	SI01・埋土中～下位	磨石	7.70	7.70	6.90	599.30	斑岩	北上山地	6面に磨り面あり
116	73	74	SI01・埋土	磨石	(6.00)	(5.40)	(2.00)	101.50	花崗岩	北上山地	特殊磨石の断片の可能性
117	74	74	SI01・床上	磨石	12.90	7.80	6.00	875.80	デイサイト	北上山地	両面に磨り面
118	74	74	SI01・床上	磨石	8.20	4.50	3.90	244.30	斑岩	北上山地	上下端に粗い磨り面
119	73	74	ⅢB・Ⅲ層	磨石	10.30	6.05	2.80	281.30	花崗岩	北上山地	平面に薄い黒色のシミ面あり
120	74	74	ⅡB7j・Ⅲ層	磨石	10.30	9.10	3.40	493.80	花崗岩	北上山地	扁平、両面磨痕あり
121	74	74	2トレ・Ⅲ層	磨石	11.30	9.05	5.60	788.60	花崗岩	北上山地	
122	74	74	2トレ～3トレの中間・Ⅱ層	磨石	8.40	6.40	5.20	394.50	花崗岩	北上山地	
123	74	74	2トレ～3トレの中間・Ⅱ層	磨石	10.50	6.70	4.70	471.30	花崗岩	北上山地	
124	75	74	1トレ～2トレ中間・Ⅲ層	磨石	9.70	7.20	3.50	356.60	デイサイト	北上山地	両面使用
125	75	74	1トレ～2トレ中間・Ⅲ層	磨石	9.20	8.20	3.40	410.50	デイサイト	北上山地	
126	75	74	1トレ～2トレ中間・Ⅲ層	磨石	11.05	10.10	5.60	904.30	デイサイト	北上山地	
127	75	75	1トレ～2トレ中間・Ⅲ層	磨石	8.30	8.10	4.50	438.50	花崗岩	北上山地	
128	75	75	1トレ～2トレ中間 東側・Ⅲ層	磨石	9.60	7.95	4.30	475.80	花崗岩	北上山地	両面使用
129	75	75	1トレ～2トレ中間 東側・Ⅲ層	磨石	10.75	10.00	4.90	816.80	斑岩	北上山地	
130	75	75	SI01・埋土中位～下位	特殊磨石	14.90	7.00	4.50	642.30	デイサイト	北上山地	
131	75	75	SI01・埋土	特殊磨石	(14.80)	7.80	4.50	825.80	ホルンフェルス	北上山地	下端部欠損、先端部調整、側面にも打痕
132	75	75	ⅢB2h・Ⅲ層	特殊磨石	(9.40)	(7.90)	3.30	375.60	ヒン岩	北上山地	欠損、下端部敲き痕あり、黒色シミあり
133	76	75	ⅡB9j・Ⅲ層	特殊磨石	15.80	8.10	4.60	991.20	デイサイト	北上山地	
134	76	75	1トレ～2トレ中間 東側・Ⅲ層	特殊磨石	14.60	7.00	5.30	877.90	花崗岩	北上山地	先端部に敲打痕あり
135	76	75	1トレ～2トレ中間 西側・Ⅲ層	特殊磨石	(14.30)	(5.65)	5.65	570.60	デイサイト	北上山地	欠損
136	76	75	SI01西側・埋土下位	敲石	6.30	6.30	4.90	294.00	斑岩	北上山地	円形の側面を利用
137	76	75	SI01・床上	敲石	9.40	3.50	1.40	75.80	砂岩	北上山地	加工痕あり
138	76	75	SI01・床上	敲石	9.70	5.60	3.30	248.70	斑岩	北上山地	両側面と上下端に敲打痕あり
139	76	75	ⅢB・Ⅲ層	敲石	10.30	6.10	4.70	460.70	斑岩	北上山地	側面と先端部に敲打痕あり
140	76	75	ⅡC・Ⅲ層	敲石	14.30	6.65	5.70	738.10	石英斑岩	北上山地	側面と先端部に敲打痕あり
141	76	75	1トレ～2トレ中間・Ⅲ層	敲石	(8.85)	7.20	3.20	324.30	砂岩	北上山地	欠損
142	74	76	1トレ～2トレ・Ⅲ層	石皿	(5.00)	(9.40)	(2.70)	102.80	砂岩	宮古層群	欠損
143	74	76	1トレ・Ⅱ層上層	石皿・台石	(12.30)	(8.10)	(5.50)	521.70	砂岩	宮古層群	

第5表 石製品観察表(青野滝北II)

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値 ()は残存値				石材	産地	備考
					長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
144	77	76	ⅢB2g・Ⅲ層	垂飾品	3.20	2.10	0.70	8.30	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
145	77	76	2トレンチ・Ⅲ層	垂飾品	5.00	2.95	1.35	23.40	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
146	77	76	2トレンチ・Ⅱ層上位	垂飾品	4.50	2.10	1.00	11.07	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
147	77	76	ⅢB4a・Ⅲ層	垂飾品	2.80	1.35	5.50	3.33	滑石	早池峰山周辺	有芸周辺の可能性も
148	77	76	SI01西側・埋土中～下位	石刀	(20.60)	(3.90)	1.80	225.00	ホルンフェルス	北上山地	欠損 調整磨面あり
149	77	76	調査区南西側・Ⅲ層	石刀	(8.56)	4.10	1.40	66.10	ホルンフェルス	北上山地	欠損

VI 青野滝北Ⅲ遺跡

1 概要

青野滝北Ⅲ遺跡では、竪穴住居跡2棟、炉跡1基、陥し穴状土坑1基を検出した。遺跡は、東西を谷状の地形に挟まれた南北方向の尾根と、この尾根から西に張り出した尾根状地形の頂部に立地する。遺構は南北方向の尾根頂部と西側の尾根に下る斜面で検出した。遺構検出面のⅢ層は黄褐色土であるが、既出の青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡とは異なり、遺構検出面としたⅢ層には十和田中礫火山灰のブロックは混入しない。遺構埋土は青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡と同様に黄褐色～褐色土が主体であり、遺構検出作業（ジョレンがけ）において平面形をとらえることは困難であった。トレンチで炉や焼土を検出して遺構を確認している。南北方向の尾根頂部における検出面の標高は、概ね146 m、西側尾根の付け根付近で概ね144 mである。

2 検出遺構

(1) 竪穴住居跡

SI01 竪穴住居跡（第79図、写真図版79）

〈位置〉調査区のほぼ中央部、ⅡB3hグリッド付近に位置する。西側尾根へ下る緩斜面の下位にあたる。

〈検出状況〉県教委生涯学習文化課が行った試掘調査のT31トレンチにより、焼土面等が確認されていた。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉一部攪乱や削平によりはっきりしないが、残存部分から平面形は径4×5m弱の楕円形を呈すると推定される。

〈埋土〉にぶい褐色土と褐色土の自然堆積を呈する。

〈壁・床〉断面の観察を行ったが、明瞭な壁の立ち上がりはつかめなかった。床面は概ね平坦で部分的に焼土や炭化物が混入おり、非常に堅く締まっている箇所が検出された。

〈柱穴〉北側の壁沿いに径30cm、深さ25cmの柱穴を1個検出した。平面形は円形である。

〈炉〉小規模な炉跡が2基並んで検出された。2つの炉は大きな角礫により区切られており、北側の1基は角礫を長径40cm、短径30cmに配置している。南側の1基は西側に2個の角礫が残存しているが、本来は角礫が四方に置かれた石囲炉と推測される。

〈重複〉なし

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は12点を掲載した（第81図、写真図版82）。

大木10式が大勢を占める。石器は3点を掲載した（第84図、写真図版84）。いずれも特殊磨石である。

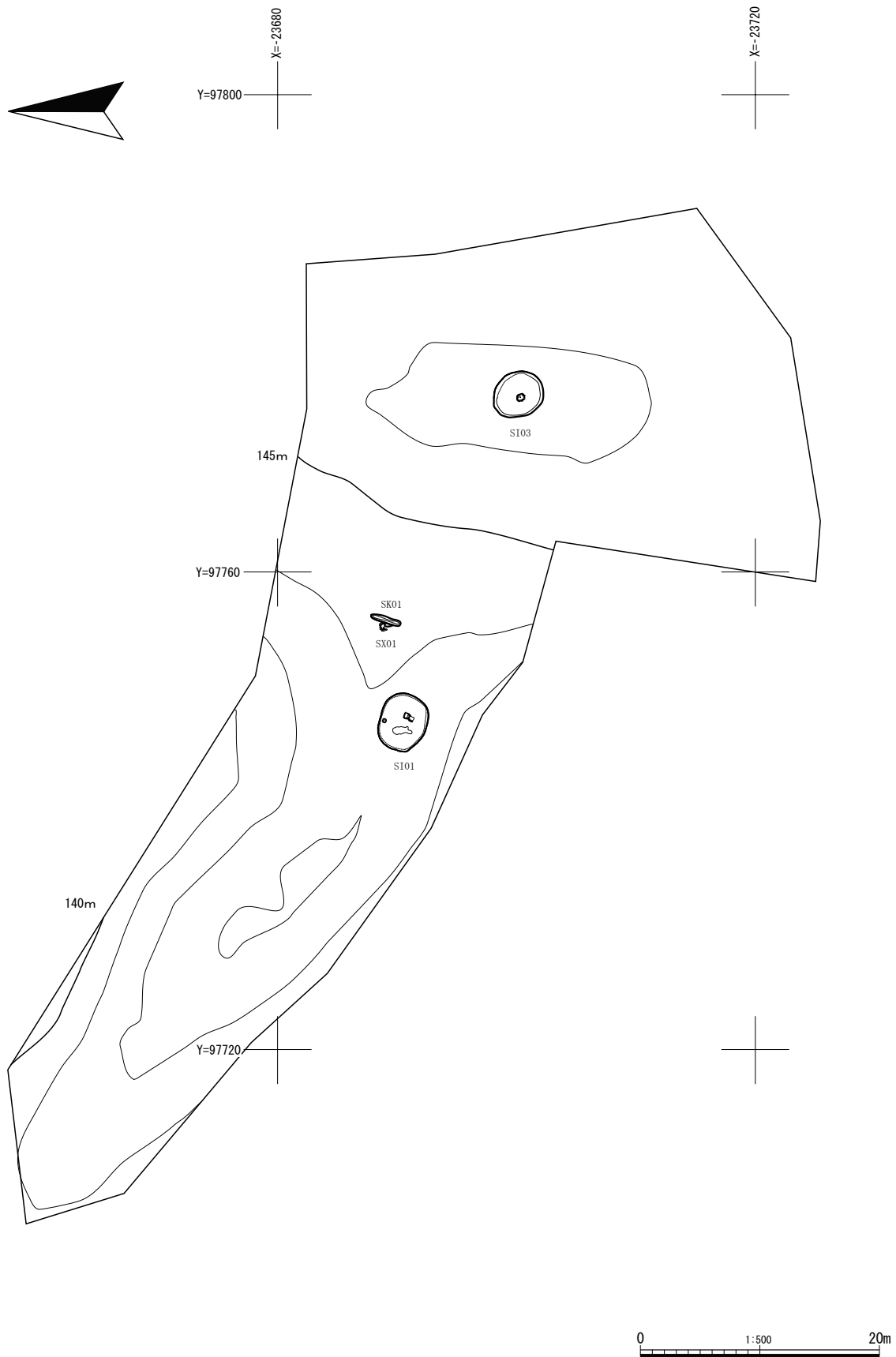
〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

SI03 竪穴住居跡（第80図、写真図版80）

〈位置〉調査区東側の南北方向の尾根頂部、ⅡC5dグリッド付近に位置する。

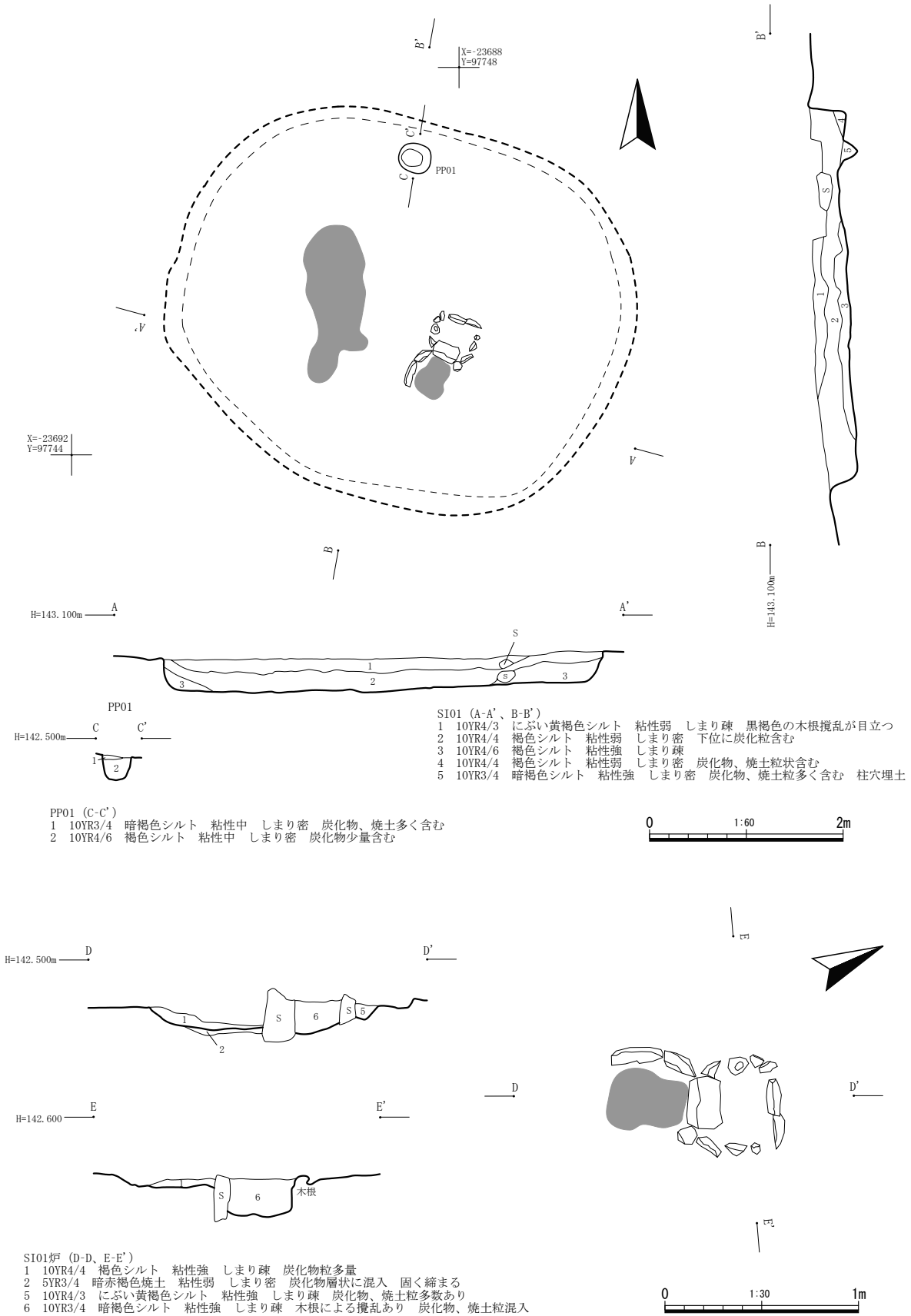
〈検出状況〉表土除去後の検出作業では確認できなかったが、最終確認のトレンチで石囲炉の一部を検出した。

〈形状・規模〉平面形は概ね、径4m弱の楕円形を呈するものと推測される。



第 78 図 遺構位置図 (青野滝北Ⅲ)

2 検出遺構



第 79 図 SI01 (青野滝北Ⅲ)

〈埋土〉炭化物が混入する褐色土を主体として構成されており、部分的に黒褐色土が混じる自然堆積を呈する。

〈壁・床〉断面の観察を行ったが、明瞭な壁の立ち上がりはつかめなかった。床面は概ね平坦で炉の周辺部を含め堅く締まる面がなかった。

〈柱穴〉検出されなかった。

〈炉〉大小併せて10個前後の角礫を径40×50cmほどに並べた楕円形の石囲炉である。炉内には厚さ10cm弱の焼土が形成されていたが、底面が堅く締まっていたわけではない。

〈重複〉なし

〈出土遺物〉縄文土器と石器が出土している。縄文土器は5点を掲載した（第82図、写真図版82）。粗製土器が主体であるが、中期後葉のものと考えられる。また、後期と思われる土器片も出土している。石器は2点を掲載した（第84図、写真図版84）。いずれも特殊磨石である。

〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（2）炉 跡

SX01 炉跡（第80図、写真図版81）

〈位置〉調査区中央部のⅡB3iグリッドに位置する。西側尾根へ下る緩斜面の下位にあたる。

〈検出状況〉最終確認のために稼働した重機により、トレンチ断面に石囲炉の一部と思われる角礫を検出した。当初、竪穴住居跡として精査したが、床面と壁面を確認できなかったため、単独の炉跡とした。

〈規模・形状〉残存部分から、径約50cmの円形状に角礫を並べた石囲炉と推測される。

〈出土遺物〉なし

〈時期〉縄文時代中期後葉の遺構と考えられる。

（3）土 坑

SK01 土坑（第80図、写真図版81）

〈位置〉調査区中央部、ⅡB3iグリッド付近に位置する。

〈検出状況〉SX01炉跡の精査中に炉石の下部から検出された。

〈規模・形状〉細長い溝状を呈し、開口部の規模は長軸方向で約2.5m、短軸方向で約50cmを測る。形状から、陥し穴状土坑と考えられる。

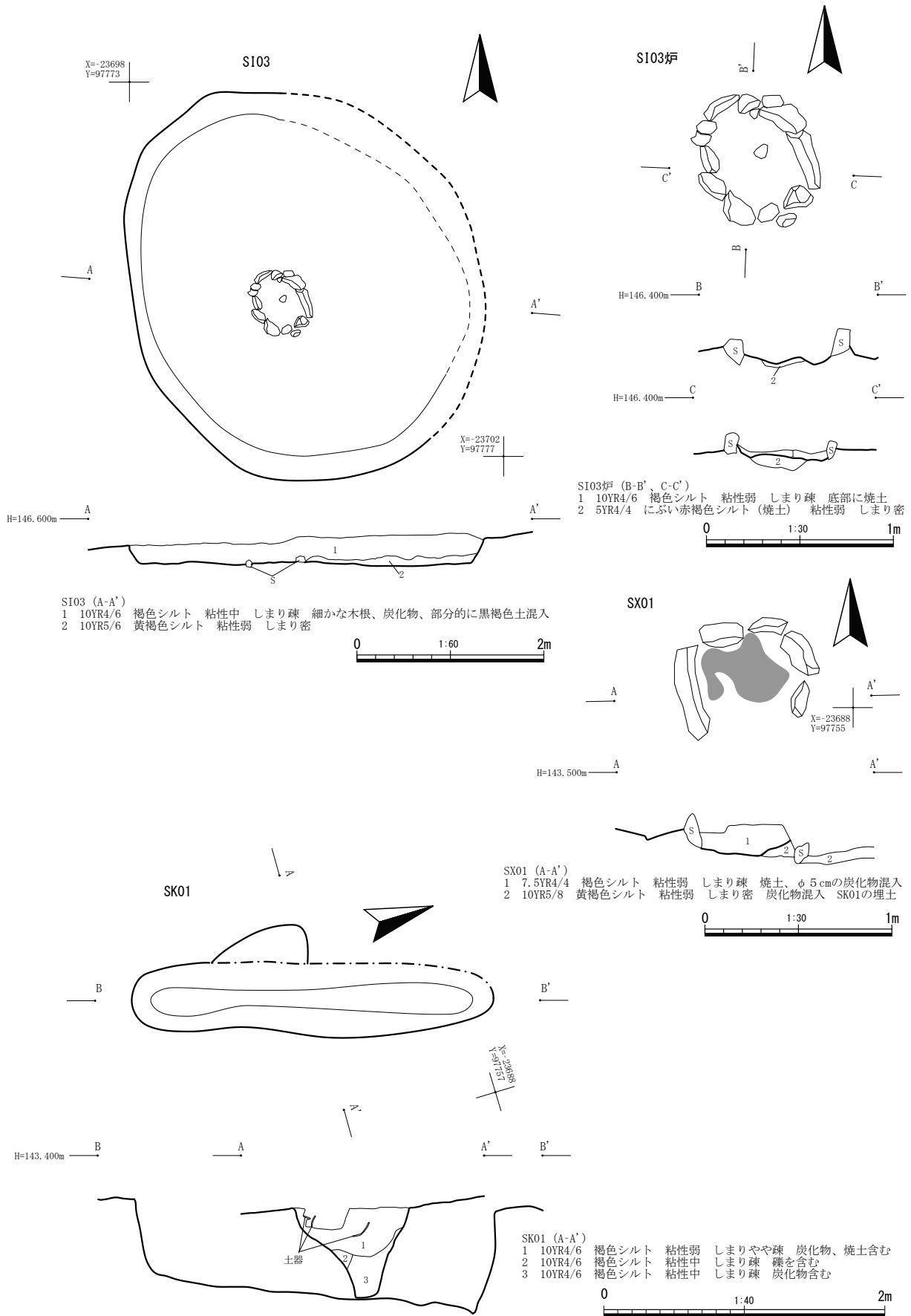
〈埋土〉上位は焼土、炭化物を含む褐色土で、下位も褐色土が主体で構成されている。

〈出土遺物〉埋土上部から縄文土器が出土した。（第82図、写真図版83）

〈時期〉縄文時代の遺構と考えられる。

（鈴木貞行）

2 検出遺構



第80図 SI03、SX01、SK01 (青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物

(1) 縄文土器 (第81図～第83図、写真図版82・83、観察表は図版)

概要 中コンテナ (32×42×20cm) 約2箱 (接合前) 出土した。青野滝北Ⅰ、Ⅱ遺跡と同様、縄文時代中期後葉～末 (大木10式前半) が主体を占めるが、後期初頭～前葉土器も出土している。その他、縄文時代晩期の可能性のある破片が僅かに見られる。

整理状況・掲載基準 掲載基準としては、有文土器については5×5cm以上が目安となるが、青野滝北Ⅰ遺跡同様、文様のある土器が少なかったため、小さめの破片も多めに掲載している。

記載要領・表の見方 個々の記載は表に記したので、ここで表の見方を補足しておく。“→”は調整順序を示し、矢印左側の方が前で、右側が後。“赤付”は赤色付着物のこと。

出土状況 個々の遺構の出土状況は、遺構の節参照。本項担当者は室内整理以後に関わったため詳細は知り得ない。

時期・型式 最も多く、また粗製土器で時期の特定できないものの中にも多く含まれていると思われる縄文時代中期後葉～末は後で述べる。

後期。15、16、27は、何れも細い隆帯上に刺突列を持つ。門前式の鎖状隆帯とは大きく異なるが、後期初頭～前葉に位置づけられよう。34の櫛歯状工具による条線を持つ土器も後期か。

18、19は、晩期大洞C2式期の可能性もある。

以上の他は、多くが縄文時代中期後葉～末と思われる。1、5、6?、7、12、22 = 23、32、33、38、39は、大木10式前半と思われる。

(a) 遺構内出土の土器 (第81図1～第82図24)

遺構は住居跡と土坑で、15、16のような時期の異なる細片も含むが、ほとんどが大木10式前半と思われる。

(b) 遺構外出土の土器 (第82図25～第83図39)

遺構内と同様である。

(金子昭彦)

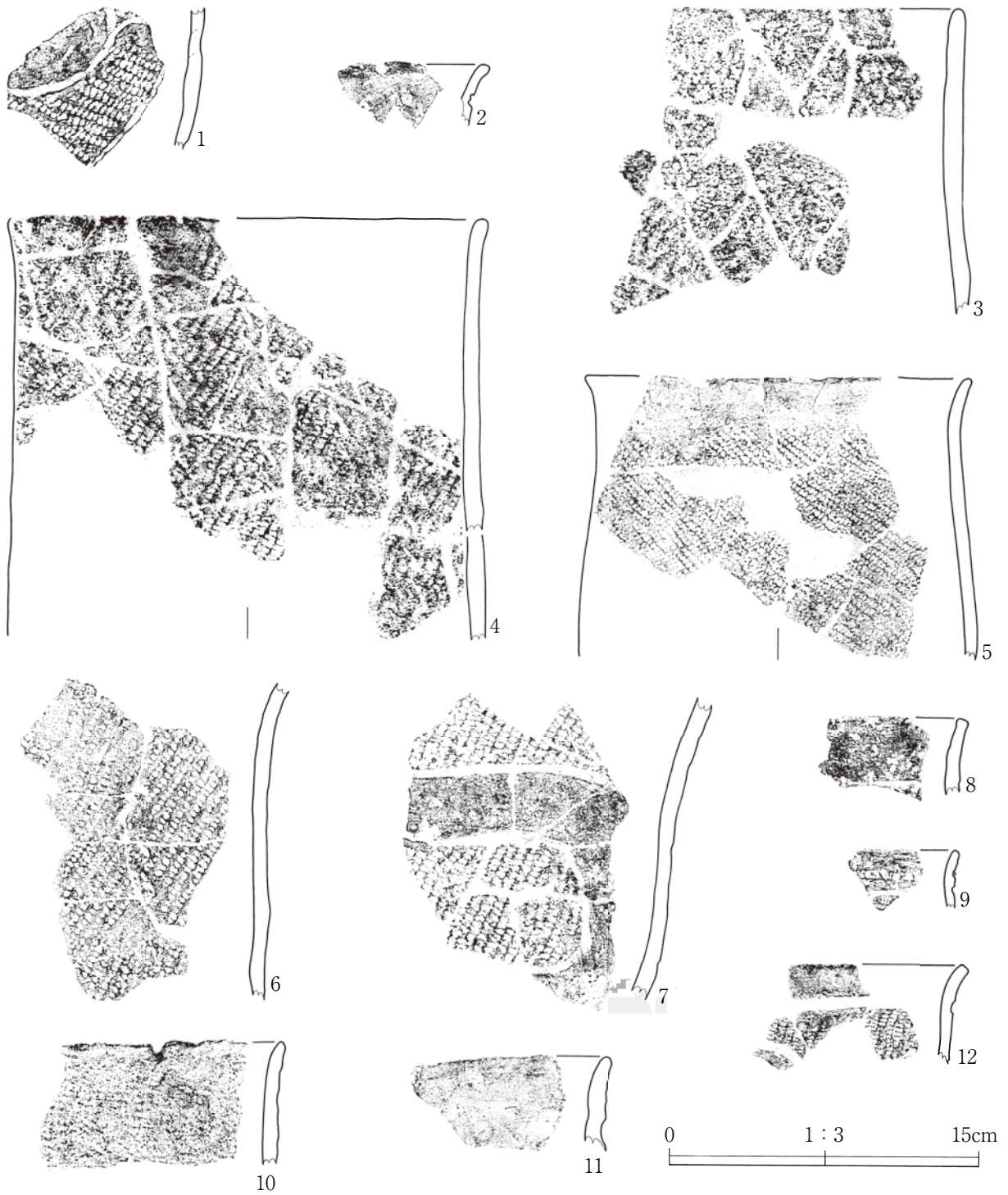
(2) 石器 (第84図、写真図版84、第6表)

磨製石斧 1点(40)掲載した。側面に刃部と直行する方向で長さ8.4cm、幅6mmの切れ込みが入る。また、刃部には使用痕が認められる。石材は早池峰山周辺で採取された蛇紋岩が用いられている。

特殊磨石 5点(41～45)掲載した。いずれもやや扁平な礫を用いており、長軸方向の片側に磨面がある。41は片側面のほかにも磨面が認められ、42は両方の先端部に敲打痕がある。石材は、41が奥羽山脈産のデイサイト、42～45は北上山地産の砂岩が用いられている。

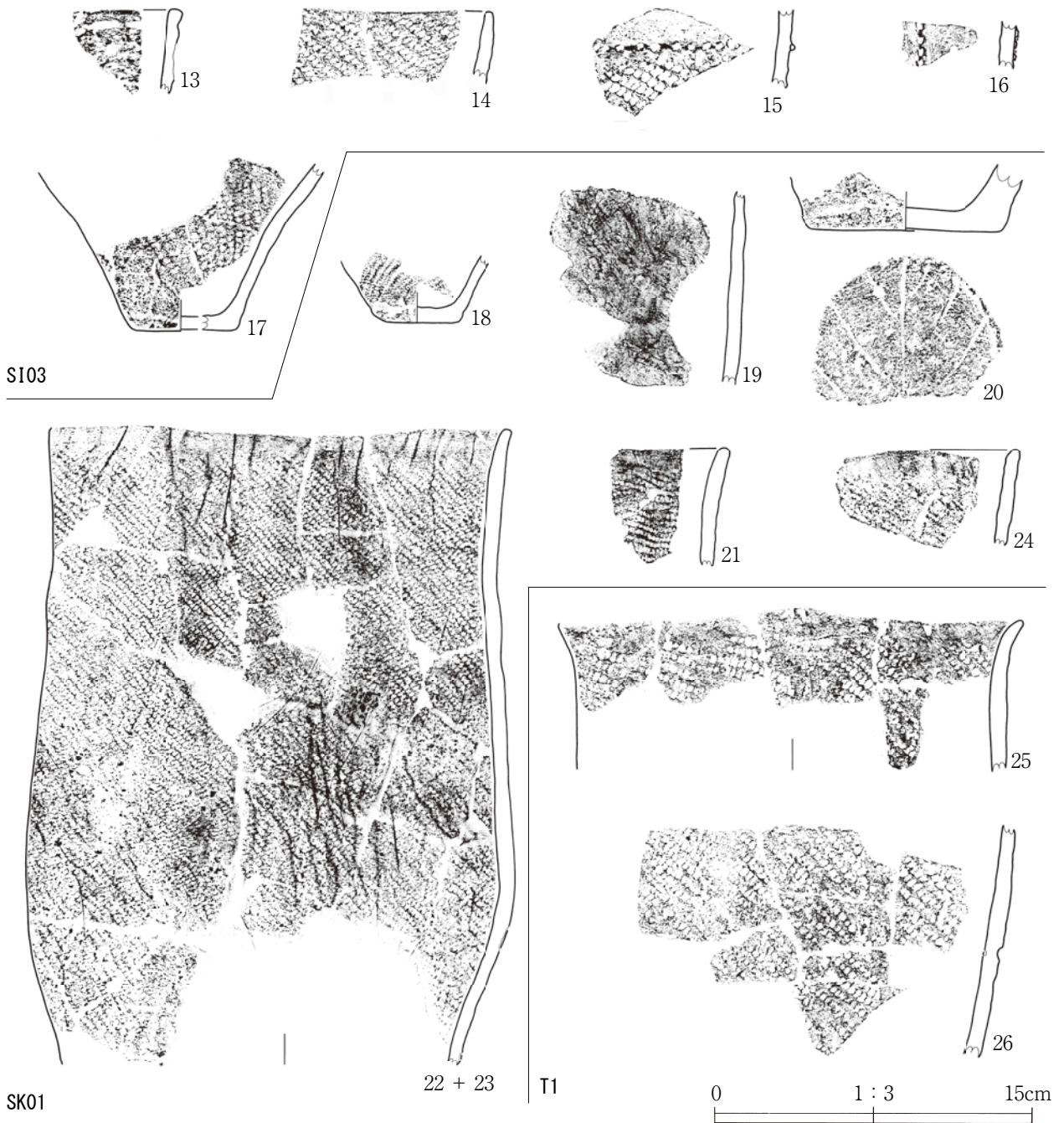
(鈴木博之)

3 出土遺物



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
1	SI01	深鉢・胴部	LRタテ→太く浅い沈線	ナデ	
2	SI01	深鉢・口縁部	竹管状工具による刺突	ナデ	
3	SI01	深鉢・口縁部	LRタテ?? (*4と同一個体)	ナデ??	外面スス付着。内外摩擦ひどい
4	SI01	深鉢(1/4周未満)			*3と同一個体
5	SI01	深鉢(1/4周未満)	口縁無文/LRタテ	ナデ	外面スス付着
6	SI01	深鉢・胴部	RLタテ	ナデ	外面スス付着。内外摩擦
7	SI01	深鉢・胴部	LRヨコ→太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着
8	SI01	深鉢・口縁部	LRヨコ??→浅い沈線	ナデ	
9	SI01	深鉢・口縁部	太く浅い沈線底、竹管状工具による浅い刺突列	ナデ	
10	SI01	深鉢・口縁部	縄文??	摩擦	内外二次焼成で摩擦ひどい
11	SI01	深鉢・口縁部	太く深い沈線??	ナデ	
12	SI01	深鉢・口縁部	RLタテ?→太く浅い沈線	ナデ	外面スス付着

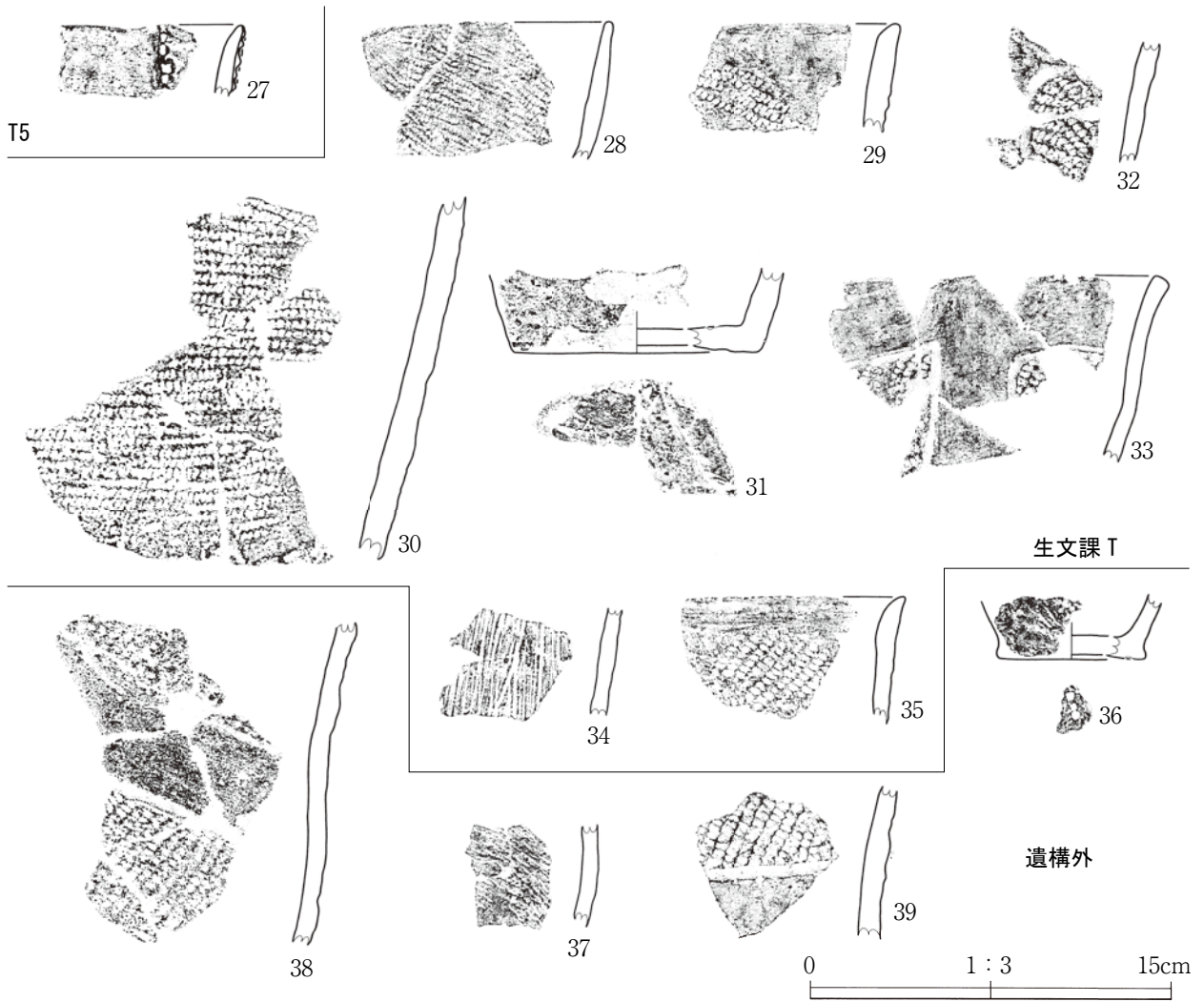
第81図 遺構内出土土器(1)(青野滝北Ⅲ)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
13	SI03	深鉢・口縁部	(剥落)	ナデ	
14	SI03	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	
15	SI03	深鉢・胴部	隆帯上刺突列・LRタテ	ナデ	
16	SI03	深鉢・胴部	隆帯上刺突列	ナデ	
17	SI03	鉢(1/2周未満)	LRタテ	ナデ???	内面コゲ付着。外二次焼成摩耗ひどい
18	SK01	鉢(底のみ一周)	RLタテ→底部～底面ナデ	ナデ	内外赤色付着物?
19	SK01	壺??・胴部	ナデ?	ナデ凹凸	外面赤色付着物
20	SK01	深鉢(2/3周未満)	底面:木葉痕	摩耗	内外摩耗ひどい
21	SK01	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	外面スス付着
22	SK01	深鉢(3/4周未満)	口縁無文/LRタテ (*23と接合)	ナデ	外面スス厚、摩耗。内面下部コゲ付着
23	SK01				*22と接合
24	SK01	深鉢・口縁部	LRタテ???	ナデ	外面スス付着
25	1トレンチ	深鉢(1/4周以下)	LRタテ	ナデ	
26	1トレンチ	深鉢・胴部	LRタテ	ナデ	

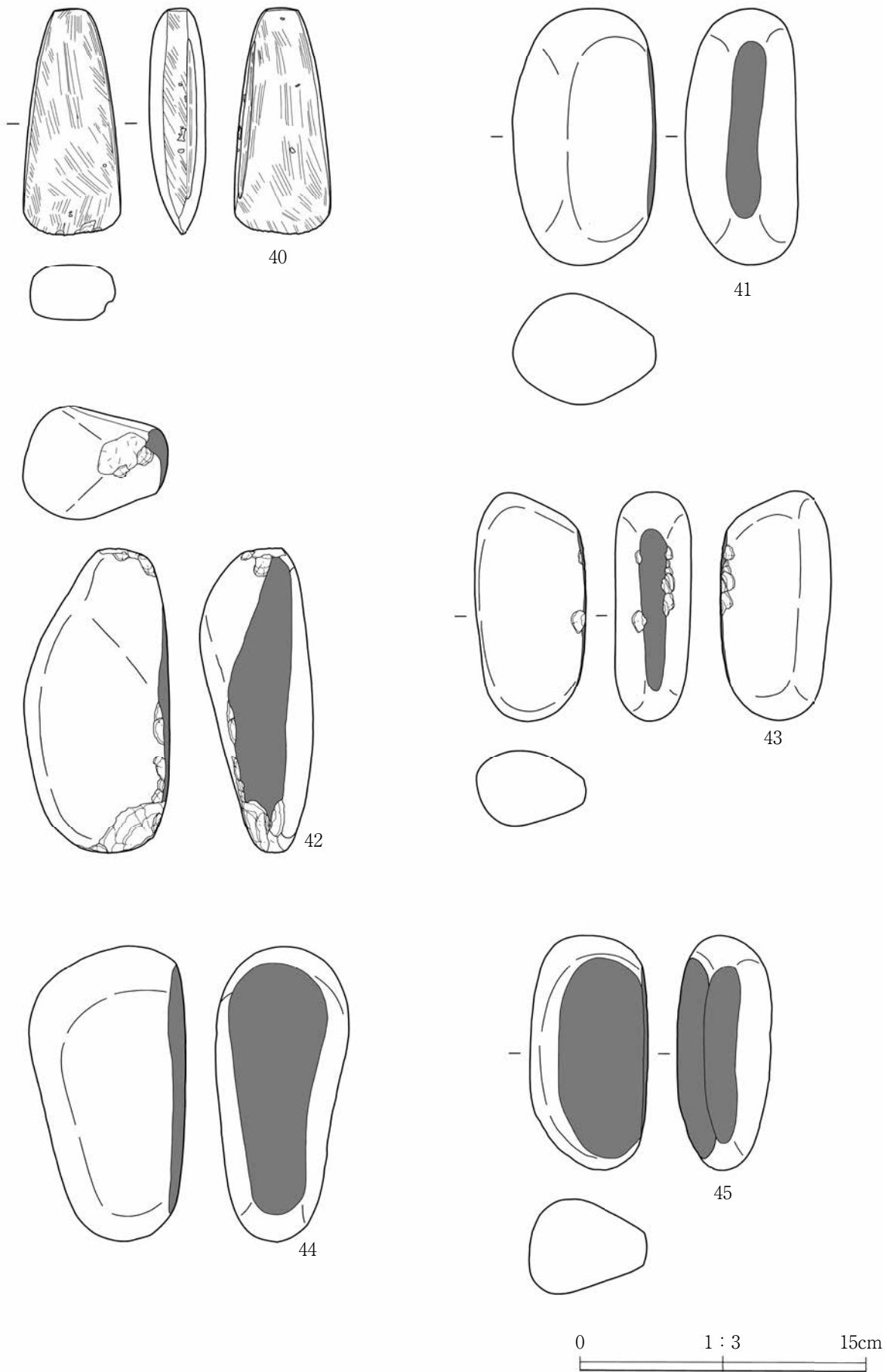
第 82 図 遺構内出土土器 (2)・遺構外出土土器 (1) (青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面 (口縁部/胴部/底部/底面、縄文原体など)	内面 (調整など)	備考
27	5トレンチ	深鉢・口縁部	突起頂部刻目?・隆帯上刺突列	ナデ	
28	生文課トレンチ31	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	外面スス二次焼成、内面焼けはじけ?
29	生文課トレンチ31	深鉢・口縁部	LRタテ	ナデ	外面スス付着
30	生文課トレンチ31	深鉢・胴部	LRタテ	ナデ	外面スス付着二次焼成
31	生文課トレンチ31	深鉢(1/3周未満)	底部~底面ナデ	ナデ	内面コゲ付着
32	生文課トレンチ31	深鉢・胴部	LRナメ?→太く浅い沈線	ナデ	内外摩擦ひどい
33	生文課トレンチ31	深鉢・口縁部	RLタテ?→太く浅い沈線・微隆起帯	ミガキ	外面スス付着
34	生文課トレンチ32	深鉢・胴部	櫛歯状工具による条線	ナデ	
35	生文課トレンチ33	深鉢・口縁部	口縁無文/RLタテ	ナデ	外面摩擦
36	遺構外	底部	底面・刺突2	ナデ	外面赤色付着物?
37	遺構外	深鉢・胴部	LRタテ	ナデ	
38	遺構外	深鉢・胴部	RLナメ→太く浅い沈線・微隆起帯	ナデ	外面スス付着。内外摩擦ひどい
39	遺構外	深鉢・胴部	RLタテ→太く浅い沈線・微隆起帯	ナデ滑らか	外面スス付着。内外摩擦

第 83 図 遺構外出土土器 (2) (青野滝北Ⅲ)



第 84 図 石器 (青野滝北Ⅲ)

3 出土遺物

第6表 石器観察表（青野滝北Ⅲ）

掲載No.	図版	写真	出土地点・層位	器種	法量値（ ）は残存値				石材	産地	備考
					長さ[cm]	幅[cm]	厚さ[cm]	重さ[g]			
40	84	84	ⅡC3d・Ⅲ層	石斧類	11.80	5.00	2.90	282.50	蛇紋岩	早池峰山周辺	刃部に使用痕
41	84	84	SIO1・埋土	特種磨石	13.40	5.85	7.50	821.70	デイサイト	奥羽山脈	白色
42	84	84	SIO1・埋土	特種磨石	15.90	5.90	7.50	990.00	砂岩	北上山地	両端部に敲打痕
43	84	84	SIO1・埋土	特種磨石	12.00	4.00	5.80	424.20	砂岩	北上山地	
44	84	84	SIO3・埋土	特種磨石	15.40	8.10	6.90	1213.50	砂岩	北上山地	
45	84	84	SIO3・炉周辺埋土	特種磨石	12.20	6.15	4.95	559.30	砂岩	北上山地	

Ⅶ 自然科学分析

1 青野滝北 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

青野滝北 I 遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、北上山地が太平洋に接する海岸段丘 (標高約 150m 前後) に立地する。測定対象試料は、炭窯かとされる土坑や竪穴住居跡等から出土した炭化物と木片の合計 8 点である (表 1)。

試料 4～8 が出土した遺構は、いずれも縄文時代中期の竪穴住居跡で、SI07、SI01、SI09、SI03、SI11 は複式炉、SI04 は石囲炉をもち、SI04、SI01、SI09、SI03、SI11 の炉には中期後葉の土器が伴出する。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1 mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ¹⁴C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、¹⁴C の計数、¹³C 濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C 濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ¹³C 濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ¹⁴C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。¹⁴C 年代と誤差は、

下 1 桁を丸めて 10 年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMC が 100 以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1 \sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2 \sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2 較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表 1、2 に示す。

土坑(炭窯?を含む)出土試料 2 点の ^{14}C 年代は、いずれも $130 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、1 が 1682 ~ 1936cal AD の間に 6 つの範囲、2 が 1681 ~ 1937cal AD の間に 6 つの範囲で示される。なお、これらの較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(表 2 下の警告参照)。

竪穴住居跡出土試料 6 点のうち、4 を除く 5 点の ^{14}C 年代は、 $4160 \pm 30\text{yrBP}$ (試料 8) から $4010 \pm 30\text{yrBP}$ (試料 6) の狭い範囲にまとまっている。これら 5 点の暦年較正年代 (1σ) は、全体で縄文時代中期中葉から末葉頃、最も古い 8 が中期中葉から後葉頃、最も新しい 7 が中期末葉頃に相当し(小林編 2008)、出土土器や遺構の特徴から考えられる時期におおむね整合する。5 は Modern となっており、上位から混入した新しい木片と見られる。

炭化物 8 点の炭素含有率はすべて 60% を超える十分な値、木片 5 は約 45% のおおむね適正な値であった。化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表 1 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142763	1	SW01(炭窯?) 埋土	炭化物	AAA	-21.94 ± 0.28	130 ± 20	98.38 ± 0.27
IAAA-142764	2	SK02(土坑) 埋土上位	炭化物	AAA	-26.76 ± 0.26	130 ± 20	98.36 ± 0.27
IAAA-142765	3	SI07(住居跡) 炉埋土	炭化物	AAA	-23.25 ± 0.38	4,040 ± 30	60.51 ± 0.20
IAAA-142766	4	SI04(住居跡) 床面	木片	AAA	-27.59 ± 0.24	Modern	105.90 ± 0.27
IAAA-142767	5	SI01(住居跡) 埋土	炭化物	AAA	-25.18 ± 0.29	4,130 ± 30	59.83 ± 0.20
IAAA-142768	6	SI09(住居跡) 床面焼土下	炭化物	AAA	-25.96 ± 0.25	4,010 ± 30	60.67 ± 0.20
IAAA-142769	7	SI03(住居跡) 床面	炭化物	AAA	-23.90 ± 0.26	4,090 ± 30	60.08 ± 0.20
IAAA-142770	8	SI11 出土土器内	炭化物	AAA	-26.97 ± 0.28	4,160 ± 30	59.60 ± 0.22

[#7094]

表 2 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C 未補正值、暦年較正用¹⁴C年代、較正年代) (1)

測定番号	δ ¹³ C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142763	80 ± 20	99.00 ± 0.27	131 ± 22	1682calAD - 1700calAD (10.6%)* 1720calAD - 1737calAD (9.1%)* 1758calAD - 1761calAD (1.2%)* 1804calAD - 1819calAD (7.8%)* 1833calAD - 1880calAD (27.6%)* 1915calAD - 1936calAD (12.0%)*	1678calAD - 1765calAD (34.9%)* 1774calAD - 1776calAD (0.5%)* 1800calAD - 1892calAD (44.8%)* 1908calAD - 1940calAD (15.2%)*
IAAA-142764	160 ± 20	98.00 ± 0.27	133 ± 22	1681calAD - 1700calAD (10.6%)* 1720calAD - 1738calAD (9.2%)* 1755calAD - 1762calAD (2.7%)* 1803calAD - 1819calAD (8.1%)* 1833calAD - 1880calAD (25.5%)* 1916calAD - 1937calAD (12.1%)*	1677calAD - 1765calAD (35.7%)* 1773calAD - 1777calAD (0.8%)* 1800calAD - 1892calAD (43.4%)* 1908calAD - 1940calAD (15.5%)*
IAAA-142765	4,010 ± 30	60.73 ± 0.19	4,035 ± 26	2580calBC - 2559calBC (20.3%)* 2536calBC - 2491calBC (47.9%)*	2621calBC - 2476calBC (95.4%)*
IAAA-142766	Modern	105.34 ± 0.27	Modern		

1 青野滝北 I 遺跡における放射性炭素年代 (AMS 測定)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

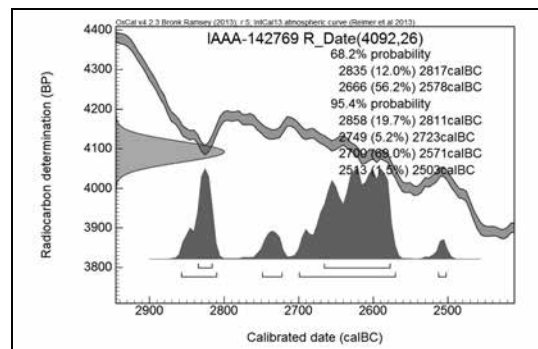
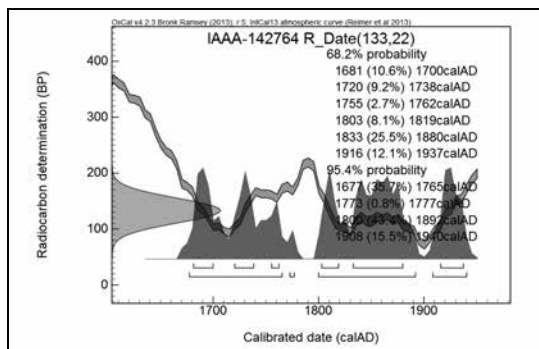
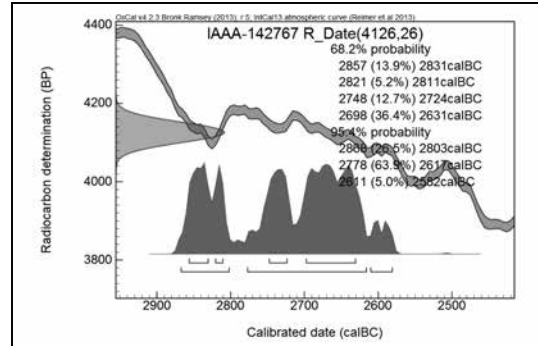
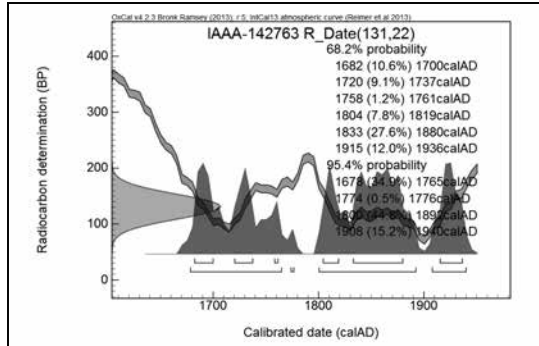
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142767	4,130 \pm 30	59.81 \pm 0.20	4,126 \pm 26	2857calBC - 2831calBC (13.9%) 2821calBC - 2811calBC (5.2%) 2748calBC - 2724calBC (12.7%) 2698calBC - 2631calBC (36.4%)	2868calBC - 2803calBC (26.5%) 2778calBC - 2617calBC (63.9%) 2611calBC - 2582calBC (5.0%)
IAAA-142768	4,030 \pm 30	60.55 \pm 0.19	4,014 \pm 26	2570calBC - 2514calBC (54.6%) 2503calBC - 2489calBC (13.6%)	2581calBC - 2471calBC (95.4%)
IAAA-142769	4,070 \pm 30	60.22 \pm 0.20	4,092 \pm 26	2835calBC - 2817calBC (12.0%) 2666calBC - 2578calBC (56.2%)	2858calBC - 2811calBC (19.7%) 2749calBC - 2723calBC (5.2%) 2700calBC - 2571calBC (69.0%) 2513calBC - 2503calBC (1.5%)
IAAA-142770	4,190 \pm 30	59.36 \pm 0.22	4,156 \pm 29	2871calBC - 2839calBC (14.3%) 2814calBC - 2802calBC (5.6%) 2779calBC - 2676calBC (48.3%)	2878calBC - 2831calBC (18.9%) 2821calBC - 2631calBC (76.5%)

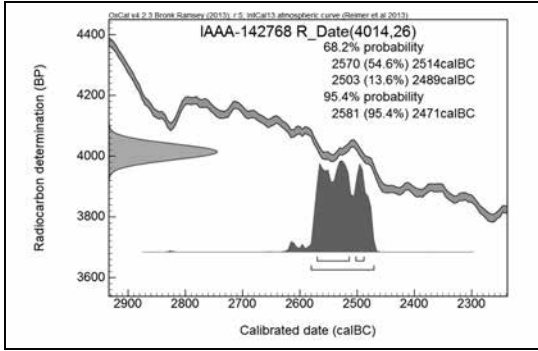
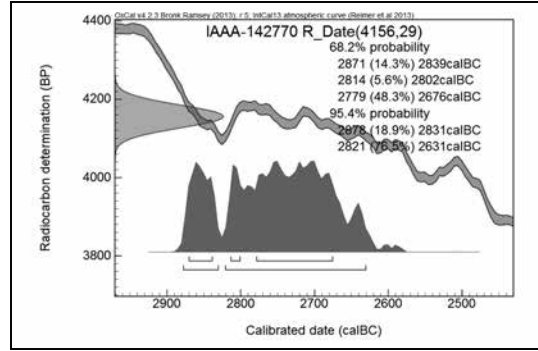
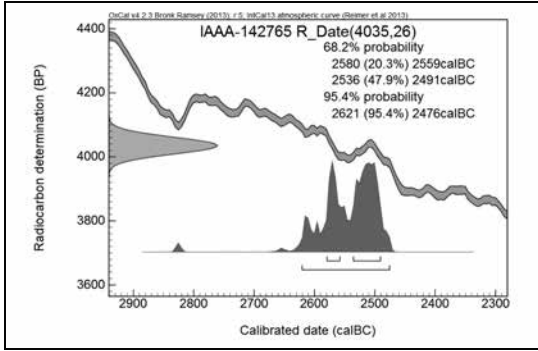
[参考値]

* Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

(この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の ^{14}C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。)





[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

2 青野滝北Ⅱ遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1 測定対象試料

青野滝北Ⅱ遺跡は、岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、北上山地が太平洋に接する海岸段丘（標高約150m前後）に立地する。測定対象試料は、竪穴住居跡から出土した炭化物1点である（表1）。試料が出土した竪穴住居は、縄文時代中期後葉の土器が伴出する石囲炉をもつ。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO₂）を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度（¹³C/¹²C）、¹⁴C濃度（¹⁴C/¹²C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度（¹³C/¹²C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい（¹⁴Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正し

た値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1σ = 68.2%)あるいは2標準偏差(2σ = 95.4%)で表示される。グラフの縦軸が¹⁴C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ¹³C補正を行い、下1桁を丸めない¹⁴C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10の¹⁴C年代は4120 ± 30yrBP、暦年較正年代(1σ)は縄文時代中期中葉から後葉頃に相当し(小林編 2008)、出土土器の示す時期におおむね整合する。

試料の炭素含有率は60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 (δ¹³C補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ ¹³ C (‰) (AMS)	δ ¹³ C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142771	10	SK05 床面	炭化物	AAA	-25.49 ± 0.28	4,120 ± 30	59.85 ± 0.20

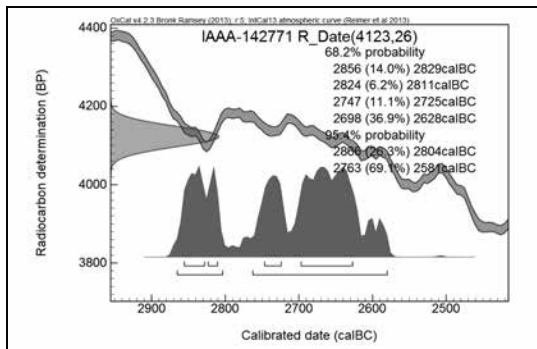
[#7095]

2 青野滝北Ⅱ遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

表2 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142771	4,130 \pm 30	59.79 \pm 0.19	4,123 \pm 26	2856calBC - 2829calBC (14.0%) 2824calBC - 2811calBC (6.2%) 2747calBC - 2725calBC (11.1%) 2698calBC - 2628calBC (36.9%)	2866calBC - 2804calBC (26.3%) 2763calBC - 2581calBC (69.1%)

[参考値]



[図版] 暦年較正年代グラフ（参考）

Ⅷ 総 括

青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡は岩手県宮古市田老字青野滝北地内に所在し、海岸段丘上に立地している。この海岸段丘は、河川の開析によって大小の谷が形成されており、今回調査を行った3遺跡はいずれもこの谷に面した場所に位置している。

今回の発掘調査では、縄文時代中期後葉～末葉を中心とした竪穴住居跡が青野滝北Ⅰ遺跡で15棟、青野滝北Ⅱ遺跡で1棟、青野滝北Ⅲ遺跡で2棟検出され、当該時期における集落がこの地域に形成されていたことが明らかとなった。これらの竪穴住居跡はほとんどが重複関係にあり、比較的限定された期間内に居住域として頻繁に利用されていたことが窺える調査成果を得た。

土器は3遺跡とも共通で、大木9～10式前半のものがほとんどを占めている。出土量全体からみると、口縁から底部まで接合できた資料は少ない。また、文様を持つ土器も少ない傾向がある。

縄文時代早期中葉の土器も散見できる。この時期の土器は昭和56年度に発掘調査が行われた小堀内Ⅰ遺跡でもまとまって出土しており、これまでに遺構は確認できていないものの、生活の場が近隣にあった可能性が窺える。

石器は礫石器が多く、剥片石器が少ない傾向がある。礫石器の中でも特殊磨石が目立って多く、円形の敲石も比較的多く出土している。いずれの石器もほとんどが磨りや敲きなど、複合的に使用されている。また、石斧類も多く出土しており、中でも打製石斧が多く見受けられる。打ち欠いて粗い調整を施したもののほかに、刃部や側面のみを磨いているものもある。石器に使用している石材の多くは北上山地で採取できるもので、容易に調達できるものである。

Ⅰ遺跡とⅡ遺跡では滑石製の有孔垂飾品が出土している。特に、Ⅱ遺跡では穿孔途中で廃棄されたものや滑石の原石が複数出土しており、製作工程を検討できる資料を得ることができた。素材とした滑石は北上山地で採取できるものだが、石質鑑定の際に、本遺跡から約15km西に位置する岩泉町有芸地区でも滑石の露頭があり、本遺跡から出土した滑石の産地である可能性があると指摘を得た。

本遺跡では竪穴住居跡を合計18棟検出した。このうち、複式炉を持つ竪穴住居跡はⅠ遺跡の11棟である。また、Ⅲ遺跡のSI01で検出した炉は、複式炉のような形態ではあるが、竪穴住居跡と推定した範囲内における位置から複式炉とは考えにくく、作り変えが行われた新旧の石囲炉として捉えた。

複式炉の分類は中村良幸氏によって行われている（中村 1982）。これに従って本遺跡の複式炉を分類すると、以下のようになる。

A類 石囲部+（a前庭部 b石組部） SI01、SI03、SI07、SI09、SI10、SI11、SI15？

B類 石囲部+石囲部+（a、b、c施設なし） SI02、SI05、SI13

D類 土器埋設炉+石組炉+（a、b、c） SI12

（本稿では中村分類の「石組部」を「石囲部」、「掘り込み部」を「前庭部」にそれぞれ言い換えている。）

A類に分類したものは、長軸方向の規模が概ね2～2.5mの範囲におさまる。総じて比較的大型の部類に入ると思われる。また、一部は石囲部の外側や前庭部にも燃焼部が見られる。

B類も長軸方向の規模はA類と同等である。いずれも石囲部に焼土が形成されている。

D類はSI12のみである。2つの石囲部を持ち、石囲部の北側に土器が正位で埋設されているが、東半は失われている。

以上、本遺跡における複式炉の分類を行ったが、A類が多数を占めていることが判明した。また、土器埋設炉を持つ複式炉が非常に稀であることが特徴と言える。盛岡市の上米内遺跡では、大木9式土器に伴うA類が初現で、B類、土器埋設炉を持つ複式炉（C類、D類）へと変遷を辿っている（阿

部 1995) が、本遺跡においては明確な変遷を示すことはできなかった。また、同報告書では規模も次第に大型化していく傾向を見出しているが、本遺跡ではA類とB類に規模の大きな差は見られない。

駒木野氏の集成によると、本遺跡が所在する田老以北の沿岸部における複式炉の調査事例は少ない(駒木野 2004) が、東日本大震災後の復興に伴う調査で資料が増加している可能性がある。当該地域における複式炉の集成については今後の検討課題としたい。

(鈴木博之)

参考文献

中村良幸 1982 「複式炉」について『考古風土記』7

阿部勝則 1995 『上米内遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第220集

駒木野智寛 2004 「複式炉の研究—岩手県内における複式炉の地域別分布傾向とその分析—」(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

写真図版

(青野滝北 I 遺跡)



遺跡遠景（南から）



調査区全景（直上）



SI01 全景 (西から)



SI01 断面 (南から)



SI01 炉全景 (東から)



SI01 炉断面 (南から)



SI02 全景（南東から）



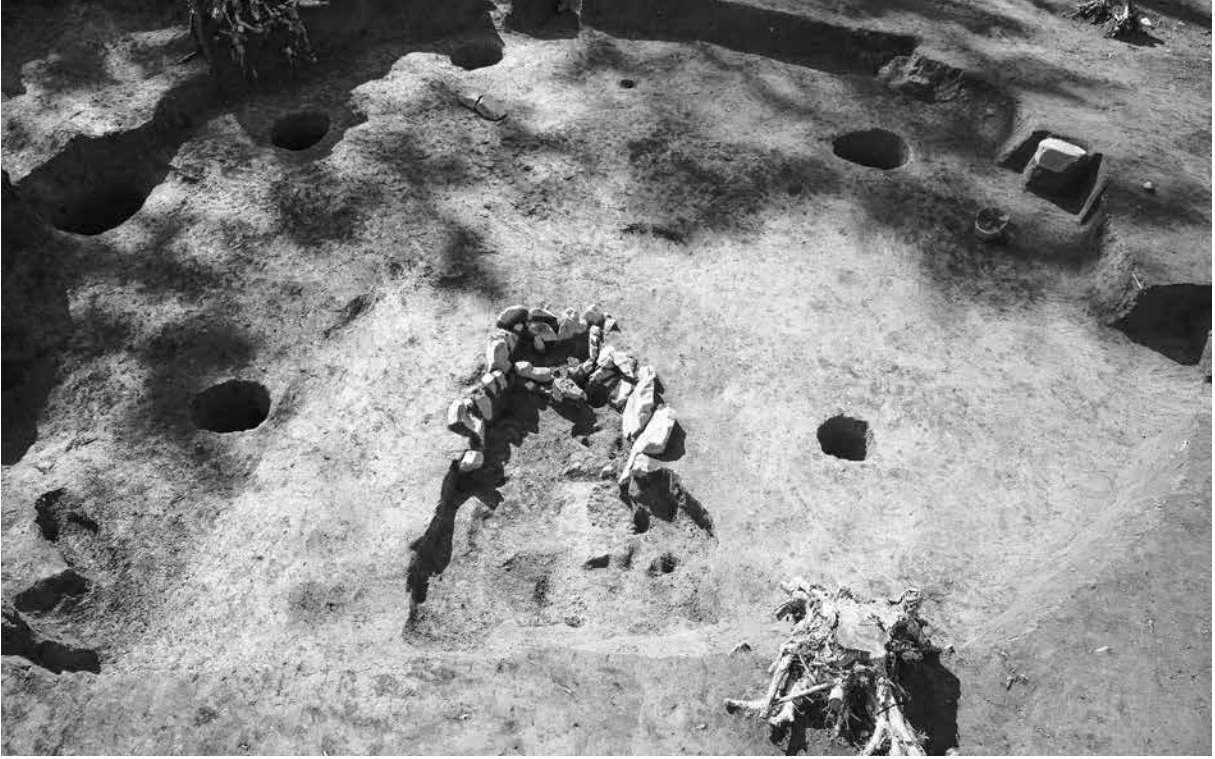
SI02 断面（南から）



SI02 炉全景（南東から）



SI02 炉断面（南西から）



SI03 全景（東から）



SI03 断面（北から）



SI03 炉全景（東から）



SI03 炉断面（南から）

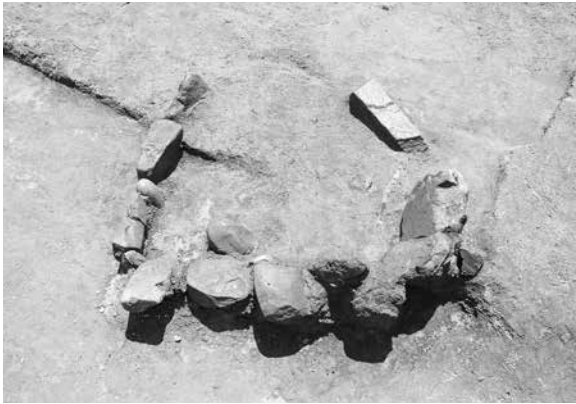
写真図版 4 竪穴住居跡（3）



SI04 全景 (直上)



作業風景



SI04 炉全景 (北西から)



SI04 炉断面 (北から)



SI04 断面 (西南から)



SI04 断面 (南から)



SI05、SI12 全景（南西から）



SI05、SI12 断面（北西から）



SI05、SI12 断面（北東から）

写真図版 6 竪穴住居跡（5）



SI05 炉全景 (南から)



SI05 炉断面 (西から)



SI05 炉断面 (北から)



SI05 炉断ち割り断面



SI12 炉全景



SI12 炉断面 (西から)



SI12 炉断面 (南から)



埋土下位検出焼土 (南から)



SI06 全景 (南から)



SI06 断面 (南西から)



SI06 炉全景 (南から)



SI06 炉断面 (南から)



SI07 全景（北西から）



SI07 断面（東から）



SI07 炉全景（南から）



SI07 炉断面（西から）



SI08 全景 (南から)



SI08 断面 (東から)



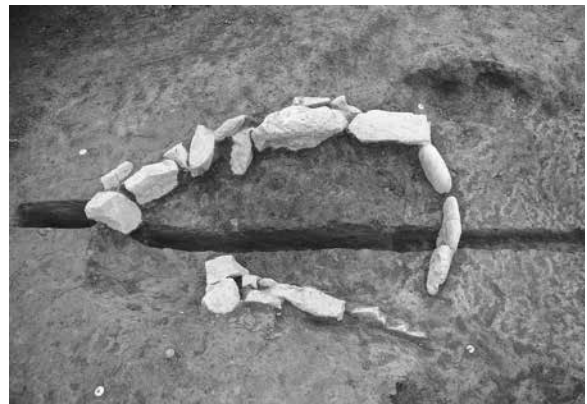
SI09 全景 (南から)



SI09 断面 (南から)



SI09 炉全景 (東から)



SI09 炉断面 (南から)



SI10 全景（東から）



SI10 断面（南から）



SI10 炉全景（南から）



SI10 炉断割り断面（南から）

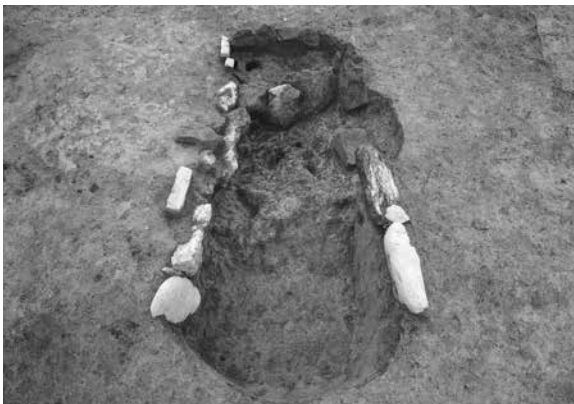
写真図版 12 竪穴住居跡（11）



SI11 全景（東から）



SI11 断面（東から）



SI11 炉全景（東から）



SI11 炉断面（南から）



SI13 全景（東から）



SI13 断面（東から）



SI13 炉全景（東から）



SI13 炉断面（南から）



SI14 全景 (西から)



SI14 断面 (西から)



SI14 炉検出状況 (西から)



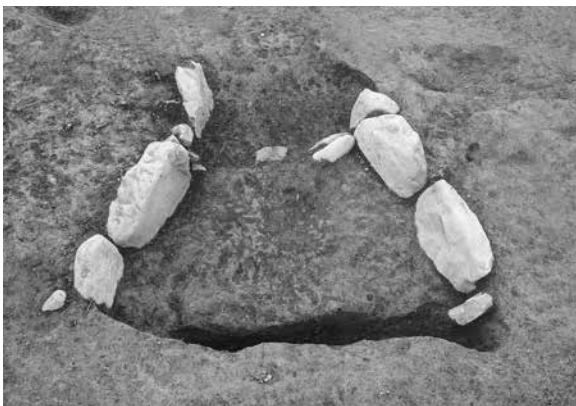
SI14 炉断面 (南西から)



SI15 全景（北から）



SI15 断面（北西から）



SI15 炉全景（南から）



SI15 炉断面（西から）

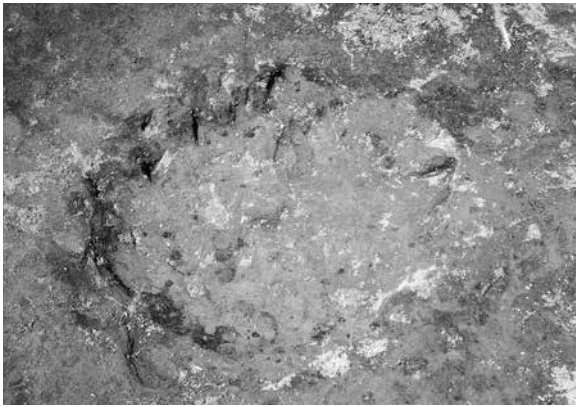
写真図版 16 竪穴住居跡（15）



SK01 全景 (南から)



SK01 断面 (北から)



SK02 全景 (東から)



SK02 断面 (北西から)



SK03 全景 (南から)



SK03 断面 (南から)



SK05 全景 (南から)



SK05 断面 (南から)



SK07 全景 (東から)



SK07 断面 (東から)



SK09 全景 (南から)



SK09 断面 (北から)



SK11 全景 (西から)



SK11 断面 (東から)



SK12 全景 (北から)



SK12 断面 (東から)



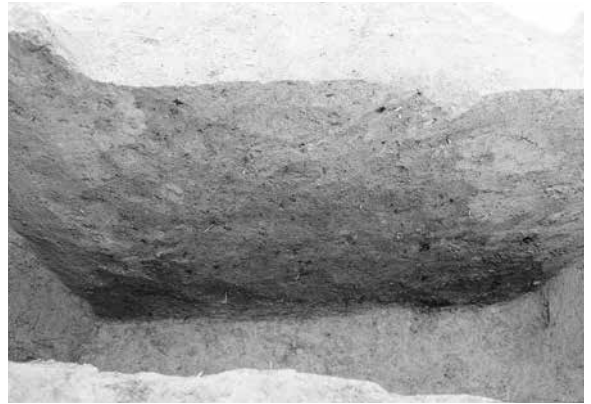
SK13 全景 (北から)



SK13 断面 (南東から)



SK14 全景 (東から)



SK14 断面 (東から)



SK15 全景 (西から)



SK15 断面 (南東から)



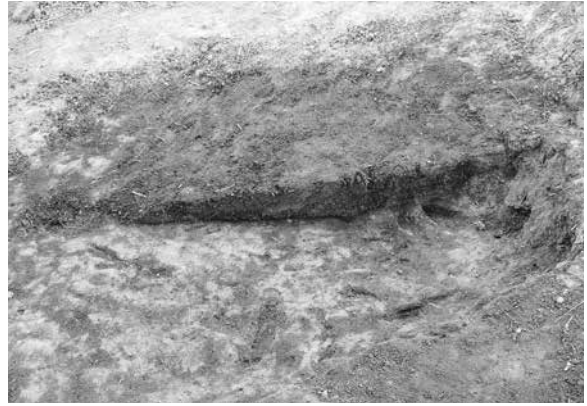
SK16 全景 (西から)



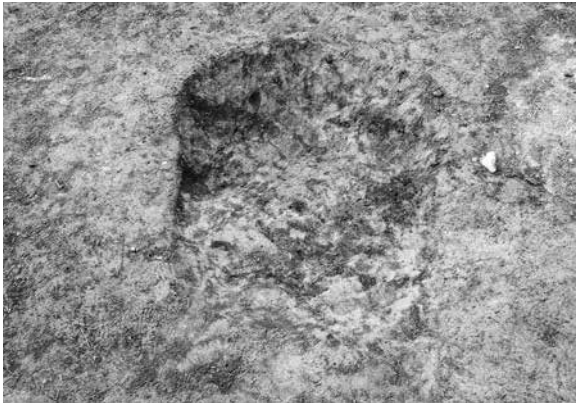
SK16 断面 (南から)



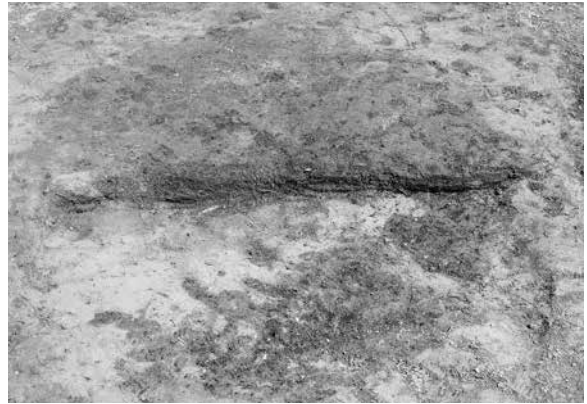
SW01 全景 (東から)



SW01 断面 (北から)



SW03 全景 (南から)



SW03 断面 (南から)



基本土層 (東から)



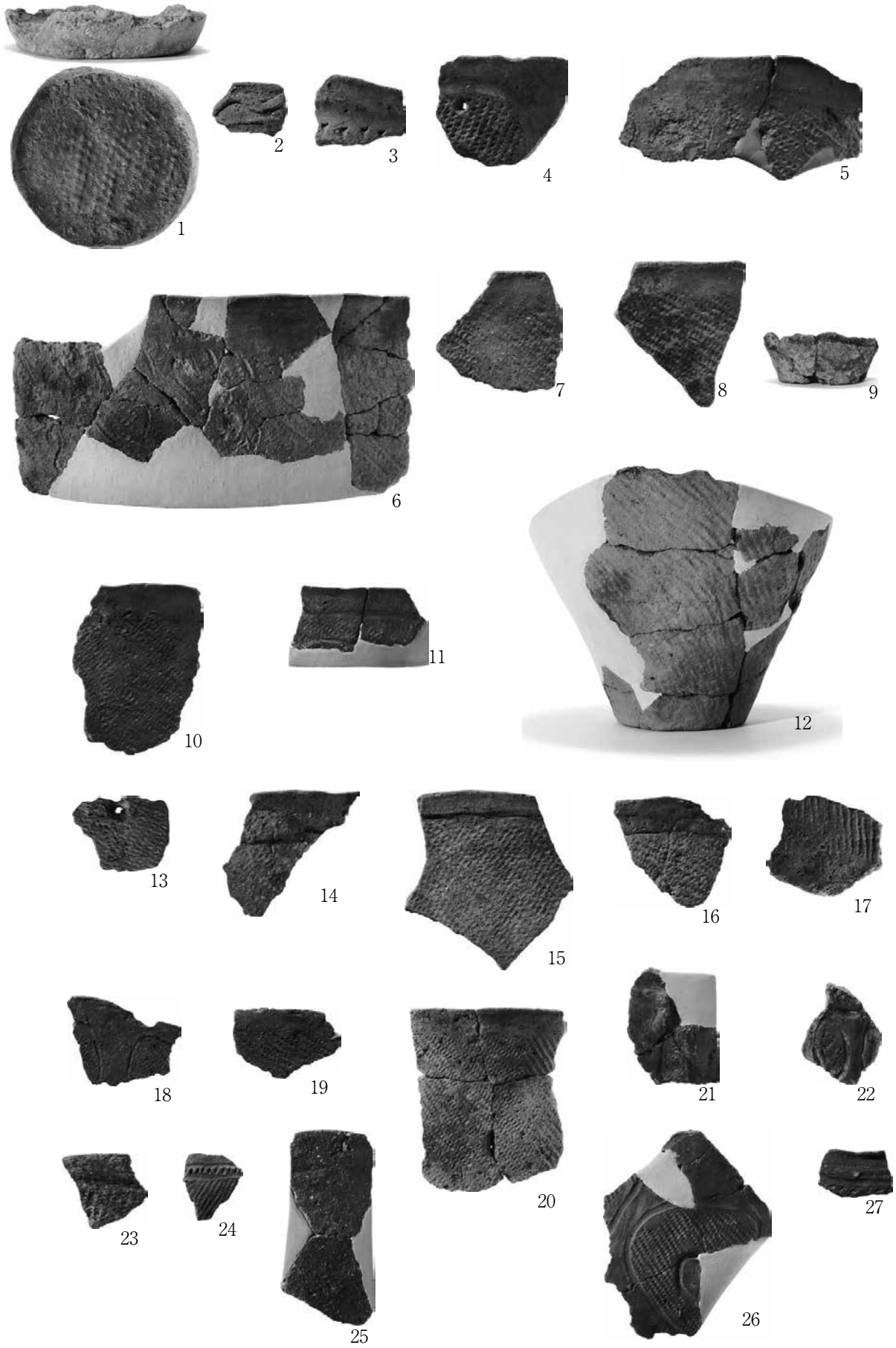
遺跡近景 (青野滝北Ⅰから)



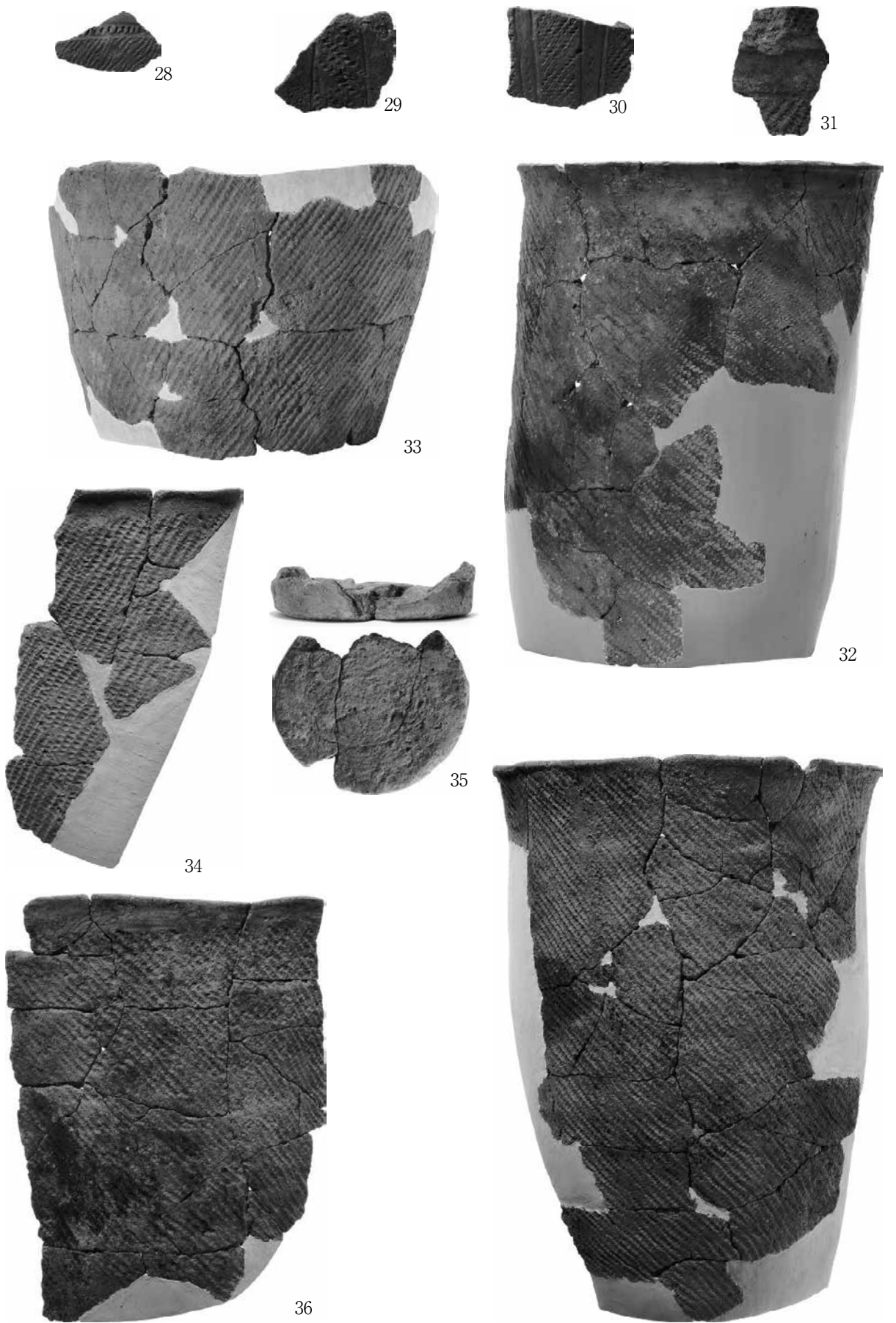
現地説明会



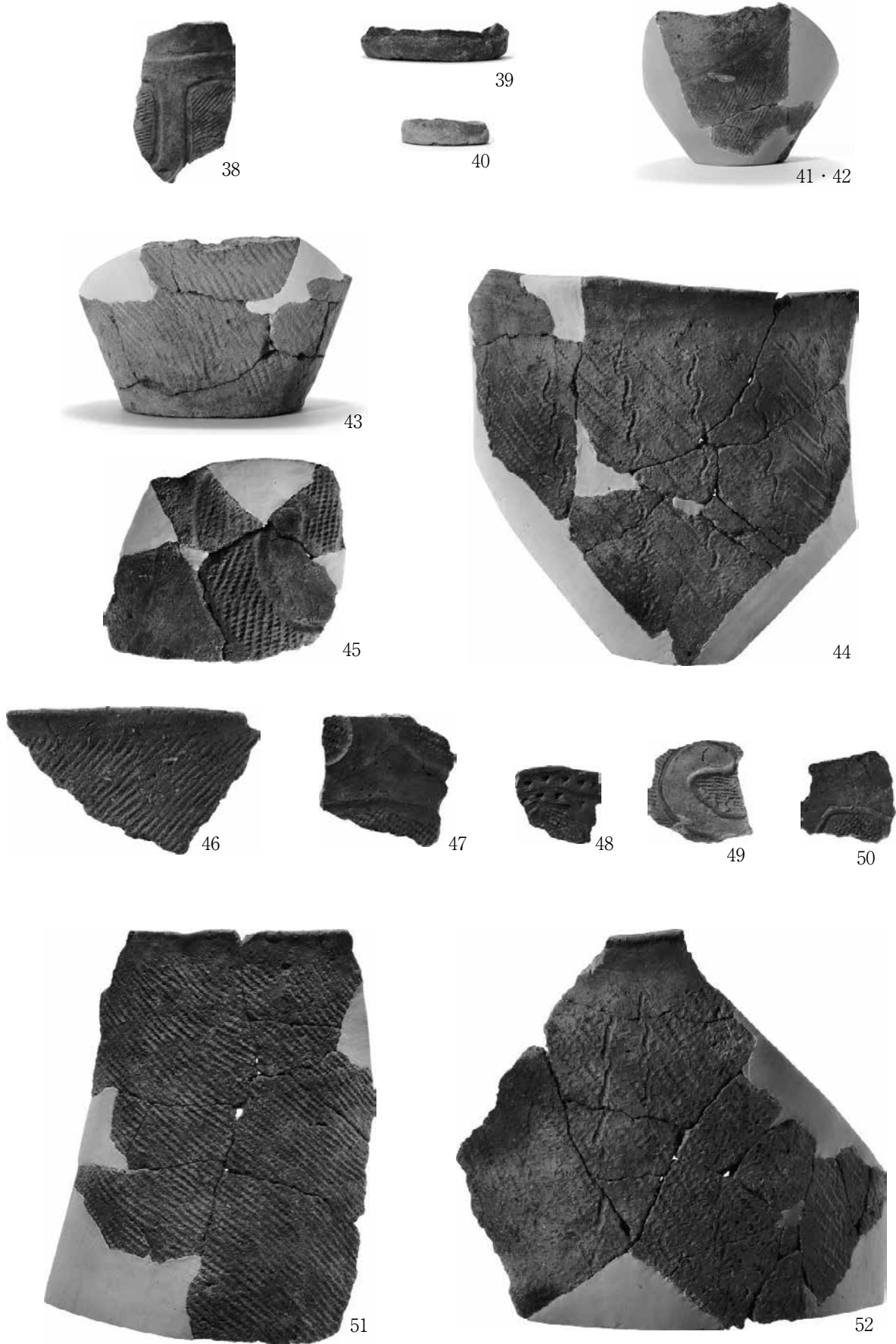
作業風景



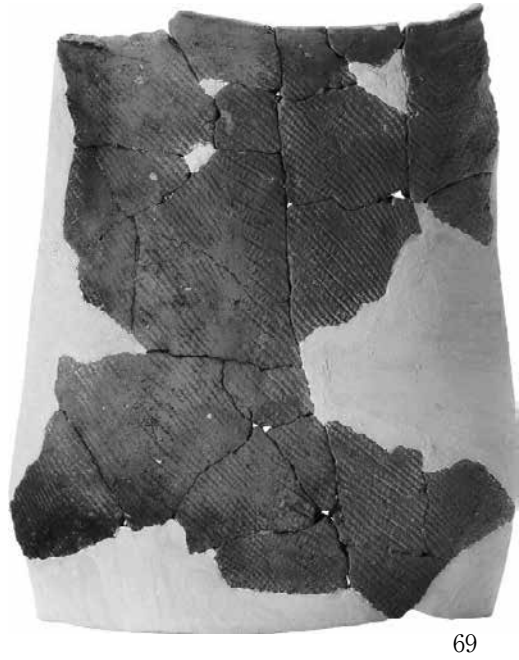
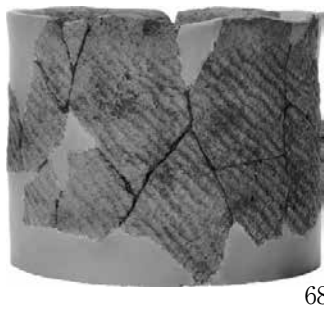
写真図版 21 遺構内出土土器 (1)



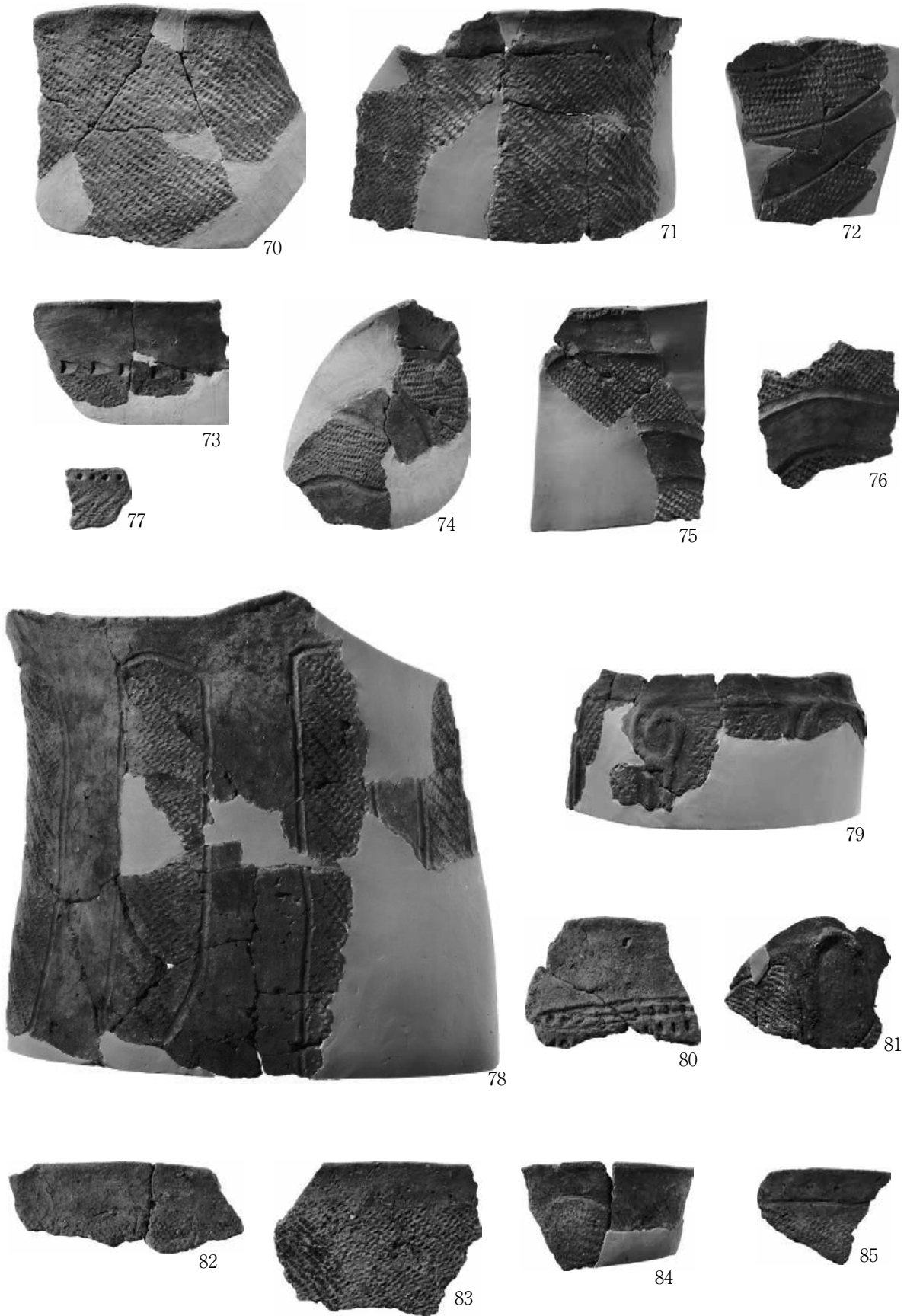
写真図版 22 遺構内出土土器 (2)



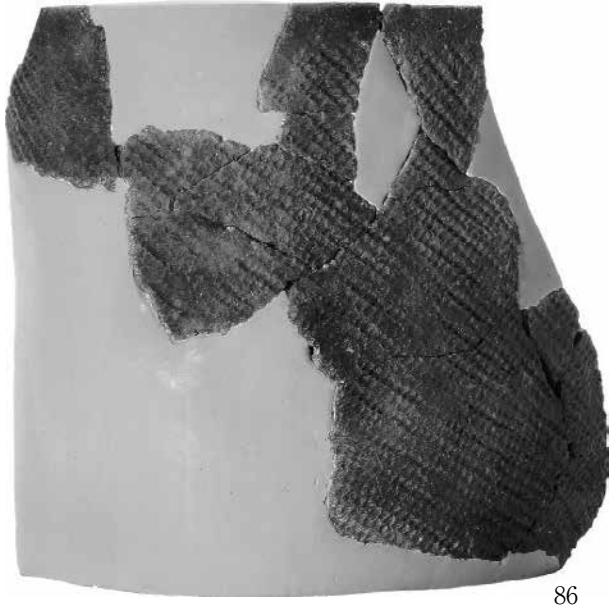
写真図版 23 遺構内出土土器 (3)



写真図版 24 遺構内出土土器 (4)



写真図版 25 遺構内出土土器 (5)



86



87



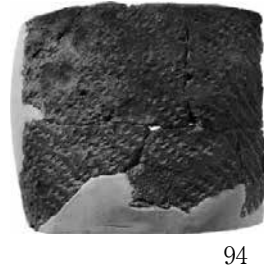
88



90



89



写真図版 27 遺構内出土土器 (7)



97



98



99



100



101



102



103



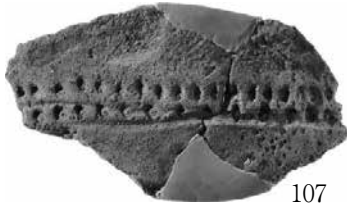
104



105



106



107



108



109



110



111



112



113



114



115



116



117



118



119

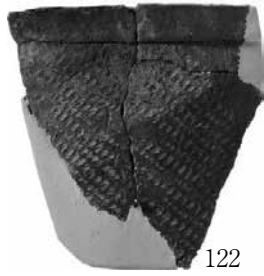


120

写真図版 29 遺構内出土土器 (9)



121



122



123



124



125



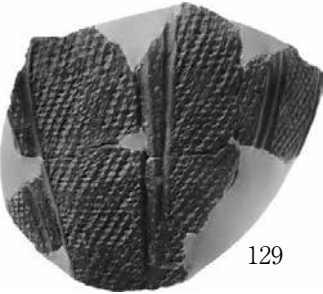
126



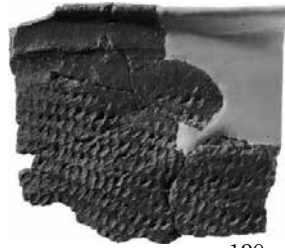
127



128



129



130



131



132



133



134



135



136



137



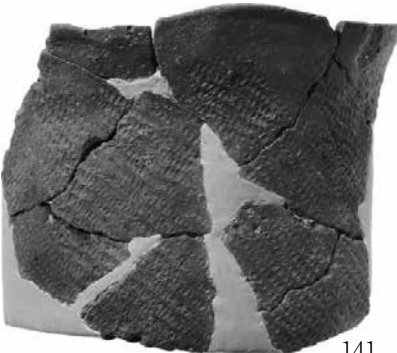
138



139



140



141



142

写真図版 30 遺構内出土土器 (10)



143



144



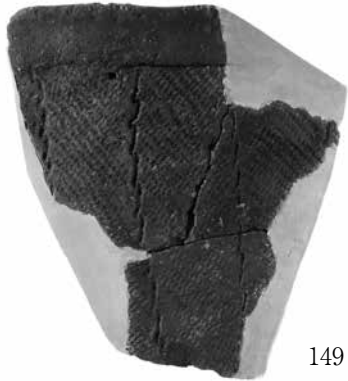
145



146



147



149



148



150



151

写真図版 31 遺構内出土土器 (11)



152



153a



153b



157



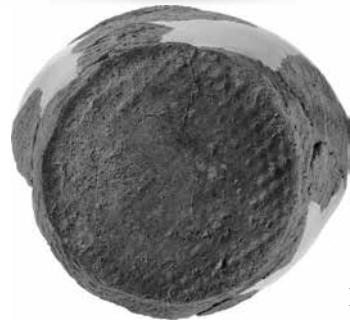
154



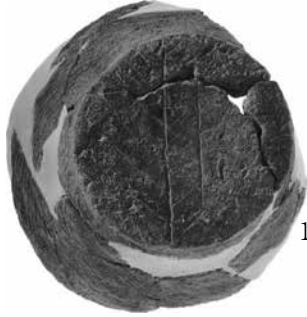
155



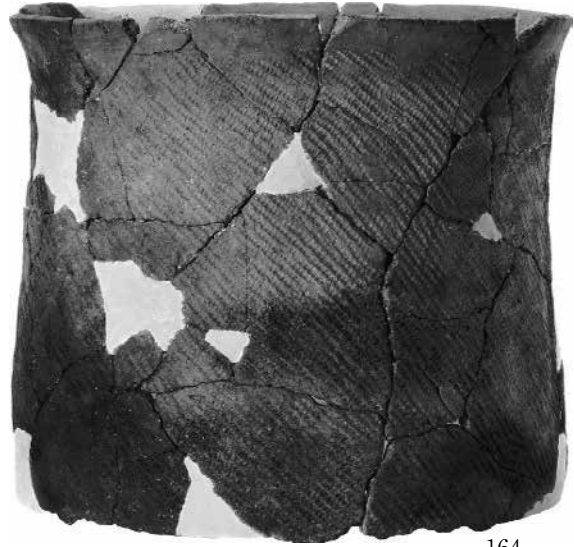
156



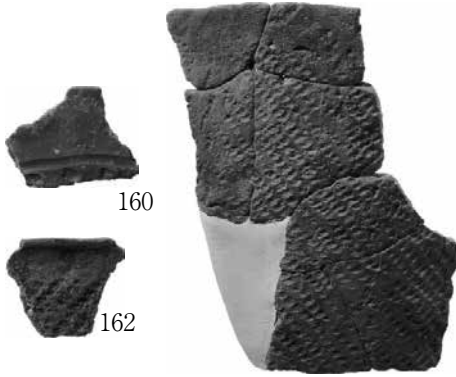
158



159



164



160

162

161

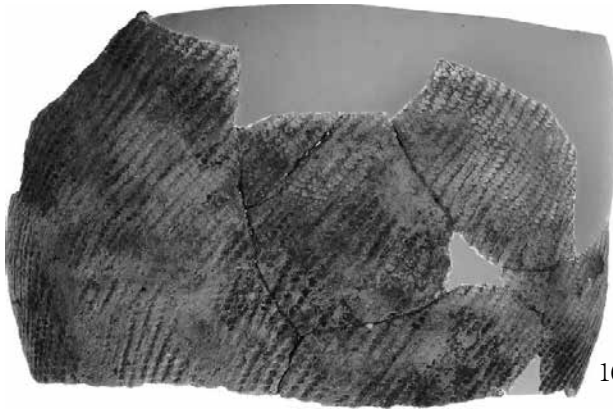


163



165

写真図版 33 遺構内出土土器 (13)



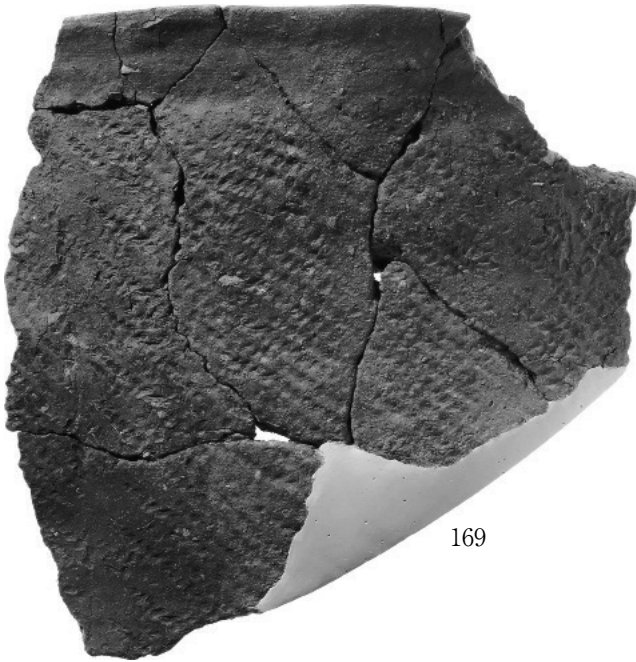
166



167



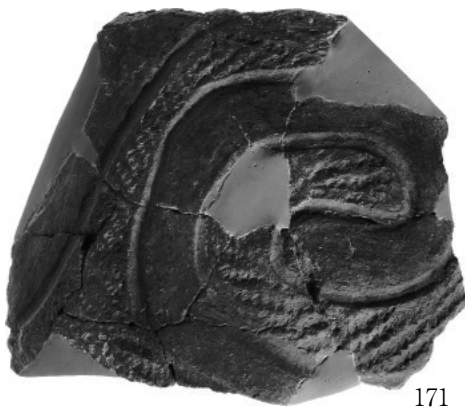
168



169



170



171



172



173



174



175

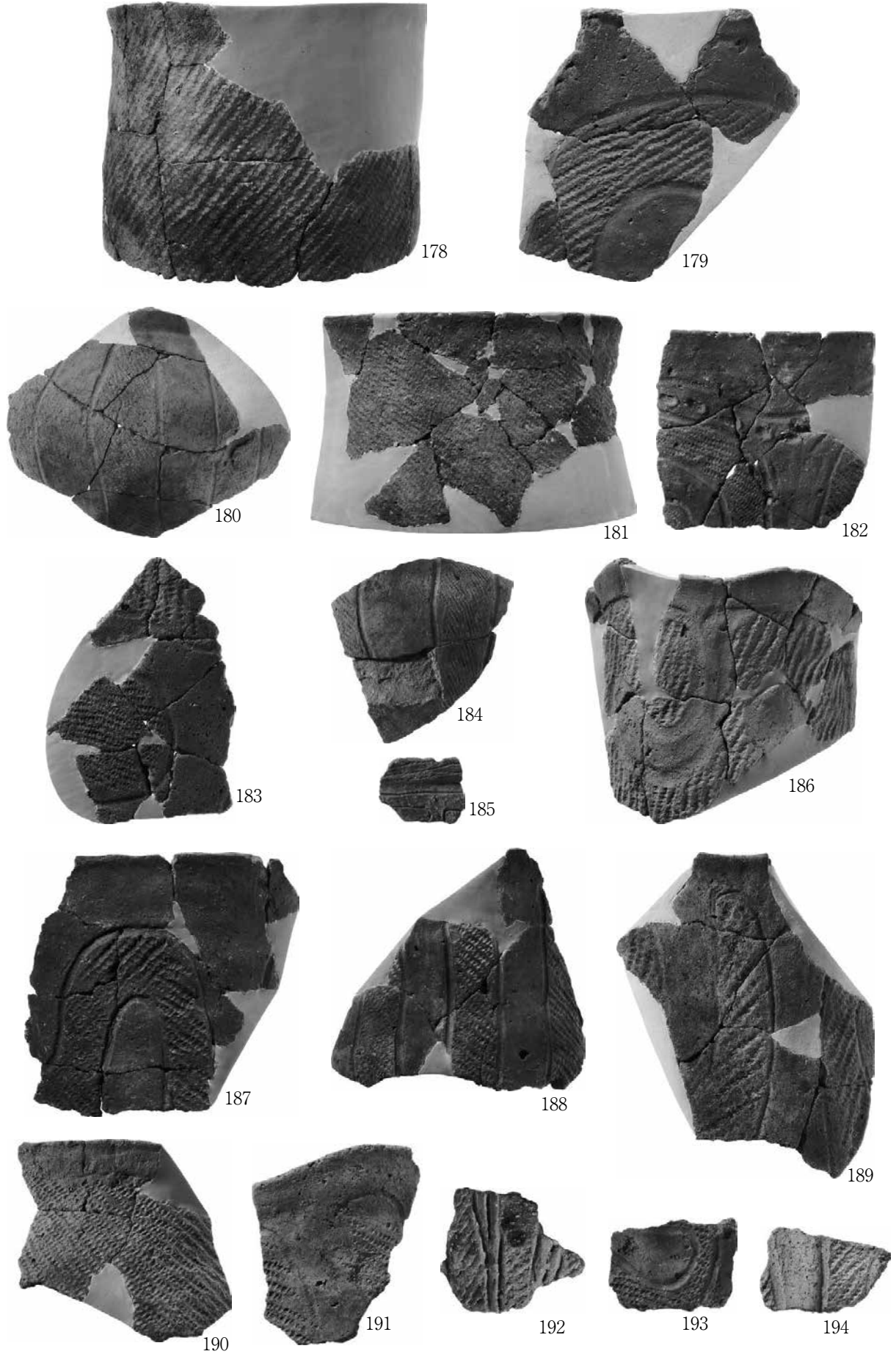


176

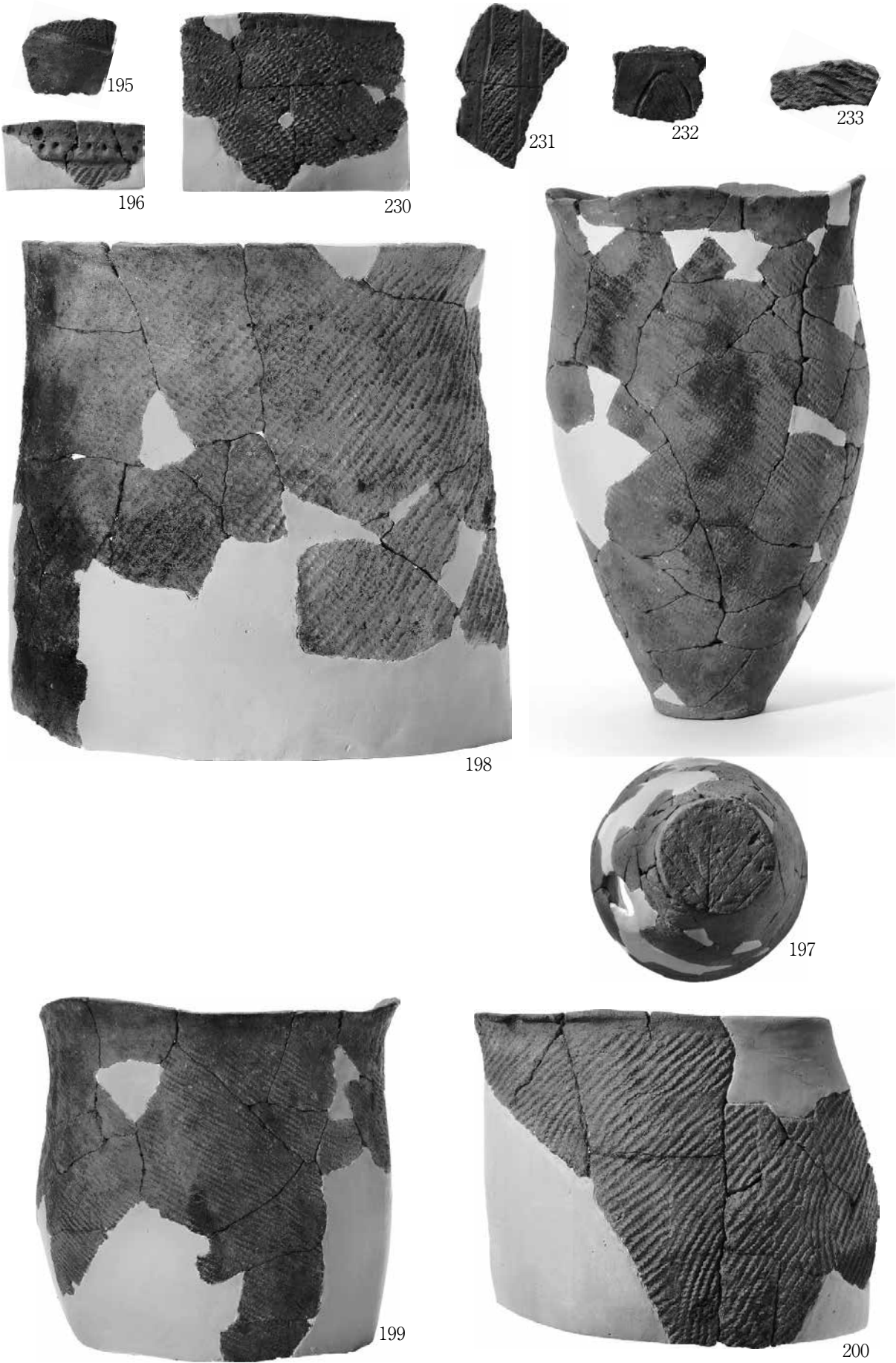


177

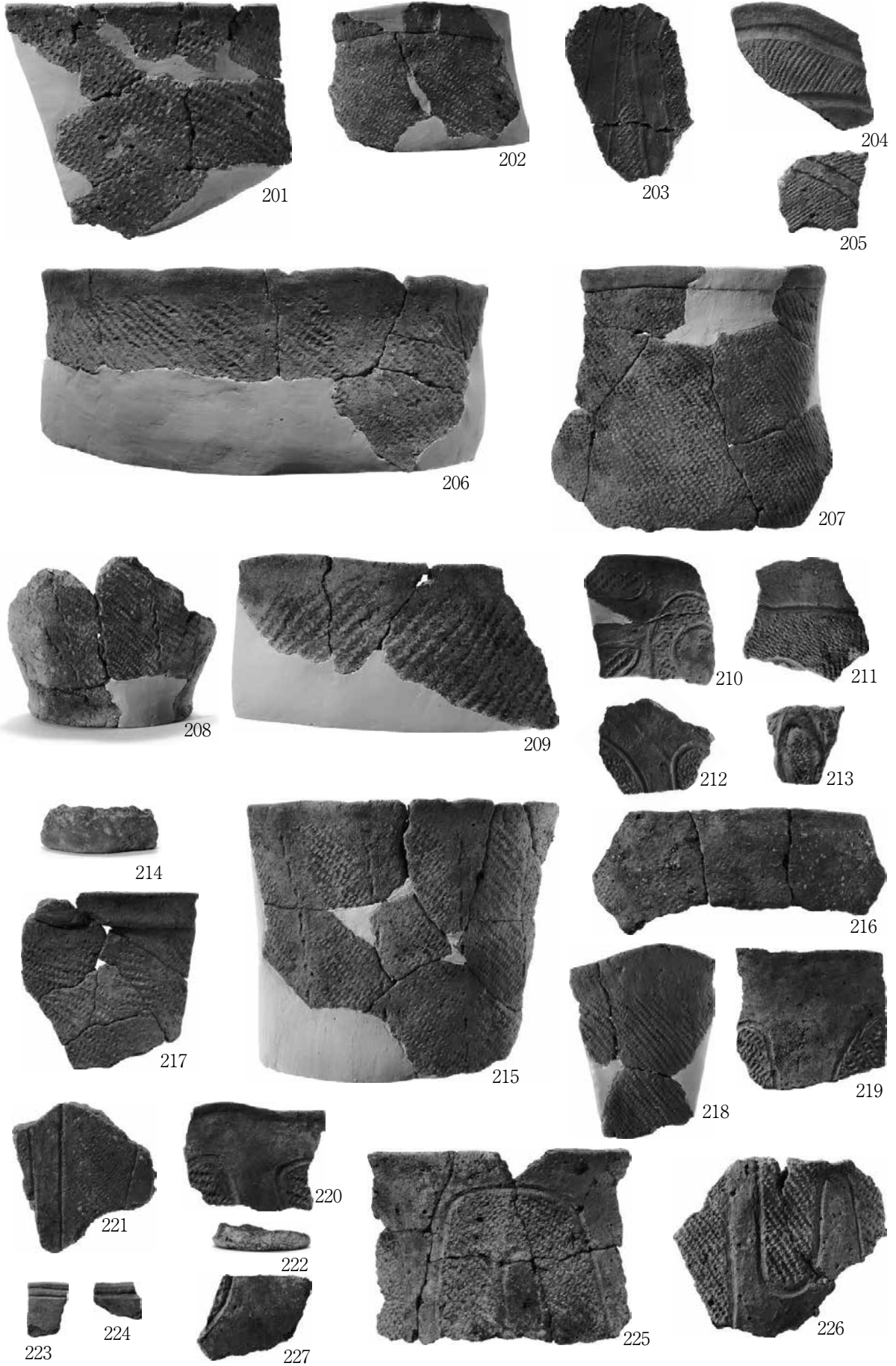
写真図版 34 遺構内出土土器 (14)



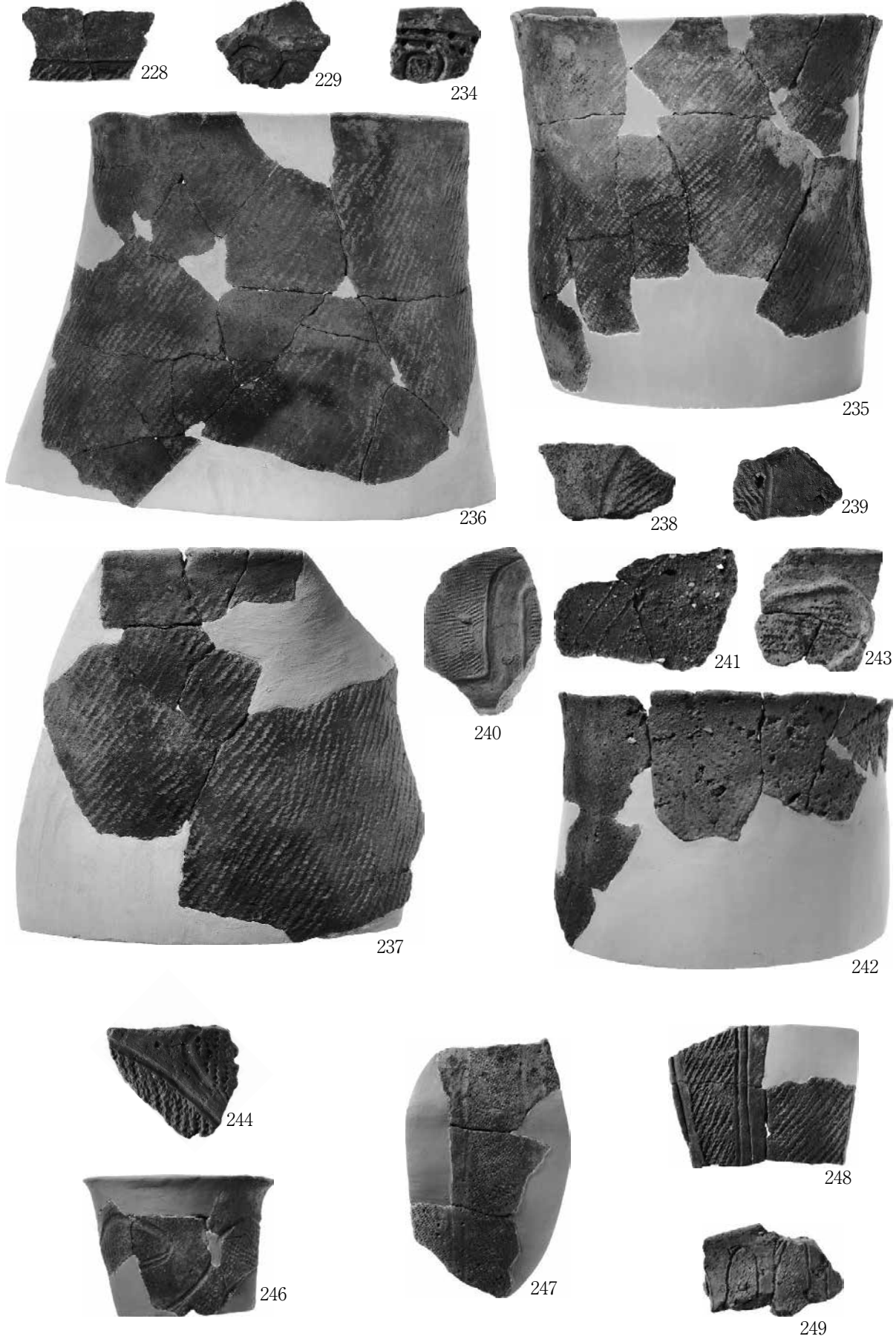
写真図版 35 遺構内出土土器 (15)



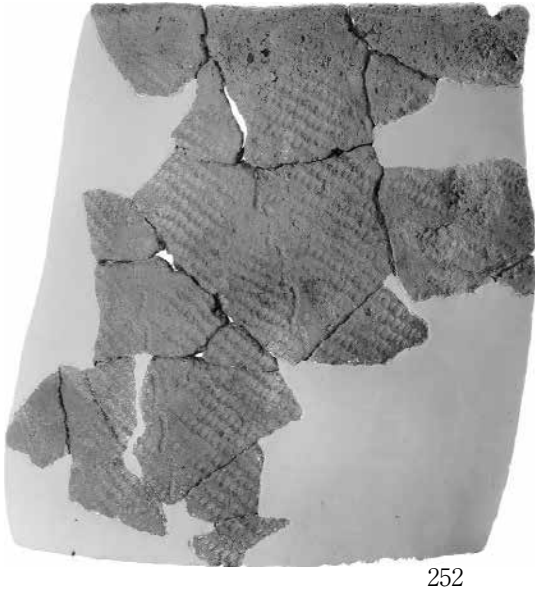
写真図版 36 遺構内出土土器 (16)



写真図版 37 遺構内出土土器 (17)



写真図版 38 遺構内出土土器 (18)、遺構外出土土器 (1)



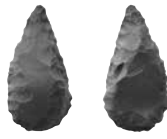
写真図版 39 遺構外出土土器 (2)



257



258



259



260



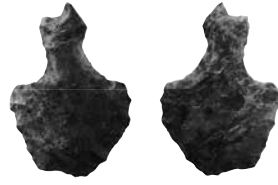
261



262



263



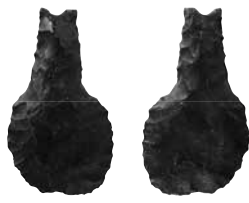
264



265



266



267



268



269



270



271



272



273



274



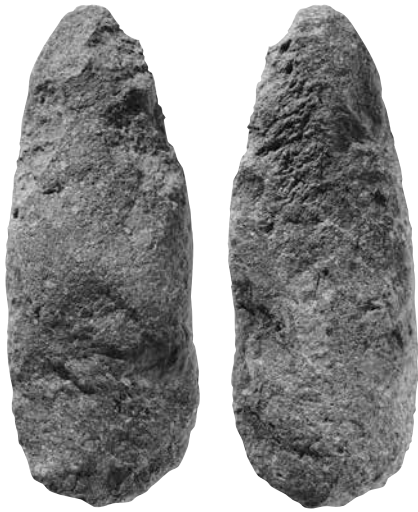
275



276



280



277



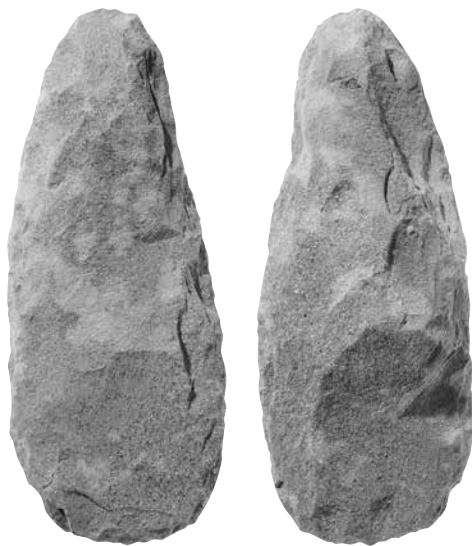
278



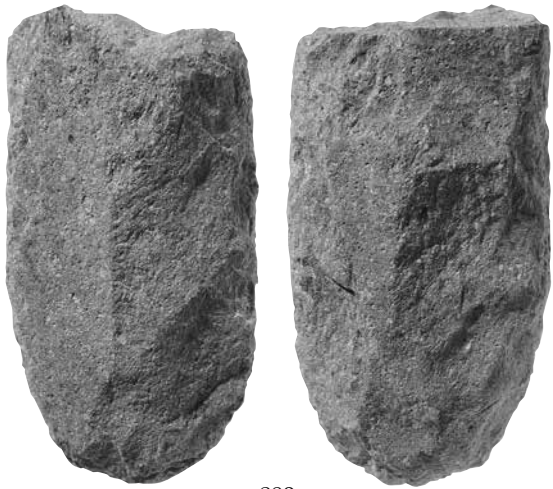
281



279



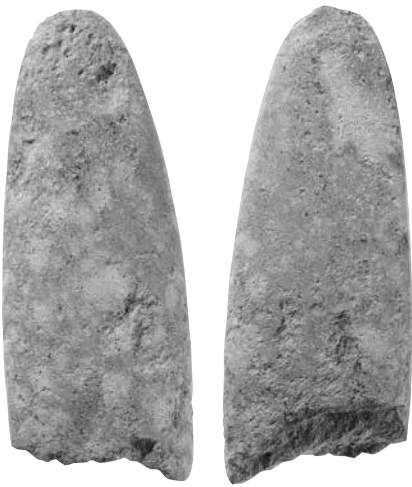
282



283



284



286



285



287



288



289



290



291



296



292



295



293



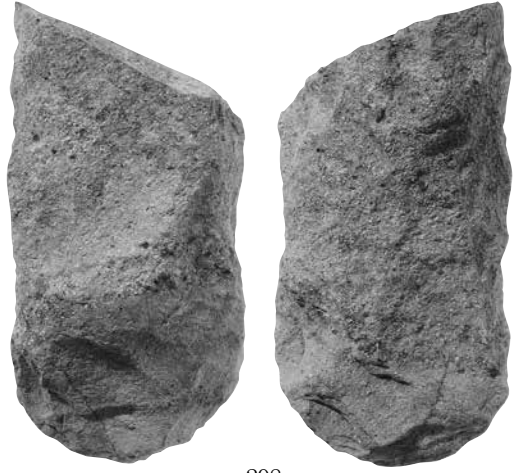
294



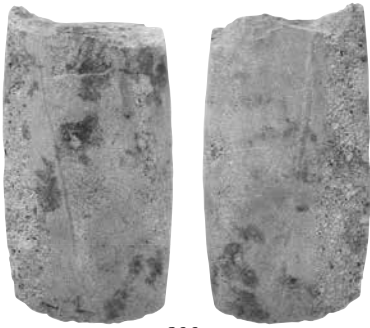
青野
滝北Ⅰ遺跡



297



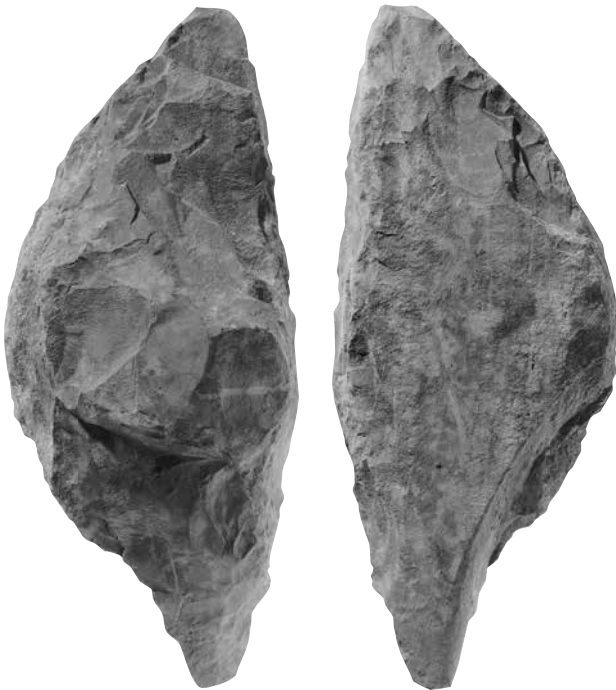
298



299



301



300



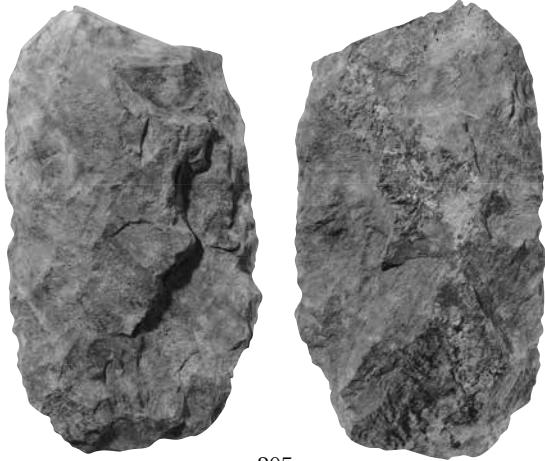
302



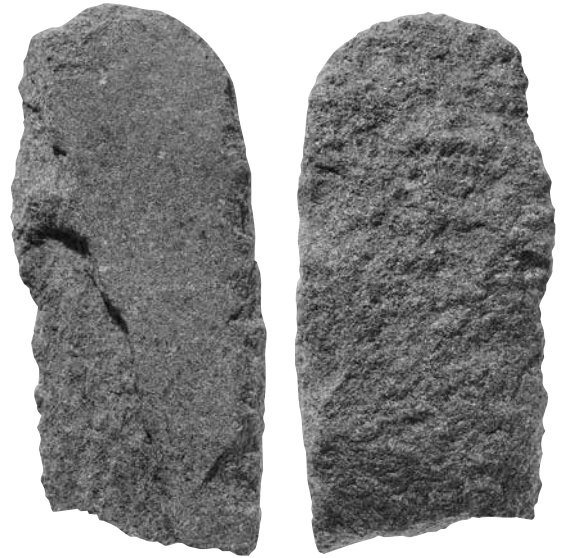
303



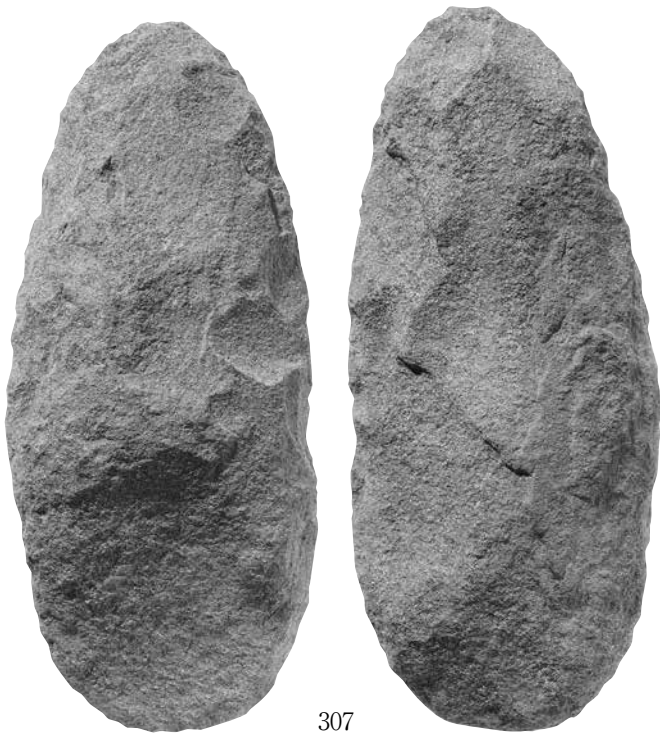
304



305



306



307



308



309



310



312



313



314



315



317



316



311



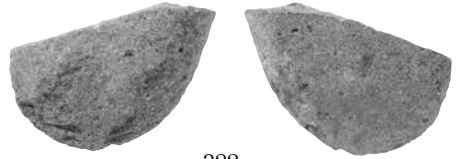
318



319



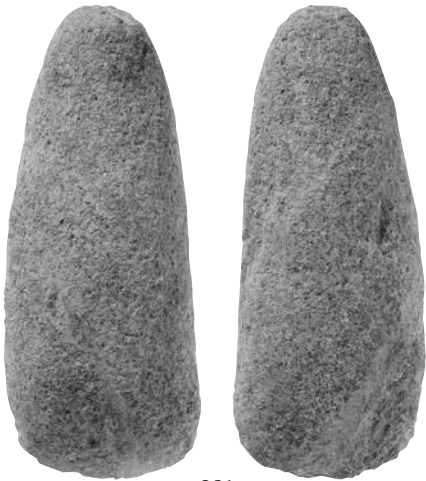
320



322



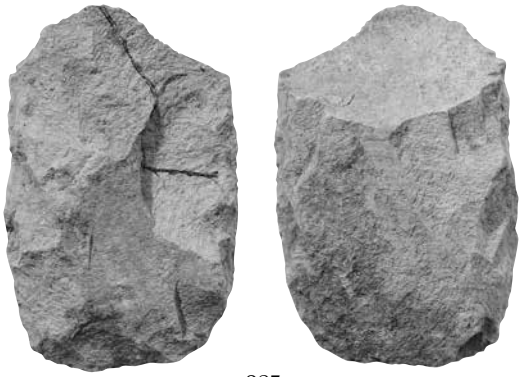
323



321



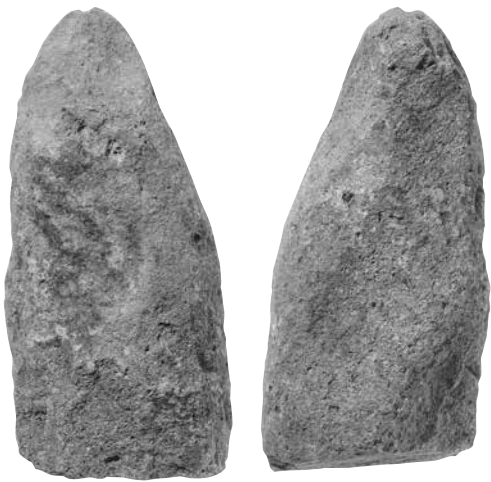
324



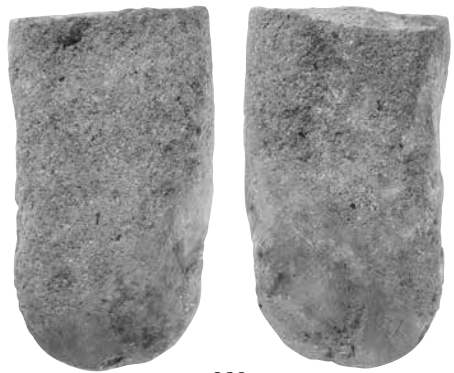
325



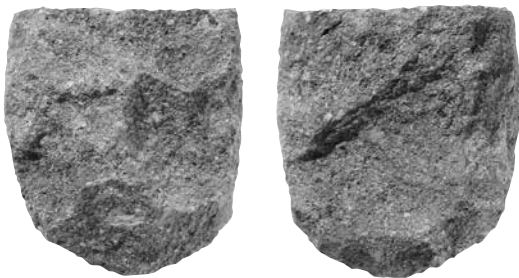
327



326



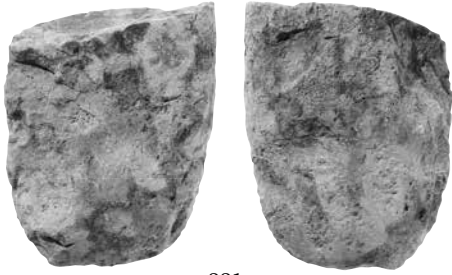
328



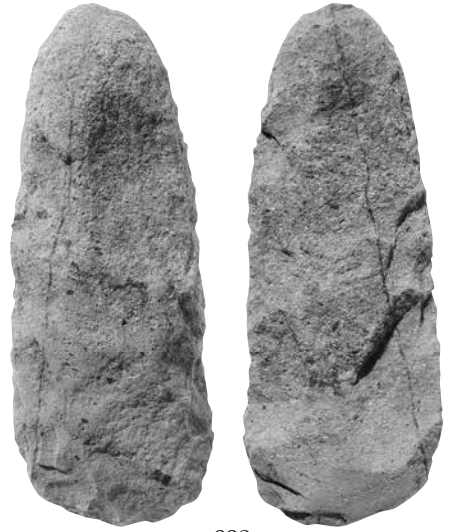
329



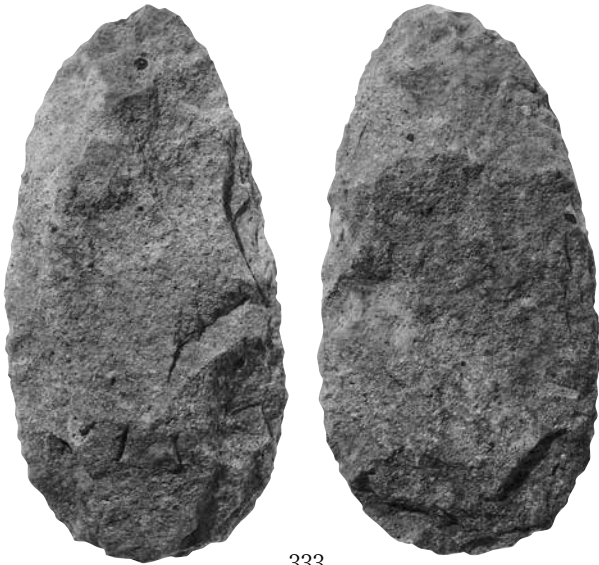
330



331



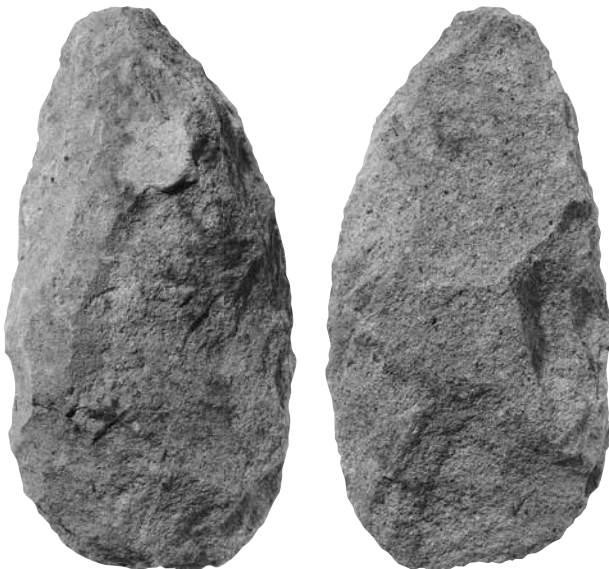
332



333



335



334



336



337



338



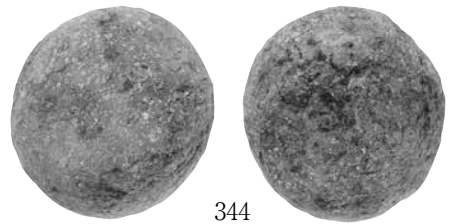
339



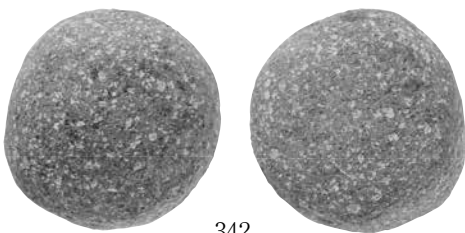
340



341



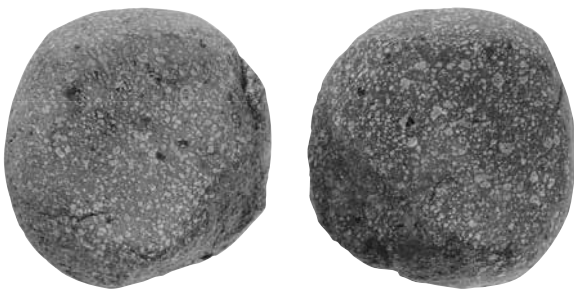
344



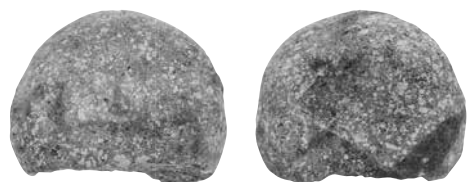
342



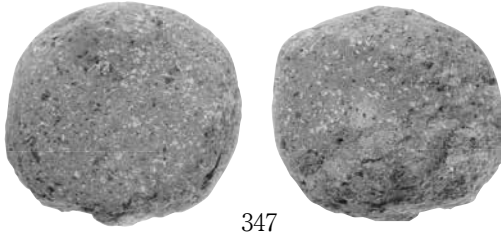
345



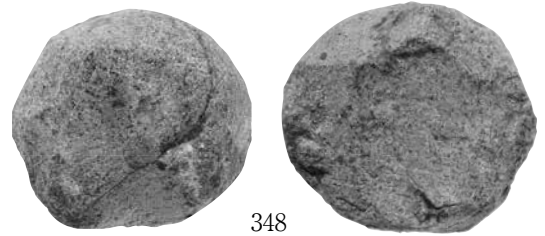
343



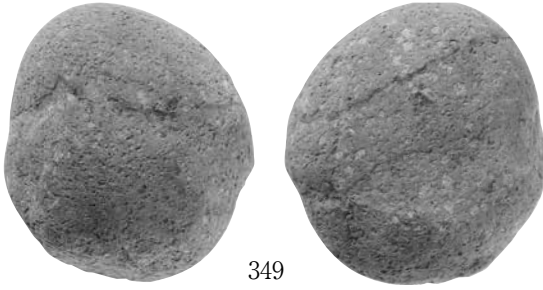
346



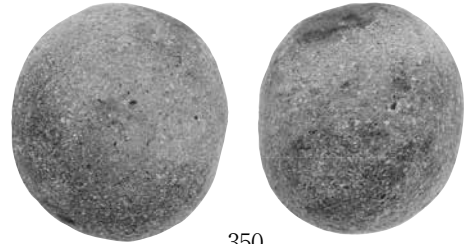
347



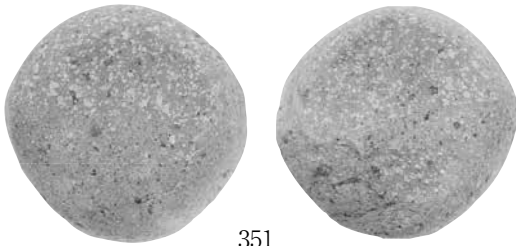
348



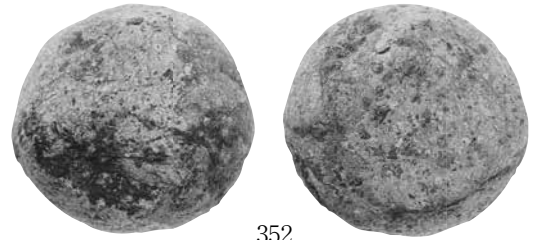
349



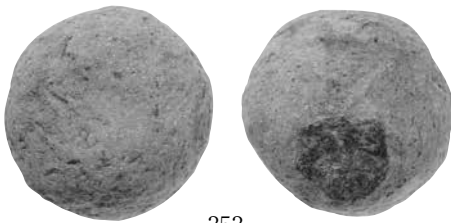
350



351



352



353



356



354



355



357



358



359



360



361



362



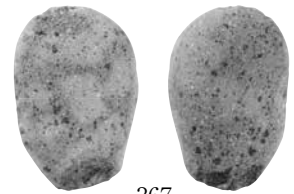
363



364



365



367



366



368



369



370



371





384

385

387



386

388

389

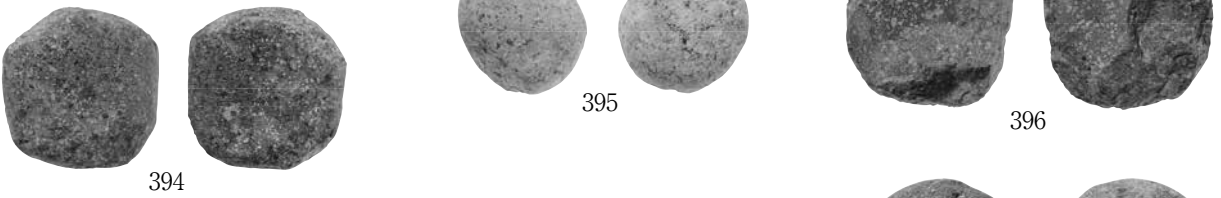
390



391

392

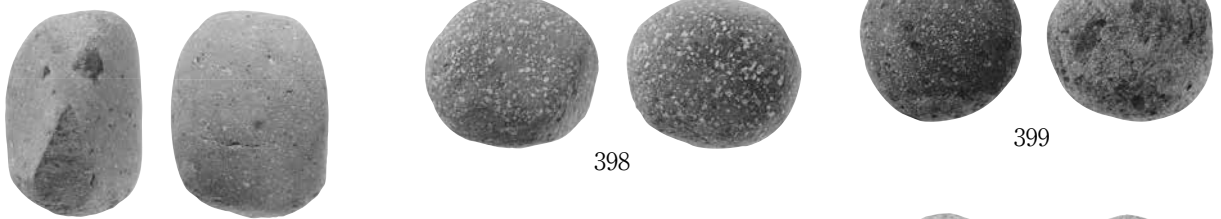
393



394

395

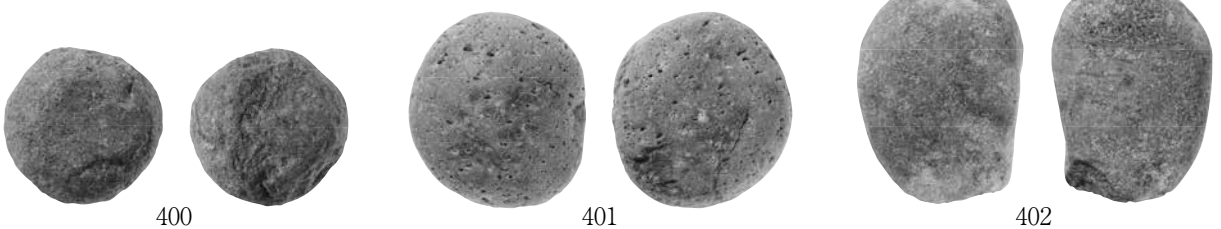
396



397

398

399



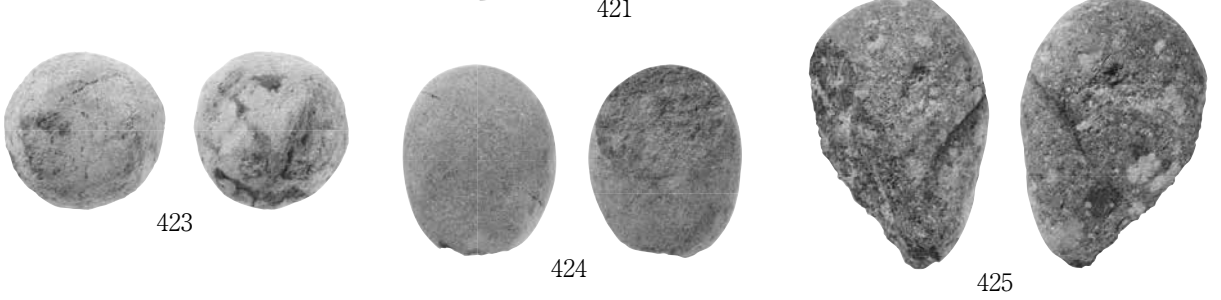
400

401

402



写真図版 55 石器 (16)





436



437



438



439



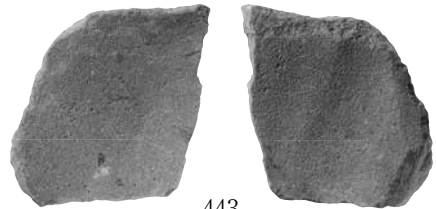
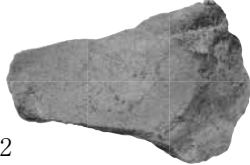
441



440



442



443

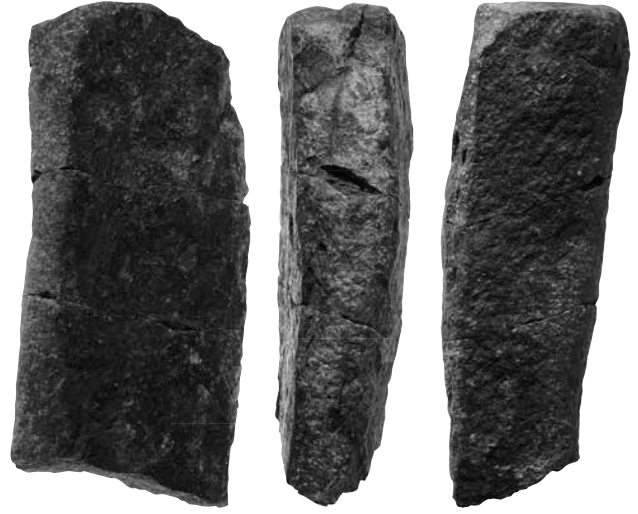


444

青野滝北Ⅰ遺跡



445



446



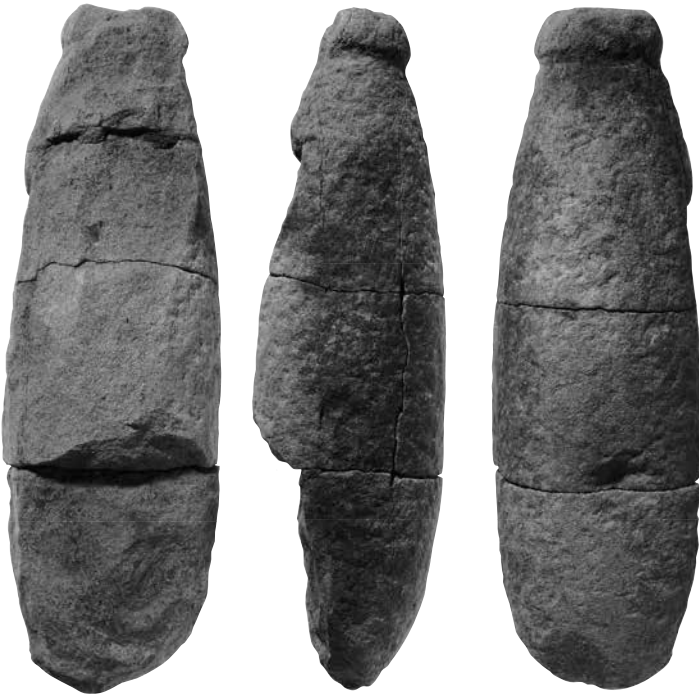
447



448



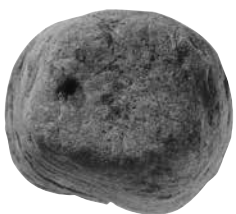
451



449



450



452

写 真 图 版

(青野滝北Ⅱ遺跡)



遺跡遠景（西から）



調査区全景（直上）



調査前現況



基本土層



SI01 全景 (南から)



SI01 断面 (東から)



SI01 炉全景 (南から)



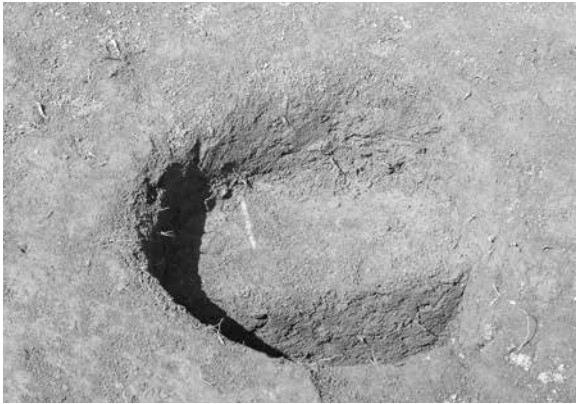
SI01 炉断面 (南から)



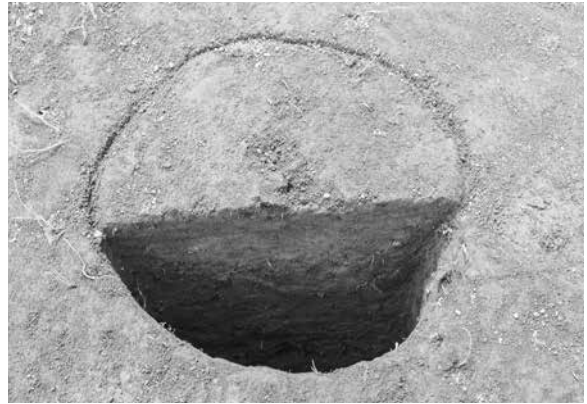
SI01 土器埋設炉全景（南東から）



SI01 土器埋設炉断面（南東から）



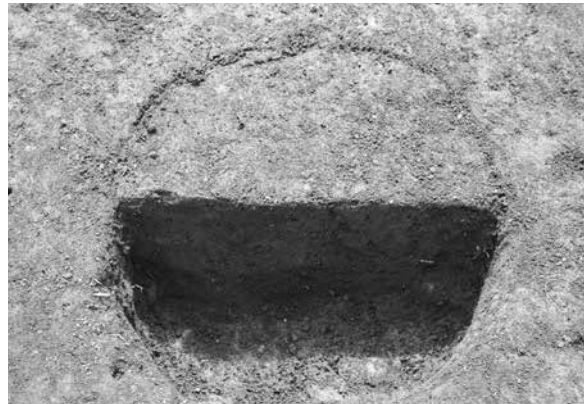
SI01PP01 全景（東から）



SI01PP01 断面（東から）



SI01PP02 全景（東から）



SI01PP02 断面（東から）



作業風景



作業風景



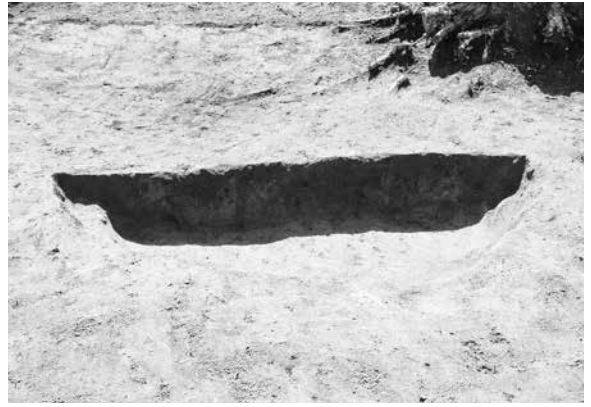
SK01 全景 (西から)



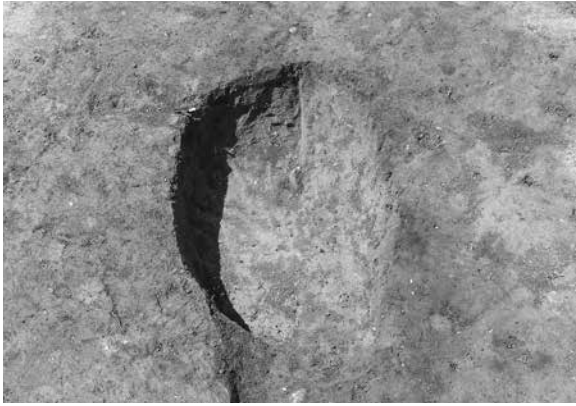
SK01 断面 (南から)



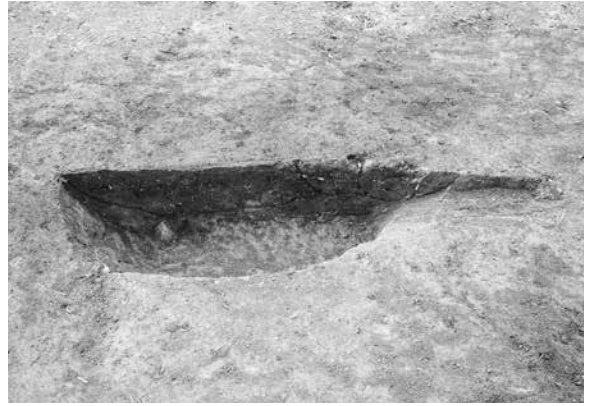
SK02 全景 (東から)



SK02 断面 (北から)



SK03 全景 (北から)



SK03 断面 (東から)



SK04 全景 (北から)



SK04 断面 (西から)



SK06 全景 (東から)



SK06 断面 (西から)



SK07 全景 (西から)



SK07 断面 (西から)



SK08 全景 (南西から)



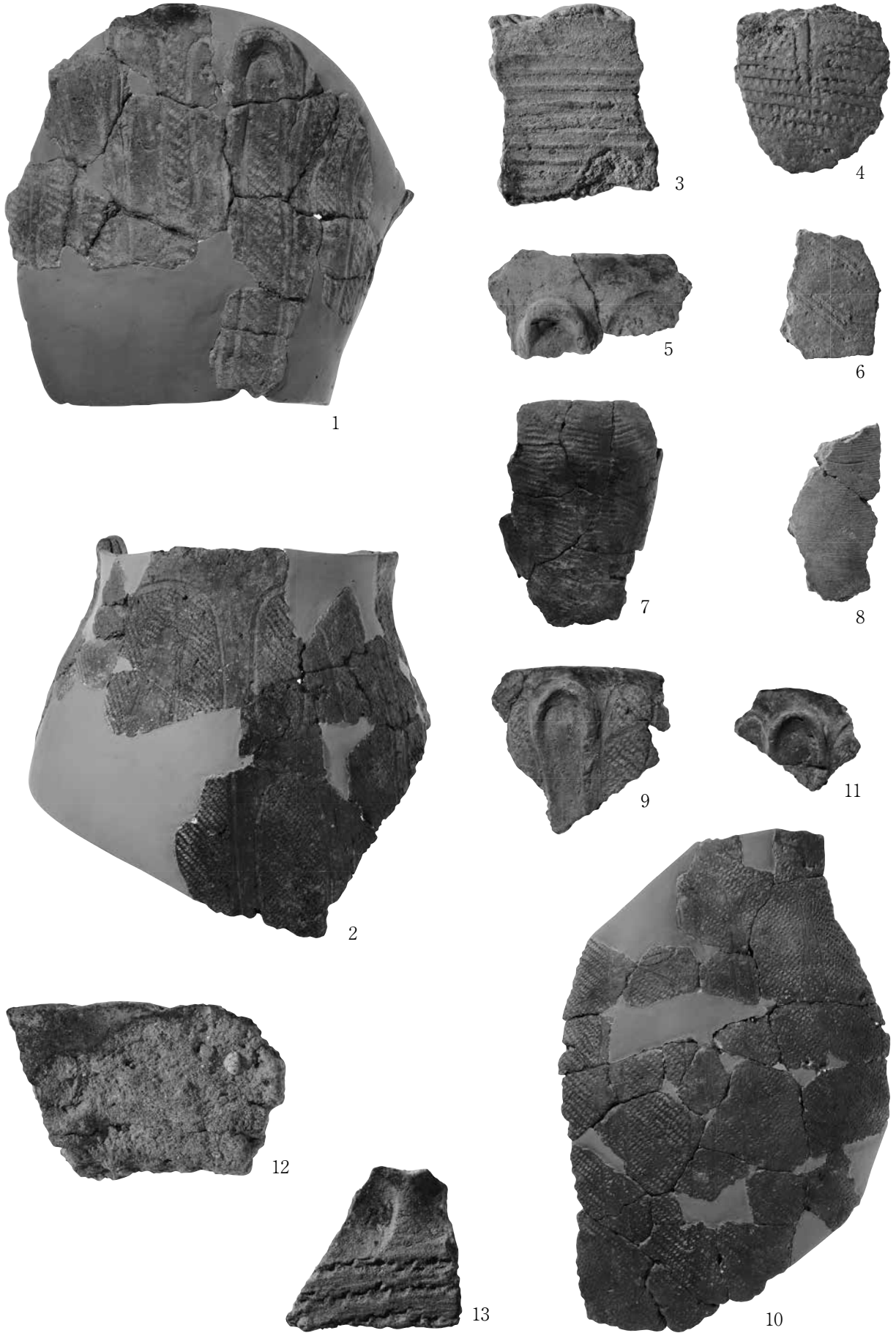
SK08 断面 (南西から)



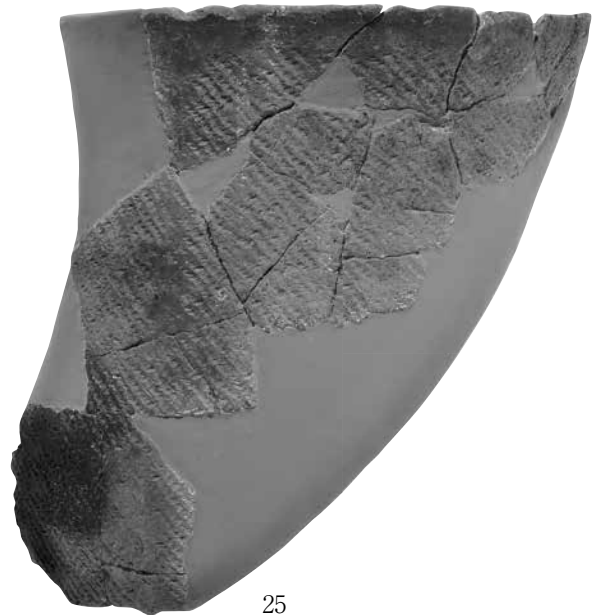
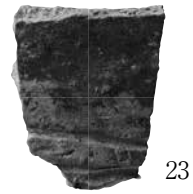
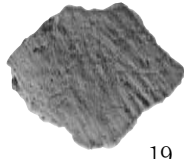
重機稼働風景



作業風景



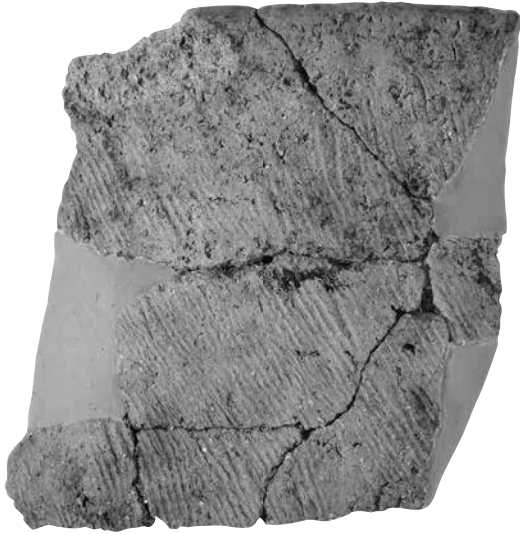
写真図版 66 遺構内出土土器 (1)



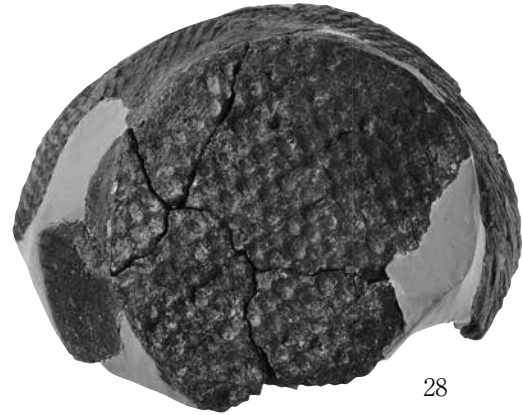
写真図版 67 遺構内出土土器 (2)



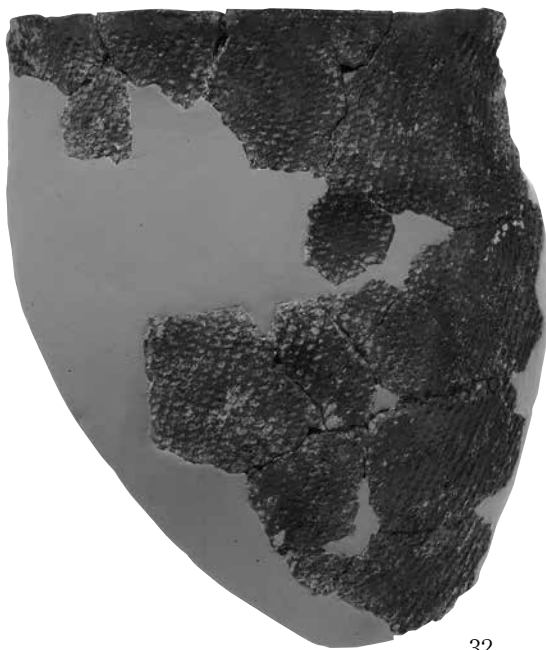
26



27



28



32



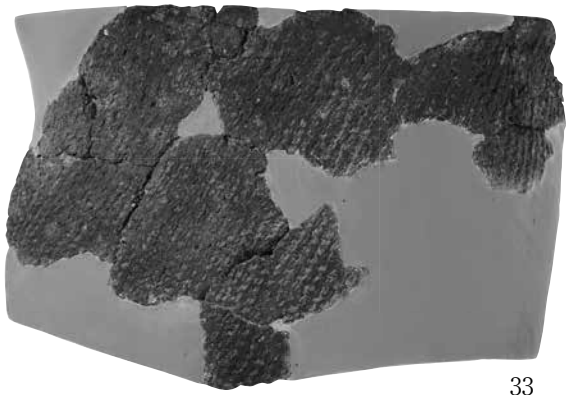
31



29



30



33



34



35



36



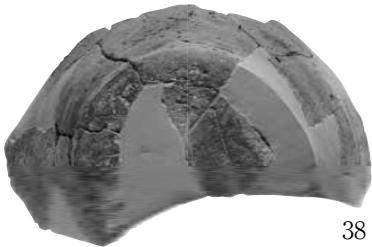
37



40



39



38



43



41



42



44



46



47



45

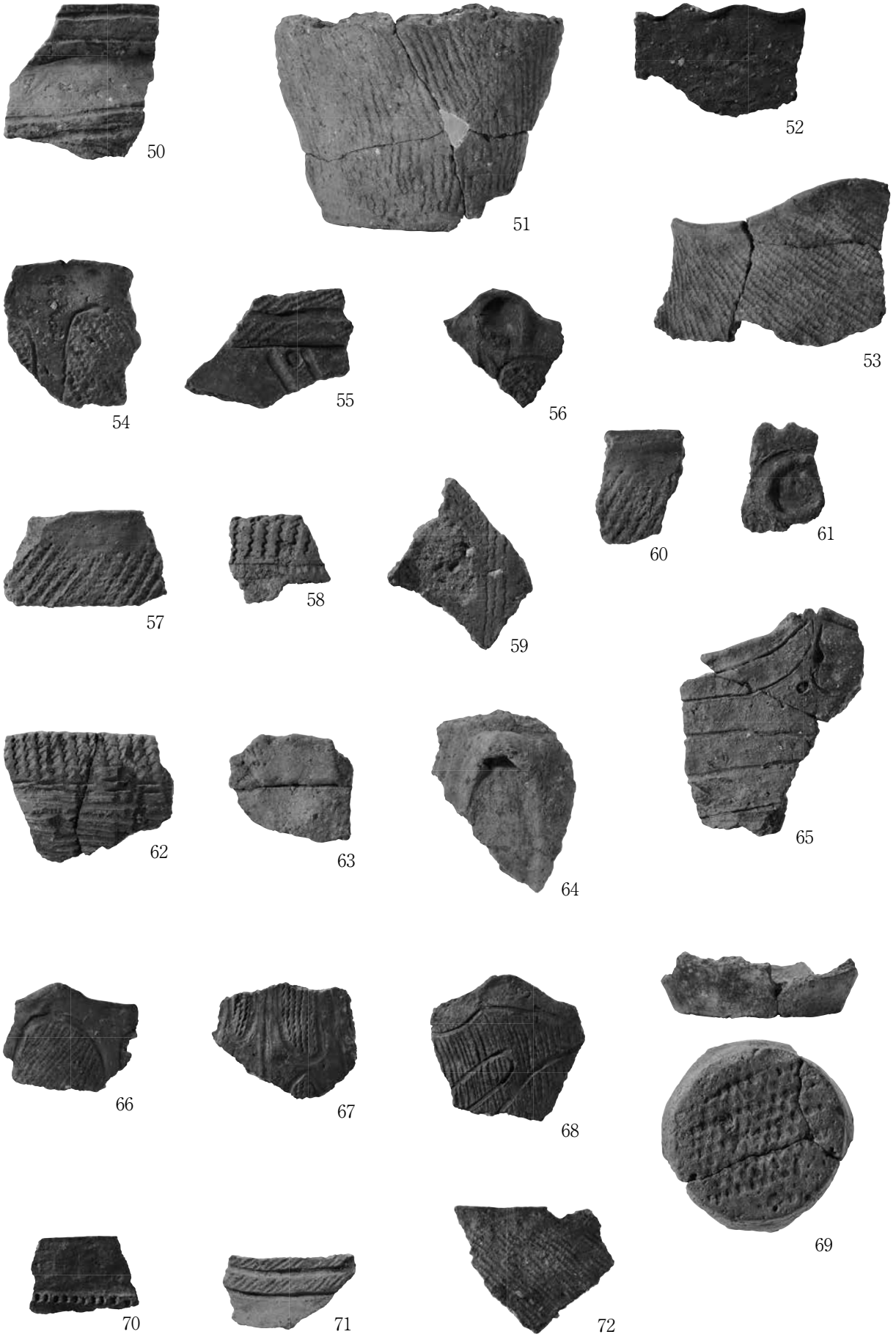


49

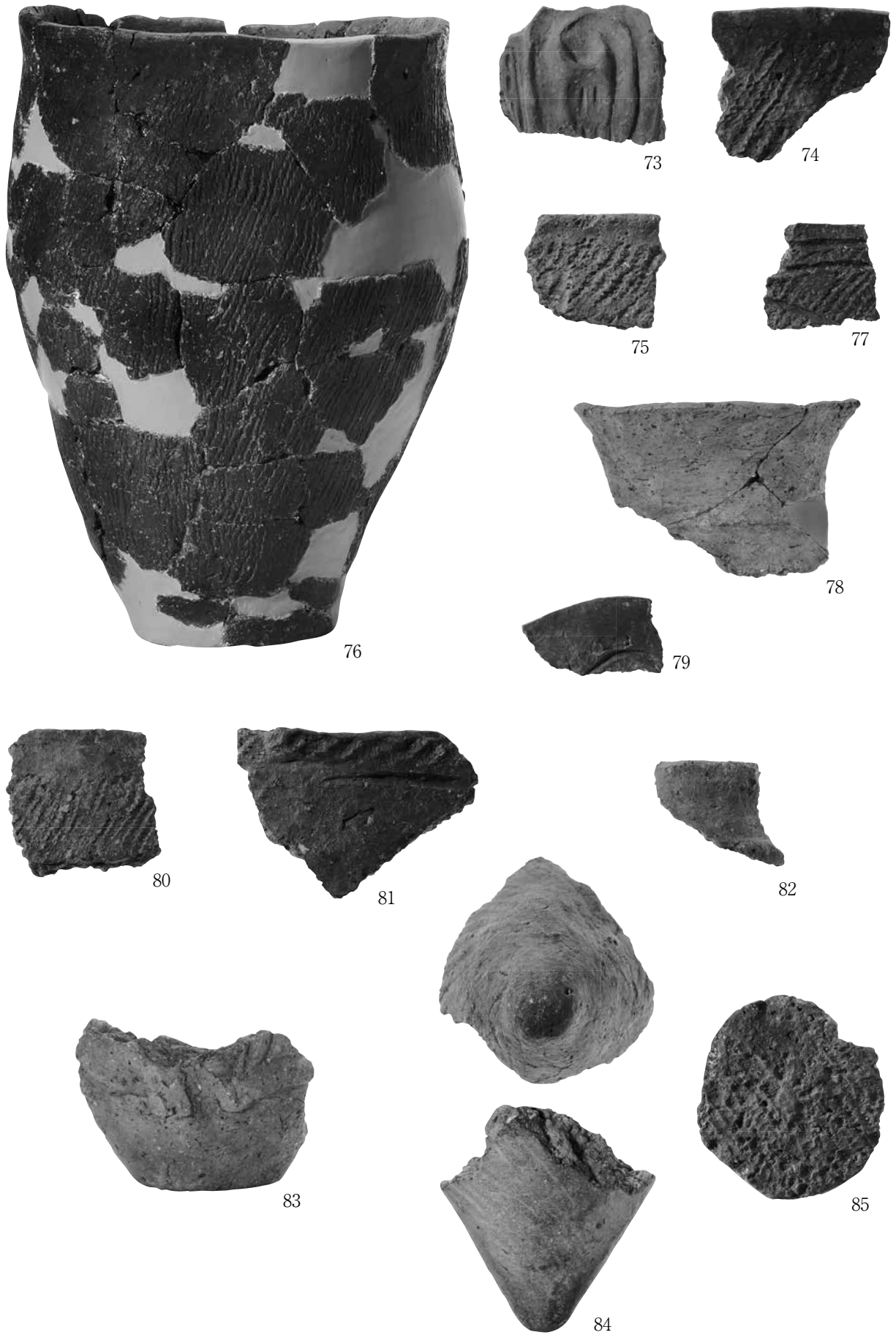


48

写真図版 69 遺構内出土土器（4）、遺構外出土土器（1）



写真図版 70 遺構外出土土器 (2)



写真図版 71 遺構外出土土器 (3)、土製品



86



87



88



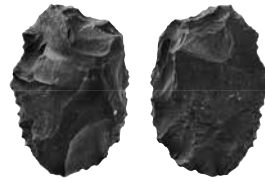
89



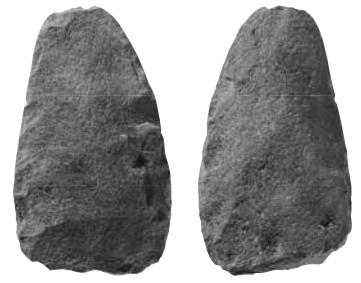
90



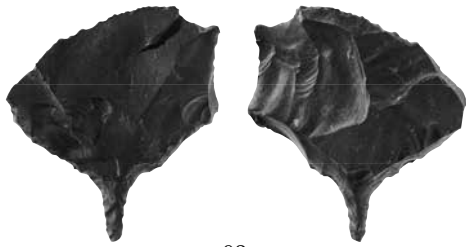
91



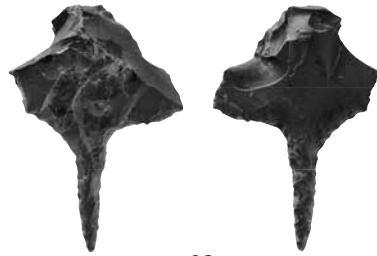
95



96



93



92



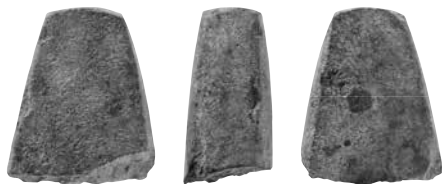
94



97



98



99



100

写真図版 72 石器 (1)



101



102



103



104



105



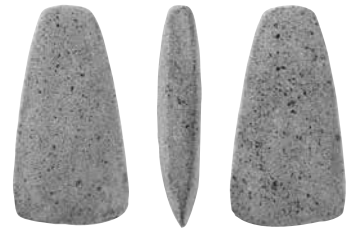
106



107



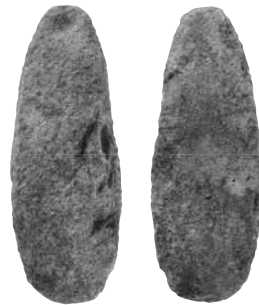
108



109



110



111



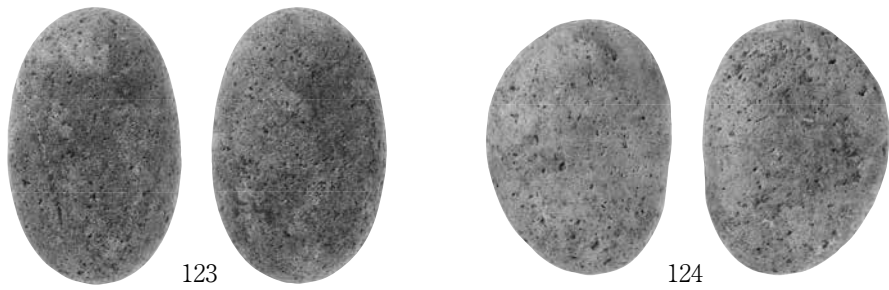
112



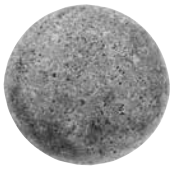
113



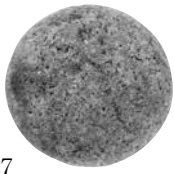
114



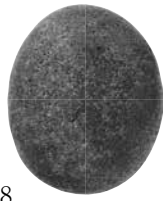
写真図版 74 石器 (3)



127



128



129



130



131



132



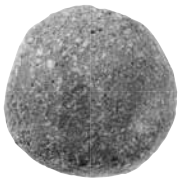
133



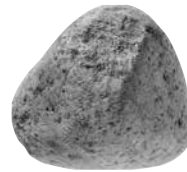
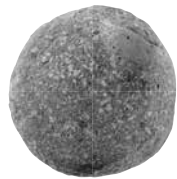
134



135



136



137



138



140



139

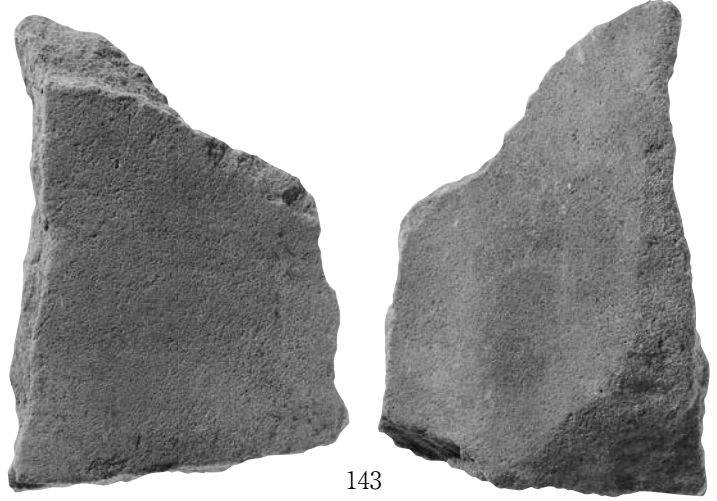


141





142



143



144



145



146



147



148



149

写真図版

(青野滝北Ⅲ遺跡)



遺跡遠景（南から）



遺跡全景（直上）



遺跡近景（西から）



基本土層



SI01 全景 (西から)



SI01 断面 (北から)



SI01 炉全景 (南から)



SI01 炉断面 (東から)



SI03 全景（南から）



SI03 断面（南から）



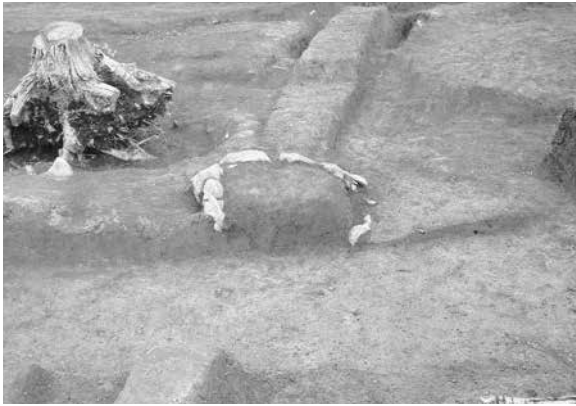
SI03 炉全景（南から）



SI03 炉断面（北から）



SX01 全景 (南から)



SX01 断面 (南から)



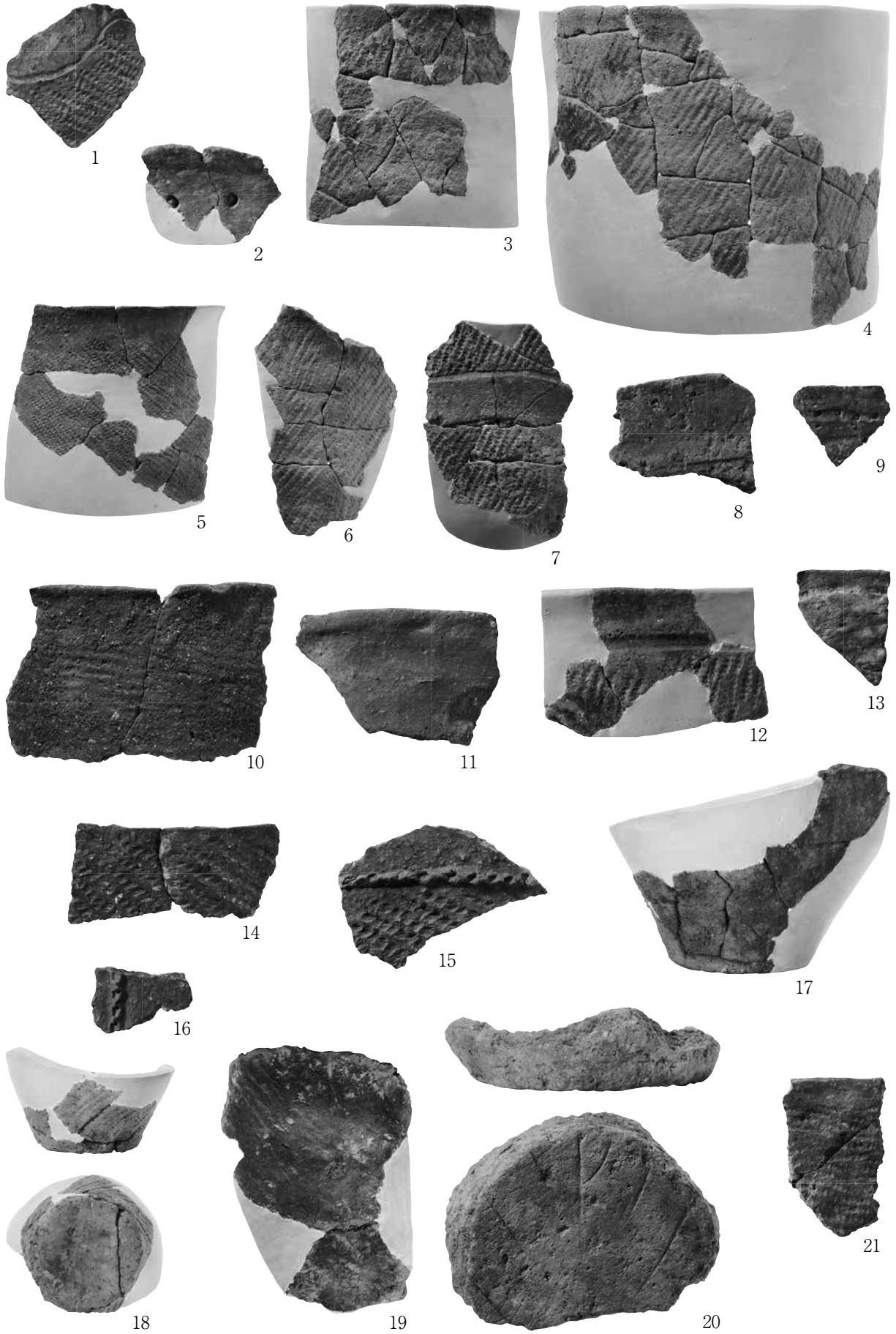
SX01 検出状況 (南東から)



SK01 全景 (南から)



SK01 断面 (南から)



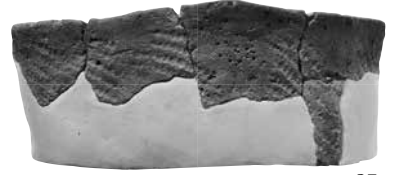
写真図版 82 遺構内出土土器 (1)



22・23



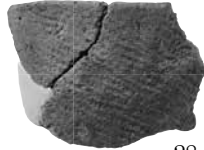
24



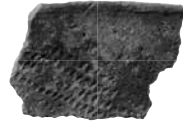
25



27



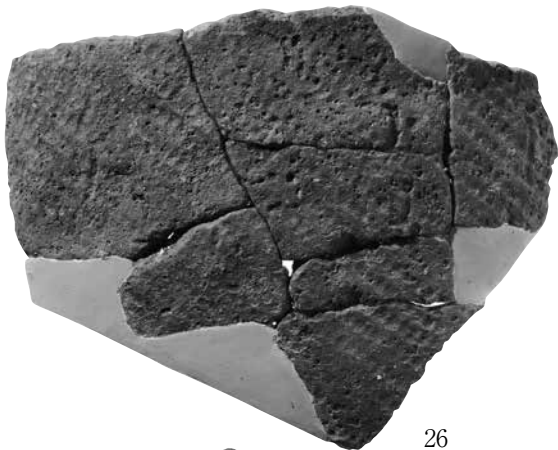
28



29



30



26



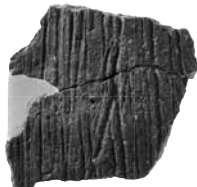
33



32



31



34



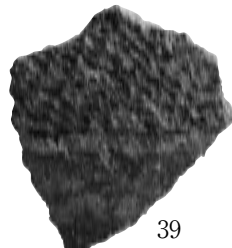
35



36



37



39



38

写真図版 83 遺構内出土土器 (2)、遺構外出土土器

青野滝北Ⅲ遺跡



40



41



42



43



44



45

報告書抄録

ふりがな	あおのたききた1・2・3いせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	青野滝北Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書							
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第658集							
編著者名	鈴木博之、金子昭彦、古館貞身、鈴木貞行							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2016年3月18日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′ ″	東経 ° / ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あおのたききた1いせき 青野滝北Ⅰ遺跡	いわてけん みやこし たろう あざあお 岩手県宮古市田老字青 のたききたちない 野滝北地内	03202	KG84-0118	39度 46分 46秒	141度 58分 20秒	2014.04.10 ～ 2014.09.12	4,200㎡	三陸沿岸道 路関連発掘 調査
あおのたききた2いせき 青野滝北Ⅱ遺跡	いわてけん みやこし たろう あざあお 岩手県宮古市田老字青 のたききたちない 野滝北地内	03202	KG84-0108	39度 46分 50秒	141度 58分 20秒	2014.04.10 ～ 2014.06.20	2,100㎡	三陸沿岸道 路関連発掘 調査
あおのたききた3いせき 青野滝北Ⅲ遺跡	いわてけん みやこし たろう あざあお 岩手県宮古市田老字青 のたききたちない 野滝北地内	03202	KG74-2290	39度 46分 52秒	141度 58分 27秒	2014.04.10 ～ 2014.09.30	2,300㎡	三陸沿岸道 路関連発掘 調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
青野滝北Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑 15棟 12基		縄文土器 石器 石製品			
青野滝北Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑 1棟 7基		縄文土器 石器 土製品 石製品			
青野滝北Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡(中期) 土坑 炉跡 2棟 1基 1基		縄文土器 石器			
要約	<p>青野滝北Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡は岩手県宮古市田老に所在する。海岸段丘上に立地し、段丘が開析された小規模な谷に面している。縄文時代中期後葉～末葉にかけての集落跡が見つかった。竪穴住居跡の多くは重複関係にあり、比較的限定された期間に本遺跡が居住域として利用されていたことが明らかとなった。</p>							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 658 集
青野滝北 I・II・III 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 28 年 3 月 11 日

発 行 平成 28 年 3 月 18 日

編 集 (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒 020-0853 岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地
電話 (019) 638-9001

発 行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒 027-0029 岩手県宮古市藤の川 4 番 1 号
電話 (0193) 71-1716

(公財) 岩手県文化振興事業団
〒 020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話 (019) 654-2235

印 刷 セーコー印刷
〒 020-0877 岩手県盛岡市下の橋町 2 番 23 号
電話 (019) 651-3606

